

前畑 J 遺跡

前畑 J 遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一九

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2019

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



前畑 J 遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

本書は、一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。本調査は、笠懸赤堀今井線は東毛地域桐生市、伊勢崎市、みどり市をつなぐ幹線道路の拡幅工事に伴い実施された発掘調査です。

前畑J遺跡は平成29年9月から11月にかけて発掘調査が実施されました。

遺跡は桐生市新里町野に位置し、粕川の支流、鏡木川の左岸にあります。南東側には広大な大間々扇状地が広がり、更に東には鹿田山や八王子丘陵、渡良瀬川扇状地に続きます。

このような東西の地域をつなぐ幹線道路を拡幅し、更に東毛地域の一般車両、物流交通をスムーズになることを期待しての道路建設でした。

遺跡の内容は縄文時代前期～後期の竪穴建物、土坑、ピットが確認されました。縄文時代以降は古墳時代前期から後期、平安時代初頭の竪穴建物や土坑が確認されています。さらに中近世の溝や井戸、江戸時代の陶磁器が出土しています。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、群馬県桐生土木事務所、群馬県教育委員会、桐生市教育委員会や地元の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。

本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。











平成31年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書は一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴い発掘調査された前畑J遺跡の報告書である。
2. 遺跡の呼称および所在地。
前畑J遺跡(まえはたじえいせき)は、群馬県桐生市新里町野字東畑31-1、32-1、50、字前畑292-1・15、295-1・2、298-1、295-5・11、298-2、299-1、300-1、303-1、304-1、305-1、306-1、字蛭川151-1、53-1・2、54-1・2・3、59-1、59-4、61-1、62-1にある。
3. 事業主体 群馬県桐生土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査及び整理作業の期間
 - (1) 発掘事業
事業主体 群馬県桐生土木事務所
調査主体 公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
履行期間 平成29年8月1日～平成30年1月31日
調査期間 平成29年9月1日～平成29年11月30日
発掘調査担当者 岩上千鶴(主任調査研究員) 飛田野正佳(専門調査役)
調査面積 2,482㎡
遺跡掘削工事 スナガ環境測設株式会社
 - (2) 整理事業
履行期間 平成30年9月1日～平成31年3月31日
整理期間 平成30年9月1日～平成31年3月31日
6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。
遺構写真 岩上千鶴 飛田野正佳
遺物観察表・観察表執筆
縄文土器 石坂 茂(専門調査役)
土師器・須恵器・陶磁器 大西雅広(専門調査役)
石製品 津島秀章(資料第2課長)
金属製品 板垣泰之(専門員)
保存処理 板垣泰之 関 邦一(専門調査役)
編集作業 友廣哲也(専門調査役)
土師器遺物写真 //
7. 発掘調査及び整理事業での委託
遺構測量 技研コンサル株式会社
8. 石材の同定は、飯島静雄(群馬県地質研究会)に依頼した。
9. 新里町現計形図(1/2,500) No20は、桐生市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1現形図を複製したものである。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、桐生市教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。
11. 発掘調査および報告書の作成にあたり群馬県教育委員会事務局文化財保護課、桐生市教育委員会のご指導とご助言をいただいた。
12. 発掘調査の記録資料と出土資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第IX系で示した。挿図中に示した方位は座標北を示す。単位はメートルである。
2. 等高線、遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。
3. 遺構図、遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。
遺構図：竪穴建物1/60 竪穴状遺構1/60 竈1/30 土坑・ピット・溝・井戸1/40 屋外炉1/40 1号遺物集中1/40
遺物図：縄文 1/2・1/3・1/4・1/6 土師器・須恵器 1/3 陶磁器 1/3・1/4
石器・石製品 1/1・1/2・1/3・1/4・1/6 羽口 1/3
4. 建物の掲載は、種別に限らず、遺構ごとに通し番号とした。
5. 本書の図版に使用したスクリーントーンは、次のことを示す。
遺構図：焼土  炭化物  粘土  攪乱  ローム 
遺物図：赤彩  灰釉  黒色  すり面  強いすり面 
6. 遺構図中の遺物記号は、次のことを示す。
全体：● 出土遺物
7. 遺構の数値は全容が計測できない遺構については残存値()で表記してある。
8. 本遺跡で確認する軽石・火山灰は以下の通りである。
浅間A軽石 天明3年(1783)
浅間山B軽石 天仁元年(1108)
浅間C軽石 3世紀末～4世紀初頭
榛名山F P軽石 6世紀初頭
榛名山F A 5世紀末～6世紀初頭
9. 遺構観察表の表現及び記載法は、以下の通りである。
計測値の項目は以下の略である。
口：口径 底：底径 高：器高
10. 本書で使用した地形図は以下の通りである。
桐生市都市計画課発行 2千5百分の1新里町現形図No20 経済企画庁・群馬県1956『土地分類基本調査』前橋
群馬県農政部土地計画課1977『土地分類基本調査』桐生及足利
国土地理院の電子地形図 25000 を1/10000に掲載
国土地理院：地形図 2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行 同「大間々」平成8年7月1日発行 同
「桐生」平成21年4月1日発行 同「鼻毛石」平成14年9月1日発行

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	
第1章 発掘調査の概要	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	3
第4節 基本土層	3
第2章 地理的環境と歴史的環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 検出された遺構と遺物	
第1節 古墳時代～奈良・平安時代	13
第2節 縄文時代	57
第4章 まとめ	131
遺物観察表	134
写真図版	
抄録	
付図 前畑J遺跡 全体図(1:400)	

插图目次

第1图	道路位置图	1	第64图	14号整穴建物(2)	67
第2图	調査区位置图	2	第65图	14号整穴建物出土遺物(1)	68
第3图	基本土層	3	第66图	14号整穴建物出土遺物(2)	69
第4图	周辺地形分類图	6	第67图	15号整穴建物	69
第5图	周辺地層位置图	8	第68图	15号整穴建物・出土遺物	70
第6图	1号整穴建物・出土遺物	13	第69图	2号整穴状遺構・出土遺物	71
第7图	2号整穴建物	14	第70图	4号整穴状遺構・出土遺物(1)	72
第8图	2号整穴建物・出土遺物	15	第71图	4号整穴状遺構出土遺物(2)	73
第9图	3号整穴建物(1)	16	第72图	6号整穴状遺構	73
第10图	3号整穴建物(2)・出土遺物	17	第73图	6号整穴状遺構出土遺物	74
第11图	4号整穴建物	18	第74图	縄文土坑・出土遺物(1)	75
第12图	4号整穴建物出土遺物	19	第75图	縄文土坑・出土遺物(2)	76
第13图	5号整穴建物(1)	20	第76图	縄文土坑・出土遺物(3)	77
第14图	5号整穴建物(2)	21	第77图	縄文土坑・出土遺物(4)	78
第15图	5号整穴建物出土遺物(1)	22	第78图	縄文土坑・出土遺物(5)	78
第16图	5号整穴建物出土遺物(2)	23	第79图	縄文土坑・出土遺物(6)	80
第17图	5号整穴建物出土遺物(3)	24	第80图	縄文土坑・出土遺物(7)	81
第18图	6号整穴建物・出土遺物	25	第81图	縄文土坑・出土遺物(8)	82
第19图	10号整穴建物・出土遺物	26	第82图	縄文土坑・出土遺物(9)	83
第20图	11号整穴建物(1)	27	第83图	縄文土坑・出土遺物(10)	84
第21图	11号整穴建物(2)	28	第84图	縄文土坑・出土遺物(11)	85
第22图	11号整穴建物(3)・出土遺物	29	第85图	縄文土坑・出土遺物(12)	86
第23图	12号整穴建物(1)	30	第86图	縄文土坑・出土遺物(13)	87
第24图	12号整穴建物(2)	31	第87图	縄文土坑・出土遺物(14)	88
第25图	12号整穴建物出土遺物(1)	32	第88图	縄文土坑・出土遺物(15)	89
第26图	12号整穴建物出土遺物(2)	33	第89图	縄文土坑・出土遺物(16)	90
第27图	1号整穴状遺構	34	第90图	縄文土坑・出土遺物(17)	91
第28图	3号整穴状遺構	34	第91图	縄文土坑・出土遺物(18)	92
第29图	5号整穴状遺構	35	第92图	縄文土坑・出土遺物(19)	93
第30图	土坑(1)	36	第93图	縄文土坑・出土遺物(20)	94
第31图	土坑(2)	37	第94图	縄文土坑・出土遺物(21)	95
第32图	土坑(3)	38	第95图	縄文土坑・出土遺物(22)	96
第33图	土坑(4)	39	第96图	縄文土坑・出土遺物(23)	97
第34图	1号溝・出土遺物(1)	40	第97图	縄文土坑・出土遺物(24)	98
第35图	1号溝出土遺物(2)	41	第98图	縄文土坑・出土遺物(25)	99
第36图	1号井戸	41	第99图	縄文土坑・出土遺物(26)	100
第37图	1号井戸出土遺物	42	第100图	縄文土坑・出土遺物(27)	101
第38图	2号井戸	42	第101图	縄文土坑・出土遺物(28)	102
第39图	2号井戸出土遺物	43	第102图	縄文土坑・出土遺物(29)	103
第40图	ビット(1)	44	第103图	縄文土坑・出土遺物(30)	104
第41图	ビット(2)	45	第104图	縄文土坑・出土遺物(31)	105
第42图	ビット(3)	46	第105图	縄文土坑・出土遺物(32)	106
第43图	ビット(4)	47	第106图	1号屋外壁・出土遺物	107
第44图	ビット(5)	48	第107图	縄文遺構外出土遺物(1)	113
第45图	ビット(6)	49	第108图	縄文遺構外出土遺物(2)	114
第46图	ビット(7)	50	第109图	縄文遺構外出土遺物(3)	115
第47图	ビット(8)	51	第110图	縄文遺構外出土遺物(4)	116
第48图	ビット(9)	52	第111图	縄文遺構外出土遺物(5)	117
第49图	ビット(10)	53	第112图	縄文遺構外出土遺物(6)	118
第50图	ビット(11)	54	第113图	縄文遺構外出土遺物(7)	119
第51图	ビット(12)	55	第114图	縄文遺構外出土遺物(8)	120
第52图	遺構外出土遺物上脚器・須恵器	56	第115图	縄文遺構外出土遺物(9)	121
第53图	7号整穴建物・出土遺物	57	第116图	縄文遺構外出土遺物(10)	122
第54图	7号整穴建物出土遺物	58	第117图	縄文遺構外出土遺物(11)	123
第55图	7号整穴建物・出土遺物	58	第118图	縄文遺構外出土遺物(12)	124
第56图	9号整穴建物(1)	59	第119图	縄文遺構外出土遺物(13)	125
第57图	9号整穴建物(2)	60	第120图	縄文遺構外出土遺物(14)	126
第58图	9号整穴建物出土遺物(1)	61	第121图	縄文遺構外出土遺物(15)	127
第59图	9号整穴建物出土遺物(2)	62	第122图	旧石器試掘(1)	128
第60图	1号遺物集中・出土遺物	63	第123图	旧石器試掘(2)	129
第61图	13号整穴建物	64	第124图	旧石器試掘(3)	130
第62图	13号整穴建物出土遺物	65			
第63图	14号整穴建物(1)	66			

表 目 次

第1表	周辺道路一覧表	9
第2表	前畑J 遺跡上坑一覧	108
第3表	前畑J 遺跡ピット一覧	110
第4表	遺物観察表	134
第5表	縄文土器胎土分類一覧表	160
第6表	縄文土器未掲載遺物出上一覧表	162

写真目次

P.L. 1	1	1号竪穴建物	6	6号竪穴状遺構	
	2	2号竪穴建物	7	6号竪穴状遺構	
	3	2号竪穴建物	1	1号井戸	
	4	2号竪穴建物出土遺物	2	2号井戸	
	5	2号竪穴建物出土遺物	3	1号上坑	
	6	2号竪穴建物内ピット	4	2・3号上坑	
	7	3号竪穴建物	5	3号上坑・馬歯	
	8	3号竪穴建物出土遺物	6	5号上坑	
P.L. 2	1	3号竪穴建物竈	7	6号上坑	
	2	3号竪穴建物竈	8	8号上坑	
	3	3号竪穴建物貯蔵穴	9	9号上坑	
	4	3号竪穴建物出土遺物	10	9号上坑出土遺物	
	5	3号竪穴建物出土遺物	11	10上坑	
	6	4号竪穴建物	12	11号上坑	
	7	4号竪穴建物竈	13	12号上坑	
	8	4号竪穴建物竈	14	13号上坑	
P.L. 3	1	4号竪穴建物出土遺物	15	15号上坑	
	2	5号竪穴建物	P.L. 9	1	15号上坑出土遺物
	3	5号竪穴建物	2	16号上坑	
	4	5号竪穴建物	3	17号上坑	
	5	5号竪穴建物出土遺物	4	18号上坑	
	6	5号竪穴建物出土遺物	5	20号上坑	
	7	5号竪穴建物出土遺物	6	21号上坑	
	8	5号竪穴建物竈・貯蔵穴	7	22号上坑	
P.L. 4	1	5号竪穴建物出土遺物	8	24号上坑	
	2	6号竪穴建物	9	25号上坑	
	3	6号竪穴建物出土遺物	10	28号上坑	
	4	6号竪穴建物貯蔵穴	11	29号上坑	
	5	7号竪穴建物	12	30号上坑	
	6	8号竪穴建物	13	30号上坑出土遺物	
	7	9号竪穴建物	14	31・32号上坑	
	8	9号竪穴建物出土遺物	15	32号上坑	
P.L. 5	1	10号竪穴建物	P.L. 10	1	33号上坑
	2	11号竪穴建物	2	34号上坑	
	3	12号竪穴建物	3	35号上坑	
	4	12号竪穴建物	4	36号上坑	
	5	12号竪穴建物出土遺物	5	37号上坑	
	6	12号竪穴建物出土遺物	6	39号上坑	
	7	12号竪穴建物出土遺物	7	40号上坑	
	8	12号竪穴建物出土遺物	8	41号上坑	
P.L. 6	1	13号竪穴建物	9	42号上坑	
	2	14号竪穴建物	10	43号上坑	
	3	15号竪穴建物	11	45号上坑	
	4	15号竪穴建物 [※]	12	46号上坑	
	5	1号竪穴状遺構	13	48号上坑	
	6	2号竪穴状遺構	14	48～50号上坑	
	7	2号竪穴状遺構出土遺物	15	50号上坑	
	8	2号竪穴状遺構出土遺物	P.L. 11	1	51・52号上坑
P.L. 7	1	3号竪穴状遺構出土遺物	2	53・54号上坑	
	2	4号竪穴状遺構	3	53号上坑出土遺物	
	3	5号竪穴状遺構	4	53号上坑出土遺物	
	4	6号竪穴状遺構	5	53号上坑	
	5	6号竪穴状遺構	6	55号上坑	

	7	57号土坑		13	ビット63
	8	58号土坑		14	ビット66
	9	59号土坑		15	15号整穴建物P 9
	10	59号土坑	P L. 16	1	ビット68
	11	60号土坑		2	ビット69
	12	61号土坑		3	ビット70
	13	62号土坑		4	ビット72
	14	63号土坑		5	ビット74
	15	64号土坑		6	ビット75
P L. 12	1	65号土坑		7	ビット76
	2	65号土坑出土遺物		8	ビット77
	3	67号土坑		9	ビット78
	4	66号土坑		10	ビット80
	5	68号土坑		11	ビット81
	6	69号土坑		12	ビット82
	7	72号土坑		13	ビット83
	8	73号土坑		14	ビット85
	9	74号土坑		15	ビット86
	10	75号土坑	P L. 17	1	ビット87
	11	75号土坑出土遺物		2	ビット88
	12	77号土坑		3	ビット89
	13	77号土坑		4	ビット90
	14	80号土坑		5	ビット91
	15	81号土坑		6	ビット92
P L. 13	1	82号土坑		7	ビット93
	2	84号土坑		8	ビット94
	3	85号土坑		9	ビット95
	4	86号土坑		10	15号整穴建物P 3
	5	87号土坑		11	ビット99
	6	89号土坑		12	ビット100
	7	90号土坑		13	15号整穴建物P 6
	8	90号土坑出土遺物		14	ビット102
	9	103号土坑出土遺物		15	ビット103
	10	103号土坑	P L. 18	1	ビット104
	11	104号土坑		2	ビット106
	12	105号土坑		3	ビット107
	13	ビット9		4	ビット108
	14	ビット11		5	ビット109
	15	ビット12		6	ビット110
P L. 14	1	ビット13		7	ビット111
	2	ビット14		8	ビット113
	3	ビット17		9	ビット115
	4	ビット19		10	ビット116
	5	ビット20		11	15号整穴建物P 1
	6	ビット21		12	ビット118
	7	ビット24		13	ビット119
	8	ビット25		14	ビット120
	9	ビット26		15	ビット121
	10	ビット42	P L. 19	1	ビット122
	11	ビット43		2	ビット123
	12	ビット47		3	ビット124
	13	ビット48		4	ビット125
	14	ビット49		5	ビット126
	15	ビット50		6	ビット127
P L. 15	1	ビット51		7	ビット128
	2	ビット52		8	ビット129
	3	ビット53		9	ビット130
	4	ビット54		10	ビット131
	5	ビット55		11	ビット132
	6	ビット56		12	ビット133
	7	ビット57		13	ビット134
	8	ビット58		14	ビット136
	9	ビット59		15	ビット139
	10	ビット60	P L. 20	1	ビット137
	11	ビット61		2	ビット138
	12	ビット62		3	ビット140

	4	ビット141			90号土坑出土遺物
	5	ビット142	P.L. 40	59号土坑出土遺物	62号土坑出土遺物
	6	15号竪穴建物P10			63・67号土坑出土遺物
	7	ビット145 (15号竪穴建物柱穴)	P.L. 41	64号土坑出土遺物	65号土坑出土遺物
	8	15号竪穴建物P2			66号土坑出土遺物
	9	15号竪穴建物P4			68号土坑出土遺物
	10	ビット148	P.L. 42	69号土坑出土遺物	72号土坑出土遺物
	11	ビット149			73号土坑出土遺物
	12	ビット150			74号土坑出土遺物
	13	15号竪穴建物P5	P.L. 43	75号土坑出土遺物	
	14	ビット152	P.L. 44	77号土坑出土遺物	
	15	ビット153			87号土坑出土遺物
P.L. 21	1	ビット154			86号土坑出土遺物
	2	ビット155			89号土坑出土遺物
	3	ビット156			91・92・96・97号土坑出土遺物
	4	1号屋外炉・下面が58号土坑	P.L. 45	98・100・101号土坑出土遺物	95号土坑出土遺物
	5	58号土坑			102号土坑出土遺物
	6	1号屋外炉			103号土坑出土遺物
	7	1号屋外炉埋め炭	P.L. 46	104・105号土坑出土遺物	
	8	1号屋外炉埋め炭			1号屋外炉出土遺物
P.L. 22	2	2号竪穴建物出土遺物			1区道橋外出土遺物(1)
	3	3号竪穴建物出土遺物	P.L. 47	1区道橋外出土遺物(2)	
	4	4号竪穴建物出土遺物	P.L. 48	1区道橋外出土遺物(3)	
P.L. 23	5	5号竪穴建物出土遺物(1)	P.L. 49	2区道橋外出土遺物	
P.L. 24	5	5号竪穴建物出土遺物(2)	P.L. 50	3区道橋外出土遺物(1)	
P.L. 25	6	6号竪穴建物出土遺物	P.L. 51	3区道橋外出土遺物(2)	
	10	10号竪穴建物出土遺物	P.L. 52	3区道橋外出土遺物(3)	
P.L. 26	11	11号竪穴建物出土遺物	P.L. 53	3区道橋外出土遺物(4)	
	12	12号竪穴建物出土遺物(1)	P.L. 54	3区道橋外出土遺物(5)	
P.L. 27	12	12号竪穴建物出土遺物(2)			
P.L. 28	12	12号竪穴建物出土遺物(3)			
	1	1号溝出土遺物			
P.L. 29	1	1号井戸出土遺物			
	2	2号井戸出土遺物			
P.L. 30	89	89号ビット出土遺物			
		道橋外出土遺物			
	7	7号竪穴建物出土遺物			
	8	8号竪穴建物出土遺物			
P.L. 31	9	9号竪穴建物出土遺物			
P.L. 32	1	1号遺物集中出土遺物			
	13	13号竪穴建物出土遺物			
	14	14号建物出土遺物(1)			
P.L. 33	14	14号建物出土遺物(2)			
	15	15号竪穴建物出土遺物			
	2	2号竪穴状道橋出土遺物			
P.L. 34	4	4号竪穴状道橋出土遺物			
	6	6号竪穴状道橋出土遺物			
P.L. 35	10	14号土坑出土遺物			
	18	19・21・22号土坑出土遺物			
	12	12号土坑出土遺物			
	13	13号土坑出土遺物			
	15	15号土坑出土遺物			
	16	16号土坑出土遺物			
	17	17号土坑出土遺物			
P.L. 36	28	28号土坑出土遺物			
	30	30号土坑出土遺物			
	33	35・38・47号土坑出土遺物			
P.L. 37	39	42・44号土坑出土遺物			
	41	41号土坑出土遺物			
	46	46号土坑出土遺物(1)			
P.L. 38	46	46号土坑出土遺物(2)			
	50	50号土坑出土遺物			
	51	51号土坑出土遺物			
	53	53・54号土坑出土遺物			
P.L. 39	55	55号土坑出土遺物			
	56	57号土坑出土遺物			

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

1 埋蔵文化財の調査に至る経緯

前畑J遺跡は、桐生市新里町野に所在する遺跡である。本遺跡は平成29年9月1日から平成29年11月30日までの期間に、一般県道笠懸赤堀今井線道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されている。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

一般県道笠懸赤堀今井線道路改良事業を進めるにあたり、群馬県桐生土木事務所(以下、「桐生土木」と表記)は、群馬県国土整備部建設企画課をとおして、群馬県教育委員会文化財保護課(以下、「保護課」と表記)に照会した。これを受けた保護課は、当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地である野03号墳・野-01遺跡(桐生市遺跡番号B0183)内にあることから、確認調査の必要がある旨の回答をした。そのため、桐生土木は保護課に、当該事

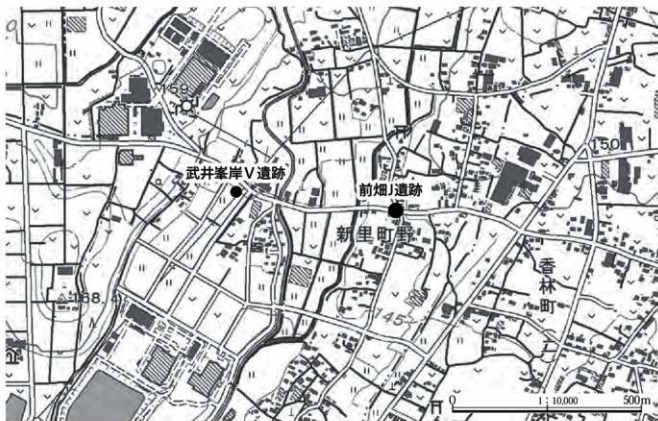
業地における確認調査の実施を依頼した。

保護課による確認調査は平成28年12月に行われた。いずれも、バックホーを用いてトレンチ状に掘削し、平断面から遺構の存在、種類、検出数を確認する方法を用いた。

その結果、確認調査対象地のうち、事業地東側は本調査が必要、事業地中央部は本調査が不要、西側は慎重工事による対応が適切であると判断された。

この確認調査の結果を基に、保護課は桐生土木に対して、確認調査の依頼範囲の一部では、事業を実施するにあたり埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨を通知した。また、地元の桐生市教育委員会に対しても、確認調査の結果を報告した。

本調査が必要な範囲は、既に周知の埋蔵文化財包蔵地の名称がある。しかし、桐生市教育委員会と保護課との協議の結果、本調査の範囲の遺跡名は「前畑J遺跡」として発掘調査を実施することとなった。



第1図 遺跡位置図 国土地理院の電子地形図1/25,000「大胡」を1/10,000に使用

第2節 調査の経過

前畑J遺跡における発掘調査は、桐生土木から委託を受けて実施した。

発掘調査期間は平成29年9月から平成29年11月30日の計3か月間、2,482㎡行われた。

これらの調査成果は、桐生土木からの委託のもと、平成30年9月1日から平成31年3月31日までの期間に整理を実施して本書にまとめた。

発掘調査日誌抄録

平成29年

9月1日 調査区内環境整備、表土掘削開始

4日 遺構確認作業、掘り下げ着手

5日 1区1・2・3号土坑掘削開始、セクション写真

6日 1区1号竪穴建物確認掘削

29日 1区9号竪穴建物確認掘削

平成29年

10月3日 1区11号竪穴建物確認掘削

3区12号竪穴建物確認掘削

4日 1区西側旧石器試掘

10日 1区埋め戻し

11日 2区調査開始

17日 2・3区竪穴建物調査継続

27日 3区遺構掘削継続

11月1日 3区竪穴建物調査継続

7日 2・3区調査継続

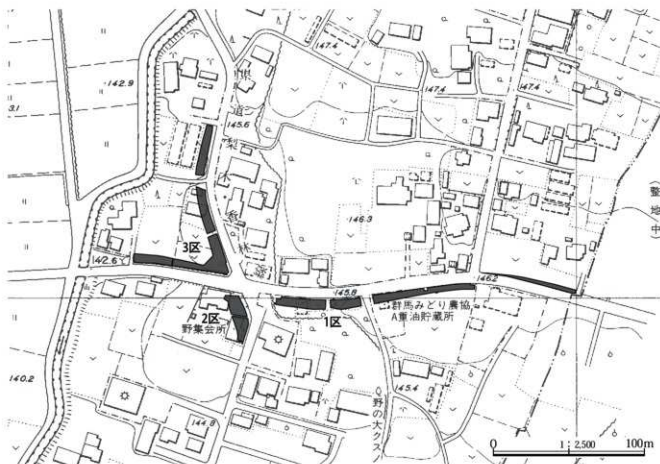
15日 2区14号竪穴建物掘削

3区旧石器試掘開始

16日 3区旧石器試掘継続

22日 2・3区埋め戻し開始

30日 調査終了



第2図 調査区位置図 桐生市都市計画課発行1/2,500新里町現形図No.20使用

第3節 調査の方法

1 調査区の設定

前畑J遺跡の調査区内において、グリッドの設定は行わず、世界測地系による平面直角座標系(平成十四年国土交通省告示第九号)IX系に基づき、東経139度50分、北緯36度0分を原点として、1m四方の区画を1単位として区画を設定している。本報告書での呼称は、座標数値の下3桁で表記している。

なお、前畑J遺跡はX=44,824～44,970、Y=-52,790～53,085の範囲内にある。

2 調査面の設定

本遺跡ではローム層直上を第1面として調査を進め、縄文時代から古墳時代の遺構の検出を行った。ローム面に旧石器試掘を行ったが、石器の出土はなかった。

3 発掘調査の方法

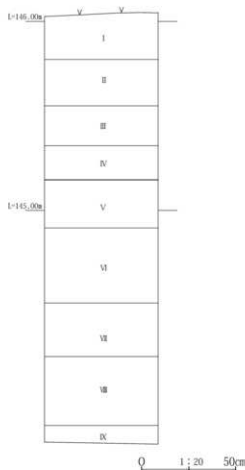
発掘調査はバックフォーによる表土掘削の後、作業員による鋤簾等での遺構検出、精査作業という手順で進めた。

遺構の平面測量は、原則として1/10、1/20、1/40、1/100のスケールを遺構種類ごとに選択し、測量業務は委託業者が行った。

記録写真撮影はデジタル一眼レフカメラと6×7の中判フィルムカメラを使用した。

第4節 基本土層

- I. 黒色土 10YR2/1
- II. 黒褐色土 10YR3/4 暗褐色土40%含む。
- III. 漸移層 暗褐色土 10YR3/4 ロームと黒褐色土を斑状に含む。
- IV. ローム層 黄橙色10YR7/8 φ2～5mmの灰白色YPを少量含む。
- V. 明黄褐色土 10YR7/6 やや黒い。
- VI. 暗色帯
- Via. VIに黄褐色土50%含む。
- VII. 黄橙色土 10Y7/8 φ5mmの小礫含む。
- VIII. 暗褐色土 10YR3/4 褐色土を20%含むφ5mmの小礫微量を含む。
- IX. 褐色土 10YR4/4 暗褐色土を10%含む。



第3図 基本土層

第2章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

前畑J遺跡は群馬県の東部、桐生市新里町のうち、清掃センターから北500mほどの場所に所在する。地理的に概観すると、関東平野北西域の赤城山南麓に立地する(第4図)。遺跡の南東側には広大な大間々扇状地が広がり、更にその東側は鹿田山や八王子丘陵、渡良瀬川扇状地、足尾山地へと続いている。本節では遺跡周辺の地形的環境について、それぞれ言及する。

(1) 地形的環境

前畑J遺跡は粕川の支流の1つである鑄木川の左岸に立地する。この周辺地域には平坦な裾野の傾斜面や、大間々扇状地の地形とは異なる丘陵地形が発達している。これらは、約20～30万年前の古期成層火山形成期であった赤城山の山体崩落を起因として発生した岩屑なだれである、梨木泥流を成因とする流れ山であると考えられている(守屋1968)。

赤城山南麓には土地改良等で消滅したものと含めると、大小41個の流れ山が存在しており、多田山丘陵や権現山、遺跡の北側に所在する寄居山などが挙げられる(澤口2013)。この遺跡の西側にも流れ山の1つである峯岸山が存在する。

峯岸山は東西の両側を河川によって開析された、南北に細長く伸びる丘陵である。峯岸山は1つの丘陵として捉えられているが、比高24mと28mと2つのピークを有することから、2つの流れ山が接続して1つの丘陵を形成したと考えられている(澤口 前掲)。また、丘陵の北東側には、平坦な台地および浅皿を被せたような比高の小さい丘が波状微高地を形成している。これは流れ山と呼べるほどの丘陵を形成しなかった、梨木泥流堆積物の堆積面である、流れ山台地であると推定される(澤口 前掲)。

前畑J遺跡は大間々扇状地の桐原面と呼称される台地の縁辺部に立地する。調査区内の標高は西端部で約142

m、東端部で約146mである。そのため、今回の発掘は遺跡内でも比高差4mの東から西へ向かって傾斜する、台地の斜面部を調査したこととなる。

第2節 歴史的環境

桐生市新里町内は土地改良事業等によって多くの遺跡が発掘調査されている(第5図)。そのため、前畑J遺跡の周辺においても、旧石器時代から近世の遺跡が多数見つかっている。本節では、その中でも本報告での遺構・遺物の内容に該当する、縄文時代、古墳時代～奈良・平安時代の遺跡について主に言及する。

【縄文時代】

赤城山南麓の縄文時代遺跡は、前期に遺跡数が急増する傾向にあり、特に黒浜・諸磯a期にそのピークを迎えることが知られている(鬼形1985)。桐生市新里町内でも同様の傾向を示し、相前後する早・中期では標高200～300mに遺跡が偏在する傾向にあるのに対し、前期では標高とは関係なく遺跡数が急激に増加する(石坂・原1984)。しかし、これらの遺跡の圧倒的多数は、全体的に単一時期の土器形式が少数散布するような、小規模なものである(石坂・原 前掲)。

前畑J遺跡周辺の縄文時代前期の遺跡のうち、武井城遺跡(36)、武井峯遺跡(40)、十三塚E遺跡(104)、久保井D遺跡(42)、下鶴ヶ谷B遺跡(100)、清水山遺跡(135)などで発掘調査が実施されている。そのうち、十三塚E遺跡で諸磯期の竪穴建物が2棟、清水山遺跡で諸磯a期を中心に竪穴建物が5棟検出されている。前畑J遺跡においても、諸磯式土器を伴う竪穴建物が複数検出されているほか、竪穴状遺構内から浮島式土器が完形で出土している。また、武井城遺跡では諸磯b式期を中心とした土器片や土製品、石製品が集中して多量に出土している。

峯岸山周辺に限ってみると、十二社遺跡(9)と、峯岸山遺跡(25)、峯岸山遺跡V(12)、峯岸山古墳群、田場

遺跡、天幕城遺跡(11)から縄文時代の遺構が検出されている。峯岸山周辺の遺跡では前期の遺構は検出されていないものの、峯岸山遺跡において前期の土器片が一定量検出されている。これらは花積下層、関山、黒浜式に比定され得る含繊維土器や、繊維を含まない諸磯式土器が中心となっている。

【弥生時代】

桐生市新里地区では弥生時代の遺跡について、ほとんど認知されていない。その中では鏡川の対岸に位置する峯岸遺跡(2)で中期の竪穴建物が2棟検出され、縄文時代から継続する集落と考えられている。また、従来、弥生時代と考えられていた赤井戸式土器を伴う遺構は古墳時代前期に位置づけられ、こうしたことがこの時代の様相を変えている。なお、桐生市教育委員会によると蛭川遺跡(4)から十玉台式土器の出土が報告され、天神原や久保井付近から磨製有孔石鏃が出土しており、弥生時代の遺構が存在する可能性が指摘されている。

【古墳時代】

桐生市新里町内では、古墳時代後期から居住域と墓域の分布が拡大していく傾向にある(能登・小島 1984、鹿田 1984)。しかし、峯岸山周辺においては、弥生時代中期から古墳時代前期と、周辺と比較して早い時期から居住域と墓域が形成される。

まず、武井峯岸V遺跡から100mほど北には、峯岸山遺跡(25)と峯岸遺跡(2)が位置する。峯岸山遺跡と峯岸遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期の竪穴建物が複数棟検出されている。これらの竪穴建物群の分布と地形から、峯岸山遺跡と峯岸遺跡は古墳時代前期まで集落域として土地利用されており、丘陵の西側の沖積地を生産域として用いていたと想定される(能登・内田 1985)。

峯岸山の丘陵上は古墳時代前期以降、主に墓域として用いられるようになる(能登・内田 前掲)。峯岸遺跡では、遺跡の南側を中心に、古墳時代前・中期の遺構が検出されている。そのうち、墓域を形成するものとして、円墳の他、方形周溝墓や石塚墓が複数基検出されている。特に方形周溝墓は5基検出されており、これらの殆どは周溝も含めて一辺5～10m前後の規模を呈する。また、峯岸山遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓が2基検出さ

れている。これらの方形周溝墓はそれぞれ、6m前後、15m前後の規模で隅丸方形である。加えて、特殊な遺構として、竪穴状の掘り方の中に土城墓と推定される土坑を複数基内包する土坑群が検出されている。

また、武井峯岸V遺跡自体も小林5号～15号墳(25)の古墳群の只中に立地する。これらの古墳は未調査であり、残存状態は良くないものの、多くは直径10～18mほどの円墳であるとされる(新里村教育委員会 1984)。その中でも直径約30mに及ぶ小林15号墳では、墳丘から円筒埴輪片が採集されている。

丘陵の反対側に位置する西側には、峯岸山古墳群(25)と日横遺跡(20)、小林峯岸遺跡(19)が位置する。峯岸山古墳群では30基の古墳が発掘調査されている。これらの古墳群の築造の開始時期は5世紀後半であるが、そのピークは6世紀後半から7世紀前半であったことが判明している。また、峯岸山北端部に立地する小林峯岸遺跡においても、峯岸山古墳群と連続するかたちで古墳時代前期から中期の古墳が検出されている。前述した小林5号～15号墳などの、峯岸山の北東側に点在する古墳群は、峯岸山古墳群と同時期であると推測されている(鹿田 前掲)。

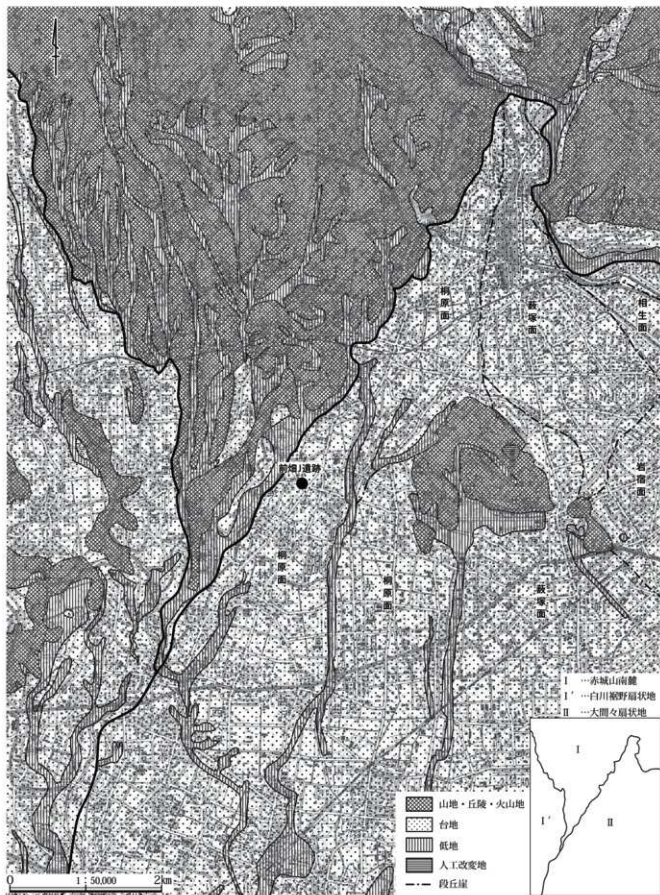
また、これらの古墳群の他に、峯岸山の南側には伊勢崎市指定史跡である十二所古墳(10)が存在する。十二所古墳は全長約48mの前方後円墳であり、上記の古墳群の中でも最大規模をもつ。昭和初期に後円部墳頂が調査されたものの、築造年代等については不明とされている。

峯岸山周辺に展開する居住域としては、十二所遺跡(10)と十二社遺跡(9)、日横遺跡(20)が挙げられる。

十二所遺跡は峯岸山南東側の台地上に立地しており、古墳時代後期、6世紀後半の竪穴建物が1棟検出されている。また、十二所遺跡と隣接する十二社遺跡では古墳時代の竪穴建物が600棟ほど検出している(加部 2010)。

日横遺跡は峯岸山の北西側に位置する台地上に立地しており、竪穴建物572棟、古墳3基などが検出されている。竪穴建物の多くが5世紀終末から7世紀初頭のものであることから、日横遺跡は古墳時代後期～終末期に至る居住域であったと推測される。

峯岸山丘陵と周辺地域での従前までの発掘調査成果を概観すると、弥生時代中期から古墳時代前期までの期間、峯岸山の丘陵上に居住域が展開していたことがわかる。



第4図 周辺地形分類図(経済企画庁・群馬県 1956『土地分類基本調査』と
群馬県農政部土地改良課 1997『土地分類基本調査』桐生及足利の付図を合成)

また、それと並行して、古墳時代前期から丘陵上は墓域として用いられ始め、古墳時代後期には墓域として主に利用されるようになっていく。それと対応して、居住域は丘陵周辺の台地上に展開するようになる。このことから、崖岸山とその周辺地域では、時期が下るにつれて土地利用が分化する傾向にあるといえる。

その他、周辺地域にける古墳時代前期の遺跡としては、大屋G・H遺跡(68)では、当該期の豪族居館跡と考えられる遺構や遺物が検出されている。

【奈良・平安時代】

遺跡地周辺では集落や生産、墓地、信仰に関する遺跡が多数存在する。集落遺跡の調査は少ない一方で崖岸山遺跡(2)、砂田遺跡(49)、天笠南遺跡(45)、仏歯様遺跡(第5図中の33、山上多宝塔周囲、文獻113)、藤生沢遺跡(115・116)、熊野遺跡、新川天神原(124)、十三塚遺跡(104)、久保井遺跡(41)などが上げられるだけでなく、分布調査では多くの地点で、この時代の土器が散布しており、より多くの集落が存在した可能性が窺える。

生産遺構には瓦生産が行われた窯跡である雷電山瓦窯跡(57)が知られており、1基の窯が発掘されている。そしてここで生産された瓦は伊勢崎市上植木庵寺に瓦を供給していたことがわかっている。その他、上鶴ヶ谷遺跡(98)、外摺山遺跡、十三塚遺跡、十三塚E遺跡(104)、十三塚H遺跡(103)、不二山遺跡(102)、大日遺跡で炭窯が確認されており、不二山周辺で見つかった製鉄や精錬などの鉄生産に関する遺跡に供給されていたとみられる。

農業生産に関する遺跡としては砂田遺跡(49)や蔵沢遺跡(15)が上げられる。両遺跡はともに8世紀から9世紀初頭の水田が見つかったことが、818(弘仁九)年の地震に伴う土石流によって水田が埋め尽くされていた。

また、この地域の特徴に火葬墓が多く存在することである。火葬墓は伊勢崎市多田山で数多く見ついているほか、桐生市新里地区でも善昌寺裏山火葬墓(104)、熊野火葬墓、大久保山古墓、中塚南火葬墓群、武井庵寺(37)などが知られている。なお、武井庵寺は当初、塔芯礎と想定され史跡に指定されていたが、史跡整備に伴う発掘調査の結果、八角形をした墳丘の頂部に石製骨甕器を設置した火葬墓であることがわかっている。なお、武

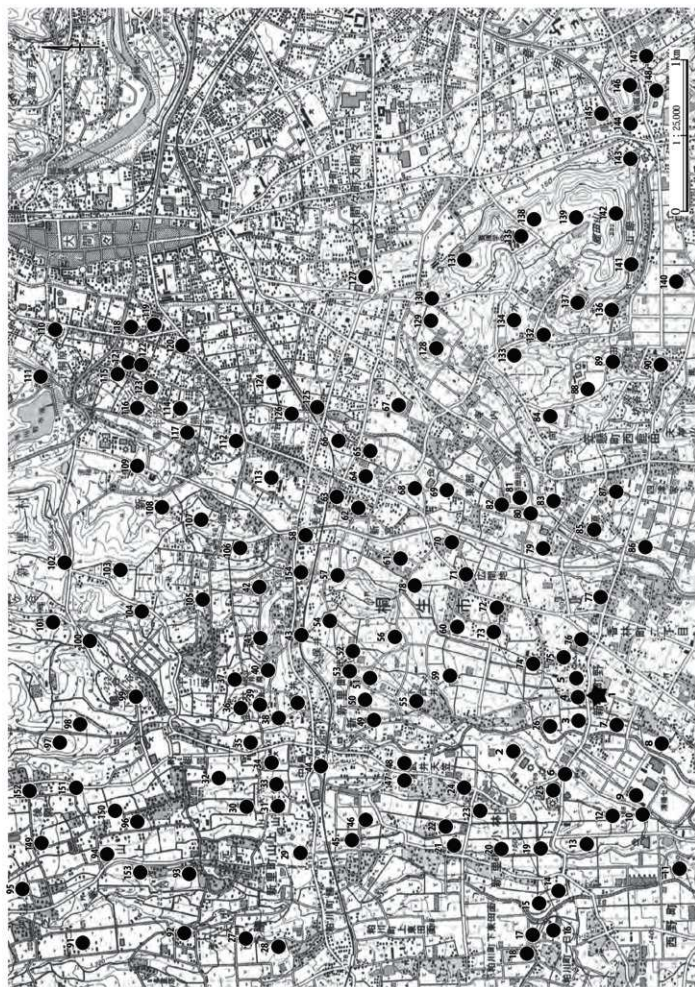
井庵寺の年代は8世紀前半に想定されており、この地域では早い段階から火葬が導入されており、仏教信仰が盛んであったとみられる。仏教信仰が盛んであった背景から経典を納めた「山上多宝塔」(33)が設置されたと考えられる。

【中世】

周囲には山上城跡や北山館、膳上城跡などが良好な状態で残存している。この他に多くの和鏡が出土した「峰の葉師」などの小規模な寺院が存在したとみられるが、発掘調査の成果が乏しいため詳細は不明な点がある。

引用文献

- 新井房夫 1971 「地形と地質」『前橋市史』
青木幹雄 1974 「地質と地形」『新里村誌』pp27-43 新里村誌編纂委員会
飯島静男 1987 「群馬県の地質」『群馬県地誌(改訂版)』pp 1-15 群馬県地誌編纂委員会
石坂茂・原雅信 1984 「縄文時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』pp14-20 新里村教育委員会
鬼形芳夫 1985 「赤城山麓における縄文文化の展開」『群馬県史研究』pp 6-38 群馬県史編纂委員会
小野寺通 1950 「赤城火山の崩落に関する地質学的研究」『カスリン颱風の研究—利根川水系における災害の実相—』pp139-162 群馬県災害対策特別委員会
加部二生 1998 「武井遺跡の調査概要—新里村教育委員会の調査を中心として—」武井遺跡と北関東の給光形石器文化 予稿集 pp1 2010 「古墳時代の遺跡」『新里地区遺跡発掘調査報告書』pp 3-4 桐生市教育委員会
河井興三・山田博 1960 「群馬県太田・大間々地域の第三系と後期中新世における関東西北部の古地理について」『石油技術協会誌』25 2 pp10-18 石油技術協会
群馬県企業局 1999 「赤城山頂カレラ内南麓の地質並びに温泉調査」
小菅将夫 2013 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(2)」『観報 武井遺跡群III』pp30-31 武井遺跡群調査団
小菅将夫 2014 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(3)—赤城火山の地形発達史と武井遺跡—」『観報 武井遺跡群IV』pp34-35 武井遺跡群調査団
澤口宏 2013 「桐生・伊勢崎・前橋周辺の流れ」『良好な自然環境を有する地域学調査報告書』38号 pp79-94 群馬県環境森林部自然環境課
藤田雄三 1984 「古墳の分布」『新里村の遺跡』pp38-41 新里村教育委員会
杉原荘介 1977 「群馬県武井における二つの石器文化」『龍川遺跡』
須藤定久・田島順子・木崎善雄 1976 「群馬県太田—大間々地域の第三紀火砕岩類」『地学専論集』13 pp241-249 日本地質学会
早田勉 1990 「第一章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』pp37-130 群馬県史編纂委員会
津島秀章 2008 「チャートをめぐる石材環境—赤城山南麓地域のチャート資源」『研究紀要』26 pp119-130 群馬県理化学文化財調査事業団
新里村教育委員会 1984 「新里の遺跡」
能登健・内田憲治 1985 「里根み集落の発掘調査」『家淳遺跡—里根み集落の発掘調査—』pp63-71 新里村教育委員会
能登健・小島敦子 1984 「弥生から平安時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』pp26-33 新里村教育委員会
丸山清康 1958 「赤城山」『勢多郡誌』pp45-121 勢多郡
守屋以智雄 1968 「赤城火山の地形及び地質」前橋宮林局
守屋以智雄 1970 「赤城火山の地形学図及び地質図に関する考察」『地図』8-1 pp 1-9 日本国際地図学会



第5図 周辺連綿位置図(国土地理院1/25,000地形図「相生」平成21年4月1日発行、同「大開々」平成8年7月1日発行、同「大畑」平成22年12月1日発行、同「藤毛石」平成14年9月1日発行を使用)

第1表 周辺道跡一覧表

番号	道跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
1	前畑J		●		●	●	●	●	●	本報告
1	前畑B				●	●	●	●		51
1	前畑C				●	●	●	●		51
1	前畑D		●		●	●	●	●		51
1	前畑F		●	●	●	●	●	●		49
2	武井の巻								●	56
2	武井	●								14, 16, 17, 18, 64, 71 ~75
2	家岸 (武井道跡家岸 地区を含む)	●		●		●	●			14, 34, 59, 88
2	武井内出東 (武井道跡内出 東地区を含む)	●			●	●	●			16, 38, 52
3	観音寺古墳									87
3	観音寺	●	●	●	●	●	●	●	●	50
4	軽川I	●	●	●	●	●	●	●	●	41, 53
4	軽川II		●							49
5	東畑A			●					●	50
6	武井家岸V	●	●							75
6	小林8号墳				●					86
6	小林10号墳				●					86
6	小林11号墳				●					86
6	小林12号墳				●					86
7	西久保		●	●						53
8	南原	●	●	●			●			87
9	十二社横穴古 墳				●					87
9	十二社	●	●		●					39, 40, 46
10	十二所(歳十二 所道跡を含む)	●	●	●						6
10	十二所古墳				●					10
11	大葛城				●			●		9, 10, 56
12	家岸山道跡V	●	●	●				●		70
13	家岸山古墳群	●	●	●						4, 5, 7, 15
14	小林一本木				●					52
15	藤沢				●	●	●	●		52
16	前橋市0912 (間接百々目 木)		●				●			31
17	前橋市0692 (堤頭, 一日市 宿後)			●			●	●	●	31, 32, 96
18	前橋市0890(一 日市城)							●		56, 110
19	小林家岸		●		●					52
20	日横				●	●	●	●		52
21	小林前田				●	●	●	●		52
22	日横A				●	●	●	●		51
23	田嶋I	●			●	●	●	●	●	46
23	田嶋	●								94
24	内出II				●	●	●	●		45
24	内出III				●	●	●	●		48
24	内出IV	●			●	●	●	●	●	54
25	小林5号墳				●					86
25	小林6号墳				●					86
25	小林7号墳				●					86
25	小林13号墳				●					86
25	小林14号墳				●					86
25	小林15号墳				●					86
25	新里23号墳									11
25	家岸山	●	●	●	●	●	●			15, 76, 77

番号	道跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
26	生目	●								86
26	生日目				●	●	●	●		44
27	前橋市0646 (白藤新宿, 白 藤古墳群)		●		●	●	●	●		30, 33
28	前橋市0649(膳 城)					●	●	●		31, 56, 110
29	太郎A					●	●	●	●	50
30	堂城						●			56, 110
30	堂城B							●		50
30	堂城D			●		●	●	●	●	47
30	堂城E			●		●	●	●	●	46
30	堂城F					●	●	●	●	48
31	山上天笠D				●	●	●	●		50
31	山上天笠F				●	●	●	●		49
31	山上天笠J				●	●	●	●		47
31	山上天笠K				●	●	●	●		47
31	山上天笠L				●	●	●	●		44
31	山上天笠M				●	●	●	●		45
32	町南				●	●	●	●		51
32	町南B				●	●	●	●		51
32	町南C				●	●	●	●		49
32	町南D				●	●	●	●		48
33	天笠東				●	●	●			53
34	間ノ田		●							53
35	諏訪越II				●	●	●	●	●	46
36	武井城(城道跡 を含む)				●		●			59, 83, 86
37	武井廃寺跡				●					50, 58, 86
37	新川2号墳					●				86
38	武井城1号墳					●				50
38	中塚古墳				●					21
39	武井城II				●	●	●	●		55
40	武井家(峠道跡 を含む)					●	●	●	●	51, 83
40	武井家C					●	●	●	●	50
40	武井家B					●	●	●	●	50
40	武井家D					●	●	●	●	50
40	武井家E					●	●	●	●	41
40	武井家F					●	●	●	●	50
40	武井家G					●	●	●	●	50
40	武井家H					●	●	●	●	49
40	武井家K	●				●	●	●	●	41
40	武井家L					●	●	●	●	45
41	久保井					●	●	●	●	82
41	久保井B					●	●	●	●	50
41	久保井C					●	●	●	●	49
42	久保井D					●	●	●	●	89
43	小沢御伊勢山 I						●	●	●	47
43	小沢御伊勢山 II						●	●	●	47
44	石山	●								59
44	石山II						●	●	●	93
45	天笠南			●		●	●	●	●	81
45	天笠南E					●	●	●	●	49
45	天笠南C			●		●	●	●	●	47
45	天笠南F					●	●	●	●	47
45	天笠南G					●	●	●	●	47
45	天笠南I					●	●	●	●	45
46	石山西					●	●	●	●	50
46	石山西IV					●	●	●	●	47
46	石山西V					●	●	●	●	44
47	内出I					●	●	●	●	49
48	石山東I					●	●	●	●	49
49	跡守II									47
49	砂田					●				112
50	高野						●	●		52

第2章 地理的環境と歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
51	梨子木				●					51
51	梨子木A				●	●	●			51
51	梨子木C				●					50
51	梨子木D				●	●	●			50
51	梨子木E	●			●			●		50
51	梨子木F				●	●	●			50
51	梨子木H				●	●	●	●		49
51	梨子木I				●	●	●			49
51	梨子木J	●			●	●	●			36,41
51	梨子木K	●			●					48
51	梨子木L	●			●		●	●		54
52	金井IV					●	●	●		47
53	金井V					●	●	●		47
54	元宿A					●	●			51
54	元宿C		●							50
54	元宿G				●	●	●			46
54	元宿H		●							41,44
54	元宿J				●	●	●	●		54
55	武井の内出						●	●		56
55	山内出						●	●		86
55	山内出A						●	●		51
55	山内出B	●			●	●	●	●		35,45
55	山内出古墳				●	●	●	●		58
56	金井III				●	●	●	●		49
57	雷電山瓦葺址				●	●	●	●		46,58
58	元宿	●								3
58	元宿II	●			●					44
59	向赤坂	●								86,94
60	広間地西II		●				●	●		50
61	新宮	●			●			●		53
61	新宮F				●					50
61	新宮G				●	●	●			50
61	新宮H									47
61	新宮I	●								37,41
62	新宮J							●	●	46
63	新宮II				●	●	●	●		53
64	下宿東				●	●	●	●		50
65	大屋元屋敷		●		●	●	●	●		47
65	大屋元屋敷II				●	●	●	●		45
66	宿東A				●	●	●	●		51
66	宿東C				●	●	●	●		51
66	宿東D				●	●	●	●		92
67	新川八幡		●							51
67	新川八幡II				●	●	●	●		92
68	大屋B		●							51
68	大屋C		●							51
68	大屋D		●							51
68	大屋E		●							51
68	大屋G		●							49
68	大屋H		●				●	●		49
68	大屋I		●					●		49
68	大屋N		●							46
68	大屋P		●					●		45
69	磯		●							3
69	磯C									51
69	磯E									47
69	磯L					●	●	●		44
70	広間地東	●								87
71	広間地				●	●	●	●		52
71	広間地東B				●	●	●			84
72	広間地東A				●	●	●			50
73	広間地西	●	●		●	●	●	●		50
74	北原第3地点	●								68
74	北原A	●			●			●		50
75	東畑		●							86
75	東畑C				●	●	●	●		47
75	東畑D				●	●	●	●		46
76	西林西ノ原				●	●	●			8
77	道上				●	●	●	●		57
78	柳池					●				89

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
79	赤井戸			●	●	●				10,66,67,69
80	長昌寺開山塚古墳				●					22
81	西鹿田中島(中島遺跡、西鹿田遺跡を含む)	●			●		●	●		2,3,12,13,22,29,59,65,106,108
82	新川前田A			●						43,52
83	西原				●					22
84	神社裏	●	●	●						22,28,58,98
85	西原南			●						22
86	西鹿田高橋			●	●					22
87	山西				●					22
88	和田	●	●	●	●			●	●	28,58,59
89	坊谷戸			●						22
90	坊谷戸II						●			27,28,100
91	新宿A					●	●	●		50
91	新宿C					●				47
92	山上新町					●	●	●	●	51
92	山上新町II					●	●	●		49
92	山上新町III							●		49
92	山上西久保I			●				●		55
93	山上城跡I			●	●		●	●		46
93	山上城跡II			●	●		●	●		93
93	山上城跡III			●	●		●	●		56
94	互反田			●	●		●	●		53
95	久留美田	●			●	●	●	●	●	94
96	町西1			●	●		●	●	●	47
97	鳥屋ヶ峯愛宕山			●				●	●	55
98	上鶴ヶ谷				●	●				59,84
99	下鶴ヶ谷C							●		47
100	下鶴ヶ谷B									50
100	下鶴ヶ谷E						●	●		44
101	清水山II									89
101	鶴ヶ谷東			●						111
102	不二山				●	●	●			3,59,90
103	十三塚II									47
103	不二山B地点	●								86
104	十三塚			●			●	●		85,87
104	十三塚E			●						89
104	善昌寺裏山火葬墓						●			58
104	外堀山			●			●	●		58,80,86
105	十三塚F									89
105	家の基跡			●			●	●		47
106	谷津前跡I			●			●	●		44
107	扇木A			●		●	●	●		51
107	扇木B			●						51
107	扇木D			●			●	●		49
108	善田下						●	●		52
109	熊野藤生沢			●			●	●		78,79,86
110	杉森古墳				●					19,20,106
111	柳原			●				●		3,19,20,42
112	新川9号墳					●				87
113	新川10号墳					●				87
114	新川6号墳					●				87
115	藤生沢B			●						51
116	藤生沢C					●	●			50
117	藤生沢D					●	●	●		50

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
118	駒山道東 A		●							19
119	駒山道東 B		●							19
120	駒山道西		●							19, 109
121	新川 4号墳				●					87
122	新川 5号墳				●					87
123	天神原古墳				●					87
124	新川天神原				●	●	●	●		49
124	新川天神原Ⅱ				●					47
125	新川11号墳				●					87
126	新川14号墳				●					87
126	薬師塚				●	●	●		●	54
127	新川12号墳				●					87
128	稲荷山	●	●			●				22, 24 25, 58
129	養清水	●	●							100
129	養清水第16地点	●								102
129	養清水第17地点					●				105
130	清水									28
130	清水第2地点	●	●							95
130	清水西丘									22
131	道輪	●	●				●	●		22
131	道輪山の砦							●	●	56
132	清水北口	●	●					●		28, 102
133	向山		●	●	●	●				27, 98, 100, 101
134	清水西丘	●	●	●						22, 28
135	清水山		●	●						59, 60
136	北口古墳群				●					22, 27
137	清泉寺野									22
138	榑子寮	●								103
138	鶴山磐跡(建石の磐)							●		56, 103
139	大平山西		●							103
140	田村屋敷							●		56
141	山際五堂跡					●				22, 58
141	山際殿跡									22
142	龍田山磐跡(泉沢城)							●		56, 103
143	山際小山					●				103
144	榑ノ内		●							103
145	榑上		●				●	●		22, 98, 99, 104
146	岩宿	●	●			●	●	●		23, 59, 63, 97, 98, 100, 102, 104, 107
147	岩宿Ⅱ	●	●							27, 28, 62, 102
147	東岩宿遺跡(仮)		●							15
148	沢田		●					●		27
148	榑ノ川遺跡					●				58
149	山上 4号墳				●					86
149	山上 5号墳				●					86
150	山上 7号墳				●					86
150	山上 8号墳				●					86
150	山上庚申塚古墳				●					91
151	山上 6号墳				●					86
151	板塚古墳				●					91
151	板塚西古墳				●					91
152	板塚Ⅰ		●			●	●	●		91
153	山上10号墳				●					86
153	山上11号墳				●					86
154	元宿					●		●		89

引用文献

- 相沢忠洋 1956「北関東赤城山麓に於けるマイクロー・コアの発見」『貝塚』第58号 平凡社
- 相沢忠洋 1959「赤城山麓に於ける縄文早期文化と西鹿田遺跡発掘調査の意義」『古代文化』12 古代学協会
- 相沢忠洋・関矢昭 1988「赤城山麓の旧石器」講談社
- 赤城町教育委員会 1975「赤城村家岸山の古墳Ⅰ」
- 赤城町教育委員会 1976「赤城村家岸山の古墳Ⅱ」
- 赤城町教育委員会 1987「下地寺遺跡及び磯十二所遺跡発掘調査概報Ⅲ」
- 赤城町教育委員会 1994「群馬県在波部赤城町文化財調査報告40 町内遺跡発掘調査概報」
- 赤城町教育委員会 2001「平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告」
- 赤城町教育委員会 2004「天幕城遺跡」
- 伊勢崎市教育委員会 2012「伊勢崎市遺跡分布地図」
- 岩澤正作 1933「新里村郷土大観」新里村史蹟保存会
- 岩澤正作 1939a「石器時代の笠懸村(上)」『毛野』5-1 pp5-10 毛野研究会
- 岩澤正作 1939b「石器時代の笠懸村(下)」『毛野』5-2 pp1-9 毛野研究会
- 岩宿フォーラム実行委員会 1998a「武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化」予稿集
- 岩宿フォーラム実行委員会 1998b「北関東の槍先形尖頭器文化」資料集
- 岩宿フォーラム実行委員会 2007「槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡」
- 岩宿フォーラム実行委員会 2004「武井遺跡の槍先形尖頭器」
- 岩宿フォーラム実行委員会 2013「槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり」
- 大間々町誌編さん室 1996「大間々町誌 基礎資料Ⅵ 大間々町の遺跡」
- 大間々町誌編さん室 1998「大間々町誌 通史編 上巻」
- 尾崎高直雄 1958「赤城山麓新里村の古墳」新里村教育委員会
- 笠懸村誌編さん室 1983「笠懸村誌 別巻 資料編 自然編・原始古代編」
- 笠懸村教育委員会 1971「群馬県笠懸村岩宿遺跡緊急発掘調査概報一昭和45年度発掘調査によるC地点およびD地点の概要一」
- 笠懸村教育委員会 1979「笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第2集一」
- 笠懸村教育委員会 1980a「笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第3集一」
- 笠懸村教育委員会 1980b「和田遺跡調査概報一笠懸村埋蔵文化財調査報告第4集一」
- 笠懸町教育委員会 1993「笠懸町内遺跡Ⅰ」
- 笠懸町教育委員会 1995「笠懸町内遺跡Ⅱ」
- 笠懸町教育委員会 2003「西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(Ⅰ)」
- 粕川村教育委員会 1983「白藤・新宿」
- 粕川村教育委員会 1985「粕川村の遺跡一遺跡詳細分布調査報告書一」
- 粕川村教育委員会 1988「堤遺跡」
- 粕川村教育委員会 1989「白藤古墳群」
- 加部二生 1998「武井遺跡の調査概要一新里村教育委員会の調査を中心として」『武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化 予稿集』pp19-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 加部二生・阿久澤智和 2009「Ia内出B遺跡」『石器文化研究』15(pp57-78) 石器文化研究会
- 加部二生・石田典子・後藤佳一 2003「梨子木Ⅰ遺跡」『第9回石器文化研究交流会一発表要旨一』pp17-20 石器文化研究会
- 加部二生・石田典子・後藤佳一 2004「赤城村の旧石器時代遺跡」『勢多郡文化財ニュース』No.6 pp11-14 群馬県勢多郡町村教育委員会事務局研究会
- 加部二生・小菅将夫 1995「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会』pp4-10 石器文化研究会
- 加部二生・大工原豊 1992「群馬県新里村十二社遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会一発表要旨一』pp16-21 長野県旧石器文化研究交流会
- 加部二生・大工原豊・町田正行 1992「群馬県新里村十二社遺跡の石器群について」『第6回東北日本の旧石器文化を語る会』pp23-29 東北日本の旧石器文化を語る会
- 軽部達也・小堀俊行 2013「武井遺跡周辺の槍先形尖頭器文化の遺跡」

第2章 地理的環境と歴史的環境

- 「岩宮フォーラム2013 輪先形須器文化の大規模道跡と道跡の広がり—武井道跡発掘60周年—」pp.39-48 岩宮フォーラム実行委員会
- 42 桐生道跡調査団・芹沢長介 2004「群馬県山田郡大間々町桐生道跡の調査概要報告」
- 43 桐生市教育委員会 1994「新前川田A道跡(その1)」
- 44 桐生市教育委員会 2008「平成17・18年度発掘調査概報」
- 45 桐生市教育委員会 2010 a「桐生市内道跡発掘調査報告平成19・20年度調査」pp.4-7 石器文化研究会
- 46 桐生市教育委員会 2010 b「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅰ」
- 47 桐生市教育委員会 2011「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅱ」
- 48 桐生市教育委員会 2012「桐生市内道跡発掘調査報告平成21・22年度調査」
- 49 桐生市教育委員会 2012「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅲ」
- 50 桐生市教育委員会 2013「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅳ」
- 51 桐生市教育委員会 2014「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅴ」
- 52 桐生市教育委員会 2015「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅵ」
- 53 桐生市教育委員会 2016 a「新里地区道跡群発掘調査報告Ⅶ」
- 54 桐生市教育委員会 2016 b「桐生市内道跡発掘調査報告平成25・26年度調査」
- 55 桐生市教育委員会 2018「桐生市内道跡発掘調査報告平成27・28年度調査」
- 56 群馬県教育委員会 1989「群馬県の中世城館」
- 57 群馬県教育委員会 2010「道と道跡」
- 58 群馬県史編さん委員会 1986「群馬県史 資料編2 原始古代2」群馬県
- 59 群馬県史編さん委員会 1988「群馬県史 資料編1 原始古代1」群馬県
- 60 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985「赤城山道跡」
- 61 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019「前編」道跡」
- 62 小菅将夫 2002「岩宮Ⅱ道跡第3次調査」『第8回石器文化研究交流会—発表要旨—」pp.43-45 石器文化研究会
- 63 杉原佐介 1956「群馬県岩宮発見の石器文化」明治大学
- 64 杉原佐介 1977「群馬県武井における二つの石器文化」明治大学
- 65 四塚隆一 1950「群馬県新田郡笠懸村中島道跡調査報告(第一報)—主として地表採集による概報—」『向古古代文化』2 pp.38-45 南毛考古学会
- 66 四塚隆一 1951「赤城山南麓に於ける特色ある弥生式土器とその分布」『日本考古学協会第8回総会研究発表要旨』pp.16-18 日本考古学協会
- 67 四塚隆一 1953「赤城山南麓における特色ある弥生式土器とその分布(第二報)」『日本考古学協会第11回総会研究発表要旨』pp.13-16 日本考古学協会
- 68 関矢晃 1991「群馬県新里村北原道跡の後期旧石器—表面採集資料の検討(1)—」『太平史史』第11号 史学会
- 69 岡田芳雄 1975(b) 赤井戸式土器」『赤井山道跡発掘調査報告(第一次)』pp.37-38 新里村教育委員会
- 70 勢藤力 2009「赤井山道跡Ⅴ」『石器文化研究』15 pp.71-74 石器文化研究会
- 71 武井道跡調査団 2010「概報 武井道跡群Ⅰ」
- 72 武井道跡調査団 2011「概報 武井道跡群Ⅱ」
- 73 武井道跡調査団 2012「概報 武井道跡群Ⅲ」
- 74 武井道跡調査団 2014「概報 武井道跡群Ⅳ」
- 75 武井道跡調査団 2015「概報 武井道跡群Ⅴ」
- 76 新里村教育委員会 1975a「赤井山道跡発掘調査報告(第一次)」
- 77 新里村教育委員会 1975b「赤井山道跡発掘調査報告(第二次)」
- 78 新里村教育委員会 1975c「熊野道跡発掘調査報告(第一次)」
- 79 新里村教育委員会 1977「熊野・藤生沢道跡発掘調査報告(第二次)」
- 80 新里村教育委員会 1980「外堀山道跡」
- 81 新里村教育委員会 1981a「天笠南道跡」
- 82 新里村教育委員会 1981b「久保井道跡」
- 83 新里村教育委員会 1981c「武井・赤井道跡」
- 84 新里村教育委員会 1982「上鶴ヶ谷道跡」
- 85 新里村教育委員会 1982「十三塚道跡」
- 86 新里村教育委員会 1984a「新里村の道跡」
- 87 新里村教育委員会 1984b「新里の道跡表」
- 88 新里村教育委員会 1985「赤井道跡—里積み集落の発掘調査—」
- 89 新里村教育委員会 1998「新里村内電源開発只見幹線踏込建設関連道跡発掘調査概報」
- 90 新里村教育委員会 2002「新里村不二山道跡群発掘調査報告：くま見
- 虫の森(仮称)に伴う発掘調査」
- 91 新里村教育委員会 2003「新里村内田原製木森林緑道建設関連道跡発掘調査報告」
- 92 新里村教育委員会 2004「宿東D道跡・新川八幡宮道跡」
- 93 新里村教育委員会 2005「山上城跡Ⅰ・石山Ⅱ道跡」
- 94 日本旧石器学会 2010「日本列島の旧石器時代道跡」
- 95 萩谷千明 1995「清水道跡第2地点」『第3回石器文化研究交流会—発表要旨—』pp.4-7 石器文化研究会
- 96 前橋市埋蔵文化財調査団 2009「船川町一日市宿後道跡」
- 97 みどり市教育委員会 2010 a「史跡岩宿跡保存整備報告書」
- 98 みどり市教育委員会 2010 b「みどり市内道跡 1」
- 99 みどり市教育委員会 2011「堀上道跡」
- 100 みどり市教育委員会 2011「みどり市内道跡 2」
- 101 みどり市教育委員会 2012「みどり市内道跡 3」
- 102 みどり市教育委員会 2013「みどり市内道跡 4」
- 103 みどり市教育委員会 2013「みどり市道跡地図」
- 104 みどり市教育委員会 2014「みどり市内道跡 5」
- 105 みどり市教育委員会 2015「みどり市内道跡 6」
- 106 みどり市教育委員会 2016「みどり市内道跡 7」
- 107 みどり市教育委員会 2017 a「岩宿道跡F地点」
- 108 みどり市教育委員会 2017 b「西鹿田中島道跡発掘調査報告書(2)」
- 109 みどり市教育委員会 2018「みどり市内道跡 8」
- 110 山崎一 1971「群馬県古城址の研究 上巻」群馬県文化事業振興会
- 111 柳田俊夫・阿部善吾 2015「群馬県鶴ヶ谷東道跡発掘調査の研究報告」Bulletin of the Tohoku University Museum No.14 pp.201-276 東北大学総合学術博物館
- 112 群馬県新里村教育委員会 1991「資料集 赤城山麓の歴史地帯—弘仁九年に発生した地震とその災害—」
- 113 加部二生 2001「多重塔周辺部分の調査 仏前様道跡の発掘調査から」『山上多重塔 建立—二〇〇年記念歴史後援会』新里村教育委員会

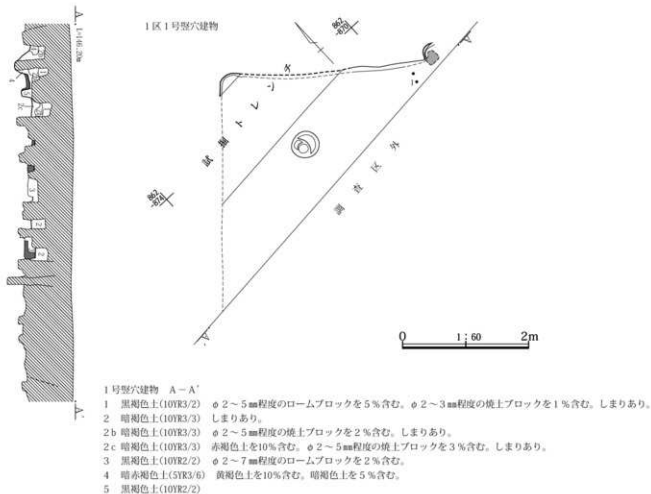
第3章 検出された遺構と遺物

第1節 古墳時代～奈良・平安時代

1号竪穴建物(第6図、PL. 1)

1区北部に位置し、X=44.859～862、Y=-59.869～876の範囲にある。方位N-38°-Eを指す。竪穴建物の大半は調査区外へ延びるため、北コーナーの一部を確認したのみである。残存部からみると長軸推定で3.7m、短軸3.5mを測る。コーナー部からみると形態は方形を

呈し、規模は推定長軸3.7m、短軸3.5mと考えられ、壁高は14～15cmを測る。建物は現代の機械工作機により、15cmの幅で1m以上の深さの溝により攪乱を受けている。北側のコーナー部に試掘のトレンチが確認された。このため床面はほとんどで確認できず、竪穴建物の確認された面積は6.46㎡である。出土遺物は土師器の裏頭部片があるが、計測数値は測れない小片である。このため時期は不明である。



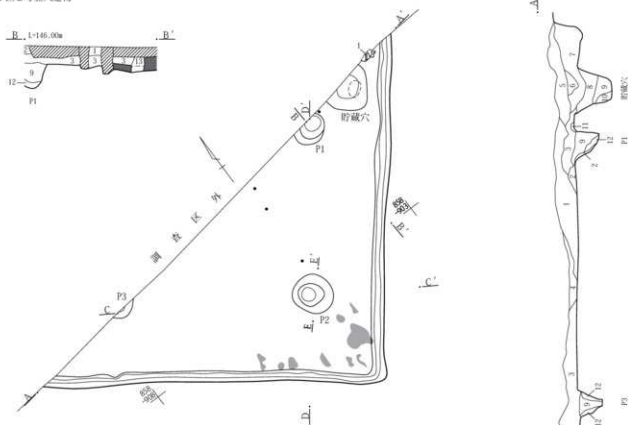
第6図 1号竪穴建物・出土遺物

2号竪穴建物(第7・8図, PL. 1・22)

1区中央部に位置し、X=44.856~860、Y=-52.901~909の範囲にある。方位はN-37°-Eを指す。1号竪穴建物同様コーナー部の一部を確認したのみである。形態は方形を呈し、規模は、東壁残存部5.5m、南西壁5.3m、壁高は25~30cmを測る。竪穴建物は現代の工作機械で攪乱を受けている。床面は平坦をなし、壁周溝が確認された。規模は幅10~15cm、深さ7~10cmある。竪穴建物の確認された面積は12.66㎡である。北側調査区

外に一部かかるが貯蔵穴が確認された。規模は長軸約70cm、短軸約55cm、深さ55cmを測る。床面にはピットが3基確認され、貯蔵穴の西のピットから時計と反対回りにP1~3とした。規模はP1長軸60cm、短軸約50cm、深さ30cm、P2径約60cm、深さ65cm、P3は大平が調査区外に伸び、計測不能である。柱間はP1・P2間が2.7m、P2・P3間は3mを測る。確認された面積は7.65㎡である。出土遺物は土師器甕が確認されている。

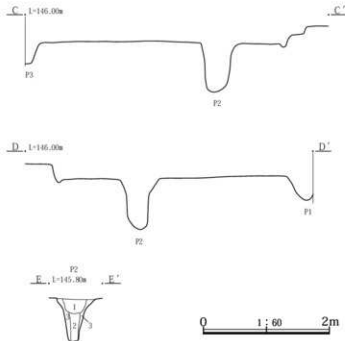
1区2号竪穴建物



2号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ2~20mm程度のロームブロックを7%含む。φ3mm程度の赤褐色粒を1%含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) φ2~20mm程度のロームブロックを7%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ2~80mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) φ80mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土3/1を30%含む。φ2~3mm程度のローム粒を2%含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。
- 7 暗褐色土(10YR3/2) 部分的に黒褐色土を10%含む。φ2~10mm程度のロームブロックを5%含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) φ2~10mm程度のロームブロックを5%含む。φ2mm程度の赤褐色粒を1%含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) ロームを20%含む。
- 10 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 11 暗赤褐色土(5YR3/3) カマドの粘土の焼土化。
- 12 黄褐色土(10YR5/6)
- 13 黒褐色土(10YR2/2)

第7図 2号竪穴建物

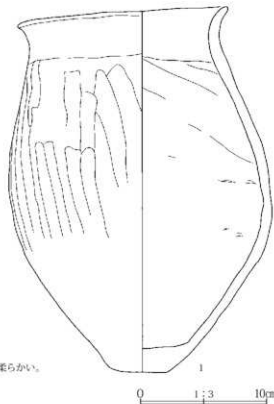


P 2

1 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。φ2～5mm程度のローム粒を5%含む。柔らかい。

2 黄褐色土(10YR5/6) 暗褐色土を10%含む。もろい。

3 褐色土(10YR4/4)



第8図 2号竪穴建物・出土遺物

3号竪穴建物(第9・10図、PL.1・2・22)

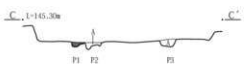
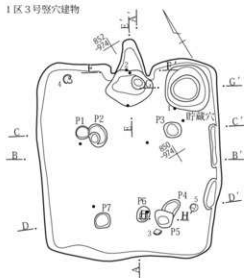
1区南部に位置し、X=44.873～852、Y=-52.873～876の範囲にある。方位はN-31°-Eを指す。形態は長方形を呈し、規模は長辺約3m、短辺約2.8m、壁高は25～30cmを測る。他の遺構との重複はないが、北東部で縄文時代の9号竪穴建物の上にある。このため縄文時代の竪穴建物の一部を壊している。床面は平坦をなし、柱穴と考えられるピットが確認されている。ピットは北西部からP1～P7と図に落とした。各々の規模はP1径20cm、深さ10cm、P2径35cm、P3径20cm、深さ10cm、P4径20cm、深さ10cm、P5径20cm、深さ15cm、P6径15cm、P7径25cm、深さ10cmである。柱穴はP2・3・5・7が対応すると考えられる。またP1・4等は柱の立て直し等が考えられる。北東隅に貯蔵穴が確認された。規模は径70cm、深さ60cmを測る。竈は北壁ほぼ中央に確認された。規模は長軸1m、袖幅60cmを測る。確認された面積は7.65㎡である。出土遺物は土師器甕・杯等が出土している。

4号竪穴建物(第11・12図、PL.2・3・22)

1区南側に位置し、3号竪穴建物の南西にある。X=44.853～855、Y=-52.977～981の範囲にある。他の遺構との関係は6号土坑、P9と重複する。新旧関係は土坑、ピットが新しい。北側の大半は調査区域外に延びている。形態は長方形を呈し、規模は長軸3.0m、短軸推定1.6m、壁高約30cmを測る。方位はN-100°-Eを指す。床面はほぼ平坦をなし、南西隅に2基のピットが確認された。規模はP1径40cm、深さ15cm、P2径40cm、深さ25cmを測る。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.2m袖幅70cmである。両袖部に袖材、構架材と思われる4個の石が確認された。確認された面積は4.33㎡である。出土遺物は竈焚口前に土師器甕、土師器杯、須恵器杯が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

I区3号竪穴建物



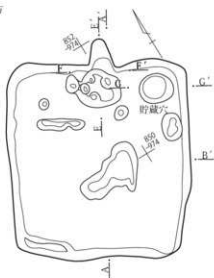
3号竪穴建物 C-C'・D-D'・P5
A 黒褐色とローム粒の混土。

貯蔵穴 G-G'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ2mmの灰白色バミス少量。ローム粒(φ3mm)焼土粒(φ2mm)少量。
- 2 1にローム粒φ2~10mmを加えたもの。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) φ2mmの灰白色バミス少量含む。粘性あり。
- 4 黒色土(10YR2/1) 細粒の炭化物を多量混入。
- 5 4にローム粒(φ2~10mm)が混入。

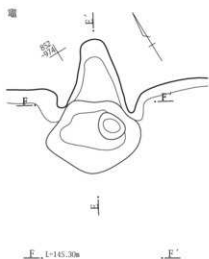
0 1:60 2m

掘り方



3号竪穴建物 A-A'・B-B'

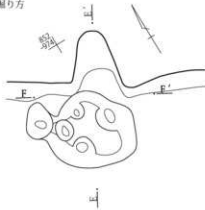
- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ1~2mmの灰白色バミス、φ2mmの褐色バミスを少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) φ20~40mmのロームブロック、φ1~2mmのローム粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) φ1~5mmの灰白色バミス、φ2mmの褐色バミスを少量含む。
- 3A 3にロームブロック(φ10mm)が混入。
- 4 ロームブロックの2次堆積上と黒褐色土の混土。
- 4A 4に近似するがロームブロックの混入少ない。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土粒φ2~10mm少量、灰白色粘土粒φ2~5mm少量、炭化物少量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロック(φ5~20mm)を含む下層は粘る灰層(灰粒子)含む。
- 7 黒褐色土とロームブロックの混土層。



0 1:30 1m

第9図 3号竪穴建物(1)

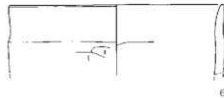
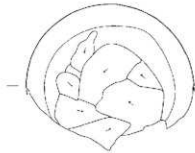
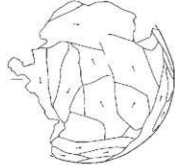
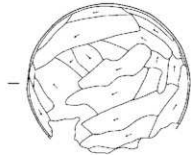
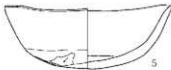
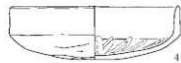
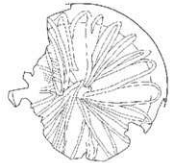
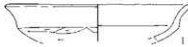
掘削り方



掘 E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ20~40mmのロームブロック、φ1~2mmのローム粒を含む。
- 2 1層にロームブロック(φ20mm)灰白色粘土ブロックが少量混入。
- 3 2に近似するがロームブロック(黄褐色)の混入多い。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2) 灰黄褐粘土ブロック(φ20~40mm)・焼土ブロック(φ20~30mm)が混入。壁体の崩落塊か?

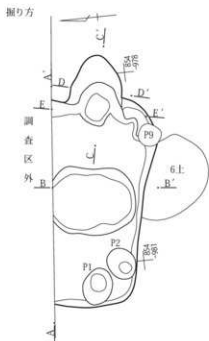
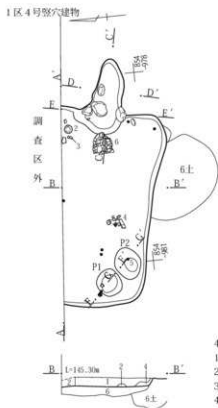
0 1:30 1m



0 1:3 10cm

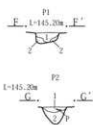
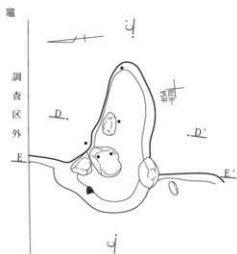
第10図 3号竪穴建物(2)・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物



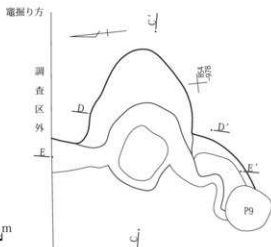
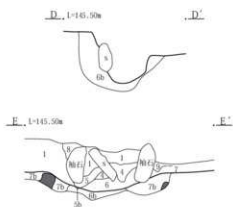
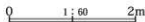
4号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) しまりあり。黄褐色土は粗乱の上。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土を20%含む。もろい。
- 3 褐色土(10YR4/4)
- 4 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。暗褐色土を40%含む。ロームを10%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色土を40%含む。黄褐色土はロームの二次堆積。
- 6 黒褐色土とローム粒・ロームブロックの混土层。



4号竪穴建物 P1・P2

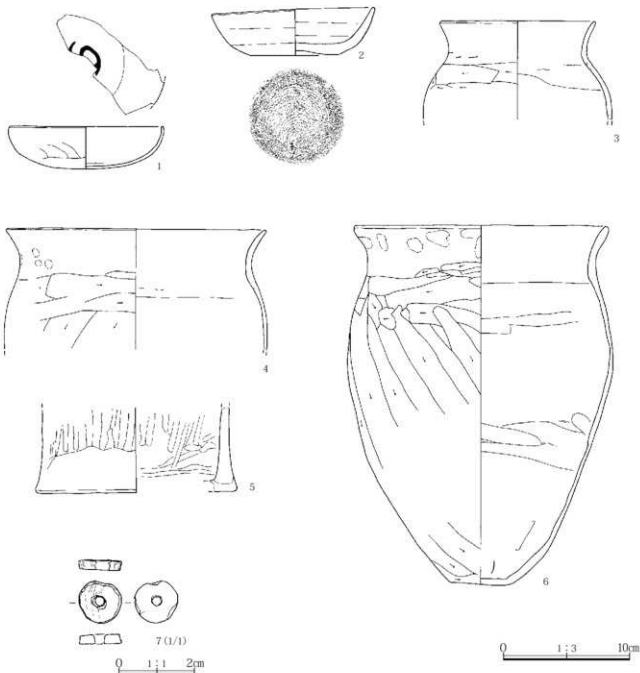
- 1 黒褐色土(10YR2/2)
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームを30%含む。
φ2~10m程度のロームブロックを5%含む。



第111図 4号竪穴建物

種 C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(7.5YR2/2) φ2~7mm程度の赤褐色粒を5%含む。φ1~2mm程度の白色粒を2%含む。φ1~5mm程度の黄褐色粒を2%含む。固くしまる。
- 2 灰褐色土(5YR4/2) 黒褐色土を30%含む。赤褐色土を10%含む。しまりあり。天井壁の焼土化。
- 3 黒褐色土(5YR3/1) φ2~3mm程度の赤褐色粒を2%含む。φ2~25mm程度の黄褐色粒を8%含む。しまりあり。
- 4 暗赤褐色土(5YR3/6) 暗褐色土を30%含む。φ3~7mm程度の黄褐色粒を2%含む。焼成部の焼土化。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 褐色土を20%含む。
- 5b 5にロームを30%含む。
- 6 黒褐色土(5YR2/2) φ1~2mm程度の赤褐色粒を2%含む。柔らかい。
- 6b 6にロームを30%含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/2) しまりあり。
- 7b 7にロームを30%含む。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 固くしまる。
- 9 褐灰色土(5YR4/1) しまりあり。



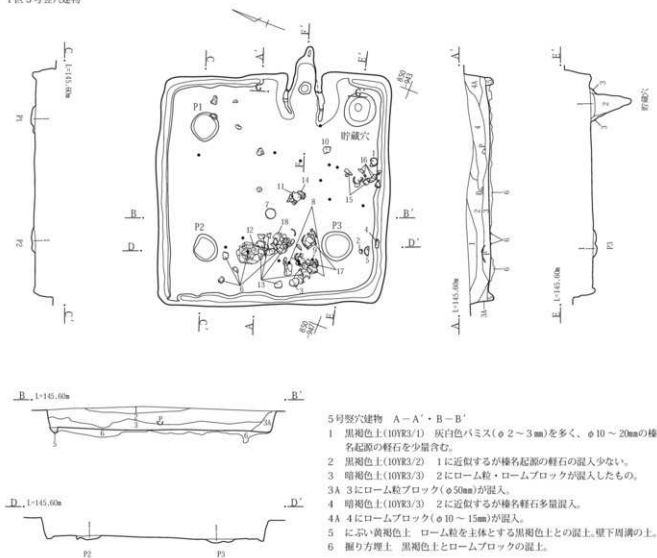
第12図 4号竪穴建物出土遺物

5号竪穴建物(第13～17図、PL. 3・4・23・24)

1区中央部に位置し、X=44.849～854、Y=-52.943～947の範囲にある。方位はN-70°-Eを指す。形態は方形を呈し、規模は長辺、短辺約3.5m、壁高は35～40cmを測る。他の遺構との重複はない。床面は平坦をなし、南西隅に貯蔵穴、ピットが3基確認された。壁周溝が確認され、深さ10cmを測る。ピットは北東隅をP1とし、

時計と反対周りにP1～3とした。規模はP1径45cm、深さ5cm、P2径45cm、深さ5cm、P3径45cm、深さ5cmを測る。南東隅には確認できなかったが柱穴と考えられる。南東隅に貯蔵穴が確認された。規模は径50cm、深さ65cmを測る。竈は東壁南寄りに確認された。規模は長軸1.2m、袖幅60cmである。確認された面積は11.88㎡である。出土遺物は、床面西側に土師器甕、杯が出土している。

1区5号竪穴建物



5号竪穴建物 A-A'・B-B'

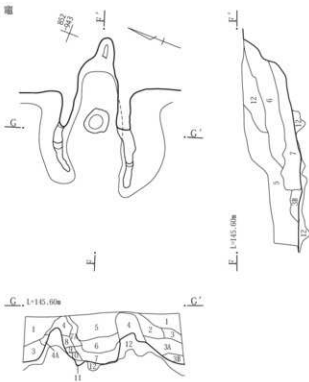
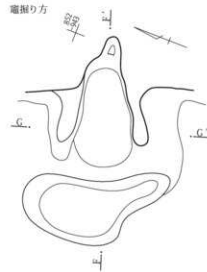
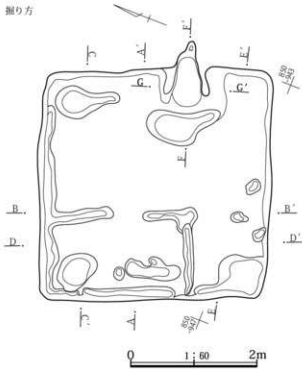
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色バミス(φ2～3mm)を多く、φ10～20mmの種名起源の軽石を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1に近似するが種名起源の軽石の混入少ない。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 2にローム粒・ロームブロックが混入したもの。
- 3A 3にローム粒ブロック(φ50mm)が混入。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 2に近似するが種名軽石多量混入。
- 4A 4にロームブロック(φ10～15mm)が混入。
- 5 赤い・黄褐色土 ローム粒を主体とする黒褐色土との混上。壁下周溝の上。
- 6 掘り方土 黒褐色土とロームブロックの混上。

5号竪穴建物 C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)ローム粒・ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒を多量含む。
- 3 ロームを主体とする黒褐色土の混入あり。

0 1:60 2m

第13図 5号竪穴建物(1)



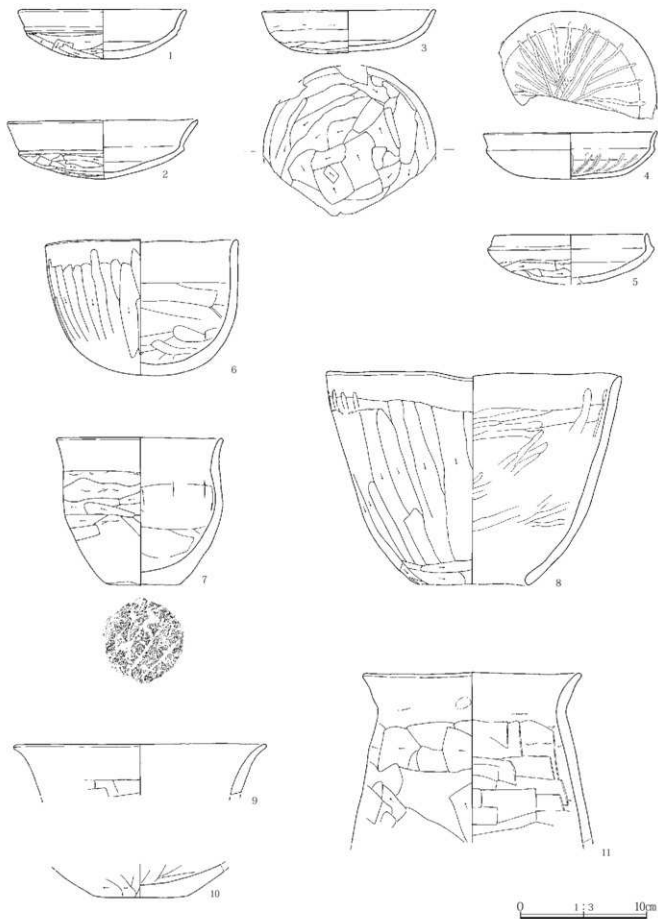
断 F-F'・G-G'

- 1 褐灰色土(10YR4/1) 微細の灰黄褐色粒子φ1～3mmの灰白色バミス少量の焼土粒(φ2mm)を含む。
- 2 褐灰色土(10YR4/1) 少量の灰黄褐色粒(微細)灰白色バミス(φ2mm)を含む灰黄褐色粘土粒子の混れ込みあり。
- 3 1に近似するが焼土粒子(φ5mm)の混入あり。灰黄褐色粒子灰白色バミスの混入少ない。
- 3A 3に近似するがやや黒味が強く黒褐色(10YR3/1)を呈す。
- 3B 3Aにローム粒・ロームブロックが多く混入。
- 4 灰褐色土(10YR4/2) 灰白色バミス(φ1～2mm)を少量含む。
- 4A 4にローム粒(φ5mm)が少量混入。
- 5 4に近似。灰黄褐色粘土粒(団体の2次堆積か?)
- 6 5に近似。5より灰白色バミスの混入少ない。
- 7 6に焼土粒(φ2～10mm)が多く混入。少量の炭化物粒あり。
- 7A 7より焼土粒の混入少ない。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 少量の焼土粒(φ2～3mm)灰白色バミス含む。
- 9 8と10の混入。
- 10 黒色土(10YR2/1) 炭化物粒子(微量)を多量含む。
- 11 3Bに焼土粒子が少量混入。
- 12 掘り方埋土 灰黄褐色(灰まじり)。

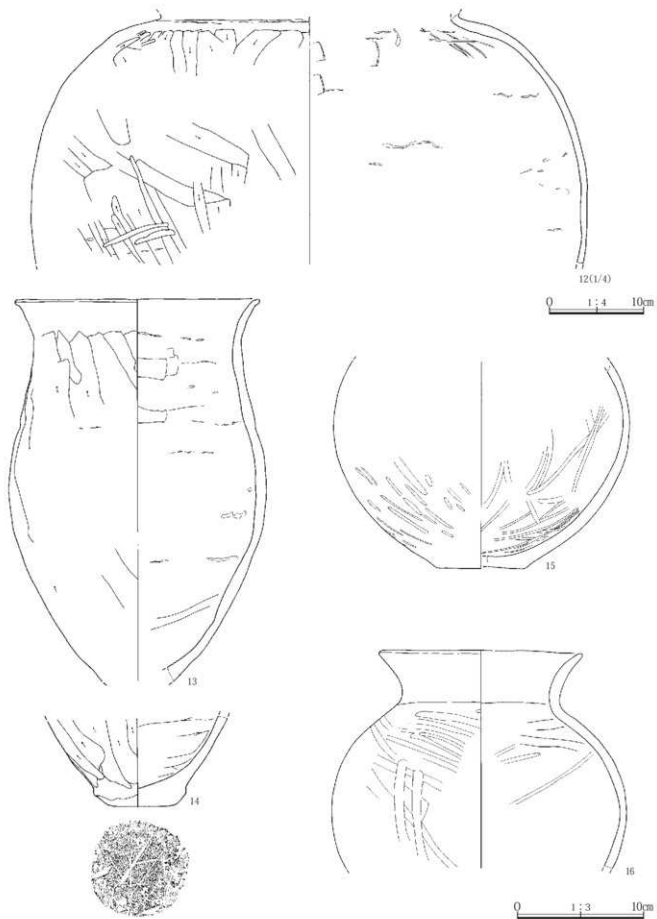
0 1:30 1m

第14図 5号竪穴建物(2)

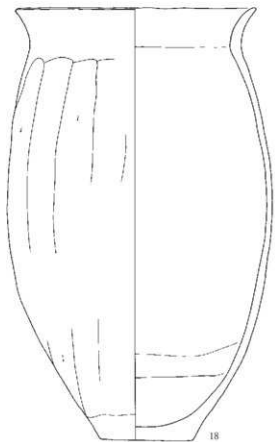
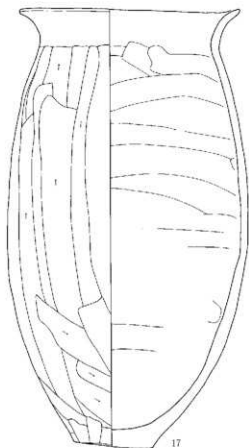
第3章 検出された遺構と遺物



第15図 5号竪穴建物出土遺物(1)



第16図 5号竪穴建物出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第17図 5号竪穴建物出土遺物(3)

6号竪穴建物(第18図、PL. 4・25)

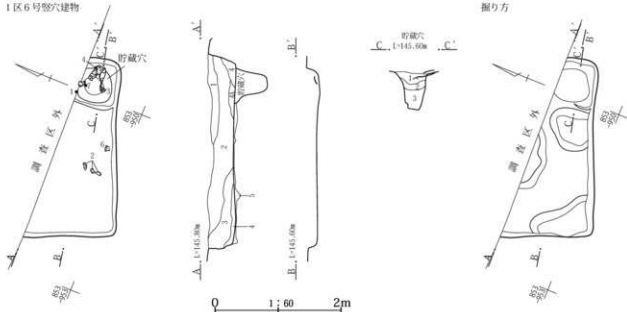
1区中央部に位置し、5号竪穴建物の南西にある。X=44.857～858、Y=-52.949～952の範囲にある。方位はN-70°-Eを指す。遺構の北側大半は調査区外に延び、南側の一部を確認したのみである。壁高は約17cmを測る。

南東隅に貯蔵穴を確認した。規模は径55cm、深さ50cmを測る。確認された面積は2.42㎡である。出土遺物は土師器甕片が確認された。

10号竪穴建物(第19図、PL. 5・25)

3区南部に位置し、X=44.878～881、Y=-52.049～054にある。南・西部の大半は攪乱によって壊されている。このため形態・規模は確認できないが、わずかに東壁を確認した。東壁の壁高は約10cmを測る。確認した部分の真ん中にピットが確認された。規模は径約80cm、深さ30cmを測る。確認された面積は34.13㎡である。出土遺物は灰釉陶器耳皿、土師器甕、須恵器壺・碗の高台部、砥石が1点出土している。

1区6号壱穴建物



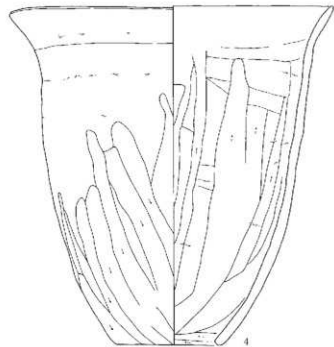
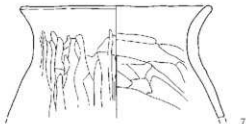
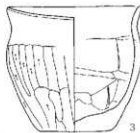
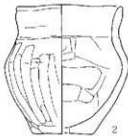
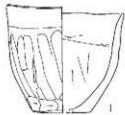
掘り方

貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒子(φ2~3mm)を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 3 ローム粒を主体とするロームブロック(φ10~20mm)の混入あり。

6号壱穴建物 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色軽石(φ2~7mm)明黄褐色バミス(φ5mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) φ2~10mmの灰白色バミスを多量含む。明黄褐色バミス少量、下層(下位)にローム粒・ロームブロック(φ5mm以下)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色バミス(φ2mm)・黄褐色バミス(φ2mm)を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 3にローム粒・ロームブロックを多量混入したものの。
- 4A 4に近似するがローム粒・ロームブロックの混入少ない。
- 5 暗褐色土とローム2次堆積土の混入。

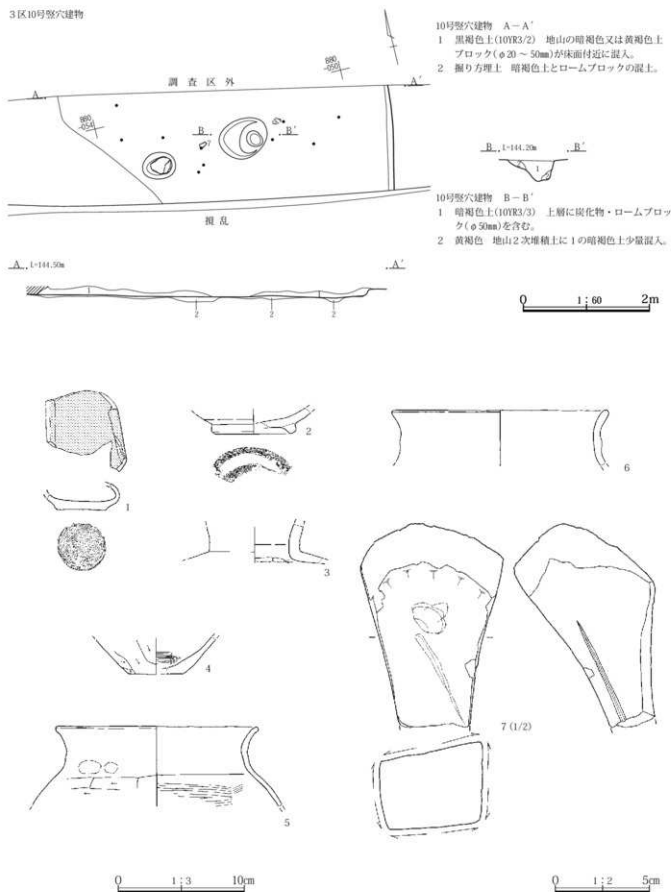


0 1:3 10m

第18図 6号壱穴建物・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

3区10号竪穴建物



第19図 10号竪穴建物・出土遺物

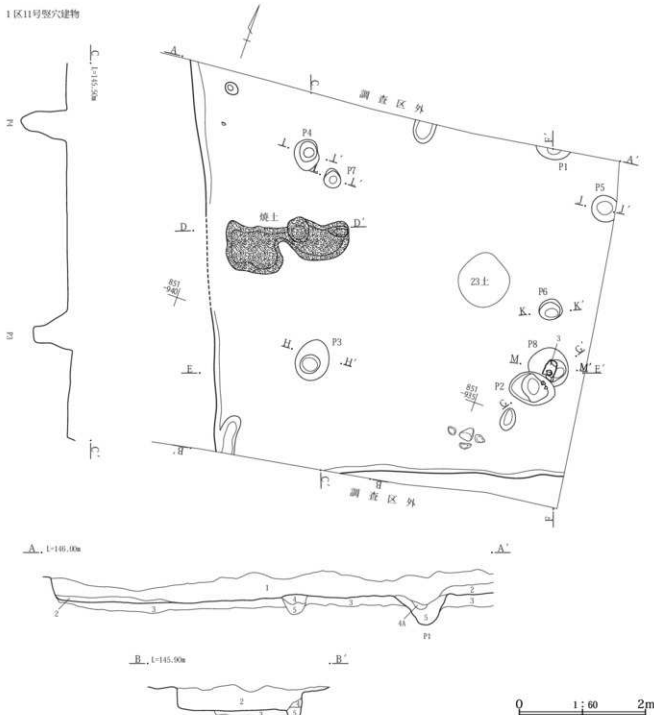
11号竪穴建物(第20～22図, PL. 5・26)

I区中央部に位置し、X=44.848～855、Y=-52.933～941の範囲にある。5号竪穴建物の北にある。方位はN-100°-Wを指す。形態は方形を呈し、規模は推定で長軸約6.6m、短軸6m、壁高は15～20cmを測る。東側の大半は調査区外に延びる。他の遺構との関係は縄文時代の23号土坑と重複する。新旧関係は竪穴建物があたらしい。床面からピットが7基確認され、P1・3・4・

7が柱穴と考えられる。規模はP1径40cm、深さ50cm、P2径約45cm、深さ45cm、P3径約45cm、深さ50cm、P4径約25cm、深さ25cm、P5径約30cm、深さ65cm、P6径約20cm深さ55cm、P7径約40cm、深さ40cmを測る。

確認された面積は34.13㎡である。出土遺物はP7覆土上面で甕が出土した。

I区11号竪穴建物



第20図 11号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

11号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(ϕ 2~5mm)を多量含む。少量のローム粒(ϕ 2~10mm)を下位に多量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細~ ϕ 40mm)を斑点状に含む。
- 3 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 2~4mmの灰白色粒を含む。
- 4A 4にローム粒の混土。
- 5 4にローム粒・ロームブロック(ϕ 2~30mm)混土。



焼土 D-D'

- 1 オリーブ灰(2.5G/6/1) 色粘土と黒褐色土との混土。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒・ロームブロックを多量含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
- 4 暗褐色土とロームブロックの混土。



P 2

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロック(ϕ 2~30mm)を含む。



P 3

- 1 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒・ロームブロック(ϕ 微~3mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒・ロームブロック(ϕ 微~15mm)を含む。
- 3 黒褐色土ブロック。



P 4

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) (柱痕?)ローム粒・ロームブロック(ϕ 5mm)を多量含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR7/4) ローム粒を多量含む。



P 5

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
- 2 黒褐色土とロームブロックの混土。



P 6

- 1 黒褐色土ローム粒を多量に含む。



P 8

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 5~10mm)を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量に含む。
- 3 2にロームブロック(ϕ 10mm)を混土。

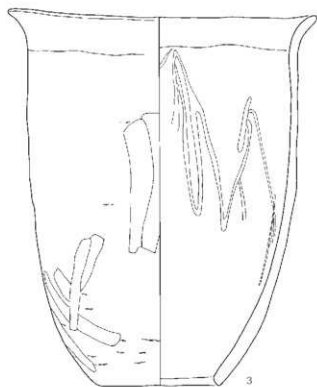
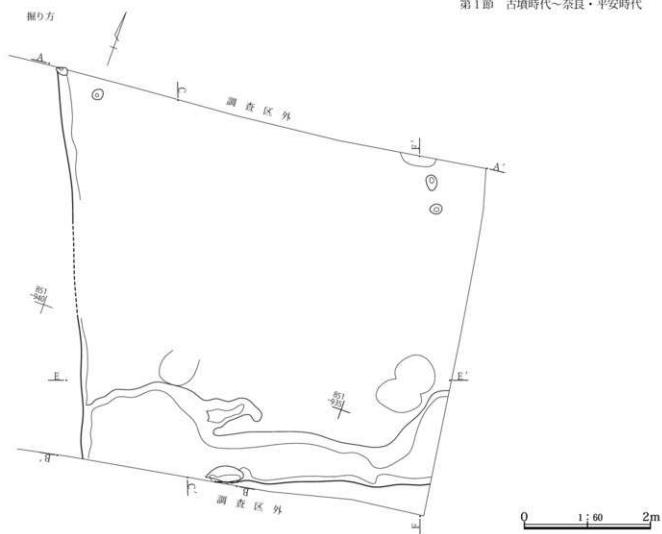


P 7

- 1 褐灰色土(10YR4/1)

0 1:60 2m

第21図 11号竪穴建物(2)



第22図 11号竪穴建物(3)・出土遺物

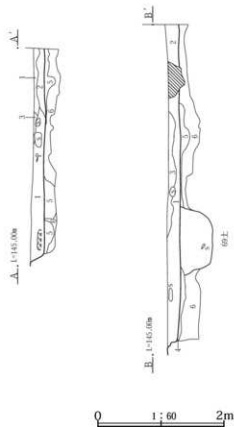
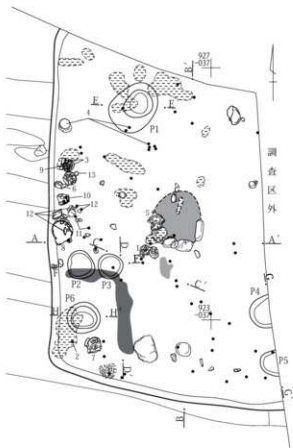
12号竪穴建物(第23～26図、PL. 5・26～28)

3区北部に位置し、X=44.921、Y=-53.035～039の範囲にある。方位はN-4°-Eを指す。北・東側は調査区の外へ延びる。このため形態は長方形、あるいは方形と考えられる。規模は残存部で南北5.0m、東西3.45m、壁高は10～15cmを測る。他の遺構との関係は69号土坑と重複する。新旧関係は69号土坑が縄文時代のものと考えられるため12号竪穴建物があたらしい。

床面は平坦をなし、床上には焼土、炭化物、ローム混土が確認されている。炉がほぼ中央部に確認された。規模は長軸90cm、短軸で70cmを測り、掘り込みはほとんど確認できなかった。周囲に数個の石が確認され、枕石

の可能性が高いが、時期的にみて囲むことは無いと考えられる。床面にはピットがP1～6の6基が確認された。規模はP1径約80cm、深さ45cm、P2径約30cm、深さ10cm、P3径約35cm、深さ15cm、P4径約35cm、深さ25cm、P5径約40cm深さ15cm、P6径約45cm、深さ35cmを測る。確認された面積は16.93㎡である。出土遺物はS字状口縁台付甕、単口縁台付甕、壺、甕等すべて古墳時代前期に比定される土師器である。図示できなかった遺物のなかに単口縁の小形甕や赤彩された異形高杯が出土している。

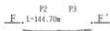
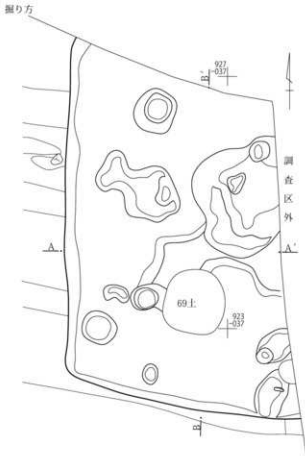
3区12号竪穴建物



12号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ1～3mmの灰白色パミスを比較的多量含む。炭化物粒・ローム粒・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1にロームブロック(φ20～30mm)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物を含むため黒色味が強い。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ロームを5%含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。固くしまる。
- 6 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を10%含む。固くしまる。

第23図 12号竪穴建物(1)



P 2・P 3

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量混入。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 少量のローム粒を含む。
- 3 にふい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を含む。



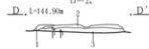
P 6

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・炭化物粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを含む。



C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒・炭化物粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量の焼土粒(φ2mm)を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量の焼土粒(φ2mm)を含む。



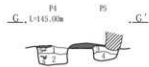
D-D'

- 1 暗褐色土(5YR3/3) 焼土を10%含む。やや柔らかい。
- 2 にふい黄褐色土(10YR5/4) 暗褐色土を塊状に20%含む。しまりあり。粘土質。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。やや粘性。



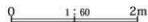
P 1

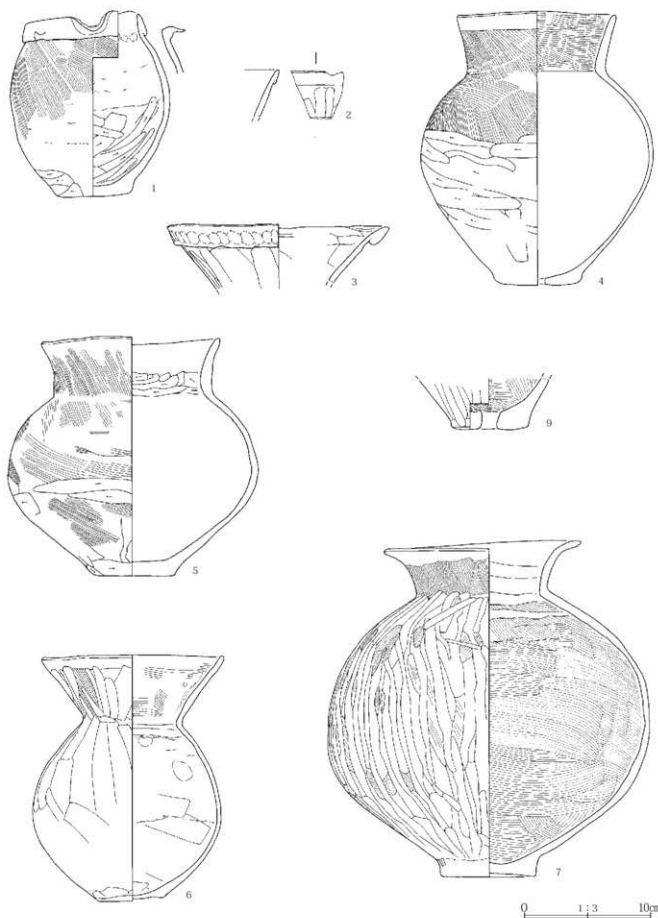
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 2 にふい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2) ローム粒を主体とする。



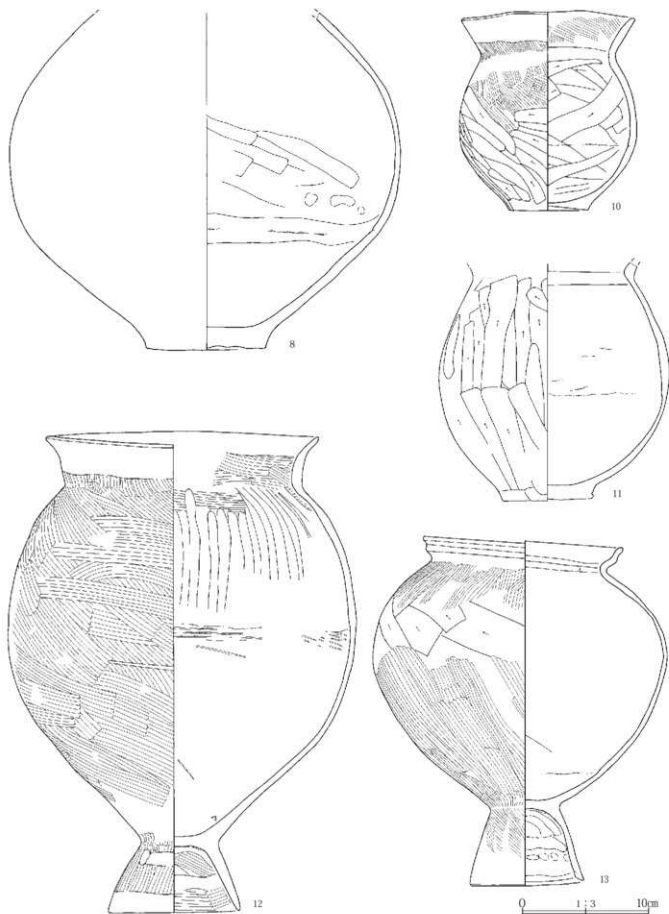
P 4・P 5

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・炭化物粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロック(φ30mm)炭化物粒を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・炭化物粒を含む。





第25図 12号竪穴建物出土遺物(1)



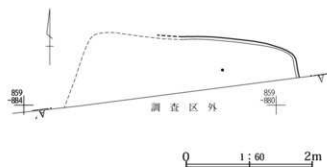
第26図 12号竪穴建物出土遺物(2)

竪穴状遺構

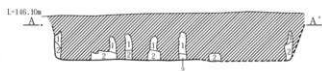
1号竪穴状遺構(第27図、PL.6)

1区北部に位置し、X=44.859～860、Y=-52.879～883の範囲にある。方位はN-7°-Eを指す。形態は

1区1号竪穴状遺構



不明である。遺構は南端部を確認し、大半は北側調査区域外に延びる。遺構は現代機械耕作機により攪乱を受けている。規模は長軸3.69m、短軸1.05m、壁高12cmを測る。確認した面積は2.86㎡である。出土遺物は土師器小片を確認した。



1号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を40%含む。φ1～5mm程度のローム粒を1%含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) φ2～10mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。

第27図 1号竪穴状遺構

3号竪穴状遺構(第28図、PL.7)

1区西側に位置し、X=44.853～854、Y=-52.879～883の範囲にある。方位はN-81°-Eを指す。遺構の大半は西側調査区域外に延びる。規模は長軸2.0m、短

軸0.55m、深さ36cmを測る。確認された面積は0.60㎡である。出土遺物は確認されなかった。

1区3号竪穴状遺構



3号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ1～5mmの灰白色バミスを少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロックが混入。褐色味を帯びる。

第28図 3号竪穴状遺構

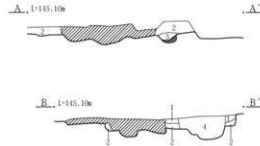
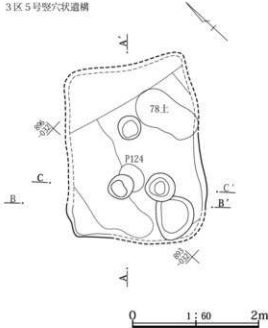
第1節 古墳時代～奈良・平安時代

5号竪穴状遺構(第29図、PL. 7)

3区南部に位置し、X=44.893～896、Y=-53.029～-032の範囲にある。方位はN-47°-Eを指す。規模は

長軸2.6m、短軸1.9m、壁高20～25cmを測る。他の遺構との関係は、78号土坑と重複する。新旧関係は不明である。確認された面積は5.19㎡である。出土遺物は無い。

3区5号竪穴状遺構



5号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。ローム粒子主体。

2 にぶい黄褐色土(10YR6/4)

3 2に近似。ローム粒混入やや少なく黒味がつよい。

4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の白色バミス混入(φ 1mm)のローム粒主体。



第29図 5号竪穴状遺構

土坑 (第30～33図, PL. 8・9)

古墳時代～中近世

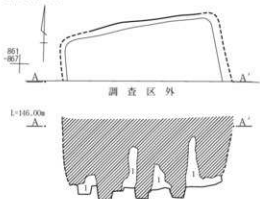
前畑遺跡では、番号を振った土坑は103基確認した。

このうち18基が古墳時代以降の段階に入る。

1号土坑は現代の機械耕作機により、大半は掘乱され

ている。3号土坑覆土内から馬の歯が確認された。覆土中の上層のため、時期は新しいと考えられる。

1区1号土坑



1号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ2～7mm程度のローム粒を3%含む。
φ2mm程度の白色粒を3%含む。古代～中世か？

1区4号・5号土坑

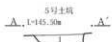


4号土坑



4号土坑

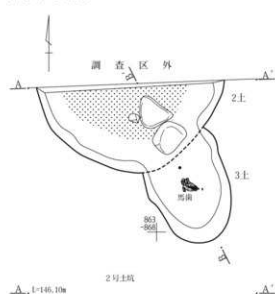
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 新しい？



5号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)

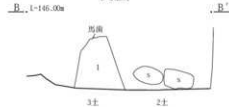
1区2号・3号土坑



2号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームを40%含む。φ2～10mm程度のローム粒を5%含む。人為的な堆積の可能性がある。
2 黒褐色土(10YR3/2) φ2～10mm程度のローム粒を5%含む。
3 黒褐色土(10YR2/2) φ2～20mm程度のローム粒を5%含む。
4 褐色土(10YR4/6) 3とロームのまじり。

3号土坑



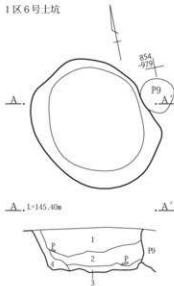
3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)

0 1:40 1m

第30図 土坑(1)

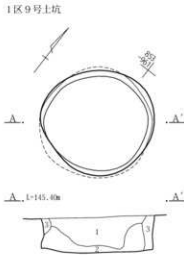
1区6号土坑



6号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ2～3mm程度のローム粒を2%含む。
φ1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ2～30mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ10～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を20%含む。
やや柔らかい。

1区9号土坑



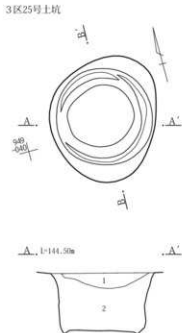
9号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) 少量の灰黄褐色粒(φ2mm)を含む。
- 2 暗褐色(10YR3/3) ローム粒子と(微細φ5mm)ロームブロック(φ10～20mm)を含む。
- 3 2にロームブロック(φ30～40mm)が多量混入。

24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を10%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 暗褐色土とロームの混土を30%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。1mm程度の白色粒を1%含む。しまりあり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを40%含む。固くしまる。

3区25号土坑



25号土坑

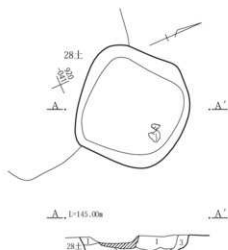
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を多く含む。
- 2 1とロームブロックとの混土。近世以降か？

0 1:40 1m

第31図 土坑(2)

第3章 検出された遺構と遺物

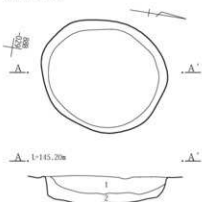
3区29号土坑



29号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・灰白色粒(φ 1~2mm)を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒(φ 1mm) ロームブロック(φ 30~40mm)を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を主体とする。φ 30mmのロームブロック少量混入。

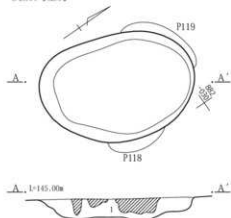
3区60号土坑



60号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を10%含む。φ 5~10mm程度のロームブロックを2%含む。ややしまる。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム色土を20%含む。ややしまる。

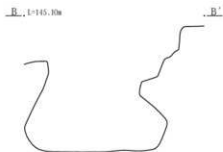
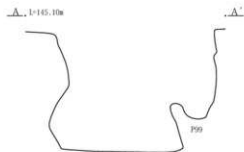
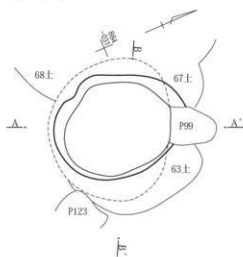
3区61号土坑



61号土坑

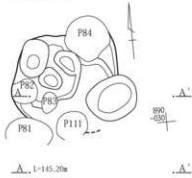
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。一部にローム粒ブロック(φ 50mm)混入。

3区71号土坑

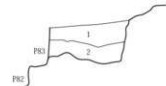


第32図 土坑(3)

3区70号土坑



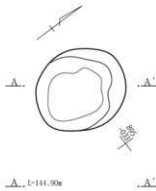
Δ., 1-145.20m



70号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。
- 2 1にロームブロック(φ10～30mm)混上。

3区82号土坑



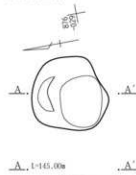
Δ., 1-144.90m



82号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細～φ5mm)を多量含む。
- 2 ローム2次堆積上。

3区76号土坑



Δ., 1-145.00m



76号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細～φ20mm)を多量含む。

3区78号土坑



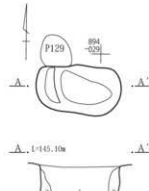
Δ., 1-144.90m



78号土坑

- 1 にふい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒を5%含む。固くしまる。

3区83号土坑



Δ., 1-145.10m



83号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ1～2mm)ロームブロック(φ20mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック混上。

0 1:40 1m

第33図 土坑(4)

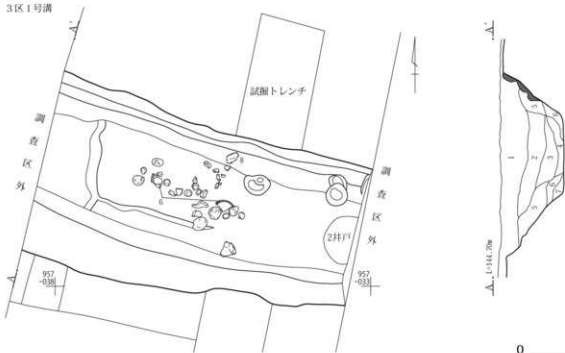
溝

1号溝(第34・35図, PL.28)

3区北部に位置し、X=44.956~960、Y=-53.033~038の範囲にある。走行は東西方向にほぼまっすぐ走る。方位はN-73°-Wを指す。規模は長さ5.2m(東西長、

調査区範囲内)、幅2.85m、深さ74~97cmを測る。掘り込みはなだらからで、通常の溝の形態を持つ。出土遺物は1点羽口片が確認されている。さらに江戸時代が主体の陶磁器類が多い。肥前や瀬戸・美濃天目縁がある。在地系の内耳縁が出土し、中世に上るものもある。板碑が1点出土している。

3区1号溝



1号溝 A-A'

- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒・ロームブロック(φ5mm)を含む。砂質性あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒・ロームブロック(φ5~10mm)を含む。砂質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 3に近似。ロームブロック(φ30mm)の混入あり。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2にローム粒・ロームブロック多量混入。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 5にローム粒多量混入。
- 7 6にロームブロック(φ40mm)混入。

0 1:60 2m



1



3

0 1:3 10cm



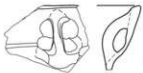
8



2



4(1/4)

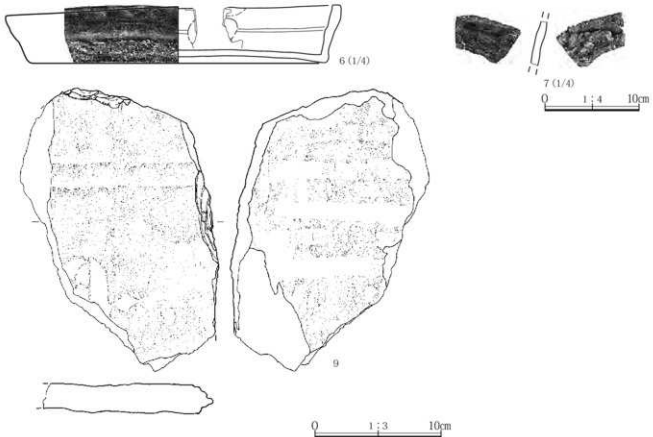


5(1/4)

0 1:4 10cm

第34図 1号溝・出土遺物(1)

第1節 古墳時代～奈良・平安時代



第35図 1号溝出土遺物(2)

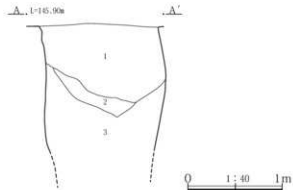
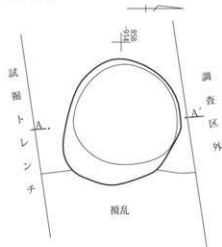
井戸

1号井戸(第36・37図、PL. 8・29)

1区中央部に位置し、X=44.858、Y=-52.913の範

囲にある。井戸内面には構築時の工具痕が確認された。出土遺物は肥前磁器2点・瀬戸美濃陶器、堺・明石陶器が1点ずつ出土している。

1区1号井戸

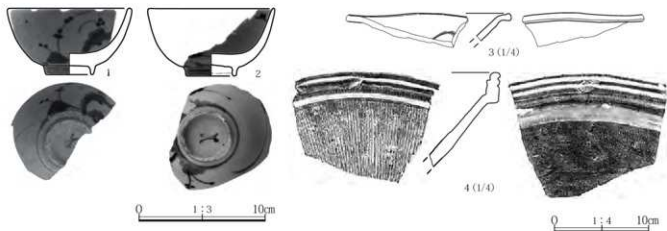


1号井戸 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ10～20mm程度のロームブロックを2%含む。φ2～7mm程度の白色粒を2%含む。φ2～7mm程度の褐色土を2%含む。固くしまる。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土を30%含む。φ2～3mm程度の白色粒を2%含む。φ2～3mm程度の黄色粒を2%含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) φ15mm程度のロームブロックを1%含む。固くしまる。

第36図 1号井戸

第3章 検出された遺構と遺物



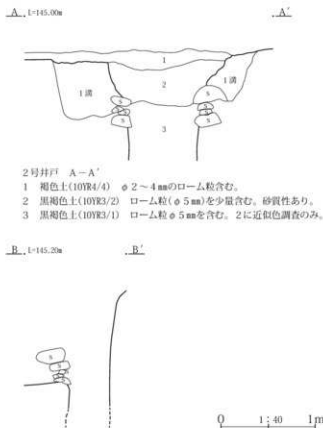
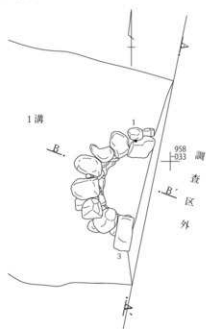
第37図 1号井戸出土遺物

2号井戸(第38・39図、PL. 8・29)

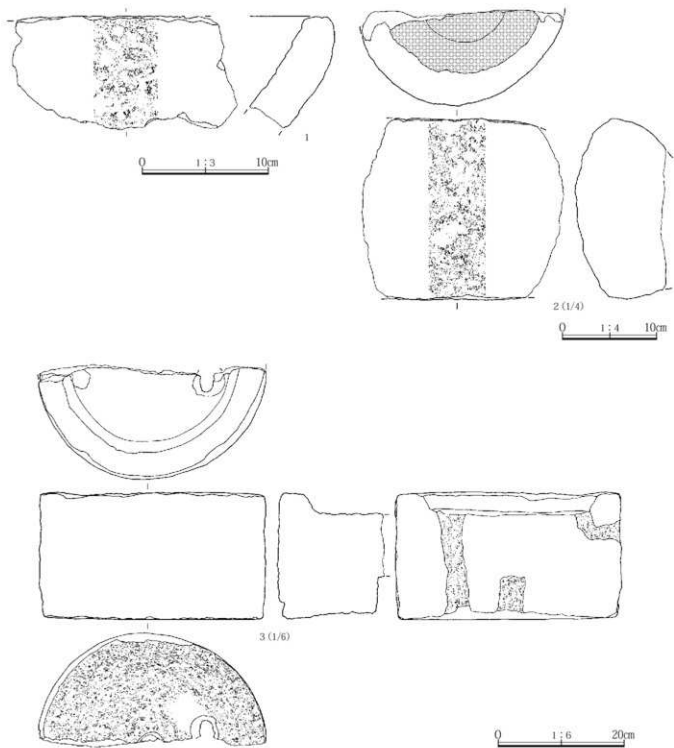
1号溝の中に位置し、X=44.957、Y=-53.032の範囲にある。井戸は1号溝の底面に構築されている。周囲には1～2段の石積が確認され、中には割れた石臼が再利用されている。石積は溝の壁面に積まれ、断面の観察からも溝が埋まった後につくられたものと考えられる。

出土遺物は井戸からは確認できない。溝からは江戸時代を主体の陶磁器が出土している。その中には中世の在地方系内耳鍋が確認されている。このため2号井戸の時期は江戸時代以降、溝の埋没後と考えられる。井戸枠に石がつまれ、その中から石臼1/2に割れた石が再利用されている。

3区2号井戸



第38図 2号井戸



第39図 2号井戸出土遺物

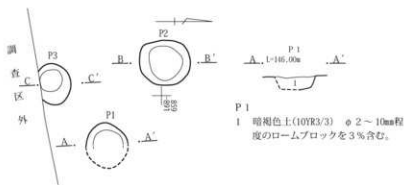
ピット

古墳時代以降(第40~51図, PL.13~21・30)

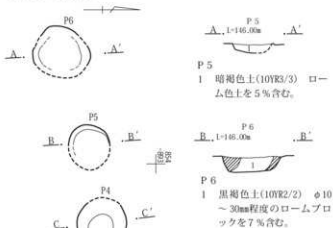
前畑遺跡のピットは番号を振ったものは143基確認された。このうち古墳時代以降と確認されたものは84基である。大半のピットからは遺物の出土はなかった。わ

ずかに75号ピットから酸化炭焼成の土師器が出土しているが、体部には軸轆整形痕が確認でき、須恵器と考えられる。又89号ピットからは人為的に持ち込まれたとみられる石英の礫の出土がある。

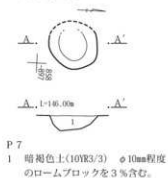
1区1号~3号ピット



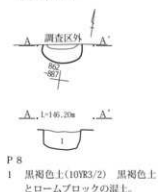
1区4号~6号ピット



1区7号ピット



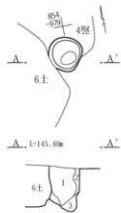
1区8号ピット



0 1:40 1m

第40図 ピット(1)

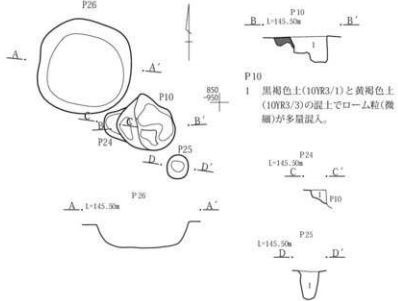
1区9号ビット



P9

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ2~3mm程度のローム粒を2%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ2~30mm程度のローム粒を3%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) φ10~20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。

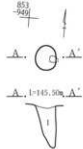
1区10号・24号～25号ビット



P10 P24 P25

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。

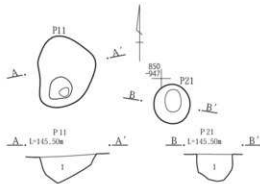
1区12号ビット



P12

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒が少量混入。

1区11号・21号ビット



P11

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロック(φ30mm)が混入。

P21

- 1 黒褐色土と暗褐色土・ロームブロックの混入。

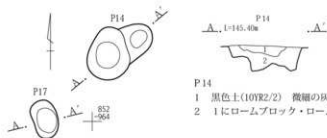
1区13号ビット



P13

- 1 黒色土とロームブロック・ローム粒の混入。

1区14号・17号ビット



P14

- 1 黒色土(10YR2/2) 微細の灰白色バミスを含む。
- 2 1にロームブロック・ローム粒多量混入。

P17

- 1 黒色土とロームブロックの混入。

0 1:40 1m

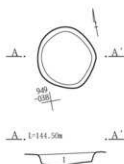
第41図 ビット(2)

第3章 検出された遺構と遺物

3区15号ビット

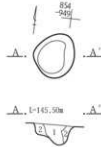


3区16号ビット



- P16
1 黒褐色土ブロックとロームブロックの混土層。

1区19号ビット



- P19
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
2 黒褐色土とロームブロックの混土。

1区20号ビット



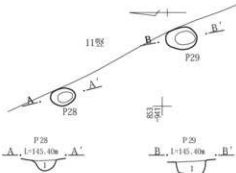
- P20
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒の混入あり。
2 黒褐色土とロームブロックの混土。

1区23号ビット



- P23
1 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土を20%含む。
2 暗褐色土(10YR3/4) ローム土を20%含む。
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム土を40%含む。固くしまる。

1区28号・29号ビット



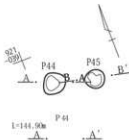
- P28・P29
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ1~10mm)を含む。

1区42号ビット



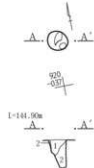
- P42
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。

3区44号・45号ビット



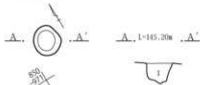
- P44・P45
1 黒褐色土(10YR2/2) 褐色土10%含む。ややかたい。

3区46号ビット



- P46
1 黒褐色土(10YR2/2) 褐色土20%混入。ややかたい。
2 褐色土(10YR4/6) 黒褐色土10%混入。

1区43号ビット

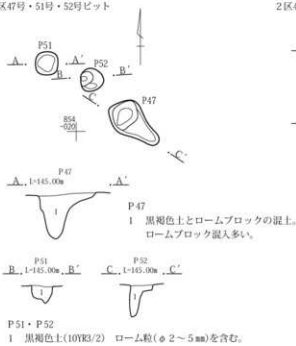


- P43
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を少量含む。

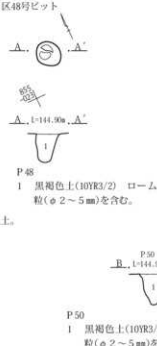
0 1:40 1m

第42図 ビット(3)

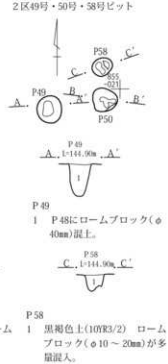
2区47号・51号・52号ピット



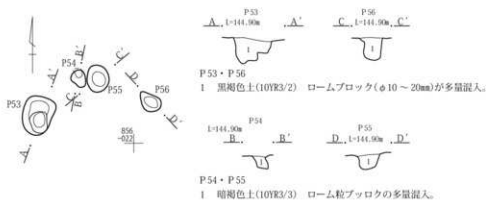
2区48号ピット



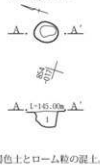
2区49号・50号・58号ピット



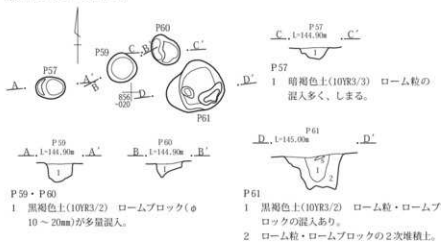
2区53号～56号ピット



2区62号ピット



2区57号・59号～61号ピット



2区63号ピット



第43図 ピット(4)

0 1:40 1m

第3章 検出された遺構と遺物

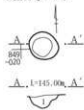
2区64号ピット



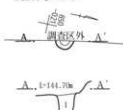
P64・P65

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ2mm)、ロームブロック(φ15mm)を含む。

2区65号ピット



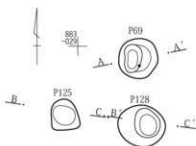
2区66号ピット



P66

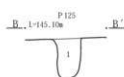
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ2~5mm)、ロームブロック(φ30mm)を含む。

3区69号・125号・128号ピット



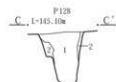
P69

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム塊を5%含む。赤石を底に出上。しまりあり。



P125

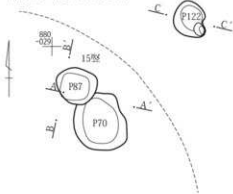
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ2mm)・ロームブロック(φ30~40mm)を含む。



P128

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ1~2mm)・灰白色粒を少量含む。
2 ローム2次堆積上。

3区70号・87号・122号ピット



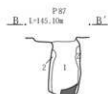
P122

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ2mm)・ロームブロック(φ15mm)炭化物粒を含む。



P70

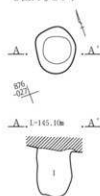
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームを10%含む。やや柔らかい。



P87

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ40mm)を含む。
2 1に近似するがローム粒・ロームブロックの混入多い。

3区74号ピット



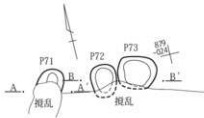
P74

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(微細~φ3mm)を含む。

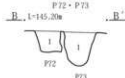


第44図 ピット(5)

3区71号～73号ピット

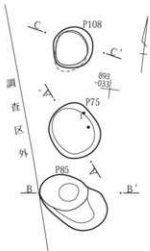


P71
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒
(微細～φ10mm)を多く含む。

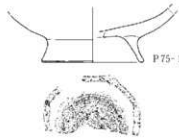


P72・P73
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム
粒・ロームブロック(微細～
φ15mm)を多量含む。

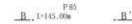
3区75号・85号・108号ピット



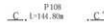
P75
1 黒褐色土(10YR3/3) 焼土粒(φ
2～10mm)炭化物粒・黄色粘土
質土ブロック(φ5～10mm)を
含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・
ロームブロック(φ1～10mm)
を含む。



0 1:3 10cm

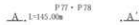
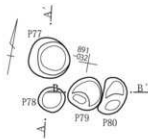


P85
1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブ
ロック(φ10mm)を含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) 微細のローム粒
を多量含む。

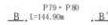


P108
1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の
ローム粒を含む。粘土か?
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・
ロームブロック(φ1～20mm)
を多量含む。

3区77号～80号ピット



P77・P78
77ピット 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ2～
5mm)を少量含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ
1mm)を含む。
3 2にローム粒・ロームブロック混入。
78ピット 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を
含む。



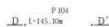
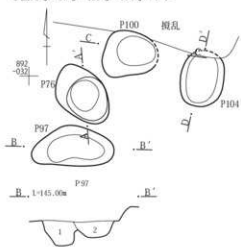
P79・P80
1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブロック(φ20mm)
を含む。

0 1:40 1m

第45図 ピット(6)

第3章 検出された遺構と遺物

3区76号・97号・104号ビット



76号ビット

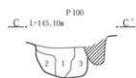
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒・ロームブロック(φ1~10mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のロームブロック(φ10mm)を含む。

P104

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ5~30mm程度のロームブロックを10%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ローム色土を5%含む。固くしまる。
- 3 褐色土(10YR4/6)

P97

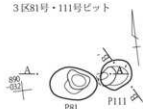
- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム粒(φ1~2mm)を多量含む。
- 2 暗褐色土とローム2次堆積の混土(遺構ではない)。



P100

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ1~2mm)を多量含む。
- 2 ローム2次堆積土。
- 3 ローム粒・ロームブロック・暗褐色土の混土。

3区81号・111号ビット



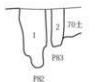
P111

- 1 暗褐色土とローム粒・ロームブロックの混土。

P81

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ1mm)灰白色粒(φ2mm)黄褐色粒(φ2mm)を含む。

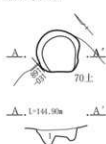
3区82号・83号ビット



P82・P83

- 82ビット 1 黒褐色土とロームブロックの混土。
- 83ビット 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ1mm)灰白色粒(φ2mm)黄褐色粒(φ2mm)を含む。

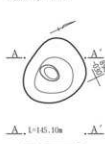
3区84号ビット



P84

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ1~10mm)を多く含む。

3区86号ビット



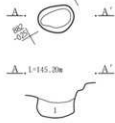
P86

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ2mm)。ローム粒の混入あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多く、ロームブロック(φ20mm)も認められる。

0 1:40 1m

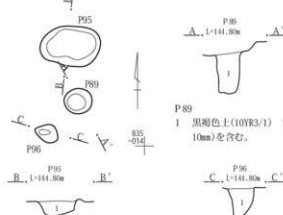
第46図 ビット(7)

3区88号ビット



P88
1 ぶい黄褐色土(10YR5/3) ローム粒・ロームブロックを主体とする。

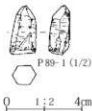
2区89号・95号・96号ビット



P89
1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ5~10mm)を含む。

P95
1 黒褐色土(10YR2/2) φ2~5mm程度のロームブロックを5%含む。

P96
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土を10%含む。ロームを5%含む。しまりあり。

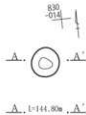


2区90号ビット



P90
1 黒褐色土(10YR2/2) ロームを5%含む。

2区92号ビット



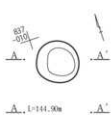
P92
1 黒色土(10YR2/1)
2 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土を10%含む。ロームを5%含む。

2区93号ビット



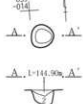
P93
1 黒色土(10YR2/1) ロームを10%含む。暗褐色土を10%含む。
2 黒褐色土(10YR2/3) ロームを20%含む。

2区94号ビット



P94
1 黒褐色土(10YR2/3) φ5~20mm程度のロームブロックを5%含む。
2 黒褐色土(10YR2/2) φ2~5mm程度のロームブロックを5%含む。
3 黒褐色土(10YR2/2) ロームを30%含む。暗褐色土を10%含む。

2区91号ビット



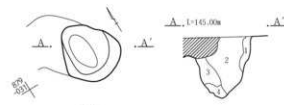
P91
1 黒褐色土(10YR2/1) 黒褐色土を20%含む。
2 1と同じ。ロームを5%含む。

3区99号ビット

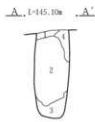


P99
1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・黄褐色粒(φ2mm)を少量含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2mm)ロームブロック(φ10mm)を多く含む。少量の炭化物を含む。
3 暗褐色土とロームブロック(φ30~50mm)の混土。
4 2にロームブロック(φ30~50mm)混土。

3区102号ビット



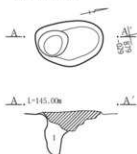
P102
1 ローム2次堆積土(101・102面共通)。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細)ロームブロック(φ10mm)の混入あり。
3 2にロームブロック(φ10~20mm)混土。
4 3にφ40mmのロームブロック混土。



第47図 ビット(8)

第3章 検出された遺構と遺物

3区103号ピット



P103

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微~ ϕ 30mm)を多量含む。

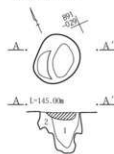
3区105号ピット



P105

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 柔らかい。

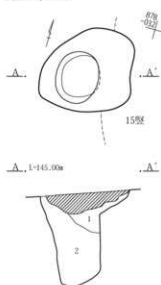
3区106号ピット



P106

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム土を10%含む。固くしまる。
2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土を5%含む。固くしまる。

3区110号ピット



P110

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(ϕ 2~10mm)を多量含む。
2 1にロームブロック混上。1より褐色味がつよい。

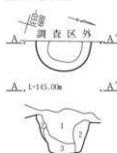
3区113号ピット



P113

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 5~30mm程度のロームブロックを5%含む。固くしまる。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 暗褐色土を20%含む。ロームを5%含む。

3区114号ピット

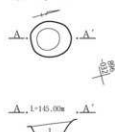


P114

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土を10%含む。
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を10%含む。ロームの2次堆積。
3 黒褐色土(10YR2/2) 暗褐色土を10%含む。

※110ピットの南にある覆土は暗褐色土(10YR3/3)にロームブロック混上。

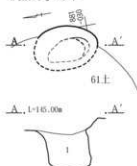
3区116号ピット



P116

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 炭化物粒を少量含む。

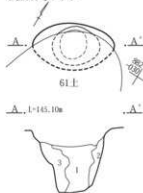
3区118号ピット



P118

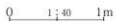
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(ϕ 1~30mm)を含む。ローム主体。

3区119号ピット



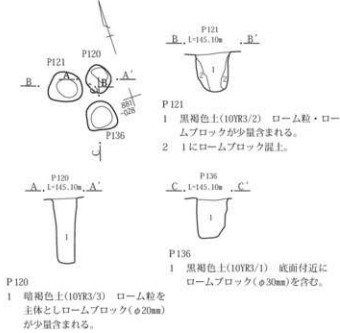
P119

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細)を多く含む。
2 ローム2次堆積上。
3 1とロームブロックの混上。

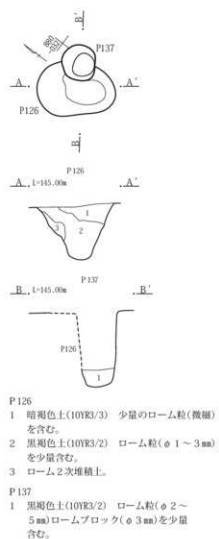


第48図 ピット(9)

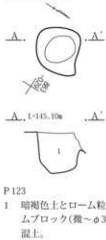
3区120号・121号・136号ピット



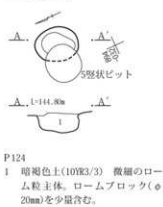
3区126号・137号ピット



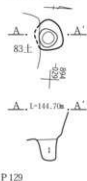
3区123号ピット



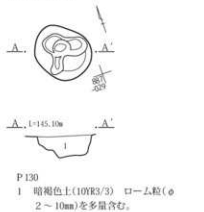
3区124号ピット



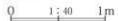
3区129号ピット



3区130号ピット



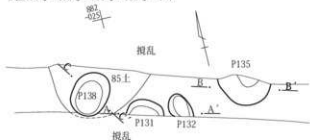
3区127号ピット



第49図 ピット(10)

第3章 検出された遺構と遺物

3区131号・132号・135号・138号ピット



P131 P132



P135

P131・P132

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒
(φ 1~10mm)・炭化物を含む。

P135

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒
(φ 1~10mm)を含む。
2 ローム2次堆積上。

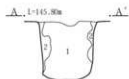


P138

P138

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ
2~15mm)を含む。

3区139号ピット



P139

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム
粒・ロームブロックを主体とする。
2 ローム2次堆積上。

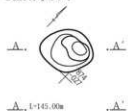
3区140号ピット



P140

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ローム
ブロック(φ 1~20mm)を少量含む。

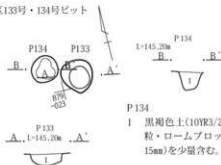
3区141号ピット



P141

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ローム
ブロック(φ 2~15mm)を少量含む。

3区133号・134号ピット



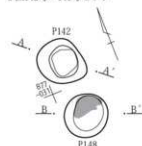
P133

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ローム
ブロック(φ 1~15mm)を少量含
む。

P134

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム
粒・ロームブロック(φ 1~
15mm)を少量含む。

3区142号・148号ピット



P142

1-145.00m



P142

- 1 暗褐色土(10YR3/4) φ 5~50mm
程度のロームブロックを5%含
む。固くしめる。φ 1~2mm程度
の白色粒を1%含む。固くしめる。

P148

1-144.90m



P148

- 1 黒褐色土とローム粒・ローム
ブロックの混土。

0 1:40 1m

第50図 ピット(11)

第1節 古墳時代～奈良・平安時代

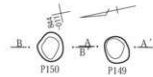
2区143号ビット



P143

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1mmの灰白色粒を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(ϕ 2～15mm)混入。

2区149号・150号ビット



P149

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックを10%含む。黒褐色土(10YR2/2)を10%含む。しまりあり。

P150

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 固くしまる。

2区152号ビット



P152

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(ϕ 5～20mm)を含む。

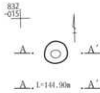
2区153号ビット



P153

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(ϕ 2～5mm)を含む。

2区154号ビット



P154

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(ϕ 2～5mm)を含む。

2区155号ビット



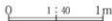
P155

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(ϕ 2～5mm)を含む。

P156

- 1 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。 ϕ 1mm程度のローム粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックを現状に30%含む。固くしまる。

2区156号ビット



第51図 ビット(12)

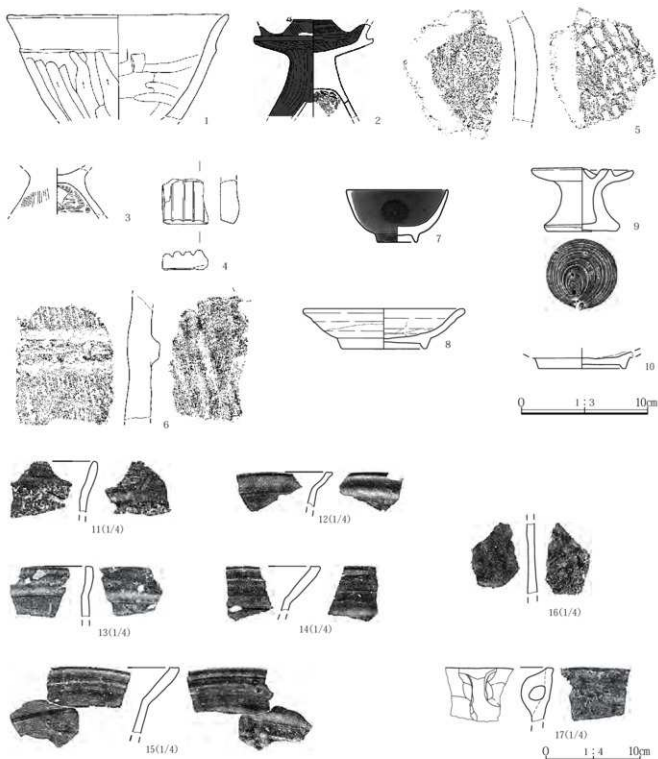
遺構外

遺構外出土遺物

古墳時代以降 (第52図, PL.30)

古墳時代以降の遺物は少ないが、古墳時代前期の赤彩された土師器器台、台付甕脚部が縄文41号土坑覆土上層か

ら出土し、混じり込みである。埴輪片が出土し、周囲の古墳群のものと考えられる。中近世に至る瀬戸・美濃や肥前磁器が出土している。共伴は在地系の内耳鍋、鍋が出土している。これらの遺物は3区1号溝の時期に並行するものと思われる。



第52図 遺構外出土遺物土師器・須恵器

第2節 縄文時代

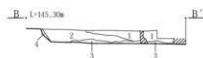
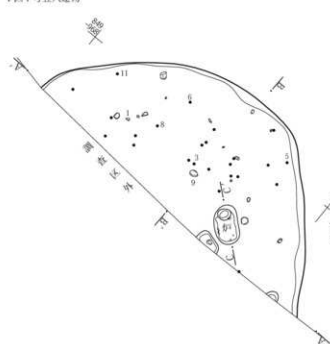
7号竪穴建物(第53・54図, PL. 4・30)

1区西側に位置し、9号竪穴建物の南東にある。
X=44.847~849, Y=-52.962~968の範囲にある。
方位はN-97°-Eを指す。竪穴建物の南側の半分は調査

区外に延びる。形態は円形を呈し、規模は壁高約15~20cmを測る。壁床面は平坦をなし、南東部に炉を確認した。

炉の規模は長軸70cm、短軸45cm、深さ10~15cmを測る。確認された面積は8.00m²である。出土遺物は、すべて深鉢片で諸儀a~b式、有尾式を確認した。又石器も出土している。

1区7号竪穴建物



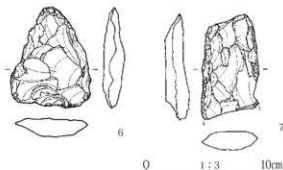
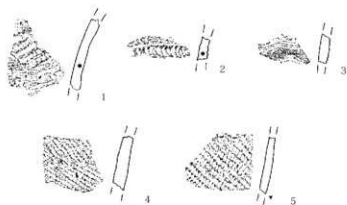
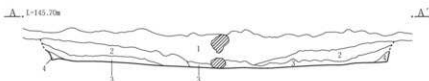
7号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ1~3mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ1mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを20%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。φ1mm程度の褐色粒を1%含む。固くしまる。
- 4 褐色土(10YR4/4) ロームを10%含む。しまりあり。

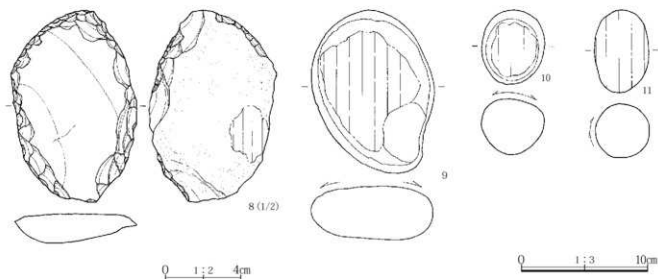


剖面 C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~5mm)黒褐色土ブロック混入。
- 2 ローム2次増殖土に黒褐色土が混入。
1・2ともに炭化物・焼土粒の混入は顕著でない。



第53図 7号竪穴建物・出土遺物



第54図 7号竪穴建物出土遺物

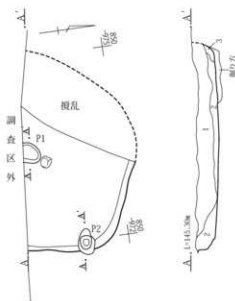
8号竪穴建物(第55図、PL. 4・30)

1区西側7号竪穴建物の西9号竪穴建物の南にある。X=44.848～850、Y=-52.971～975の範囲にある。方位はN-10°-Eを指す。形態は円形を呈し、南半分は調査区外に延びる。西側一部で3号竪穴建物と重複し、壊されている。規模は長軸2.9m、短軸1.65m、壁高は

10～15cmを測る。

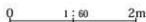
床面は平坦をなし、南側にP1、北東側にP2を確認した。規模はP1径約30cm、深さ15cm、P2径約25cm、深さ30cmを測る。確認された面積は4.30㎡である。出土遺物はすべて深鉢片で黒浜～有尾式、諸磯b式を確認した。

1区8号竪穴建物



8号竪穴建物 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 灰黄褐・灰白色粒子(φ2mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ2mm)を少量混入。
- 3 地山の崩落土。



P1

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ2～5mmのローム粒を含む。
- 2 1とロームブロック(φ10～30mm)の混土层。

P2

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ2～3mm程度のローム粒を1%含む。固くしまる。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームを10%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームを30%含む。



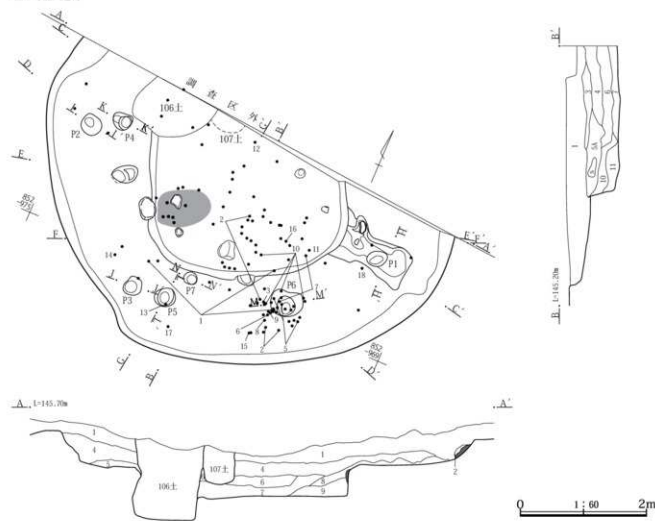
第55図 8号竪穴建物・出土遺物

9号竪穴建物(第56～59図、Pl. 4・31)

1区西部に位置し、8号竪穴建物の北にある。北半部は調査区域外に延びる。X=44.850～854、Y=-52.968～975の範囲にある。方位はN-43°-Wを指す。形態は円形を呈し、規模は径約5.0mを測る。壁の形状は、壁から中央に向かい、なだらかに下がり、中央部が隅丸方形状に床面を作る2段構造である。下段の規模は東西長3.9m、北半部は調査区の外側に切られるため、南北長2.5mである。上段の壁高は30～35cm、中央部の床面は中段からまっすぐ掘り込まれ、東側で

40～50cmを測る。他の遺構との関係は西側で106・107号土坑と4号竪穴建物と重複している。新旧間段は106・107号土坑、4号竪穴建物が新しい。中央部下段の南西部に炉と思われるうすい焼土が確認された。ピットが7基確認された。規模はP1径約50cm、深さ50cm、P2径約35cm、深さ60cm、P3径約30cm、深さ90cm、P4径約30cm、深さ60cm、P5径30cm、深さ60cm、P6径約60cm、深さ、60cm、P7径約20cm、深さ40cmを測る。確認された面積は18.30㎡である。出土遺物はすべて深鉢で上段が南東部に集中し、下段は平均して出土し加曾利E1式である。

1区9号竪穴建物



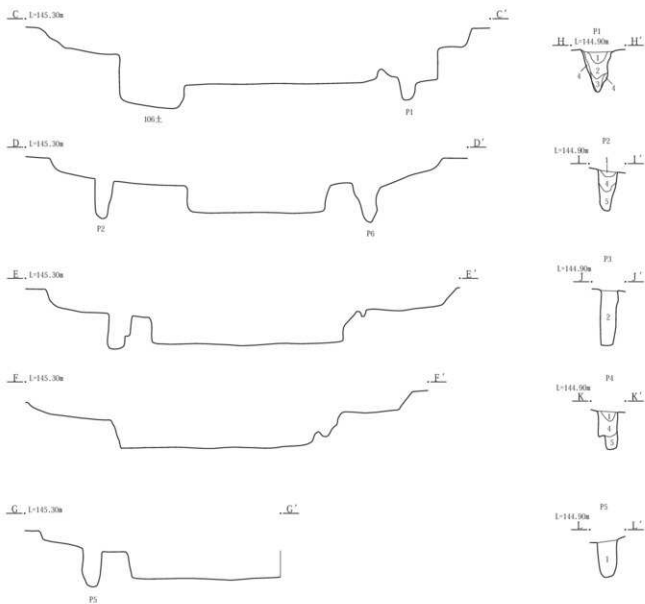
9号竪穴建物 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ϕ 2～3mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。
- 2 1に小粒のロームブロックが混入。
- 3 1にロームブロック(ϕ 10～30mm)が混入。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 1にローム粒が混入。
- 5 4にロームブロックが混入。
- 5A 4に灰白色粒(ϕ 3mm)が多量混入。

- 6 暗褐色土と黒褐色土の混土でローム粒・ブロック混入。
- 7 暗褐色土(10YR3/3) 灰黄褐・ローム粒子混入。
- 8 6にロームブロックが混入。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム粒主体。灰黄褐色粒(ϕ 2～3mm)混入。
- 10 灰黄褐色土(10YR4/2) 灰白色粒(ϕ 3mm)を含む少量のローム粒あり。
- 11 10に近似。ローム粒・ロームブロックが混入。

第56図 9号竪穴建物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



P 1 ~ P 4

- 1 黒褐色土(10YR2/2) φ 1 ~ 5mm程度のロームブロックを2%含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) φ 2 ~ 15mm程度のロームブロックを3%含む。部分的に暗褐色土を含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム土を20%含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) ローム土を30%含む。
- 5 褐色土(10YR4/6) 上部に4との混土を含む。

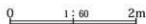


P 5 ・ P 6

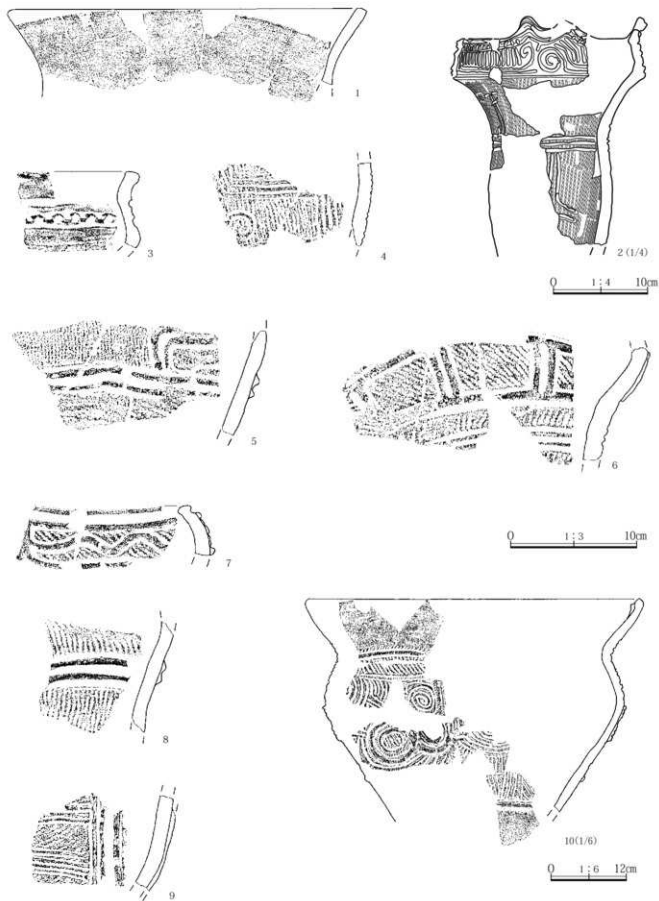
- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ 2 ~ 15mm程度のロームブロックを3%含む。部分的に暗褐色土を含む。しまりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームを20%含む。しまりあり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームを30%含む。

P 7

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2mm)・灰白色ハミスを少量含む。

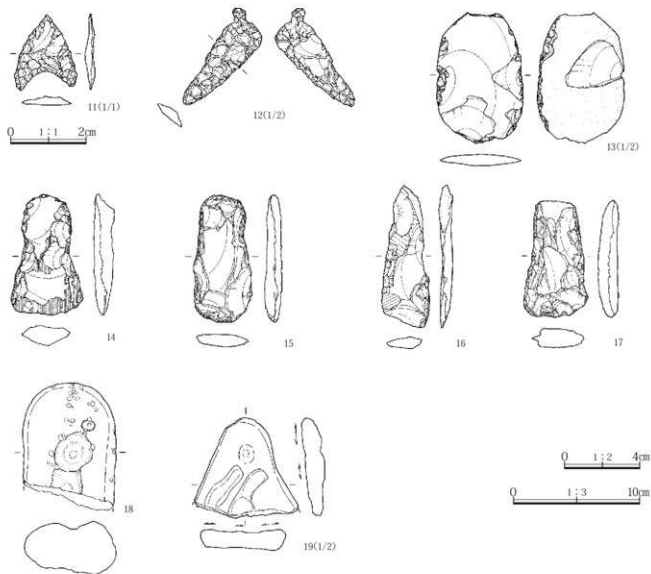


第57図 9号竪穴建物(2)



第58図 9号竪穴建物出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



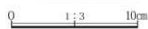
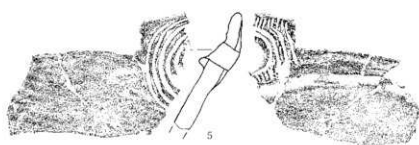
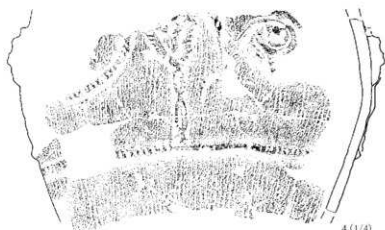
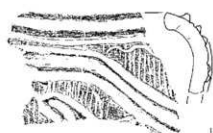
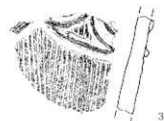
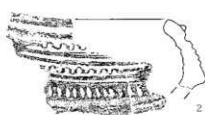
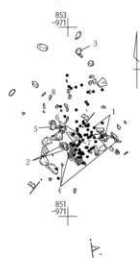
第59図 9号竪穴建物出土遺物(2)

1区1号遺物集中 (第60図、PL.32)



1号遺物集中 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/1) 微細-φ 2mmの灰白色粒子を含む。

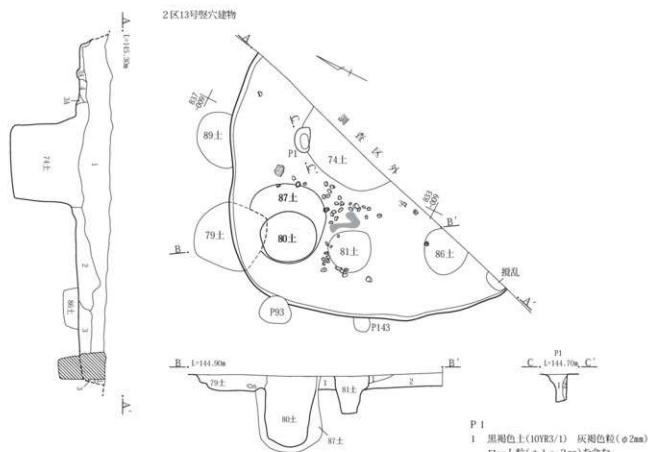


第60図 1号遺物集中・出土遺物

13号竪穴建物(第61・62図, PL. 6・32)

2区南東部に位置し、X=44.831~836、Y=-53.008~011の範囲にある。方位はN-28°-Wを指す。北東半分は調査区外に延びる。形態は楕円形を呈し、規模は径5.5m、壁高は約20cmを測る。他の遺構との関係は74・79~81・86・87・89号土坑、93・143号ピットと重複する。新旧関係は、断面観察により、86号土坑は竪穴建物より旧く、竪穴建物が完掘できないため、74号土坑としたが、堆積覆土の状況からみて1区9号竪穴建物と同じ

2段構造を持つ可能性も否定できない。ピットは1基礎認できた。規模はP1径約35cm、深さ45cmを測る。面積は30.10㎡である。出土遺物はすべて深鉢片、諸磯b式・浮島式片が確認された。74号土坑から諸磯b式86号土坑から諸磯b式、浮島式土器、87号土坑からは諸磯式土器が出土する。74号土坑の堆積状況と出土遺物を合わせ、74号土坑が13号竪穴建物の床面と考えることが出来る。86号土坑は竪穴建物内の土坑との可能性がある。土坑は出土遺物が無いため新旧関係は不明である。



13号竪穴建物 A-A'

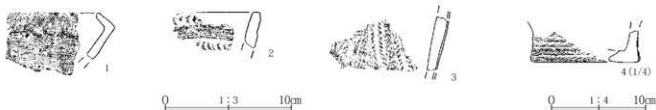
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ1~2mm)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム及びロームブロックの2次堆積土(人為的?)
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ20~30mm)を少量含む。
- 3A 3にロームブロック(φ20mm)を多量含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ5~10mm)を含む。

13号竪穴建物 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ1~2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(概φ2mm)ロームブロック(φ20~50mm)を含む。

0 1:60 2m

第61図 13号竪穴建物



第62図 13号竪穴建物出土遺物

14号竪穴建物(第63～66図、PL. 6・32)

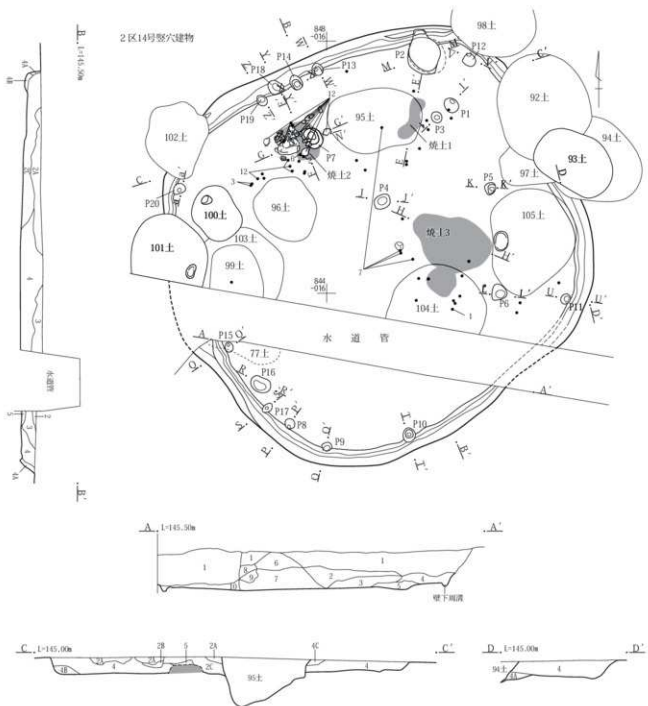
2区中央部に位置し、X=44.841～848、Y=-53.011～018の範囲にある。方位はN-23°-Wを指す。竪穴建物南部に水道管が走っている。形態は楕円形を呈し、長軸5.82m、短軸5.7m、壁高15～20cmを測る。他の遺構との関係は77・92～105号土坑と重複する。土坑は77号土坑が諸磯bに加曾利E 1が1点混入し、新旧関係は100号土坑が加曾利E 4式土器を出土し、他の土坑は主体が諸磯b式を出土するため新旧は不明である。

形態は楕円形を呈し、長軸5.82m、短軸5.7m、壁高15～20cmを測る。床面は平坦を呈し、壁際には周溝が確認された。規模は幅15cm、深さ10cmを測る。中央東・西・北の3ヶ所で焼土が確認された。各々焼土1～3とした。規模は各々断面をとった場所で焼土1、80cm、焼土2、70cm、100cm、焼土3、110cmを測る。焼土は床面上に乗りわずかに掘り込みが認められる。焼土2は周りを囲むように石が配置され石囲いの様相を呈する。ピット20基確認した。このうちピット8から20は円形の竪穴建物の周溝に沿って円形に巡り、竪穴建物構築構造の一部の可能性はある。ピットの規模はP 1径約25cm、深さ25cm、P 2径約50cm、深さ45cmを測る。P 3径約15cm、深さ40cm、径約20cm、深さ35cm、P 5径25cm、深さ25cm、P 6径25cm、深さ70cm、P 7径約25cm、深さ40cm、P 8径10cm、深さ30cm、P 9径約10cm、深さ30cm、P 10径約10cm、深さ35cm、P 11径約10cm、深さ15cm、P 12径約10cm、深さ45cm、P 13径約10cm、深さP 14径約15cm、深さ20cm、P 15径約10cm、深さ15cm、P 16径約30cm、深さ5cm、P 17径約15cm、深さ15cm、P 18径約15cm、深さ5cm、P 19契約10cm、深さ25cm、P 20径約10cm、深さ15cmを測る。面積は30.10㎡である。出土遺物は浮島式、諸磯b式が確認されている。

15号竪穴建物(第67・68図、PL. 6・15・17・18・20・32)

3区コーナー部に位置し、X=41.875～880、Y=-53.027～022の範囲にある。竪穴建物は現代機械耕作機により、攪乱を受けている。形態は円形である。規模は径5m、壁高は東側の一部で数cmを測る。他の遺構との関係は76号土坑と重複する。新旧関係は15号竪穴建物と76号土坑共に出土遺物が無いため不明である。竪穴建物は円形を呈し、遺跡内のピット番号を振られたものもあるが15号竪穴建物の柱穴の可能性が高い。そのピットはP 67・P 144・P 107・P 145である。また南側76号土坑の南に接する小穴も竪穴建物の構造に付属する可能性が高い。中央部に石囲い跡を確認した。規模は径約90cm、深さ27cm、掘り方面まで厚いところで5～6cmある。ピットは10基確認した。規模はP 1径約13cm、深さ22cm、P 2径約60cm、深さ60cm、P 3径約30cm、深さ40cm、P 4径約35cm、深さ40cm、P 5径約15cm、深さ30cm、P 6径約30cm、深さ85cm、P 7計測不能、P 8径約20cm、深さ45cmを測る。P 9径約60cm、深さ54cm、P 10径約50cm、深さ59cmを測る。竪穴建物の推定面積は20.12㎡である。P 10より石匙、P 6より砥石が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



14号堅穴建物 A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒・黄褐色粒(ϕ 1~2mm)を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) 微細の灰白色・黄褐色粒を含む。
- 2A 2に近似するがローム粒の混入少なく黒味がつよい。
- 2B 2Aにロームブロック(ϕ 50mm)が混入。
- 2C 2Bに焼土粒が混入。
- 3 2に近似する。ロームブロック(ϕ 30~40mm)を含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(ϕ 1~2mm)・黄褐色粒を含む。
- 4A 4にローム(ϕ 40mm)が混入。

- 4B 4Aにローム粒(ϕ 2~5mm)を含む。
- 4C 4にローム粒(ϕ 2~3mm)を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(ϕ 1mm)含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 5にローム粒(微細)を含む。
- 7 にぶい褐色(10YR6/4) ローム粒を主体とする。
- 8 7に近似する。ローム粒の混入多い。
- 9 にぶい褐色(10YR6/3) ローム粒を主体(2次堆積的なブロック)。
- 10 3に近似。3よりやや黒味つよい。

第63図 14号堅穴建物(1)



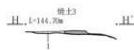
E-E'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色バミスを含む。
2 焼土粒子を多量含む。暗褐色土。



F-F'・G-G'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒子を多量含む。
2 焼土粒・焼土粒子を主体とする赤褐色土。
3 暗褐色土(10YR3/3) 微量の焼土粒子を含む。



H-H'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒を含む。(φ 2mm)



- P 1 1 黒褐色土(10YR2/3) 固くしまる。
P 3 1 P 1と同じ。
ロームを10%含む。固くしまる。



- P 4~P 6
1 P 1と同じ。ロームブロックを5%含む。固くしまる。



- P 2
1 黒褐色土(10YR2/2) φ10~20mm程度のロームブロックを10%含む。固くしまる。
2 黒褐色土(10YR2/3) ロームを20%含む。



- P 7
1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを10%含む。φ1mm程度の焼土をブロック状に1%含む。固くしまる。



- P 9
1 黒褐色土(10YR2/2) φ5~10mm程度のロームブロックを5%含む。しまりあり。



- P 8・P 15~P 17
1 暗褐色土(10YR3/3) φ5~20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。



- P 10
1 褐色土(10YR4/4) ロームを5%含む。しまりあり。
- P 11
1 P 1と同じ。ロームブロックを3%含む。しまりあり。
- P 12
1 P 1と同じ。φ1mm程度のローム粒を1%含む。
- P 13
1 P 1と同じ。ロームブロックを10%含む。固くしまる。

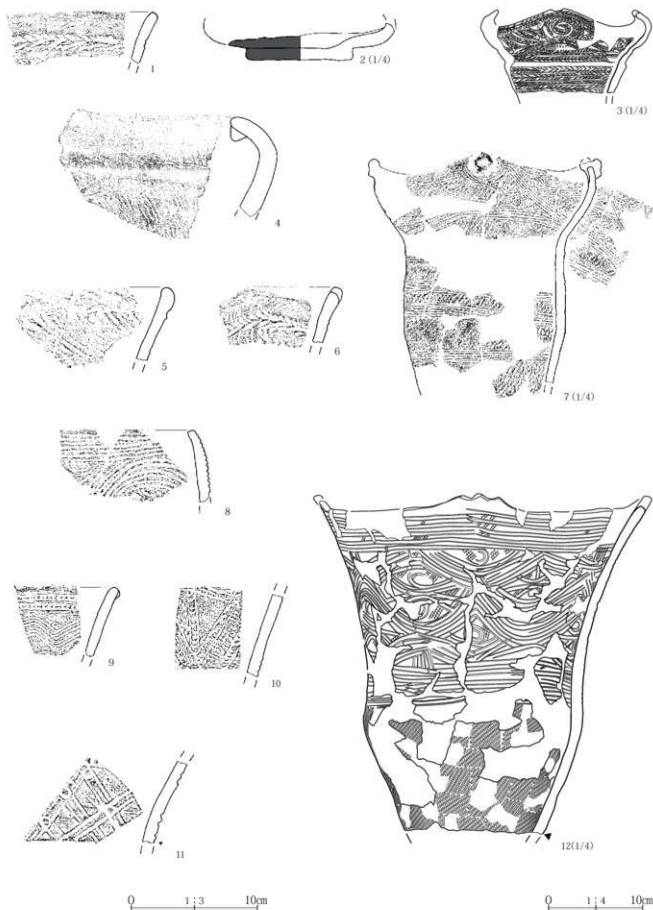


- P 14
1 P 1と同じ。φ2~20mm程度のロームブロックを5%含む。固くしまる。
- P 18・P 19
1 P 1と同じ。ロームブロックを5%含む。固くしまる。
- P 20
1 P 1と同じ。ロームブロックを3%含む。

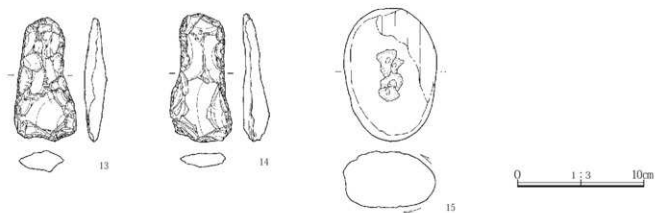
0 1:60 2m

第64図 14号竪穴建物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

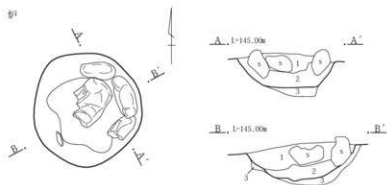
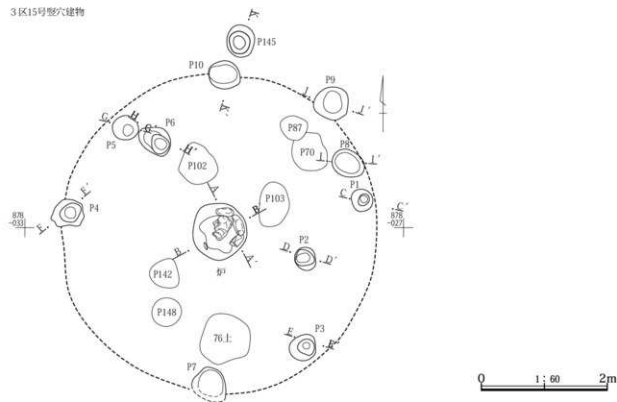


第65図 14号竪穴建物出土遺物(1)



第66図 14号竪穴建物出土遺物(2)

3区15号竪穴建物



15号竪穴建物 切 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~2mmの灰白色粒・ローム粒(ϕ 2mm)を少量含む。微量の焼土粒が認められる。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 1にローム粒(ϕ 1~3mm)の混入。微量の炭化物あり。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。切の掘り方の上砂か。

0 1:30 1m

第67図 15号竪穴建物

第3章 検出された遺構と遺物



P 1

- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ1mmの灰白色
パミス少量、ローム粒(φ1~2mm)
ロームブロック(φ20mm)含む。



P 2

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ1
~3mm)を多量含む。少量の灰白色
粒(φ2mm)あり。



P 3

- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム
粒・ロームブロックを主体とする。



P 4

- 1 暗褐色土とローム粒・ロームブ
ロック(φ2~40mm)の混土。



P 5

- 1 暗褐色土(10YR3/4) φ2~3mm程度のロームブロックを
2%含む。φ1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
2 褐色土(10YR4/6) 暗褐色土を30%含む。φ10~20mm程度
のロームブロックを5%含む。しまりあり。



P 8

- 1 黒褐色土とロームブロックの混土。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多く含む。



P 9

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 暗褐色土を5%含む。
ローム2%含む。しまりあり。



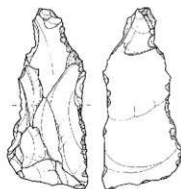
P 6

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロック(φ
40mm)を含む。
2 1に近似するがローム粒・ロームブロッ
クの混入多い。

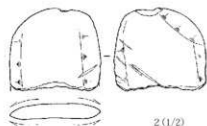


P10・P145

- P10 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒少量・ローム粒・
ロームブロック(φ2~10mm)を少量含む。
P145 2 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色粒(φ1~2mm)
ローム粒(微細)を少量含む。
3 2にロームブロック(φ20mm)混土。
4 ロームブロック(φ20~40mm)と2の混土。
5 1に近似する。やや照味つよい。



1(1/2)



2(1/2)



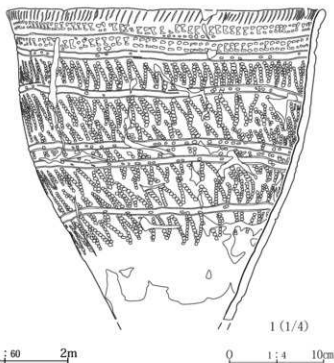
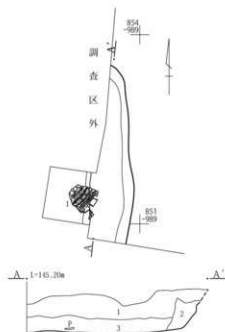
第68図 15号竪穴建物・出土遺物

2号竪穴状遺構(第69図、PL. 6・33)

1区西端部に位置し、X=44.850~853、Y=-52.989~991の範囲にある。方位はN-5°-Eを指す。形態は不明である。遺構は東端部の位置を確認し、大半は西側

現道下に延びる。規模は長軸2.3m、短軸1.2m、深さ40cmを測る。確認された面積は1.82㎡である。出土遺物は浮島式深鉢が出土した。

1区2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1~2mmの灰白色ハミス・ローム粒子(ϕ 1~2mm)を少量含む。
- 2 1にロームブロック(ϕ 20~50mm)を多量含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(ϕ 2~5mm)ロームブロック(ϕ 30~50mm)を含む。やや粘質。

第69図 2号竪穴状遺構・出土遺物

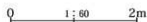
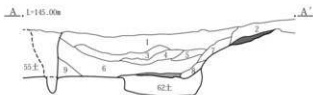
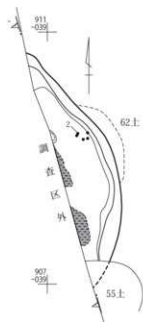
4号竪穴状遺構(第70・71図、PL. 7・34)

3区北西部に位置し、X=44.907~910、Y=-53.037~039の範囲にある。方位はN-15°-Wを指す。遺構の大半は西の調査区外に延びている。規模は長軸2.0m、短軸0.75m、壁高は73cmを測る。他の遺構の関係は55・62号土坑と重複する。新旧関係は本遺構が55号土坑より

古く、62号土坑より新しい。確認された面積は1.57㎡である。出土遺物は加曾利B 2・3式、55号土坑からは称名寺Ⅱ式・堀之内Ⅰ式・加曾利B 2式、62号土坑からは堀之内Ⅰ式が出土するが、本遺構の出土土器は、小片で覆土最上層からの出土であり、床上約70cmを測る。他に3点の石鏃が出土している。

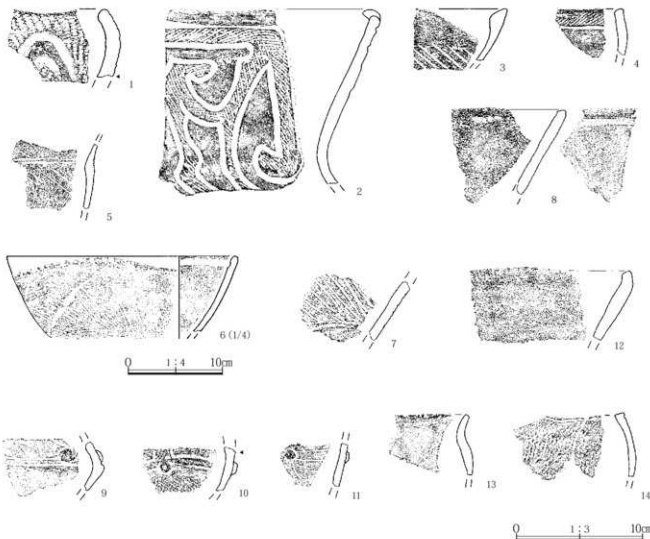
第3章 検出された遺構と遺物

3区4号竪穴状遺構

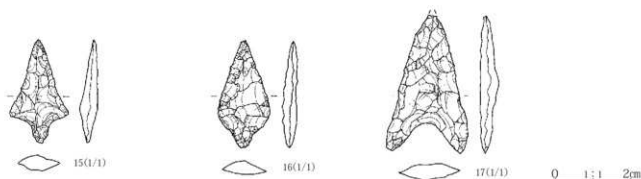


4号竪穴状遺構 A-A''

- 1 黒褐色(10YR3/1) 少量の灰白色・褐色粒(φ 2mm)を含む。
- 2 1にロームブロックが混入。
- 3 1と暗褐色土ブロックの混上。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1~2mm)・炭化物を含む。
- 5 黒褐色(10YR3/2) 4に近似。色調差のみ。
- 6 暗褐色(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを含む。堆上粒・炭化物が下位に認められる。
- 7 黒褐色(10YR3/1) ローム粒(微細)を少量含む。
- 8 7と灰黄褐色土ブロックの混上。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒・ロームブロック(φ 5~20mm)・炭化物を含む。



第70図 4号竪穴状遺構・出土遺物(1)



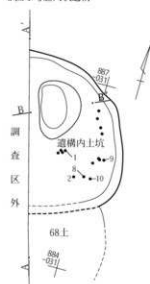
第71図 4号竪穴状遺構出土遺物(2)

6号竪穴状遺構(第72・73図、PL. 7・34)

3区南部に位置し、X=44.884~887、Y=-53.030~032の範囲にある。方位はN-14°-Wを指す。西の大半は調査区域外に延びる。規模は長軸2.35m、短軸1.3m、深さ32cmを測る。他の遺構との関係は南部で68号土坑と重複する。新旧関係は6号竪穴状遺構があたらしい。確

認した面積は2.66㎡である。出土遺物は諸磯b式と加曾利B2式が混じっている。68号土坑は加曾利B2式を主体とする。6号竪穴状遺構出土遺物と68号土坑の出土遺物のレベルはほぼ同じで、ともに覆土最上層である。このため遺物は両遺構のものではなく、加曾利B2式段階に両遺構に混入したものと考えられる。

3区6号竪穴状遺構



6号竪穴状遺構 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ1~2mm)を含む。(砂質性あり)
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(微細)を含む。
- 3 2にロームブロック(φ10~50mm)を少量混入。
- 4 3とロームブロック(φ30~40mm)の混土。



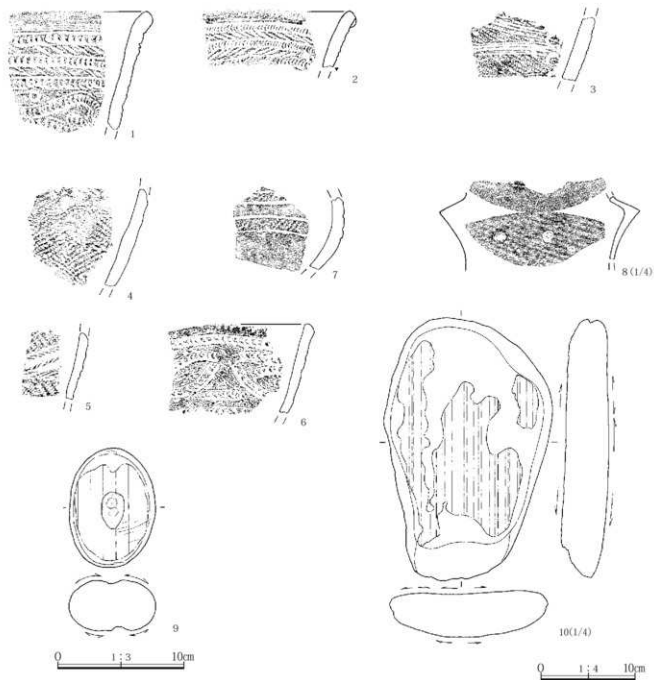
遺構内土坑 B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒を含む。
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。



第72図 6号竪穴状遺構

第3章 検出された遺構と遺物

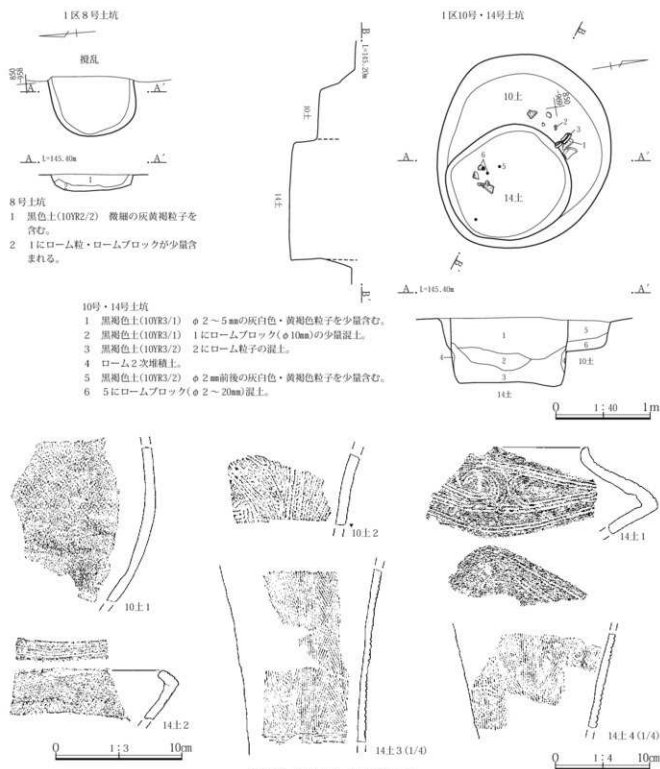


第73図 6号竪穴状遺構出土遺物

縄文土坑 (第74~105図, PL. 8~13・35~46)

前畑J遺跡では103基の土坑が検出され、その内縄文時代と考えられるのは85基がある。時期は前期から後期

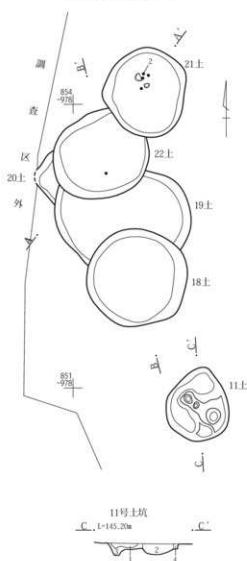
に至るまで前期では諸磯b式期が主体で、後期は加曾利E 1~2式段階に出土のピークがある。遺物の型式には濃い、薄いはあるが、前期諸磯b式期から後期高井東式段階まで途切れることなく継続している。



第74図 縄文土坑・出土遺物(1)

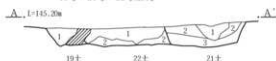
第3章 検出された遺構と遺物

1区11号・18号～22号土坑



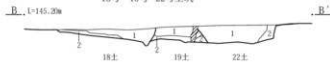
- 11号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 5～30mm程度のロームブロックを7%含む。しまりあり
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 固くしまる。
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) ロームを30%含む。しまりあり。

19号・21号・22号土坑



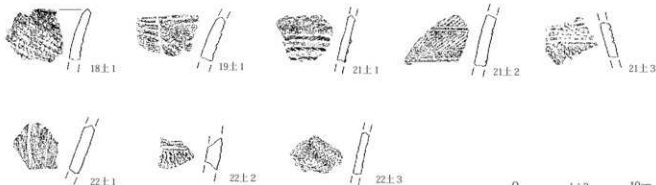
- 19・21・22号土坑
- 19土坑
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ϕ 1～2mm程度の褐色粒1%含む。固くしまる。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。
- 21土坑
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR2/3) ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。 ϕ 1mm程度の褐色粒を1%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR2/3) ϕ 20～50mm程度のロームブロックを5%含む。 ϕ 1mm程度の白色粒を微量含む。
- 22土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ϕ 2～3mm程度の褐色粒を2%含む。 ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 2～10mm程度の褐色粒を2%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 15～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
 - 4 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。

18号・19号・22号土坑



- 18・19・22号土坑
- 18土坑
- 1 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 15mm程度のロームブロックを15%含む。固くしまる。
 - 2 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土を10%程度含む。ロームを10%含む。固くしまる。
- 19土坑
- 1 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。固くしまる。
 - 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームを15%含む。固くしまる。
- 22土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ϕ 2～3mm程度の褐色粒を2%含む。 ϕ 1mm程度の白色粒を1%含む。
 - 2 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 2～10mm程度の褐色粒を2%含む。
 - 3 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 15～20mm程度のロームブロックを10%含む。しまりあり。
 - 4 暗褐色土(10YR3/3) ロームを5%含む。柔らかい。

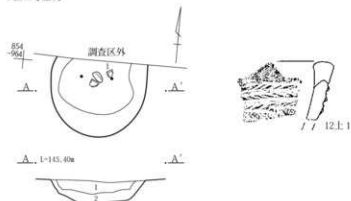
0 1:40 1m



0 1:3 10cm

第75図 縄文土坑・出土遺物(2)

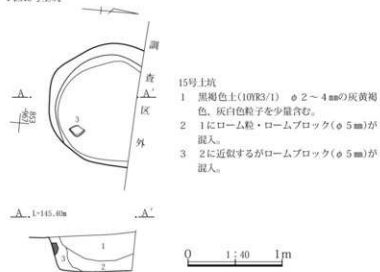
1区12号土坑



12号土坑

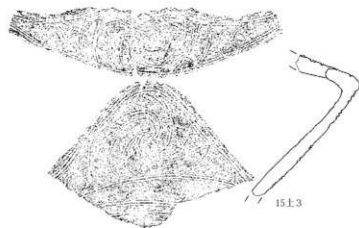
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色ハミス(φ 2~4mm)少量含む。
- 2 1にロームブロック・ローム粒を多量に混入。

1区15号土坑

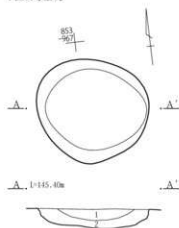


15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) φ 2~4mmの灰黄褐色、灰白色粒子を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 5mm)が混入。
- 3 2に近似するがロームブロック(φ 5mm)が混入。

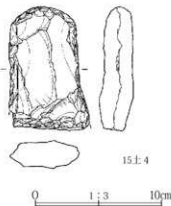
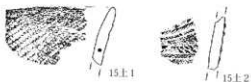


1区13号土坑



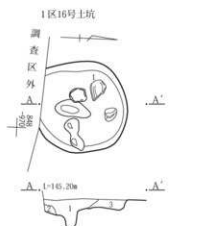
13号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 少量の灰黄褐色粒(φ 2mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロックを多量混入。

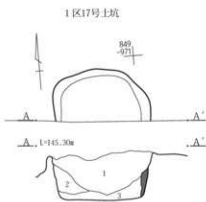
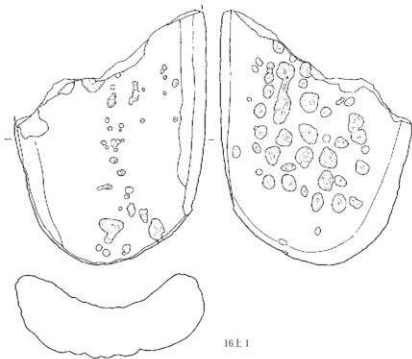


第76図 縄文土坑・出土遺物(3)

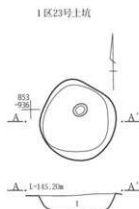
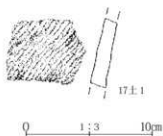
第3章 検出された遺構と遺物



- 16号土坑
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細の灰白色粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) 微細の灰白色粒を含む。

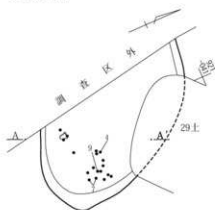


- 17号土坑
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細～ ϕ 2mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(少量 ϕ 2～15mm)を含む。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) 2にロームブロック粒子の混入。



- 23号土坑
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を含む。

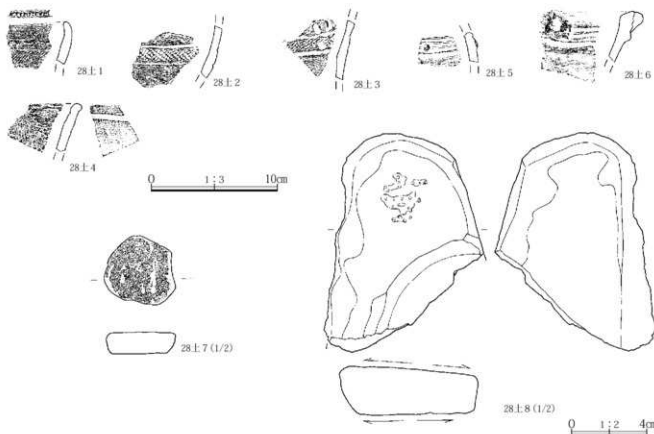
3区28号土坑



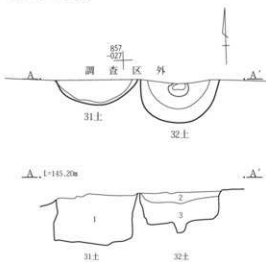
- 28号土坑
- 1 暗褐色土(10YR3/3) ϕ 5mmの炭化物粒・灰白・黄褐色粒を含む。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を多量含む。



第77図 縄文土坑・出土遺物(4)



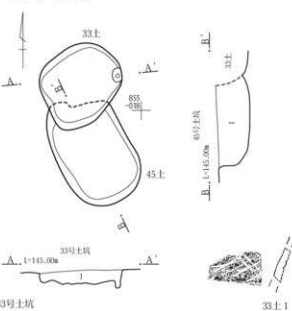
2区31号・32号土坑



31号・32号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 微細の灰白粒子・ローム粒を少量含む。中位に30～50mmの焼土塊を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ2mm)ローム粒(φ2mm)を含む。
- 3 2にφ2～15mmのロームブロック多量混入。

2区33号・45号土坑



33号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロックと黒褐色土の混入。

45号土坑

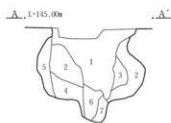
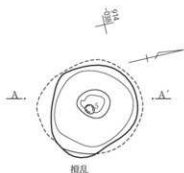
- 1 にふい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体としてφ30～50mmのロームブロックが混入。

0 1:40 1m

第78図 縄文土坑・出土遺物(5)

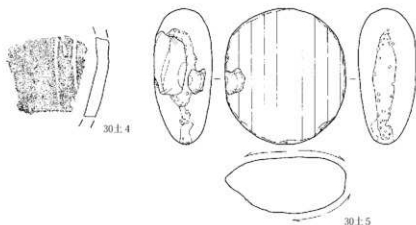
第3章 検出された遺構と遺物

3区30号土坑



30号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色パミス・ローム粒(ϕ 2mm)を少量含む。土器片・小礫(ϕ 30mm)の混入あり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(微細 $\sim \phi$ 2mm)の混入多い。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2 \sim 3mm)の混入あり。しまりない。
- 4 ロームブロックと1の黒褐色土の混上。
- 5 ローム2次堆積上。
- 6 1にロームブロック(ϕ 5 \sim 20mm)が多量混入。
- 7 ロームを主体として黒褐色土ブロックが少量混入。



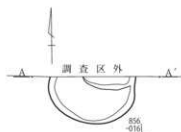
2区34号土坑



34号土坑

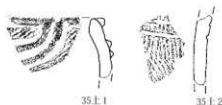
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒・ロームブロックと黒褐色土の混上。

2区35号土坑



35号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 2mm灰白色粒・ローム粒(ϕ 2 \sim 7mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒(ϕ 2 \sim 5mm)が多量混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 2mmの灰白色粒・ローム粒(ϕ 2mm)・ロームブロックを混入。

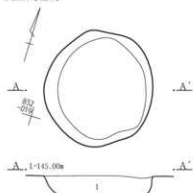


0 1:40 1m

0 1:3 10m

第79図 縄文土坑・出土遺物(6)

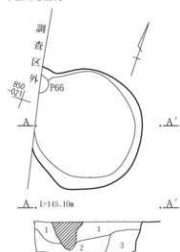
2区36号土坑



36号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)・ロームブロック(φ 3mm)が混入。

2区38号土坑

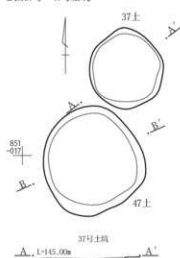


38号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ 2mm)・ローム粒少量含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。
3 1にロームブロック(φ 20mm)混入。



2区37号・47号土坑



37号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 2mm)・ロームブロック(φ 3mm)が混入。

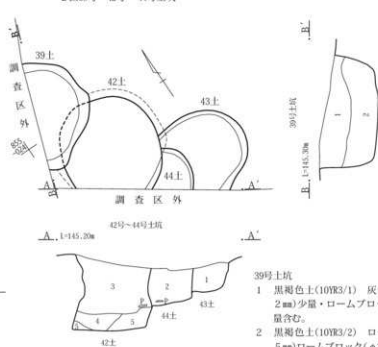


47号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~5mm)ロームブロック(20~50mm)を含む。



2区39号・42号~44号土坑



42号~44号土坑

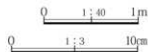


39号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色パミス(φ 2mm)少量・ロームブロック(φ 50mm)少量含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2~5mm)ロームブロック(φ 20~30mm)を含む。

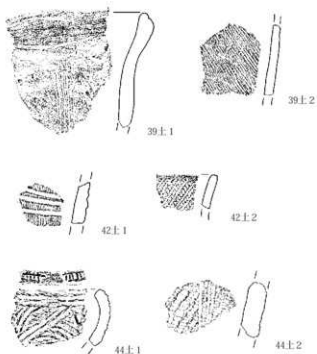
42号~44号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 2~40mm)を含む。
2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ 2mm)を含む。
3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロック(φ 5~30mm)を少量含む。
4 3に近似。ローム粒・ロームブロックを含まない。
5 暗褐色土 ローム粒子を多量含む。

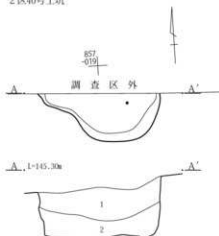


第80図 縄文土坑・出土遺物(7)

第3章 検出された遺構と遺物



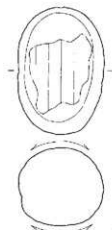
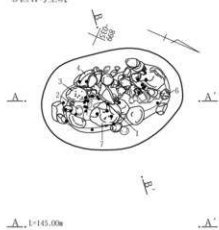
2区40号土坑



40号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ2~5mm)ロームブロック(φ20mm)を多量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 田表土か?

3区41号土坑

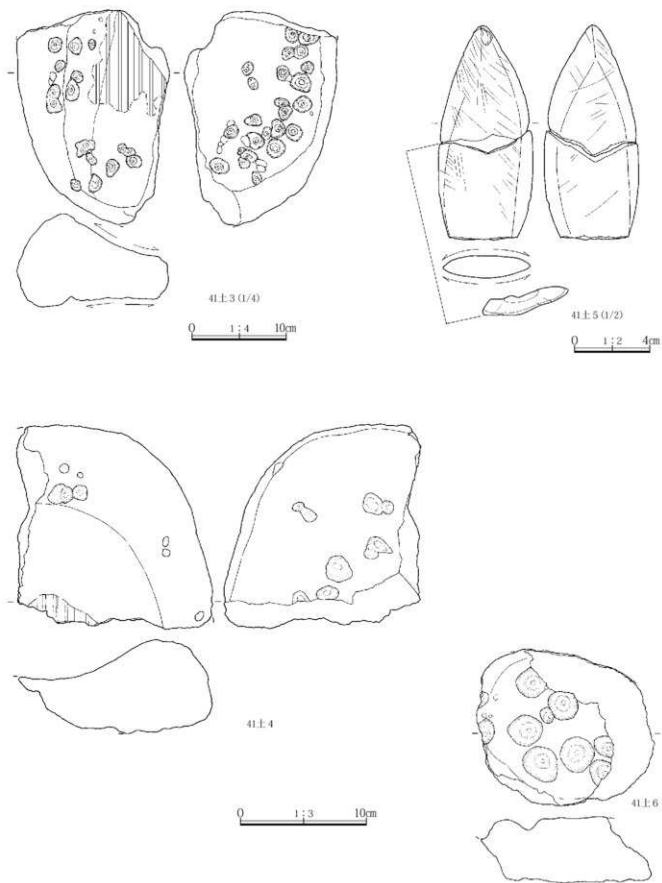


41号土坑

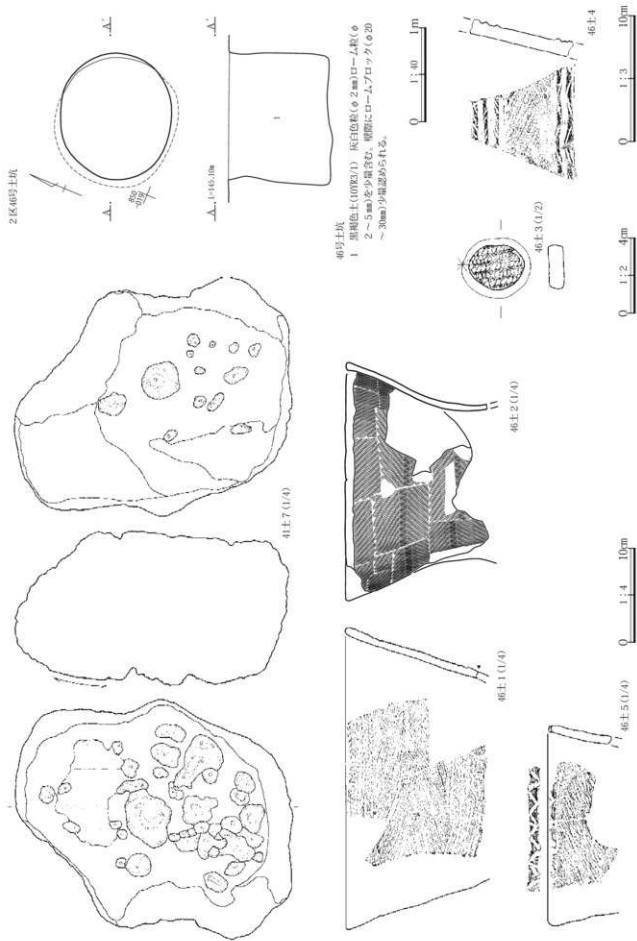
- 1 暗褐色土(10YR3/3) φ2mmの灰白色バミスを含む。ローム粒・ロームブロック(φ40mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色バミス(φ2mm)を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 灰白色バミス(φ2mm)を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 3に近似。粘性あり。



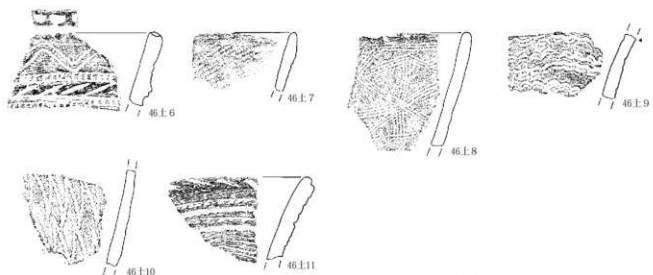
第81図 縄文土坑・出土遺物(8)



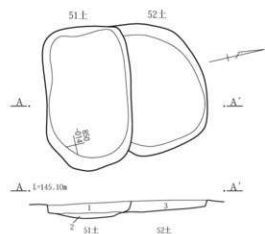
第82図 縄文土坑・出土遺物(9)



第83図 縄文土坑・出土遺物(10)



2区51号・52号土坑



51号・52号土坑

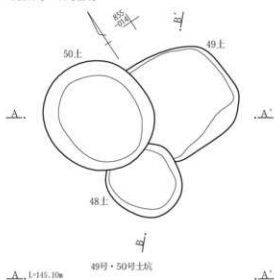
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒 ϕ 2～10mmを含む。
- 2 1にロームブロック(ϕ 20mm)混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2mm)少量。下にロームブロックを混入。

0 1:40 1m

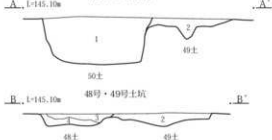


0 1:3 10cm

2区48号～50号土坑



49号・50号土坑



48号～50号土坑

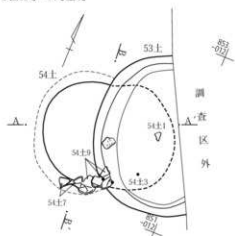
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2～5mm)ロームブロック(ϕ 20～40mm)を含む。
- 2 黒褐色土とロームブロック(ϕ 30～40mm)の混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 1mm前後の灰白色粒を少量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。



第84図 縄文土坑・出土遺物(11)

第3章 検出された遺構と遺物

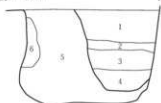
2区53号・54号土坑



53号・54号土坑

- 53号土坑 1 黒褐色土(10YR3/1) ϕ 1~10mmのローム粒を多量含む。
 2 1よりローム粒の混入少なくやわらかい。
 3 ローム2次堆積土。53土坑の底面を埋めたもの。
 4 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(ϕ 3~4mm)を含む。3と同質。
 54号土坑 5 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色バミスを含む。
 6 5にロームブロック(ϕ 30~40mm)を含む。

54土 53土
A, 1:16.10m



0 1:40 1m



54L1 (1/4)



53L1



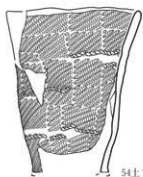
53L2



53L3



53L4



54L7 (1/4)



54L2



54L3



54L8 (1/4)



54L4



54L5

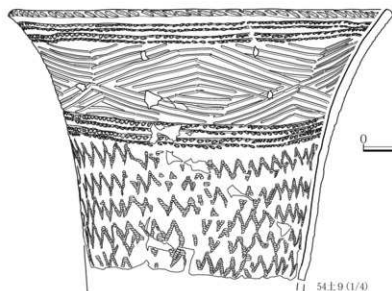


54L6

0 1:4 10cm

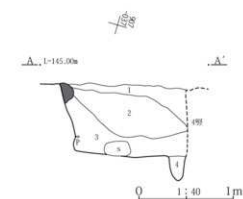
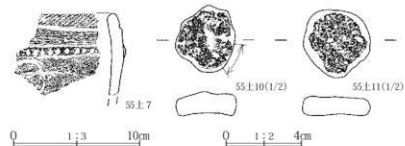
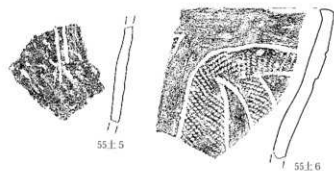
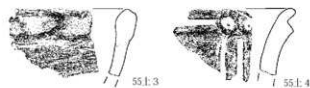
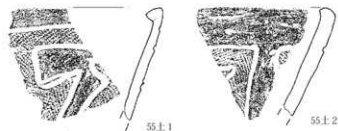
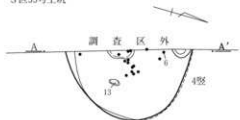
0 1:3 10cm

第85図 縄文土坑・出土遺物(12)



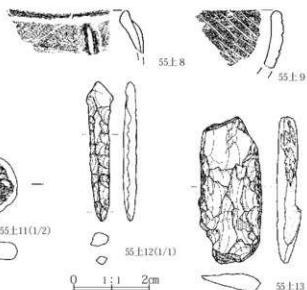
0 1:4 10m

3区55号土坑



55号土坑

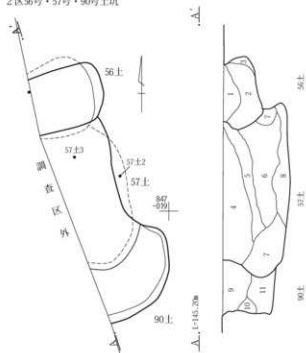
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ 1mm)ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 2に近似。ローム粒の混入多い。
- 4 にぶい黄橙(10YR6/3) 炭化物を含み粘質、P(フク)土。



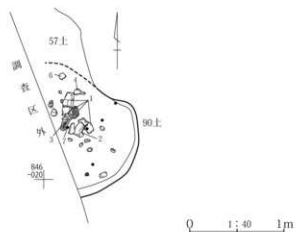
第86図 縄文土坑・出土遺物(13)

第3章 検出された遺構と遺物

2区56号・57号・90号土坑

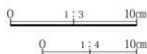
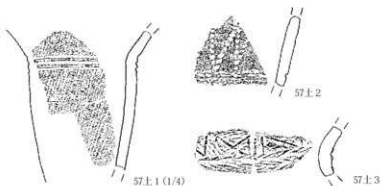
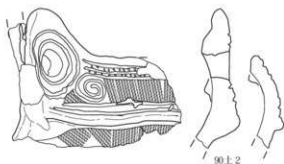
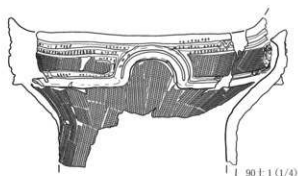


2区90号土坑

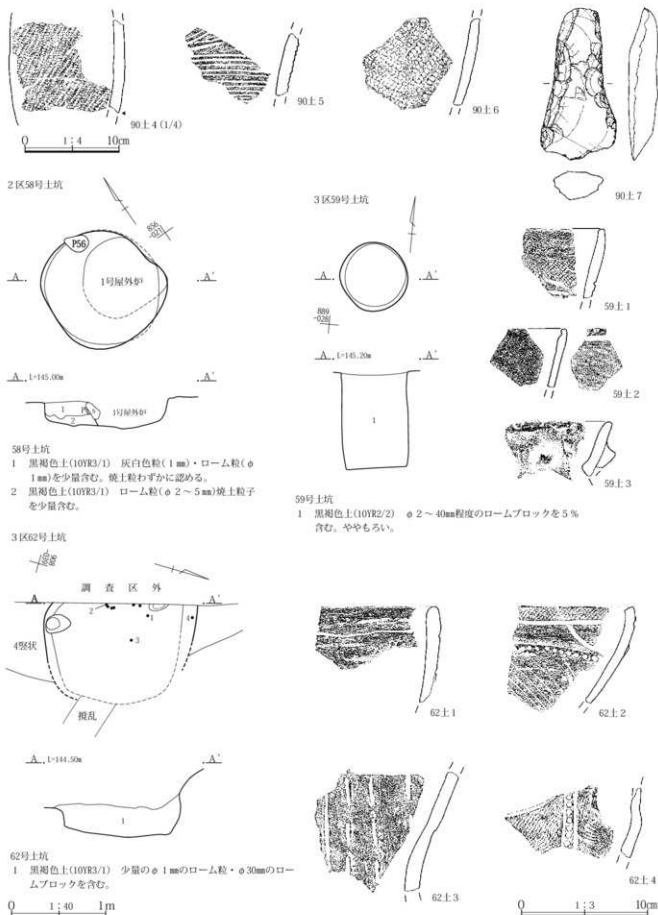


56号・57号・90号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒($\phi 1 \sim 2\text{mm}$)ローム粒($\phi 2\text{mm}$)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒・ロームブロックを含む。
- 3 2にローム粒・ロームブロック多量混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 微細 $\sim \phi 2\text{mm}$ の灰白色粒を含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒を含む。
- 6 5に近似。少量のロームブロック($\phi 20\text{mm}$)を含む。
- 7 5にローム粒・ロームブロックを多く混入。
- 8 ロームブロックを主体として黒褐色土が混入。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒($\phi 2 \sim 3\text{mm}$)を含む。
- 10 9にローム粒($\phi 2 \sim 10\text{mm}$)を多く含む。
- 11 9に近似するがロームブロック($\phi 30\text{mm}$)の混入あり。



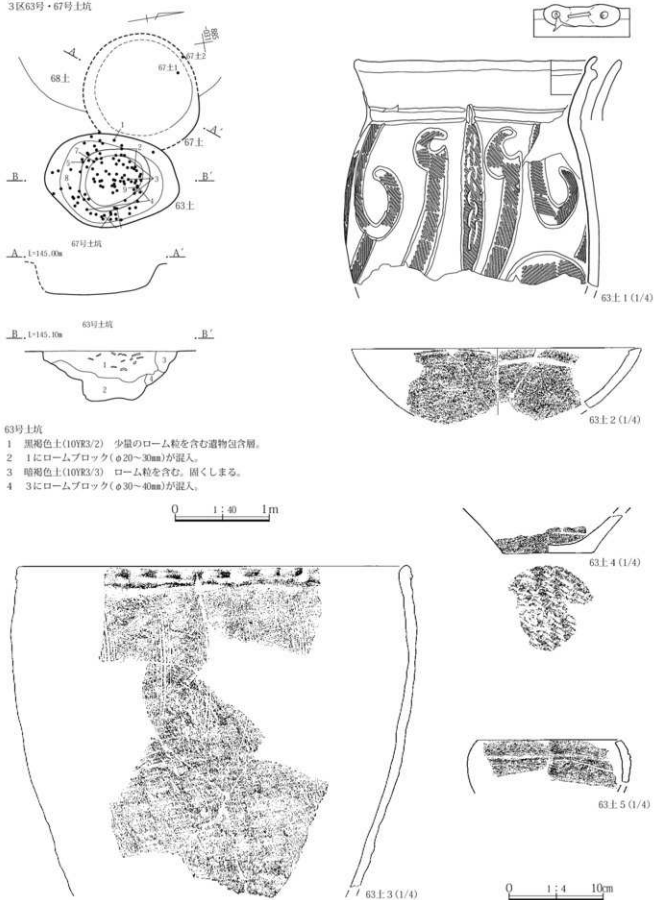
第87図 縄文土坑・出土遺物(14)



第88図 縄文土坑・出土遺物(15)

第3章 検出された遺構と遺物

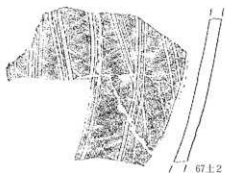
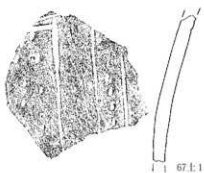
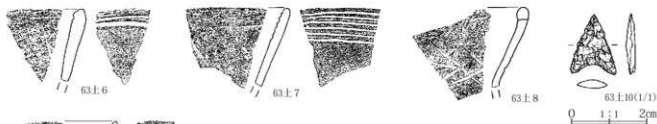
3区63号・67号土坑



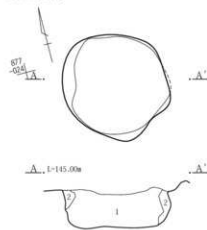
63号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を含む遺物包含層。
- 2 1にロームブロック(φ20~30mm)が混入。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を含む。固くしまる。
- 4 3にロームブロック(φ30~40mm)が混入。

第89図 縄文土坑・出土遺物(16)

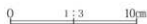


3区64号土坑

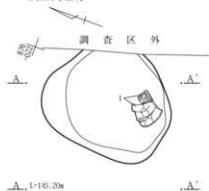


64号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒を含む。固くしまる。
- 2 1にローム粒(φ2mm)ロームブロック(φ20mm)を加えたもの。

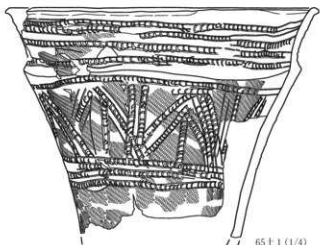


3区65号土坑



65号土坑

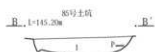
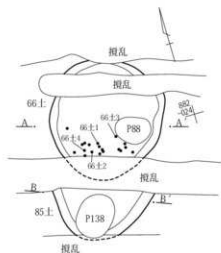
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒を混入。
- 2 1にローム粒を多く混入。



第90図 縄文土坑・出土遺物(17)

第3章 検出された遺構と遺物

3区66号・85号土坑



66号土坑

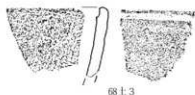
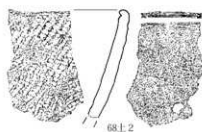
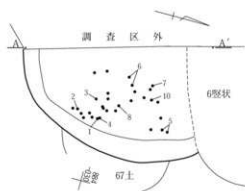
1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(微細～ ϕ 30mm)を多量含む。

85号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(ϕ 2～10mm)灰白色粒(ϕ 2mm)を多量含む。



3区68号土坑



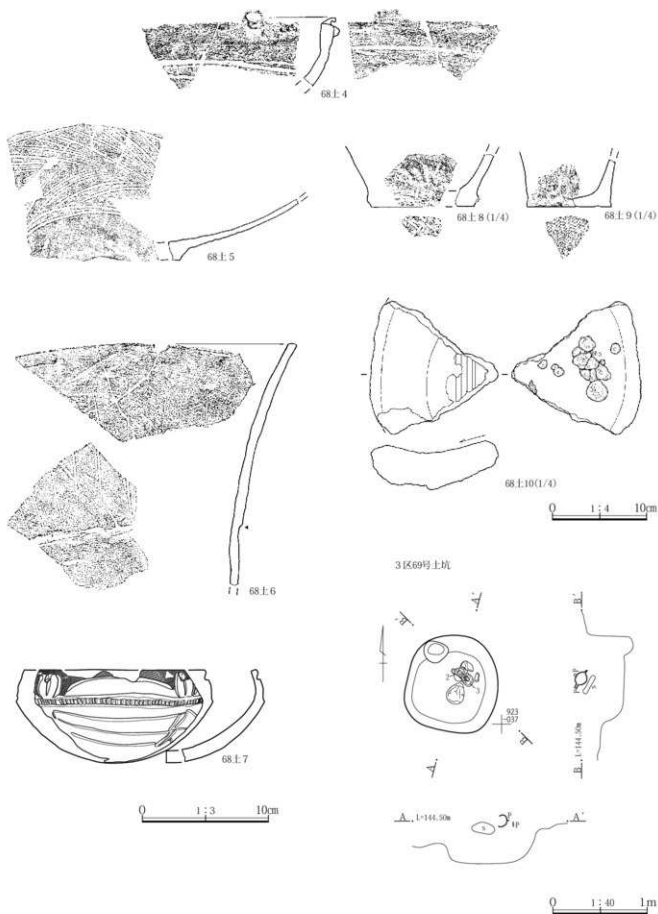
68号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3)とロームブロック(ϕ 30～40mm)の混土。
- 2 1と同置だがロームブロックの混入多い。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多い。(ローム粒主体)
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒の混入多い。ロームブロック(ϕ 40mm)も認められる。

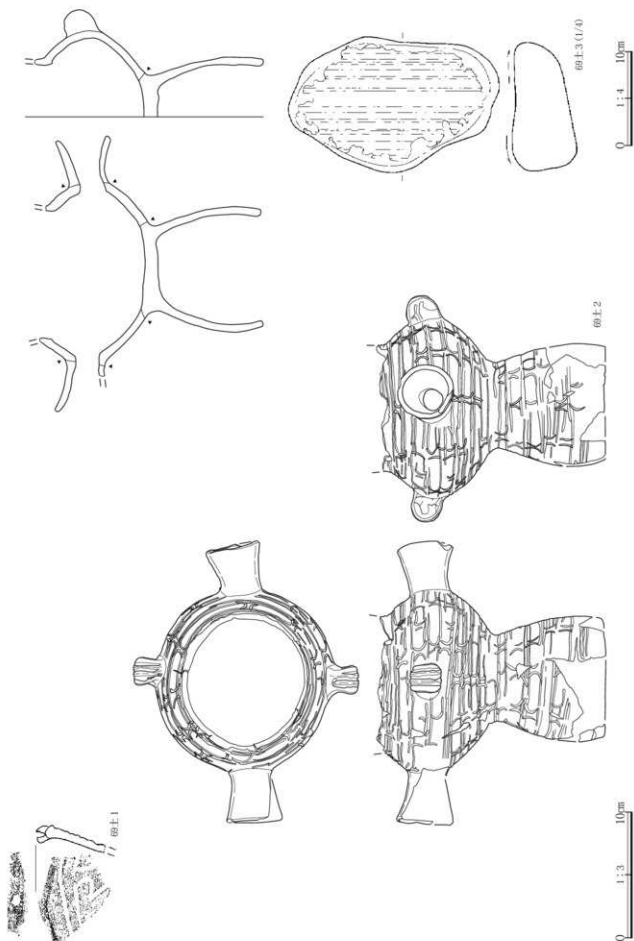
0 1:40 1m

0 1:3 10m

第91図 縄文土坑・出土遺物(18)

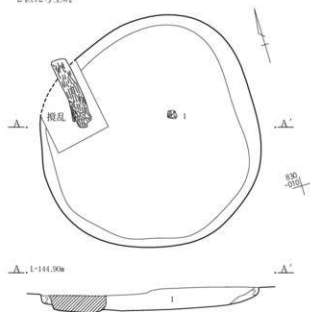


第92図 縄文土坑・出土遺物(19)



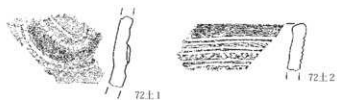
第03図 縄文土坑・出土遺物(20)

2区72号土坑

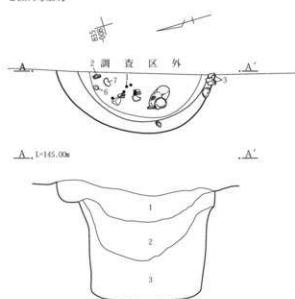


72号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 下部にロームを少量含む。左側根足。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを20%含む。しまりあり。

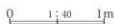


2区74号土坑



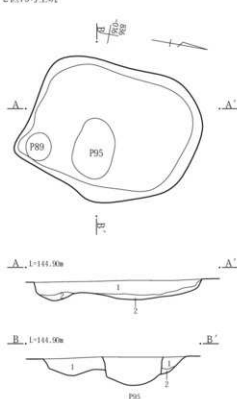
74号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(φ2~5mm)・ローム粒・ロームブロック(微~20mm)を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ2~10mm)を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロックを主体とする。



第94図 縄文土坑・出土遺物(21)

2区73号土坑

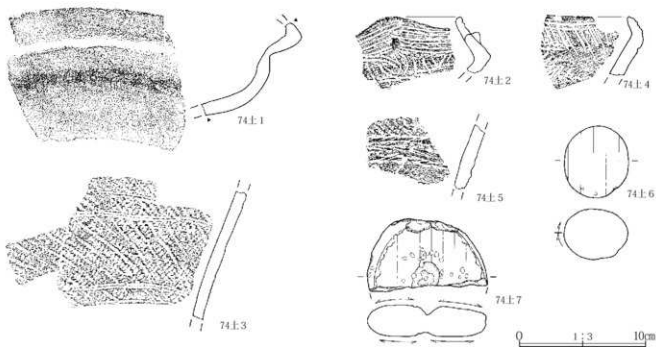


73号土坑

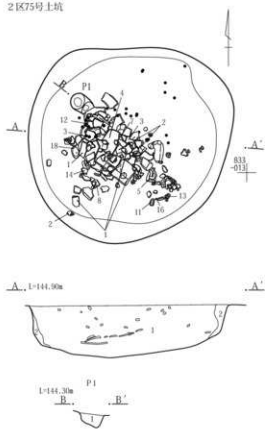
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土を5%含む。φ2~5mm程度のロームブロックを3%含む。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームを30%含む。しまりあり。



第3章 検出された遺構と遺物



2区75号土坑

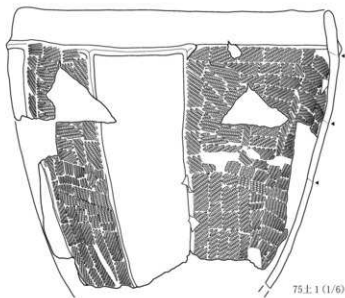


P1

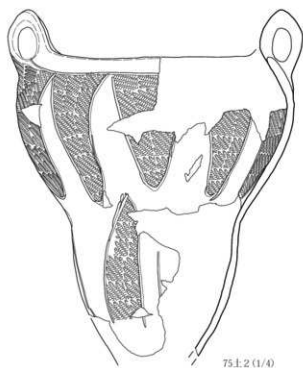
1 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロックの混入あり。

75号土坑

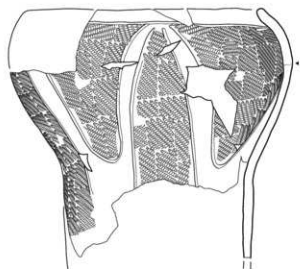
- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(ϕ 1~3mm)少量・灰白色粒(ϕ 1~2mm)少量含む。上部を大量に包含する。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(ϕ 1~40mm)を少量含む。



第95図 縄文土坑・出土遺物(22)

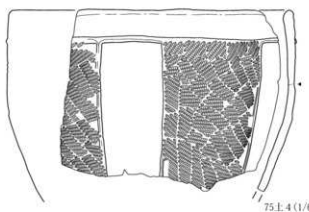


75.1.2 (1/4)



75.1.3 (1/4)

0 1:4 10cm

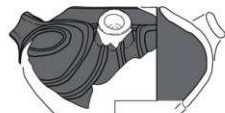


75.1.4 (1/6)

0 1:6 12cm



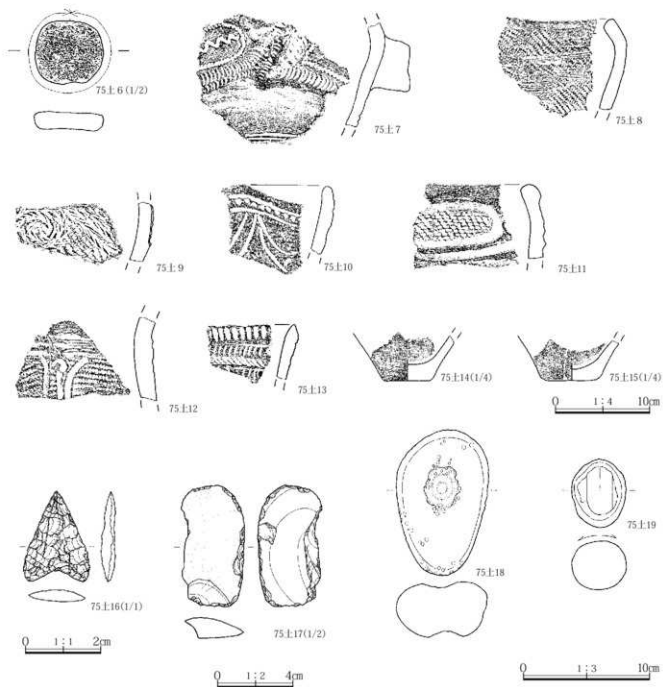
75.1.5



0 1:3 10cm

第96図 縄文土坑・出土遺物(23)

第3章 検出された遺構と遺物



第97図 縄文土坑・出土遺物(24)

2区77号土坑



77号土坑

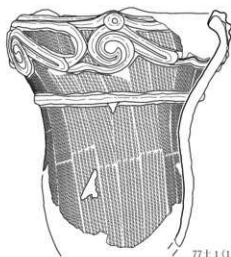
- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ1~2mm)・黄褐色粒(φ1~2mm)を含む。



77上2



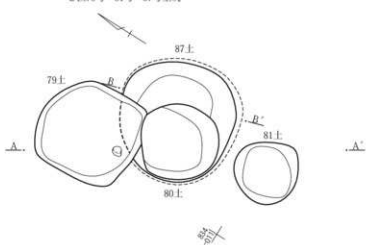
77上3



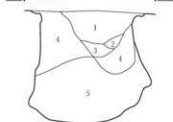
77上1 (1/4)

0 1:4 10m

2区79号~81号・87号土坑

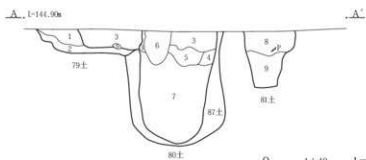


87号土坑



87号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロック(φ2~30mm)を含む。
 2 黒褐色土(10YR3/2) 灰白色粒(φ1mm)を少量含む。
 3 2に近似。2にローム粒を含む。
 4 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ2~4mm)を含む。壁際にロームブロック(φ20mm)少量あり。
 5 に近い黄褐色土(10YR5/4) ローム粒・ロームブロック主体。暗褐色ブロック少量混入する。



0 1:40 1m

79号~81号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ2mm)ロームブロック(φ30mm)を少量含む。
 2 1にロームブロック(φ20~30mm)を多量含む。
 3 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ1mm)灰白色粒(φ1~2mm)を含む。
 4 3にローム粒(微細)が加わり褐色味つよい。
 5 ロームブロック(φ10~40mm)と3の混土。
 6 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ1~2mm)ロームブロック(φ20mm)を含む。ピット状の盛り込み。
 7 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(φ1mm)を含み粘性つよい。
 8 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ1~2mm)ロームブロック(φ20mm)を少量含む。
 9 8にロームブロック(φ10~30mm)を多量混入。



87上1

0 1:3 10m

第98図 縄文土坑・出土遺物(25)

第3章 検出された遺構と遺物

3区84号土坑



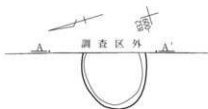
A. L=145.20m A'



84号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ2~3mm)を含む。
- 2 ローム2次堆積土。

2区86号土坑



A. L=145.00m A'

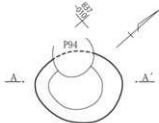


86号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 少量の灰白色粒(φ1mm)・ローム粒(φ2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 1にローム粒・ロームブロック(φ1~15mm)混入。
- 3 ロームブロックと1の混入。



2区89号土坑



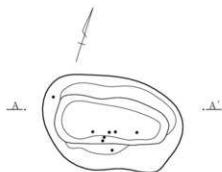
A. L=144.90m A'



89号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色粒・ローム粒(φ2mm)を少量含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ2~25mm)を加えたもの。
- 3 2に近似。ロームブロックの混入少ない。

2区95号土坑



A. L=144.80m A'



95号土坑

- 1 にぶい・褐色(10YR6/4) ローム粒を主体とする。ローム粒の混入多い。

0 1:40 1m



89上1



95上1

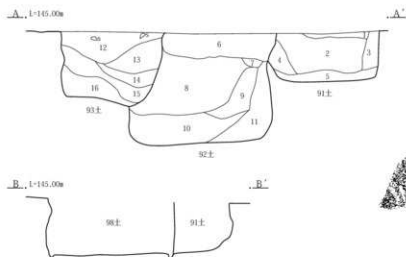
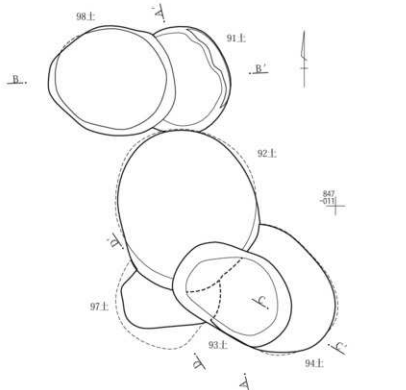


95上2

0 1:3 10m

第99図 縄文土坑・出土遺物(26)

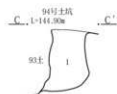
2区91号～94号・97号・98号土坑



0 1:40 1m

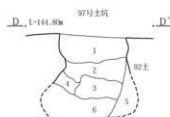


0 1:3 10cm



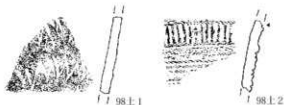
94号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ϕ 2～5mm程度のロームブロックを3%含む。 ϕ 1～2mm程度の白色粒を1%含む。



97号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。ロームブロック(ϕ 10～20mm)を少量含む。
 2 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(ϕ 2～15mm)を含む。
 3 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム・ロームブロック主体。
 4 2にロームブロック(ϕ 30mm)混入。
 5 黒褐色土(10YR3/2) 微量のローム粒(微細)を含む。
 6 5に近似するがしまりがない。



98上1

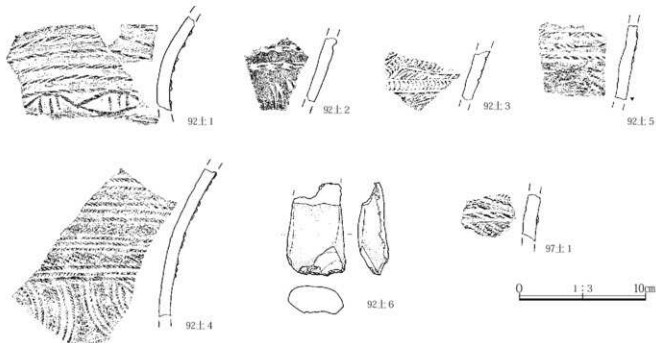
98上2

91号～93号土坑

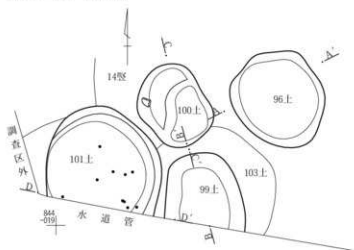
- 1 暗褐色(10YR3/3) ローム粒(微細)を多量含む。
 2 暗褐色(10YR3/3) 1に近似するが褐色味がつよい。
 3 黒褐色(10YR3/1) ローム粒(ϕ 2～7mm)を含む。
 4 黒褐色(10YR3/2) 少量のローム粒(ϕ 3mm)を含む。
 5 黒褐色(10YR3/2) 少量のローム粒(ϕ 2mm)を含む。
 6 黒褐色(10YR3/2) 少量の灰白色粒・ローム粒(ϕ 2mm)を含む。
 7 6と7の中間層。
 8 黒褐色(10YR3/2) 少量の灰白色粒(ϕ 2mm)を含む。
 9 暗褐色(10YR3/3) 8にローム粒・ロームブロックを多く混入。
 10 9に近似するがやや粘質。
 11 ロームを主体とした2次堆積土。
 12 黒褐色(10YR3/2) ローム粒(ϕ 2～15mm)を含む。少量の灰白色粒(ϕ 2mm)を混入する。
 13 12に近似する。ローム粒の混入少ない。
 14 13よりさらにローム粒の混入少ない。
 15 黒褐色(10YR3/2) 灰白色粒・ローム粒(ϕ 2mm)を混入する。
 16 15に ϕ 20mmのロームブロック・ローム粒(ϕ 2～5mm)を含む。

第100図 縄文土坑・出土遺物(27)

第3章 検出された遺構と遺物



2区96号・99号～101号土坑



99号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒(φ 1～3mm)、少量の灰白色粒(φ 1mm)を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ 10mm)混上。



100号土坑

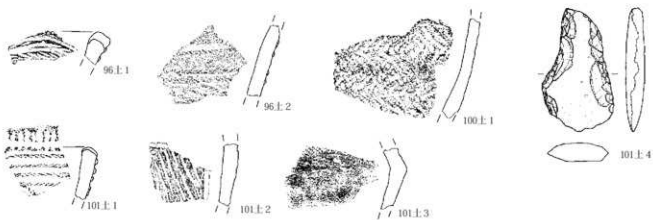
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ 2mm)ロームブロック(φ 20～30mm)を含む。



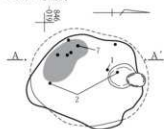
101号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1～2mm)を含み粘置でしまりある。含有物同じ。
- 2 2にローム粒(φ 5mm)を含む。
- 3 2・3にローム粒・ロームブロックの多量混上。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ 1～10mm)を多量含む。

第101図 縄文土坑・出土遺物(28)



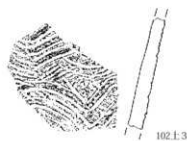
2区102号土坑



0 1:40 1m

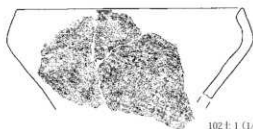
102号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ϕ 1~3mmのローム粒(ϕ 2mm)の灰白色粒を含む。
- 2 1にローム粒の多量混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 少量のローム粒(ϕ 2mm)を含む。
- 4 1と4の混入層で焼土粒(ϕ 2~15mm)を多量に含む。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム粒を主体とする。しまりない。

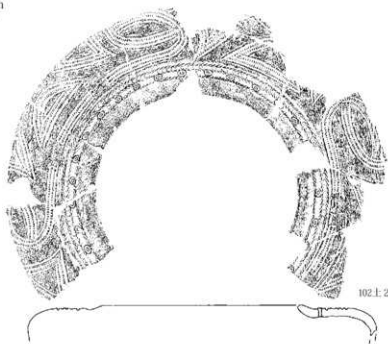


102上3

0 1:3 10cm



102上1 (1/4)

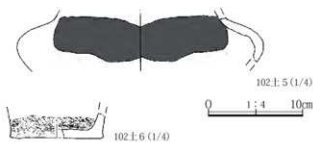
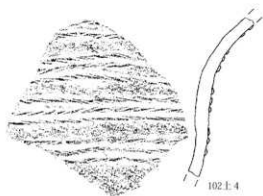


102上2

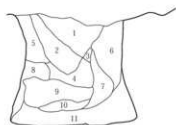
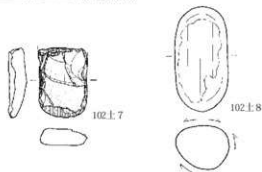
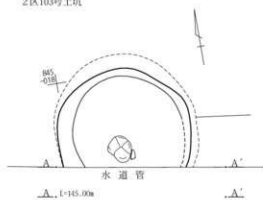
0 1:4 10cm

第102図 縄文土坑・出土遺物(29)

第3章 検出された遺構と遺物

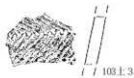


2区103号土坑



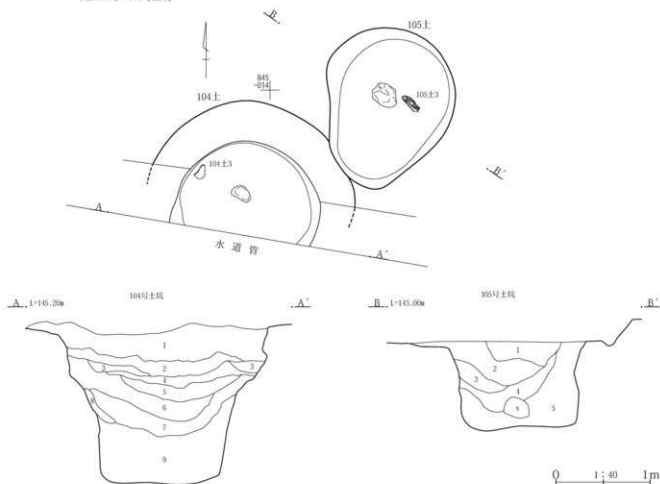
103号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ 1~2mm)ローム粒(φ 1~2mm)を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 微細の灰白色粒を少量含む。
- 3 1にローム粒(微細)を含む。
- 4 3にロームブロック(φ 15~20mm)を含む。
- 5 2にローム粒・ロームブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) φ 2~3mmの灰白色粒を含む。ローム粒の混入多く褐色味がよい。
- 7 6にロームブロック(φ 20mm)を含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックを主体とする。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(φ 20mm)が少量混入。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) φ 2mmのローム粒を少量含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を主体とする。



第103図 縄文土坑・出土遺物(30)

2区104号・105号土坑



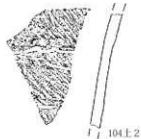
104号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒(φ2~5mm)ロームブロック(φ10~15mm)が混入。
 - 2 暗褐色土とロームブロック(φ20~50mm)の混土。
 - 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒(φ1~10mm)が少量含まれる。
 - 4 ロームブロック(φ20~50mm)を主体とする。暗褐色土との混土。
 - 5 黒褐色土(10YR3/1) ロームブロック(φ20~30mm)が混入。
 - 6 暗褐色土とロームブロックの混土(2に近似)。
 - 7 5に近似。
 - 8 ローム2次堆積土。黒褐色土ブロック混入。
 - 9 黄褐色土(10YR5/6) ロームを主体とする(2次堆積)。
- ※ 2~7は人的に埋てんしたと考える。



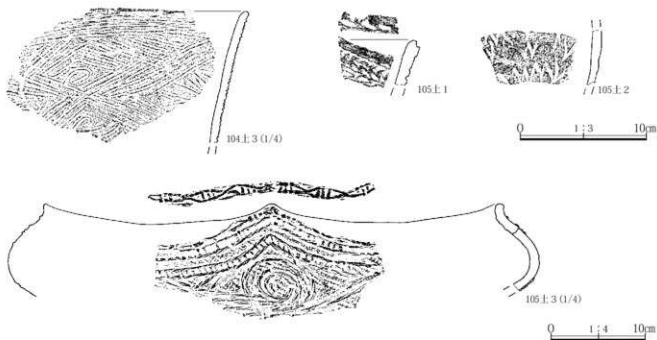
105号土坑

- 1 ローム2次堆積土 少量の黒褐色土ブロックが混入。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒・ロームブロックが多量に混入。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(φ2~3mm)が混入。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 少量のローム粒(微細)灰白色粒(φ2mm)を少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 少量の灰白色粒(φ1~2mm)を含む。

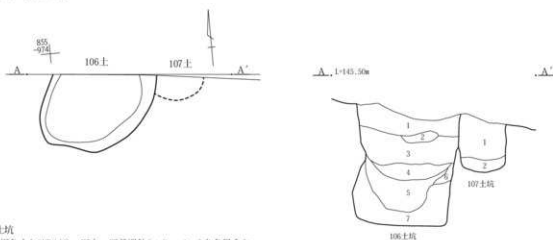


第104図 縄文土坑・出土遺物(31)

第3章 検出された遺構と遺物



1区106号・107号土坑



106号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 灰白・灰黄褐色粒(φ2~4mm)を多量含む。
- 2 1にロームブロック(φ20~50mm)を含む。
- 3 1に近似灰白・灰黄褐色粒子の混入多く褐色味が強い。
- 4 3にロームブロック(φ5~40mm)を混入。
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒主体。
- 6 5にロームブロック混入。
- 7 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ローム主体。

107号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) φ2~3mmの灰白・灰黄褐色粒子を含む。
- 2 1にローム粒・ロームブロック(φ2~10mm)を多量含む。

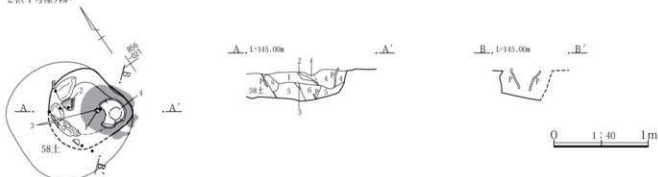
第105図 縄文土坑・出土遺物(32)

1号屋外炉(第106図、PL.46)

2区で屋外炉1が確認されている。屋外炉は58号土坑の内部に確認されている。しかし土坑は掘り方ではない。それは土坑の1/3ほどの部分に構築されている。実際には58号土坑があり、土坑が埋没した後に屋外炉が作られたということである。炉の周囲には縄文土器が出土して

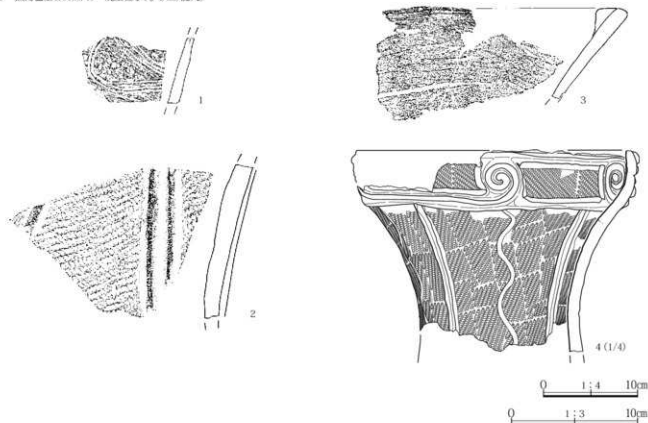
いる。掲載遺物は4点あり、1片が諸磯b式で、他の3点は加曾利E2・3式土器である。以上のことから屋外炉としたものは後期加曾利E式段階の遺構と考えられ、58号土坑は前期の土坑の可能性が高い。周囲に土器が出土することから15号竪穴建物と同様竪穴建物の炉の可能性も否定できない。

2区1号屋外炉



1号屋外炉 A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 灰白色粒(1mm)・ローム粒(φ1mm)を少量含む。焼土粒わずかに認める。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒子(φ1~3mm)を多量含む。赤味つよい。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒を多量含む。
- 4 1に焼土粒・焼土ブロック(φ10mm)が混入。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 焼土粒、ブロック混入。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 焼土粒子(φ2mm)混入。



第106図 1号屋外炉・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

第2表 前畑J遺跡土坑一覧 建・堅穴建物 堅状・堅穴状遺構

調査区	遺構名	位置		平面形状	規模			長軸方位	重複関係	備考
		X座標	Y座標		長軸m	短軸m	深さcm			
1	1土坑	X=44.860~861	Y=52.864~866	長方形?	1.80	(0.70)	20	N-80°-E		
1	2土坑	X=44.863~864	Y=52.867~869	円形?	(1.40)	(1.10)	69	N-50°-W	3土坑	
1	3土坑	X=44.862~864	Y=52.867~868	楕円形	(0.94)	0.57	55	N-27°-W		
1	4土坑	X=44.848~849	Y=52.958~860	長方形	1.30	(0.60)	16	N-50°-W		
1	5土坑	X=44.849~850	Y=52.958	長方形	0.90	0.53	13	N-4°-E		
1	6土坑	X=44.852~854	Y=52.979~980	楕円形	1.41	1.20	48	N-51°-W	4建、P9	
1	8土坑	X=44.848~849	Y=52.957~958	楕円形?	(0.63)	0.93	18	N-90°-E		縄文
1	9土坑	X=44.851~852	Y=52.960~961	円形?		1.20	1.10	40		
1	10土坑	X=44.849~850	Y=52.967~969	楕円形	2.10	1.81	68	N-52°-W	14土	縄文
1	11土坑	X=44.850~851	Y=52.976	楕円形	0.78	0.65	18	N-3°-E		縄文
1	12土坑	X=44.853~854	Y=52.962~963	楕円形?	(0.80)	1.00	27	N-0°		縄文
1	13土坑	X=44.851~852	Y=52.966~967	楕円形	1.18	1.10	20	N-84°-W		縄文
1	14土坑	X=44.848~849	Y=52.967~968	楕円形	1.30	1.16	33	N-8°-W	10土	縄文
1	15土坑	X=44.853~854	Y=52.966~967	楕円形	(0.93)	1.28	34	N-6°-E		縄文
1	16土坑	X=44.848~849	Y=52.969~970	円形	(0.90)	0.96	33			縄文
1	17土坑	X=44.848	Y=52.970~971	方形?	1.00	(5.50)	35	N-88°-E		縄文
1	18土坑	X=44.851~852	Y=52.976~977	円形	1.07	1.02	10		19土	縄文
1	19土坑	X=44.852~853	Y=52.976~977	楕円形	1.45	(0.98)	19	N-76°-W	18・20・22土	縄文
1	20土坑	X=44.852~853	Y=52.977~978	不明	(0.54)	(0.23)	(10)		19・22土	縄文
1	21土坑	X=44.853~854	Y=52.976~977	楕円形	0.94	0.83	27	N-3°-W	22土	縄文
1	22土坑	X=44.853~854	Y=52.977~978	楕円形	(0.90)	0.95	19	N-33°-E	19~21土	縄文
1	23土坑	X=44.852~853	Y=52.935	円形	0.85	0.82	24		11建	
1	24土坑	X=44.850~851	Y=52.941~942	楕円形	1.00	0.93	35	N-85°-E		縄文
3	25土坑	X=44.948~949	Y=53.038~039	楕円形	1.03	1.10	63	N-2°-E		縄文
3	28土坑	X=44.919~920	Y=53.040~041	楕円形	(1.50)	(1.20)	21	N-52°-W	29土	縄文
3	29土坑	X=44.919~921	Y=53.039~041	方形?	(0.78)	1.17	23	N-41°-E	28土	
3	30土坑	X=44.913~914	Y=53.036~037	楕円形	1.06	0.93	100	N-12°-E		縄文
2	31土坑	X=44.856	Y=53.020~021	円形?	(0.27)	(0.85)	29	N-9°-E		縄文
2	32土坑	X=44.856	Y=53.020	楕円形?	(0.46)	0.83	21	N-11°-E		縄文
2	33土坑	X=44.854~855	Y=53.018~019	楕円形	0.96	0.87	15	N-14°-E	45土	縄文
2	34土坑	X=44.855~856	Y=53.017~018	円形	0.80	0.73	10			縄文
2	35土坑	X=44.856	Y=53.016	不明	0.91	(0.49)	28	N-87°-W		縄文
2	36土坑	X=44.851~853	Y=53.017~018	円形	1.22	1.15	21			縄文
2	37土坑	X=44.851~852	Y=53.015~016	円形	0.86	0.79	10			縄文
2	38土坑	X=44.849~850	Y=53.019~020	円形	1.28	(1.10)	34		P66	縄文
2	39土坑	X=44.854~855	Y=53.023	円形?	1.15	(0.60)	22	N-23°-E	42土	縄文
2	40土坑	X=44.856	Y=53.018~019	不定形	(1.30)	(0.50)	33	N-87°-W		縄文
3	41土坑	X=44.898~900	Y=53.033~035	楕円形	1.48	1.04	109	N-24°-W		縄文
2	42土坑	X=44.853~855	Y=53.022~023	楕円形	(0.97)	1.05	61	N-31°-E	39・43・44土	縄文
2	43土坑	X=44.853~854	Y=53.022~023	楕円形?	(1.10)	0.95	25	N-72°-E	42・44土	縄文
2	44土坑	X=44.853~854	Y=53.022~023	不明	(0.43)	(0.36)	40	N-61°-E	42・43土	縄文
2	45土坑	X=44.854~855	Y=53.018	長方形	1.20	0.78	36	N-25°-W	33土	縄文
2	46土坑	X=44.850~851	Y=53.017~018	円形	1.33	1.16	5			縄文
2	47土坑	X=44.850~851	Y=53.015~016	円形	1.17	1.08	24			縄文
2	48土坑	X=44.853	Y=53.014~015	楕円形	(0.63)	0.76	15	N-17°-W	49・50土	縄文
2	49土坑	X=44.853~854	Y=53.013~014	方形?	(0.18)	1.11	11		48・50土	縄文
2	50土坑	X=44.853~854	Y=53.014~015	円形	1.20	1.10	48		48・49土	縄文
2	51土坑	X=44.849~850	Y=53.013~015	長方形	1.52	0.88	18	N-80°-W	52土	縄文
2	52土坑	X=44.850~851	Y=53.013~015	楕円形	1.40	(0.80)	9	N-82°-E	51土	縄文
2	53土坑	X=44.851~852	Y=53.011~012	円形?	1.68	(0.92)	80	N-26°-W	54土	縄文
2	54土坑	X=44.851~852	Y=53.012~013	楕円形	1.36	1.06	96	N-68°-E	53土	縄文
3	55土坑	X=44.906~907	Y=53.037~038	円形?	1.33	(0.74)	78	N-25°-W	4堅状	縄文
2	56土坑	X=44.847~848	Y=53.019~020	長方形?	(0.78)	0.62	31	N-80°-E	57土	縄文
2	57土坑	X=44.845~848	Y=53.019~020	楕円形	(1.53)	(0.66)	65	N-18°-W	56・90土	縄文
2	58土坑	X=44.855~856	Y=53.021~022	円形	1.22	1.20	30		1屋外炉、P56	縄文
3	59土坑	X=44.889	Y=53.027	円形	0.73	0.73	101			縄文
3	60土坑	X=44.888~889	Y=53.028~029	円形	1.32	1.18	28			縄文
3	61土坑	X=44.880~882	Y=53.030~031	楕円形	1.63	1.12	21	N-36°-E	P118・P119	縄文
3	62土坑	X=44.908~910	Y=53.037~039	楕円形	2.02	(1.01)	30	N-27°-W	4堅状	縄文

第2節 縄文時代

3	63上墳	X=44,883 ~ 884	Y=-53,029 ~ 030	楕円形	1.40	1.00	54	N-10°-E	67・71上、P99	縄文
3	64上墳	X=44,876 ~ 877	Y=-53,022 ~ 023	円形	1.15	1.08	57	-		縄文
3	65上墳	X=44,874 ~ 875	Y=-53,021 ~ 022	円形	1.35	(1.15)	38	-		縄文
3	66上墳	X=44,881 ~ 882	Y=-53,024 ~ 025	円形	1.27	1.21	13	-	85上、P88	縄文
3	67上墳	X=44,883 ~ 884	Y=-53,029 ~ 031	円形	1.30	1.20	28	-	63・68・71上、P99	縄文
3	68上墳	X=44,883 ~ 885	Y=-53,030 ~ 031	不明	(1.73)	(1.23)	36	N-16°-W	67・71上、6壱伏	縄文
3	69上墳	X=44,922 ~ 923	Y=-53,037	方形	1.02	0.97	31	-	12建	縄文
3	70上墳	X=44,890 ~ 891	Y=-53,030 ~ 031	不定形	1.40	1.03	56	N-85°-W	P81 ~ P84・P111	縄文
3	71上墳	X=44,883 ~ 884	Y=-53,029 ~ 030	楕円形	1.42	1.11	134	N-11°-E	63・67・68上、P99	縄文
2	72上墳	X=44,829 ~ 832	Y=-53,010 ~ 012	楕円形	2.45	2.31	21	N-18°-E		縄文
2	73上墳	X=44,835 ~ 837	Y=-53,014 ~ 015	長方形	1.76	1.46	19	N-10°-E		縄文
2	74上墳	X=44,833 ~ 835	Y=-53,008 ~ 009	円形?	1.71	(0.64)	104	N-18°-E	13建	縄文
2	75上墳	X=44,832 ~ 834	Y=-53,013 ~ 015	円形	2.26	2.13	55	-		縄文
3	76上墳	X=44,875 ~ 876	Y=-53,029 ~ 030	不定形	0.18	0.78	43	N-15°-E	15建	縄文
2	77上墳	X=44,842 ~ 843	Y=-53,016 ~ 017	不明	(1.20)	(0.30)	(12)	N-79°-W	14建	縄文
3	78上墳	X=44,894 ~ 895	Y=-53,030	楕円形	1.05	0.60	28	N-10°-W	5壱伏	縄文
2	79上墳	X=44,835 ~ 836	Y=-53,010 ~ 011	方形	1.08	1.02	26	-	13建、80・87上	縄文
2	80上墳	X=44,834 ~ 835	Y=-53,010	円形	0.89	0.81	119	-	13建、79・87上	縄文
2	81上墳	X=44,833 ~ 834	Y=-53,009 ~ 010	円形	0.68	0.65	45	-	13建	縄文
3	82上墳	X=44,894 ~ 895	Y=-53,033 ~ 034	円形	0.94	0.86	33	-		縄文
3	83上墳	X=44,893	Y=-53,028 ~ 029	楕円形	0.90	0.51	61	N-88°-E	P129	縄文
3	84上墳	X=44,894 ~ 895	Y=-53,028	楕円形	0.71	0.63	46	N-13°-W		縄文
3	85上墳	X=44,881	Y=-53,024 ~ 025	不明	1.10	(0.53)	15	N-70°-W	66上、P138	縄文
2	86上墳	X=44,832	Y=-53,009	楕円形	(0.60)	0.72	22	N-80°-W	13建	縄文
2	87上墳	X=44,834 ~ 835	Y=-53,009 ~ 010	円形	1.26	1.21	118	-	13建、79・80上	縄文
2	89上墳	X=44,836	Y=-53,009	楕円形	0.92	0.75	56	N-40°-E	13建、P94	縄文
2	90上墳	X=44,845 ~ 847	Y=-53,019 ~ 020	不明	(1.45)	(0.85)	60	N-18°-W	57上	縄文
2	91上墳	X=44,847 ~ 848	Y=-53,012	円形	(1.10)	(0.56)	52	-	92・98上	縄文
2	92上墳	X=44,846 ~ 847	Y=-53,011 ~ 013	楕円形	1.68	1.43	114	N-23°-W	14建、93・94・97上	縄文
2	93上墳	X=44,845 ~ 846	Y=-53,011 ~ 012	楕円形	1.30	0.90	70	N-60°-W	14建、92・94・97上	縄文
2	94上墳	X=44,845 ~ 846	Y=-53,011 ~ 012	楕円形	(1.24)	1.24	66	N-60°-W	14建、92・93・97上	縄文
2	95上墳	X=44,846 ~ 847	Y=-53,014 ~ 015	楕円形	1.50	1.03	53	N-86°-E	14建	縄文
2	96上墳	X=44,844 ~ 845	Y=-53,016 ~ 017	楕円形	1.05	0.92	17	N-40°-W	14建	縄文
2	97上墳	X=44,845 ~ 846	Y=-53,012 ~ 013	不明	1.03	(0.38)	86	N-87°-W	14建、92 ~ 94上	縄文
2	98上墳	X=44,847 ~ 848	Y=-53,012 ~ 013	楕円形	1.33	1.16	58	N-87°-E	14建、91上	縄文
2	99上墳	X=44,843 ~ 844	Y=-53,017	楕円形	(0.78)	0.86	20	N-4°-W	14建、103上	縄文
2	100上墳	X=44,844 ~ 845	Y=-53,017 ~ 018	楕円形	0.86	0.70	17	N-40°-W	14建、103上	縄文
2	101上墳	X=44,844 ~ 845	Y=-53,017 ~ 019	楕円形	(1.05)	1.22	50	N-9°-E	14建、103上	縄文
2	102上墳	X=44,845 ~ 847	Y=-53,017 ~ 018	楕円形	1.20	0.96	82	N-0°	14建	縄文
2	103上墳	X=44,843 ~ 845	Y=-53,016 ~ 018	円形	1.40	(1.05)	110	-	14建、99 ~ 101上	縄文
2	104上墳	X=44,843 ~ 844	Y=-53,013 ~ 015	円形	2.20	(1.40)	163	-	14建、105上	縄文
2	105上墳	X=44,844 ~ 845	Y=-53,012 ~ 013	楕円形	1.79	1.45	93	N-27°-E	14建、104上	縄文
1	106上墳	X=44,853 ~ 854	Y=-52,972 ~ 974	楕円形	(0.90)	1.10	115	N-35°-E	9建、107上	縄文
1	107上墳	X=44,854	Y=-52,972	不明	(0.50)	0.27	0.52	N-20°-E	9建、106上	縄文

第3章 検出された遺構と遺物

第3表 前畑J遺跡ピット一覧 建・竪穴建物 形状・竪穴遺構

調査区	遺構名	位置		平面形状	規模			長軸方位	重複関係	備考
		X座標	Y座標		長軸m	短軸m	深さcm			
1	1	X=44.858	Y=52.890	円形	0.50	0.46	15	—		
1	2	X=44.858 ~ 859	Y=52.891	楕円形	0.54	0.47	16	N-2°-W		
1	3	X=44.857 ~ 858	Y=52.890 ~ 891	円形	0.45	(0.32)	31	—		
1	4	X=44.858	Y=52.892	円形	0.54	0.52	44	—		
1	5	X=44.858	Y=52.892 ~ 893	円形	0.48	0.43	11	—		
1	6	X=44.857 ~ 858	Y=52.893 ~ 894	楕円形	0.60	(0.54)	18	N-3°-W		
1	7	X=44.858	Y=52.897	円形	0.51	0.50	16	—		
1	8	X=44.862	Y=52.886 ~ 887	不明	0.43	(0.20)	20	N-82°-E		
1	9	X=44.853	Y=52.978 ~ 979	円形	0.34	0.34	58	—		6上
1	10	X=44.849 ~ 850	Y=52.950 ~ 951	不定形	0.61	0.58	23	N-89°-E		P24
1	11	X=44.849 ~ 850	Y=52.947 ~ 948	楕円形	0.72	0.60	50	N-36°-E		
1	12	X=44.852	Y=52.948	楕円形	0.25	0.21	41	N-1°-E		
1	13	X=44.850 ~ 851	Y=52.957	楕円形	0.43	0.36	10	N-72°-E		縄文
1	14	X=44.852	Y=52.963	不定形	0.78	0.46	32	N-50°-E		縄文
3	15	X=44.953 ~ 954	Y=53.034 ~ 035	楕円形	0.63	0.51	29	N-58°-E		
3	16	X=44.949	Y=53.037 ~ 038	楕円形	0.68	0.62	13	N-59°-E		
1	17	X=44.851 ~ 852	Y=52.964	楕円形	0.40	0.25	20	N-20°-W		縄文
1	19	X=44.853	Y=52.948 ~ 949	円形	(0.46)	(0.44)	21	—		
1	20	X=44.851 ~ 852	Y=52.948	楕円形	(0.44)	(0.30)	41	N-10°-W		
1	21	X=44.849	Y=52.946 ~ 947	楕円形	0.42	0.38	38	N-1°-E		
1	22	X=44.854	Y=52.933 ~ 934	円形	(0.40)	0.42	32	—		11建 P 5
1	23	X=44.850	Y=52.941	円形	0.36	0.35	19	—		
1	24	X=44.849	Y=52.950 ~ 951	不明	(0.14)	(0.32)	(9)	N-80°-W		P10
1	25	X=44.849	Y=52.950	円形	0.25	0.23	32	—		
1	26	X=44.849 ~ 850	Y=52.950 ~ 951	円形	0.98	0.96	28	—		
1	27	X=44.850 ~ 851	Y=52.937	楕円形	0.65	0.51	60	N-3°-E		11建 P 3
1	28	X=44.853 ~ 854	Y=52.940	楕円形	0.26	0.18	12	N-15°-W		11建
1	29	X=44.852	Y=52.940	楕円形	0.32	0.23	18	N-10°-W		11建
1	30	X=44.853	Y=52.938	楕円形	0.50	0.40	73	N-20°-W		11建 P 7
1	37	X=44.852	Y=52.934	円形	0.36	0.32	67	—		11建 P 6
1	39	X=44.851 ~ 852	Y=52.933 ~ 934	円形	0.65	0.60	45	—		11建 P 8
1	40	X=44.851	Y=52.933 ~ 934	楕円形	0.71	0.50	40	N-88°-W		11建 P 2
1	42	X=44.853	Y=52.961 ~ 962	円形	0.29	0.25	24	—		縄文
1	43	X=44.850	Y=52.970	円形	0.31	0.29	23	—		縄文
1	44	X=44.920	Y=53.038	円形	0.23	0.22	10	—		縄文
3	45	X=44.920	Y=53.048	円形	(0.20)	(0.20)	12	—		縄文
3	46	X=44.920	Y=53.036 ~ 037	円形	0.22	0.20	31	—		縄文
2	47	X=44.853 ~ 854	Y=53.019	不定形	0.63	0.36	46	N-56°-W		縄文
2	48	X=44.855	Y=53.022	円形	0.25	0.24	31	—		縄文
2	49	X=44.854	Y=53.021	円形	0.29	0.25	36	—		縄文
2	50	X=44.855	Y=53.021	円形	0.25	0.25	33	—		縄文
2	51	X=44.854	Y=53.020	方形	0.24	0.23	19	—		縄文
2	52	X=44.854	Y=53.019	円形	0.25	0.24	30	—		縄文
2	53	X=44.856	Y=53.022 ~ 023	楕円形	0.41	0.32	29	N-20°-E		縄文
2	54	X=44.856	Y=53.022	楕円形	0.19	0.15	15	N-30°-W		縄文
2	55	X=44.856	Y=53.022	楕円形	0.27	0.23	16	N-2°-E		縄文
2	56	X=44.856	Y=53.021	楕円形	0.26	0.19	26	N-42°-W		8上 縄文
2	57	X=44.855 ~ 856	Y=53.020	楕円形	0.31	0.24	12	N-84°-E		縄文
2	58	X=44.855	Y=53.021	楕円形	0.22	0.18	18	N-70°-E		縄文
2	59	X=44.856	Y=53.019 ~ 020	円形	0.31	0.31	19	—		縄文
2	60	X=44.856	Y=53.019	楕円形	0.35	0.27	15	N-42°-W		縄文
2	61	X=44.855 ~ 856	Y=53.019	不定形	0.61	0.54	41	N-83°-E		縄文
2	62	X=44.854	Y=53.016	楕円形	0.25	0.22	16	N-18°-W		縄文
2	63	X=44.852	Y=53.015	円形	0.21	0.19	13	—		縄文
2	64	X=44.849	Y=53.017	楕円形	0.21	0.19	22	N-85°-E		縄文
2	65	X=44.848 ~ 849	Y=53.019	円形	0.30	0.28	15	—		縄文
2	66	X=44.850	Y=53.020	不明	(0.19)	(0.10)	53	N-15°-W		8上 縄文
3	67	X=44.879 ~ 880	Y=53.027 ~ 028	円形	0.55	0.50	120	—		15建 P 9
3	69	X=44.882 ~ 883	Y=53.028	円形	0.42	0.42	32	—		

3	70	X=44.878 ~ 879	Y=53.028	楕円形	0.61	0.55	48	N-8°-W	15建、P87	
3	71	X=44.878 ~ 879	Y=53.025	楕円形?	(0.25)	0.28	30	N-27°-E		
3	72	X=44.878 ~ 879	Y=53.024	楕円形	0.35	0.27	22	N-17°-E		
3	73	X=44.878 ~ 879	Y=53.024	楕円形	0.41	0.34	36	N-68°-W		
3	74	X=44.876	Y=53.026	楕円形	0.50	0.41	64	N-22°-E		
3	75	X=44.892	Y=53.033	楕円形	0.57	0.51	19	N-38°-W		
3	76	X=44.891 ~ 892	Y=53.031	楕円形	0.70	0.49	73	N-28°-W		
3	77	X=44.890 ~ 891	Y=53.032	円形	0.43	0.43	44	—		
3	78	X=44.890	Y=53.032	円形	0.30	0.27	11	—		
3	79	X=44.890	Y=53.031 ~ 032	円形	0.35	0.35	27	—		
3	80	X=44.890	Y=53.031	楕円形	0.39	0.25	20	N-3°-E		
3	81	X=44.889 ~ 890	Y=53.031	楕円形	0.50	0.38	60	N-73°-W	70上	
3	82	X=44.890	Y=53.031	円形	0.23	0.22	42	—	70上	
3	83	X=44.890	Y=53.031	円形	0.28	0.25	80	N-84°-E	70上	
3	84	X=44.890 ~ 891	Y=53.030	円形	0.46	0.44	20	—	70上	
3	85	X=44.891 ~ 892	Y=53.032 ~ 033	楕円形	0.73	0.45	68	N-58°-W		
3	86	X=44.893	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.70	0.60	69	N-21°-W		
3	87	X=44.879	Y=53.028	円形	0.43	0.38	65	—	15建、P70	
3	88	X=44.881 ~ 882	Y=53.024	楕円形	0.39	0.27	38	N-73°-W	66上	
2	89	X=44.835	Y=53.014	円形	0.30	0.27	45	—	73上	縄文
2	90	X=44.856	Y=53.013	楕円形	0.31	0.25	10	N-6°-W		縄文
2	91	X=44.834	Y=53.013	円形	0.25	0.24	18	—		縄文
2	92	X=44.829	Y=53.014	円形	0.31	0.28	26	—		縄文
2	93	X=44.834	Y=53.011	楕円形	0.50	0.46	33	N-2°-W	13建	縄文
2	94	X=44.836	Y=53.009	円形	0.45	0.45	19	—	13建、89上	縄文
2	95	X=44.835 ~ 836	Y=53.014 ~ 015	楕円形	0.65	0.43	13	N-80°-E	73上	縄文
2	96	X=44.835	Y=53.014 ~ 015	楕円形	0.24	0.19	31	N-73°-W		縄文
3	97	X=44.891	Y=53.031	楕円形	0.87	0.43	35	N-89°-W		
3	98	X=44.875 ~ 876	Y=53.028	円形	0.44	0.40	82	—		15建 P 3 縄文
3	99	X=44.884	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.48	0.40	94	N-24°-E	63・67・71上	縄文
3	100	X=44.892	Y=53.030 ~ 031	楕円形	0.55	0.48	37	N-81°-E		
3	101	X=44.879	Y=53.030 ~ 031	楕円形	0.55	0.41	75	N-56°-E		15建 P 6 縄文
3	102	X=44.878 ~ 879	Y=53.029 ~ 030	円形	0.66	0.61	67	N-14°-W	15建	縄文
3	103	X=44.878	Y=53.028 ~ 029	楕円形	0.70	0.47	54	N-5°-E	15建	縄文
3	104	X=44.891 ~ 892	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.62	0.45	40	N-12°-E		
3	105	X=44.889 ~ 890	Y=53.032	円形	0.46	0.41	24	—		
3	106	X=44.890	Y=53.029	円形	0.52	0.44	56	—		
3	107	X=44.878 ~ 879	Y=53.027 ~ 028	楕円形	0.60	0.41	54	N-64°-W		15建 P 8 縄文
3	108	X=44.893	Y=53.033	円形	0.46	0.42	60	—		
3	110	X=44.876 ~ 877	Y=53.032 ~ 033	楕円形	0.96	0.87	102	N-74°-E	15建	縄文
3	111	X=44.889 ~ 890	Y=53.030 ~ 031	円形	0.35	0.30	61	—	70上	縄文
3	113	X=44.895	Y=53.029	円形	0.45	0.40	58	—		
3	114	X=44.889	Y=53.032	不明	0.59	(0.32)	31	N-17°-W		
3	116	X=44.895	Y=53.032	円形	0.41	0.38	17	—		
3	117	X=44.878	Y=53.027	円形	0.34	0.34	54	—		15建 P 1 縄文
3	118	X=44.880 ~ 881	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.68	0.46	40	N-10°-E	61上	
3	119	X=44.881 ~ 882	Y=53.030 ~ 031	楕円形	0.87	0.49	50	N-58°-E	61上	
3	120	X=44.881	Y=53.028	円形	0.30	0.28	71	—		
3	121	X=44.881	Y=53.028	円形	0.36	0.30	39	—		
3	122	X=44.880	Y=53.027	不定形	0.38	0.34	29	N-1°-W		
3	123	X=44.882 ~ 883	Y=53.029	不定形	0.58	0.50	46	N-20°-E		
3	124	X=44.894	Y=53.031	楕円形	0.46	0.37	24	N-20°-E	5型坑	
3	125	X=44.892	Y=53.029	方形	0.32	0.29	46	—		
3	126	X=44.879	Y=53.032	楕円形	0.82	(0.55)	63	N-36°-W	P137	
3	127	X=44.887	Y=53.031 ~ 032	長方形	0.46	0.39	22	N-85°-W		
3	128	X=44.881 ~ 882	Y=53.028	円形	0.50	0.44	56	—		
3	129	X=44.893 ~ 894	Y=53.029	楕円形	0.40	0.32	78	N-31°-W	83上	
3	130	X=44.887	Y=53.029	楕円形	0.60	0.52	42	N-41°-W		

第3章 検出された遺構と遺物

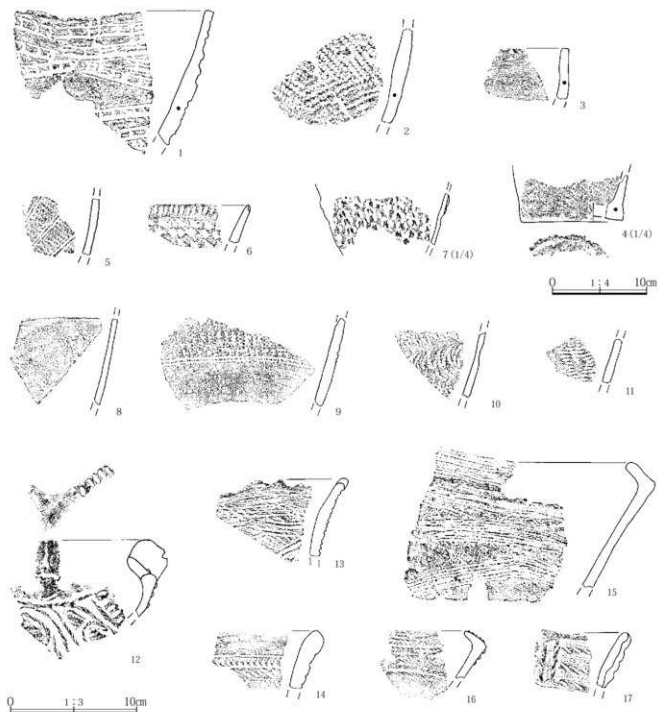
3	131	X=44.880 ~ 881	Y=53.024	不明	0.40	(0.15)	10	N-75°-W		
3	132	X=44.880 ~ 881	Y=53.024	楕円形	(0.26)	0.21	30	N-6°-W		
3	133	X=44.878 ~ 879	Y=53.022	円形	0.36	0.33	16	-		
3	134	X=44.879	Y=53.023	円形	0.27	0.28	22	-		
3	135	X=44.880 ~ 881	Y=53.023	不明	(0.56)	(0.30)	50	N-71°-W		
3	136	X=44.880 ~ 881	Y=53.028	円形	0.32	0.30	42	-		
3	137	X=44.879	Y=53.031 ~ 032	円形	0.38	0.36	85	-	P126	
3	138	X=44.881	Y=53.025	楕円形	0.48	0.38	31	N-40°-E	85上	
3	139	X=44.873 ~ 874	Y=53.020	楕円形	0.96	0.63	62	N-27°-E		
3	140	X=44.877 ~ 878	Y=53.025	円形	0.40	0.36	40	-		
3	141	X=44.874	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.56	0.45	75	N-46°-E		
3	142	X=44.877	Y=53.030 ~ 031	楕円形	0.55	0.46	45	N-51°-E	15建	縄文
2	143	X=44.833	Y=53.011	楕円形	(0.21)	0.25	19	N-65°-E	13建	縄文
3	144	X=44.880	Y=53.029 ~ 030	楕円形	0.50	0.45	59	N-89°-E		15建 P 10 縄文
3	145	X=44.880 ~ 881	Y=53.029	円形	0.50	0.43	42	-		15建柱穴 縄文
3	146	X=44.877	Y=53.028	円形	0.37	0.34	60	-		15建 P 2 縄文
3	147	X=44.878	Y=53.032	不定形	0.52	0.49	57	N-50°-E		15建 P 4 縄文
3	148	X=44.876	Y=53.030	円形	0.46	0.46	45	-	15建	
2	149	X=44.843	Y=53.011	円形	0.29	0.24	11	-		縄文
2	150	X=44.844	Y=53.011	円形	0.31	0.26	11	-		縄文
3	151	X=44.879	Y=53.031	円形	0.39	0.38	47	-		15建 P 5 縄文
2	152	X=44.838 ~ 839	Y=53.015	円形	0.30	0.30	35	-		縄文
2	153	X=44.837	Y=53.011 ~ 012	円形	0.23	0.21	30	-		縄文
2	154	X=44.831	Y=53.014	円形	0.23	0.22	31	-		縄文
2	155	X=44.830	Y=53.014	円形	0.21	0.20	28	-		縄文
2	156	X=44.848	Y=53.014	円形	0.53	0.48	22	-		縄文

縄文土器遺構外出土(第107～121図, PL.46～54)

遺構外出土土器は前期から後期まで継続して出土している。時期は有尾式、黒浜式、諸磯a式、浮島式から後期高井東式段階の土器型式が出土している。

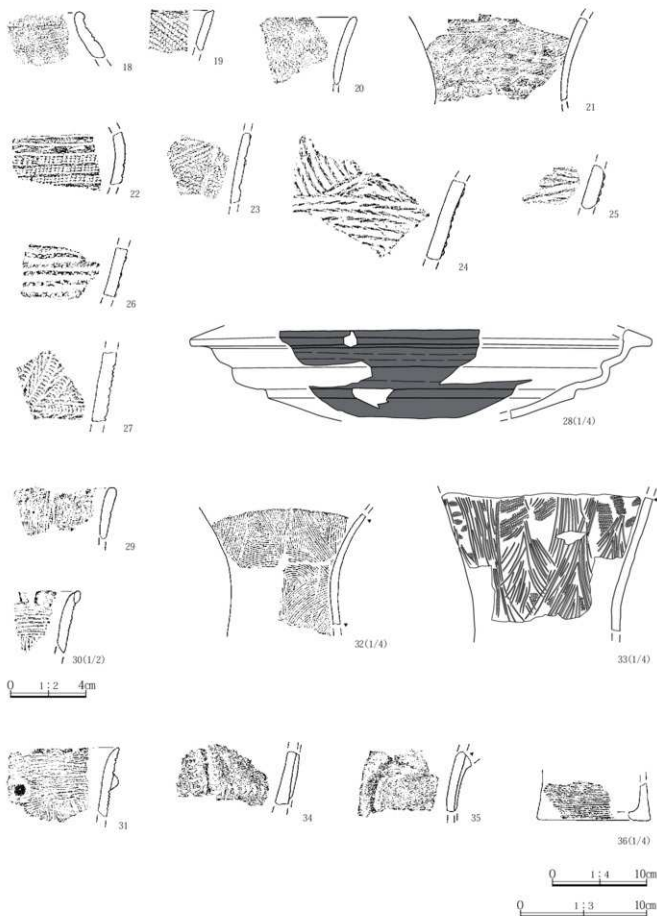
前畑J遺跡では前期の諸磯b式期が主体で中期から後期に型式が継続し、後期は加曾利E式期を主体としている。

1K

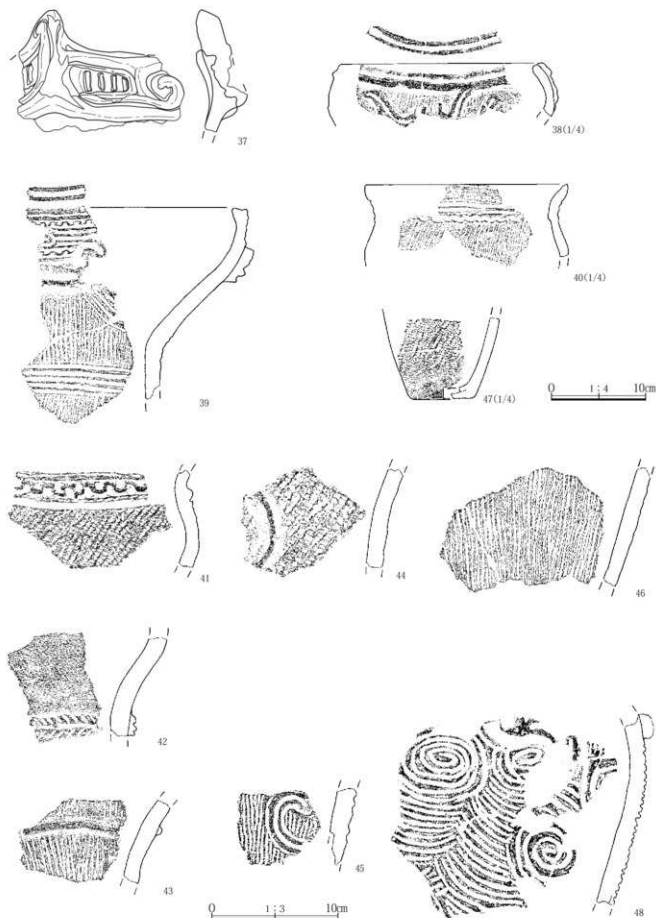


第107図 縄文遺構外出土遺物(1)

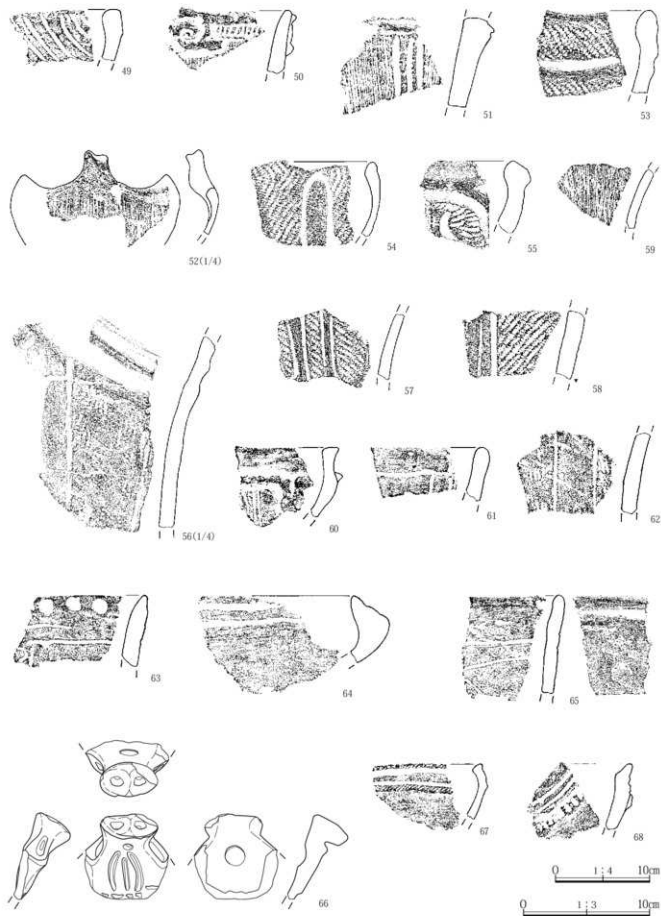
第3章 検出された遺構と遺物



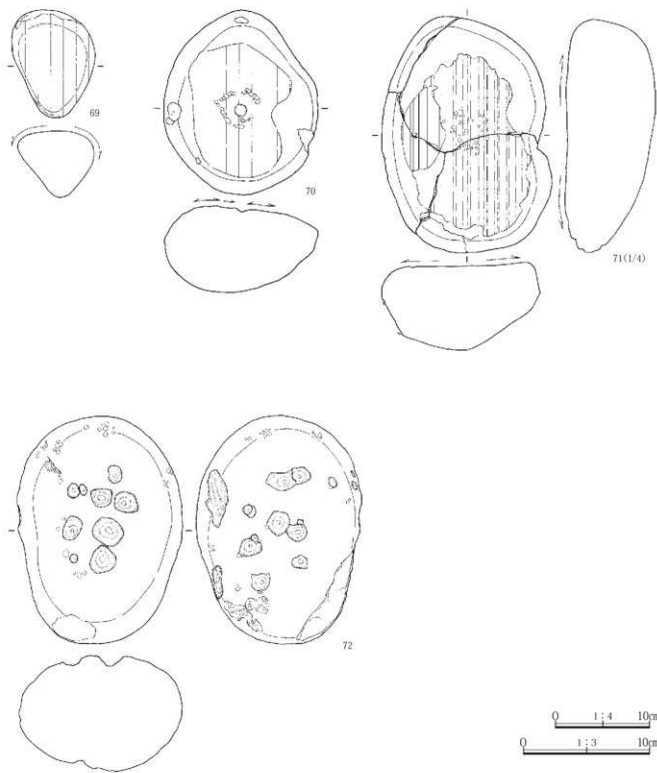
第108図 縄文遺構外出土遺物(2)



第109図 縄文遺構外出土遺物(3)

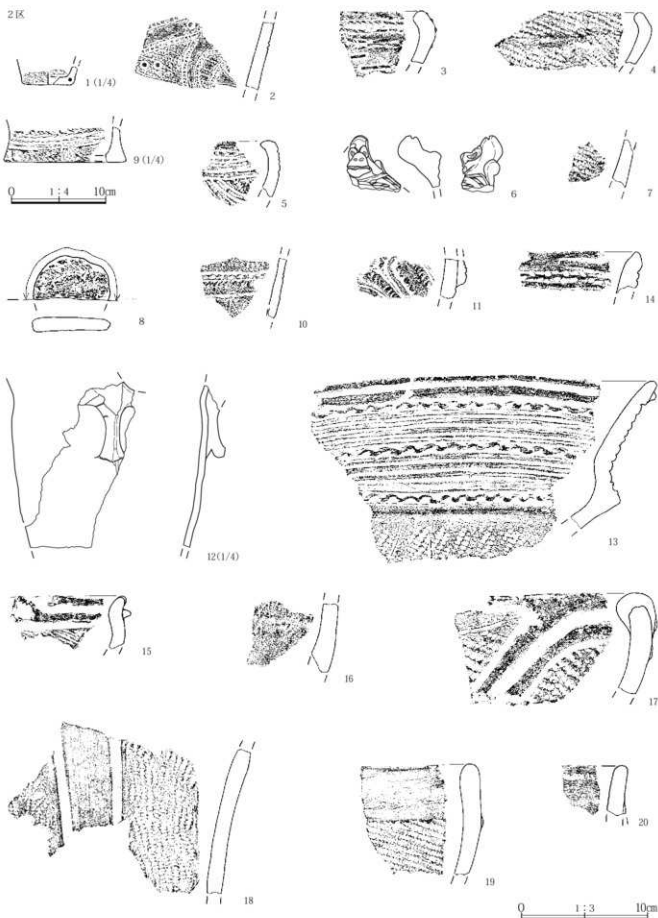


第110図 縄文遺構外出土遺物(4)

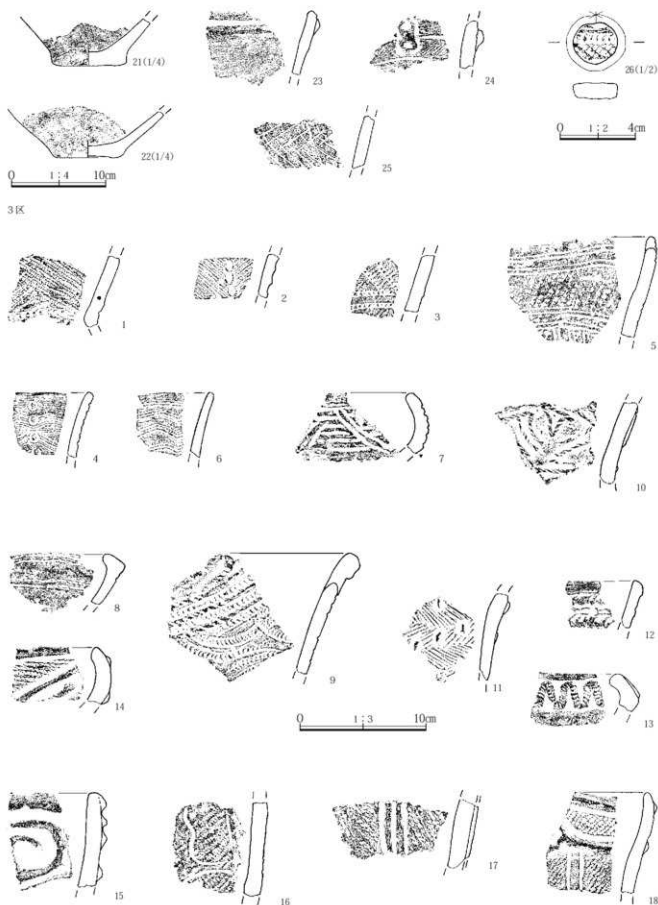


第111圖 縄文遺構外出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物

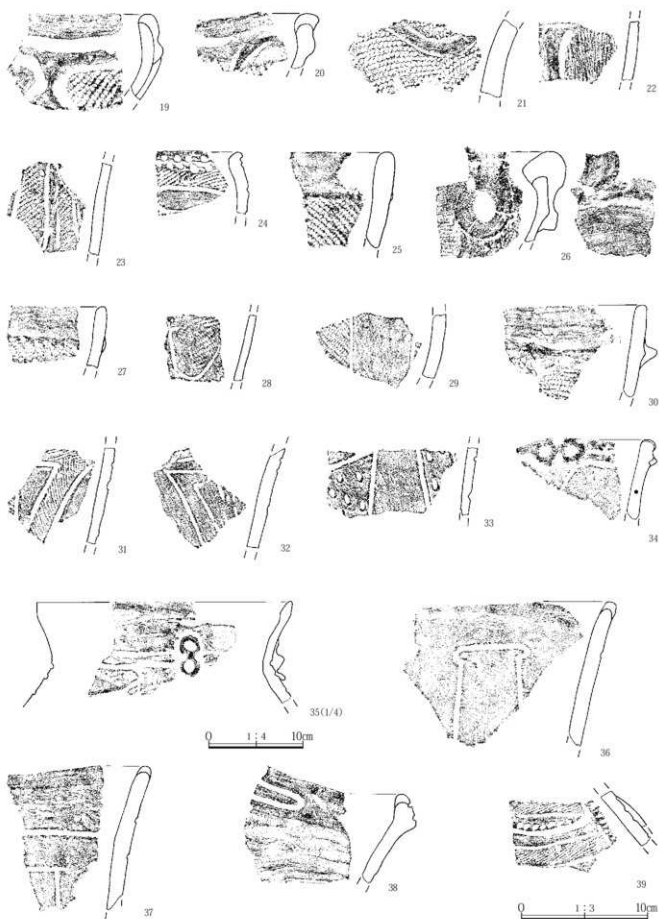


第112図 縄文遺構外出土遺物(6)



第113図 縄文遺構外出土遺物(7)

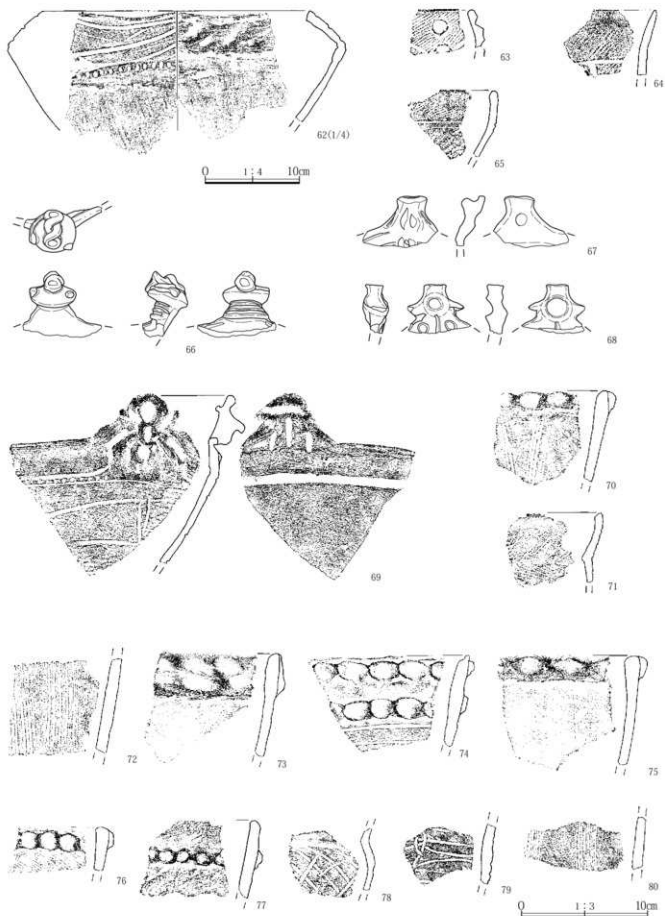
第3章 検出された遺構と遺物



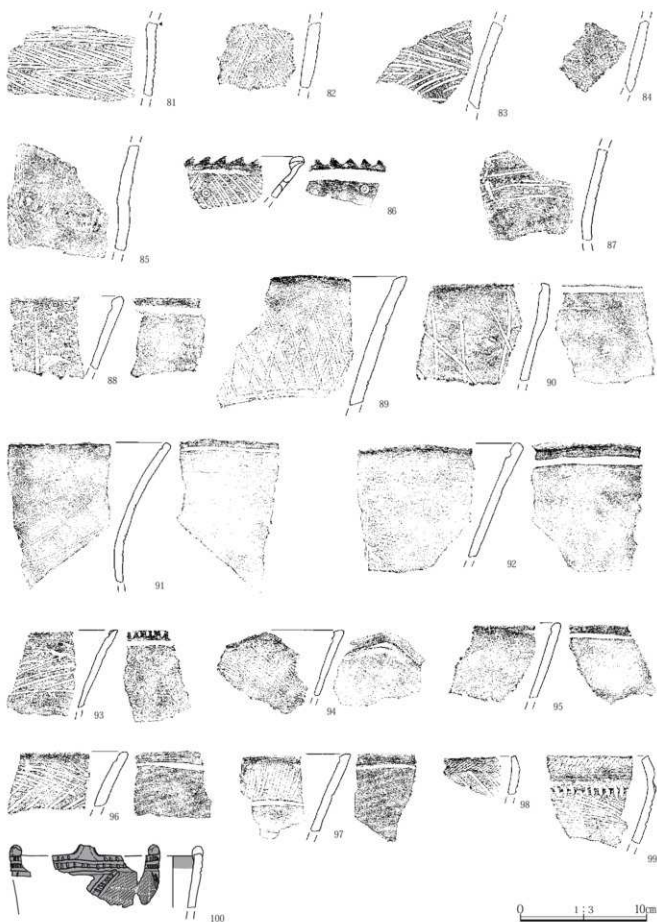
第114図 縄文遺構外出土遺物(8)



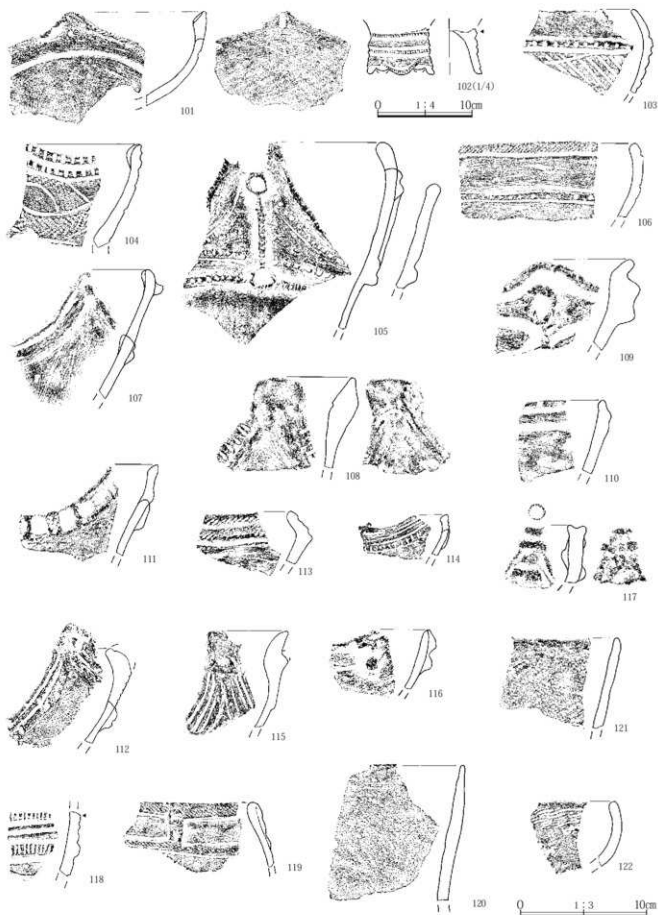
第115図 縄文遺構外出土遺物(9)



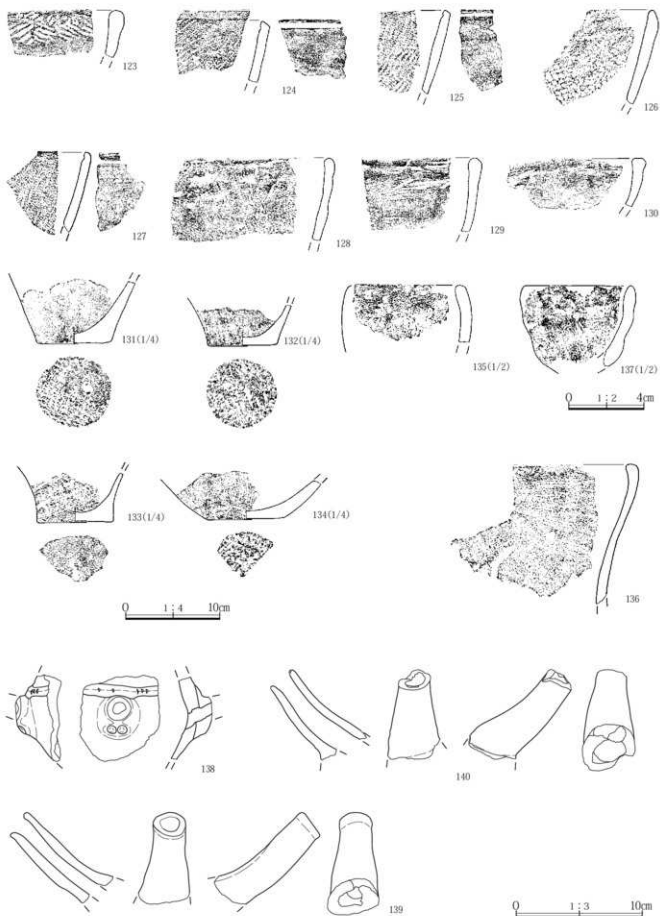
第116図 縄文遺構外出土遺物(10)



第117図 縄文遺構外出土遺物(11)

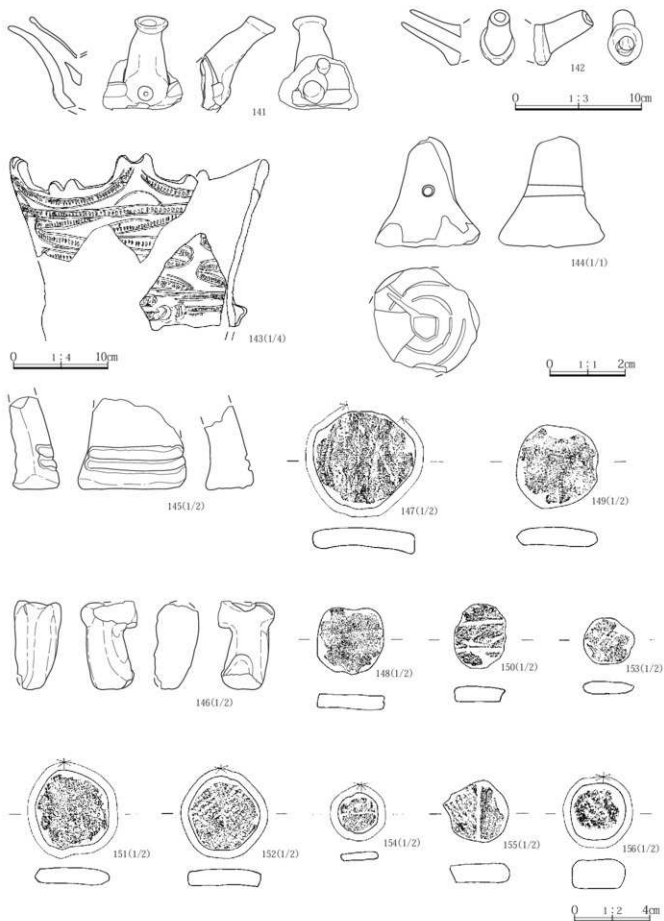


第118図 縄文遺構外出土遺物(12)

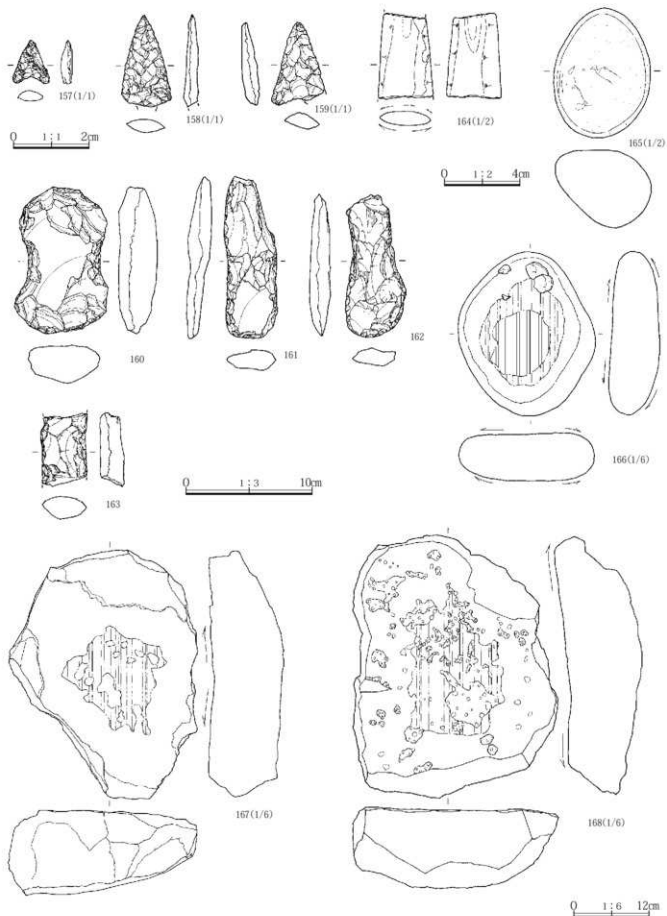


第119図 縄文遺構外出土遺物(13)

第3章 検出された遺構と遺物

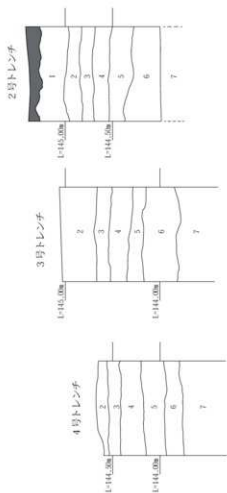
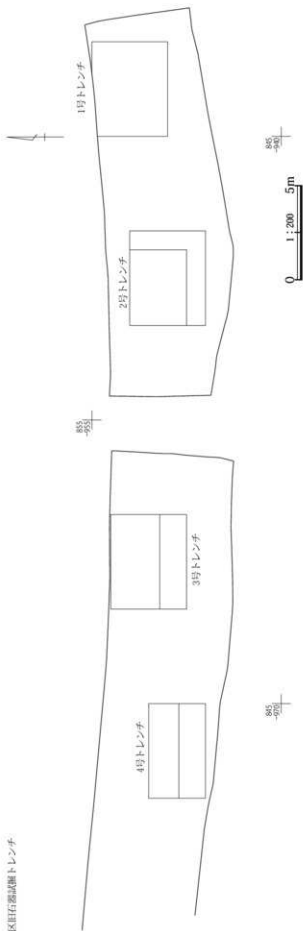


第120図 縄文遺構外出土遺物(14)



第121図 縄文遺構外出土遺物(15)

1 区紅石器試掘トレンチ



2号トレンチ

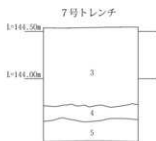
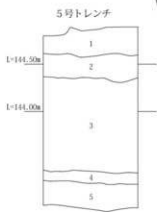
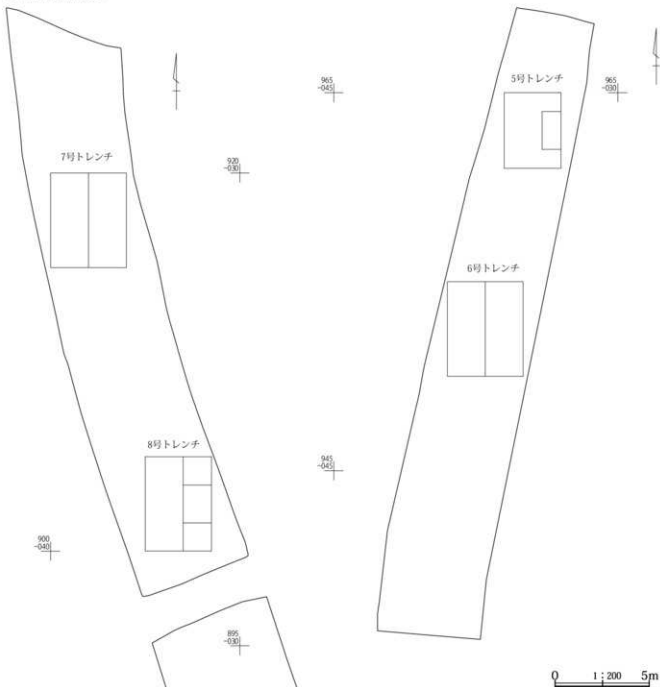
- 1 明褐色土(10187/6) YPを比較的多量含む。
- 2 明褐色土(10187/6) YPを少量含む。
- 3 におい、黄褐色土(10187/3) 砂を多量含む。
- 4 におい、黄褐色土(10185/3)
- 5 におい、黄褐色土(10185/3)
- 6 明褐色土(10183/3)
- 7 におい、黄褐色土(10187/3)

3号・4号トレンチ

- 1 明褐色土(10187/6) YPを少量含む。
- 2 明褐色土(10187/6) YPを多量含む。
- 3 におい、黄褐色土(10187/3) 砂を多量含む。
- 4 におい、黄褐色土(10185/3)
- 5 におい、黄褐色土(10185/3)
- 6 明褐色土(10183/3)
- 7 におい、黄褐色土(10187/3)

第122図 旧石器試掘(1)

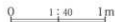
3区旧石器試掘トレンチ



5号・7号トレンチ

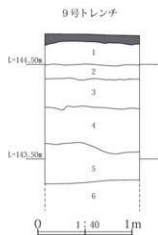
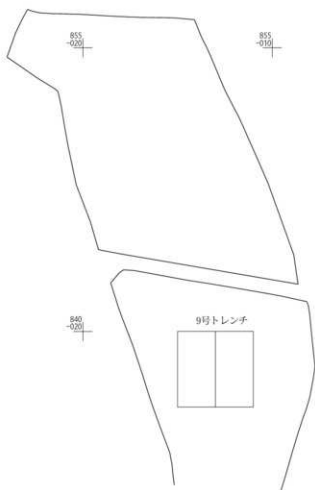
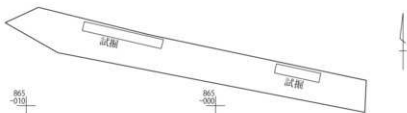
- 1 にごい・黄褐色土(10YR5/3)
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
- 3 にごい・黄褐色土(10YR7/3)
- 4 八崎軽石層 明黄褐色軽石(φ6~10mm)
- 5 八崎軽石層 灰白色軽石(φ3~7mm)

第123図 旧石器試掘(2)



第3章 検出された遺構と遺物

2区旧石器試掘トレンチ



9号トレンチ

- 1 明褐色土(10YR7/6) YPを比較的多量含む。
- 2 明褐色土(10YR7/6) YPを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR7/3) BPを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
- 5 暗褐色土(10YR3/3)
- 6 にぶい黄褐色土(10YR7/3)

0 1:200 5m

第124図 旧石器試掘(3)

第4章 まとめ

前畑J遺跡は桐生市新里町野に所在し、大間々扇状地系の西端に位置し、標高は145m前後、赤城山の南麓尾根上にある。遺跡の西側を鎌木川が南流し、桐生市内で粕川と合流する。

今回の前畑J遺跡では縄文時代～江戸時代までの遺構、遺物が確認された。周辺には多くの縄文時代の集落・古墳群や古墳時代以降の遺跡が分布している。遺構・遺物は縄文時代に集中し、前期から後期にかけて遺構や時期の濃い薄いはあるが継続する縄文集落遺跡である。

前畑J遺跡では縄文時代前期・中期の竪穴建物7棟、多くの土坑が確認されている。土坑は番号を振ったものが107基このうち縄文時代のは85基が確認されている。竪穴建物、土坑の時期は前期諸磯b式期、中期加曾利E1～2式期を中心に出土が確認されている。さらに前期・中期は竪穴建物、竪穴状遺構が確認され、85基の土坑が検出されている。前畑J遺跡を取り巻くように前畑D・F遺跡、更に西にある峯岸山遺跡、峯岸山古墳群遺跡でも縄文土器の出土が確認されている。赤城南麓周辺は縄文時代前期に集落が展開し、量は少ないが、黒浜期、諸磯a期に展開を始めることが遺物の出土から確認された。前畑J遺跡も同様に前期の主体は諸磯b期が主体となる。前畑J遺跡周辺には東西に同じ標高線上に縄文時代の遺跡が広く分布していることがわかる。桐生市内に確認される縄文時代の遺跡は耳飾りで有名な千網谷戸遺跡がある。千網谷戸遺跡は縄文時代後・晩期を中心とする遺跡であるが、その後も弥生時代、古墳時代と長期間継続する遺跡としてもよく知られている。大間々扇状地地形が当時の人々の生活条件に適していたことが伺える。千網谷戸遺跡が縄文晩期から弥生時代まで続くことから広大な大間々扇状地が山麓の森林、河川の流れなど生活する豊富な食料確保の条件がそろっていたと考えられる。前畑J遺跡が所在する新里町は、この大間々扇状地の西端に位置し、赤城山南麓に位置する。丘陵は南北に延び、尾根と尾根の間には谷が走る。谷を流路が流れ、人間の居住空間に適し、動物や植生には極めて良好な場所であると考えられる。今回調査した前畑

J遺跡は極めて狭い空間の調査であったが、縄文時代前期から後期に継続する土器型式が確認でき、赤城山麓の地形の中で豊かな縄文社会の存在を彷彿とさせる。前期は諸磯b式期が主となり、中期から後期に続く型式が多量に確認されている。このため前期末から中期前葉の土器型式は薄くなるが、前期から後期まで長期間、土器型式からみると集団社会が継続していたことを物語っている。今回の前畑J遺跡では前期は有尾式土器、黒浜式土器、諸磯式土器、浮島式土器が出土し、黒浜式土器と有尾式土器は少量の出土で、圧倒的量が諸磯式b式土器が出土している。前期の竪穴建物は、7・8・13・14・15号竪穴建物が確認され、特に14号竪穴建物から多量の諸磯b式土器が出土した。中期は9・14号竪穴建物から加曾利E1式土器が集中して出土したが、後期の竪穴建物は確認できなかった。土坑等から加曾利E1段階から高井東式土器までが出土し、主体は堀之内1段階と加曾利B2式土器である。後期は加曾利E5式土器から高井東式土器までの型式が時間を継続して出土している。3区土坑からは中期、加曾利E3式土器が多く、後期になると堀之内1式土器、加曾利B2式土器が確認されている。このように前期から後期に及ぶ遺物の出土から、長期間にわたる集団の活動をとらえることができる。後期の竪穴建物が確認されないが、その間は集落の立地をやや移動した可能性が考えられる。土坑、ビットに加え遺構外の土器片を加え検討すると、中期の勝飯式土器段階から高井東式土器段階まで濃い、薄いはあるが、土器型式が継続していることがわかる。

近年では縄文時代に、集団社会が構成されるという研究も多く発表され、集団社会の発展が指摘されている。それは集団内に存在する不平等性がすでに存在することが指摘されている。つまり大形の石を配した配石遺構や大型竪穴建物跡等の集落内での不平等さが指摘されている。集落には真ん中に広場を持ち、そこを囲むように重複する竪穴建物から地縁集団、墓の大小、墓域の有り様等から集団の構成や構造を感じ取れることも指摘されている。前畑J遺跡では調査面積の狭小さから、そのよう

な遺構の差異を指摘できるものは少なかった。そういった社会背景を感じさせる遺構は狭小な遺跡範囲では確認できなかった。しかし大間々扇状地を俯瞰すれば、周辺の遺跡群で、例えば千網谷戸遺跡では縄文時代後晩期から弥生時代へと変遷していることが見て取れる。縄文時代と弥生時代社会の成長は時代を経ても、継続していることがわかる。縄文時代社会から弥生時代社会に変換する足がかりが、ある程度進んでいたと考えられる。

前畑J遺跡では弥生時代の遺構遺物は確認されていない。古墳時代は前期から後期にかけての、竪穴建物が確認されている。前畑J遺跡での前期の竪穴建物は12号竪穴建物1棟で、出土遺物は東海系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕、など、外来系土器や在地の甕・壺形土器が混在して出土している。在地の土器の中には無文化した樽式土器遺物番号4が含まれている。さらに同竪穴建物遺物番号5の壺、10・11の甕も樽式土器の要素を含んでいる。このような出土例は弥生土器から土師器へ変換する時期の特徴で、県内では弥生時代から古墳時代へと変換する時期に頻繁に認められる典型的な共存状況とみることができる。大間々扇状地の南東端は現在の榎生市、太田市、みどり市があり、太田市内には前期古墳朝子塚古墳があり、石田川遺跡、高林遺跡等の集落が存在する。石田川遺跡と高林遺跡でも古墳時代東海系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕、北陸系土器等の土器が共存しながら古墳時代へのステージを通過している。県内では半世紀以上も前から、群馬県の古墳文化を構築したのは東海西部からの入植民であるとの説が根深く残っている。12号竪穴建物が存在した時代背景は『魏志倭人伝』によれば弥生時代から古墳時代の変換時、卑弥呼が亡くなって倭国は「相誅殺」するときである。戦乱の届中、東海西部から400km離れた群馬県に入植があったとは在りえない無謀な仮説である。前畑J遺跡12号竪穴建物は群馬県の弥生土器樽式土器が、古墳時代土師器と共存し、土師器化していく過程にある。さらに大間々扇状地西端にある前畑J遺跡と太田市にある石田川遺跡、高林遺跡等群馬県域大間々扇状地内に一気に入植民が散らばっていることは入植民ではなく、在地の弥生時代からの社会が成長した結果であることを示している。群馬県の弥生文化を持った弥生人が、群馬の古墳文化を創造したのは間違いないのだ。当然縄文時代から弥生時

代への社会も縄文時代から発展した集団社会の発展と理解できる。古墳時代になると周囲に多くの古墳群が出現し、中期・後期にかけての古墳群が分布する。前畑J遺跡では古墳時代前期は12号竪穴建物1棟にすぎないが、西に隣接する武井峯岸V遺跡では、前期の方形周溝墓が確認されている。前期の集落遺跡が周辺に分布していたことが考えられる。それでは前畑J遺跡の縄文集団から古墳時代へ結ぶ弥生時代の遺跡は、前畑F遺跡、峰岸山V遺跡、峰岸山古墳等で赤城南麓に分布する弥生時代後期の赤井戸式土器を確認することが出来る。さらに西に接する前橋市(旧粕川村)には弥生時代中期から後期、古墳時代前期に続く西迎遺跡が確認されるなど前畑J遺跡の12号竪穴建物を前後する時代の遺跡が西側に分布していることがわかる。その分布状況は縄文時代と様相が似て、赤城山麓の似通った標高上から下に広がることが確認される。伊勢崎波志江地区にも弥生時代末から古墳時代前期の集落が展開し、波志江中野面遺跡等多くの弥生時代末から古墳時代前期の集落が存在している。さらに前畑J遺跡の西、前橋市東部筑城地域には筑子遺跡・堤頭遺跡等の弥生時代中～後期の遺跡群が展開する。弥生時代中期後葉から古墳時代前期は水田農耕の開始とともに可耕地の確保に伴い水の確保を伴う川筋を下り平野部に展開すると考えることが出来る。前畑J遺跡西を流下する鎌木川はやがて粕川に合流し、南下し伊勢崎市に入ると川筋には多くの古墳群を構成していく。伊勢崎波志江地区にも古墳時代前期の集落が展開し、波志江中野面遺跡等多くの弥生時代末から古墳時代前期の集落が存在している。

粕川の川筋は南に下ると伊勢崎市につながり、伊勢崎市北部の関古墳群あるいは本間町古墳群へとつながっていく。特に5世紀代のお富士山古墳の石棺は長持型石棺で太田市太田天神山古墳同様畿内勢力との関係があったことが広く知られている。お富士山古墳は粕川の端、平野部に存在する。前畑J遺跡の西を南流する鎌木川はやがて粕川と合流する。5世紀代に入ると平野部全体を広く覆う地域を抑える人間が出現すると考えられる。粕川の流れの端に立地するお富士山古墳が伊勢崎市北部粕川の流れを抑える立地を示すことから広い流域の集団の首長と考えることができる。このように川筋を下り前畑J遺跡の次代になると古墳時代中期・後期にはその分布は

大きく平坦地である南の平野部に広がっていく。南部の低地部に広がる平野部は水田可耕地としてお富士山古墳の被葬者を中心とする諸集団がまとまって開拓展開したものと考えられる。大間々扇状地の西端に立地する前畑J遺跡は縄文から古墳時代前期の遺構が確認されている。弥生時代から古墳時代にかけて赤城山南麓の尾根つたいから平野低地部に広がる穀倉地帯に広がるものである。

水稲耕作が群馬県に限らず、関東地方全域に展開するのは弥生時代中期後半にあることが近年の発掘調査資料によってわかってきている。前橋市西迎遺跡や同市内荒砥川周辺の荒子遺跡、伊勢崎市波志江地区の集落遺跡等まず低地内微高地に散見される弥生時代中期から古墳時代前期の集落は農耕地を南に拡大していく。古墳時代中・後期はさらに集団を再編し、広大な農地開拓の開発が進んだ結果である。大きな集団はやがて5世紀代には畿内大和玉璽との関係を構築していた。大間々扇状地は穀倉地帯として機能を果たしていく。やがて穀倉地帯は、中近世になると前畑J遺跡1号溝出土遺物のような江戸時代の陶磁器が出土している。1号溝からは羽口、板碑が出土するなど、食料生産地の周辺には他の専業集団がいたことを示している。大間々扇状地の西端に位置する前畑J遺跡の端緒は縄文時代前期にあり、中期から後期まで縄文時代は継続する。また同じ桐生市内には晩期の千瀬谷戸遺跡は後・晩期に始まり弥生時代、古墳時代へと継続する集落である。大間々扇状地形が長期にわたり、豊富な水量を供給していたことが確認できる。

今回の前畑J遺跡の調査は縄文前期～後期、古墳時代、江戸時代への流れを示している。中近世の遺構・遺物は少量ではあるが、広い範囲の中で時代の推移と発展の痕跡が認めることができた。

また縄文時代竪穴建物も前期諸磯b式が主である。土坑も同様中期諸磯式土器が主であるが、土坑出土遺物には中期の土器や、後期加曾利E1式期から高井東式期に至るものも確認されるなど、長い時間を経過した拠点的な集落遺跡であるといえる。また遺構外とされる土器も多量に確認され、諸磯b式段階から高井東式段階へと長期にわたり濃い薄いはあるものの時間を経過していることがわかる。これらはローム台地上の縄文黒色土層の出土である。遺構掘削時の注意も必要である。1区1号遺

物集中の位置は9号竪穴建物の上面にあり、一部竪穴建物出土遺物と接合した。1区屋外炉、3区屋外炉を竪穴建物の炉であるとの可能性は否定できない。2区屋外炉は58土坑との重複で、58号土坑内に炉が作られていた。新旧関係は58土坑が古い。屋外炉とされた屋外炉周辺から諸磯b式土器が出土し、屋外炉は竪穴建物の炉の可能性が高い。遺構写真や調査方法の問題も含め、今後の縄文包含層の調査に生かすべきだと考える。これらのことは我々発掘調査担当者として常に肝に銘ずるべきことと考える。群馬県の古墳時代・文化は長い関東海地方西部の入植民によって構築された説が半世紀以上続いている。古墳時代に入ると桐生市、太田市、一部伊勢崎市を含む大間々扇状地は幾条にも及ぶ河川が集まる穀倉地帯として確立していく。今回の前畑J遺跡12号竪穴建物は古墳時代前期でも樽式土器の伝統を色濃く持つ土器が外来系S字状口縁台付甕、南関東系単口縁台付甕等と共存関係を示している。群馬県の在来樽式土器をもつ人々は古墳時代前期、初期の段階にすでに外来系土器を所有していたことが確認された。前畑J遺跡12号竪穴建物から出土した土器は石田川遺跡、高林遺跡の土器よりも古い様相を示している。こう言った状況は高崎市井野川流域、前橋市荒砥地域、いわば県内全域にみることができ、群馬県の古墳王国は樽式土器を母体とした群馬県在来の社会が発展したものである。

旧石器は微高地の1区に試掘を入れたが、ローム上面は圃場整備により掘削を受けており、一部では暗色帯まで削られていた。遺物の出土は確認できなかった。

遺物観察表

第4表 遺物観察表

1号竪穴建物									
棟目No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴		備考
第10区	1	土師器 甕	甕上 頸部片			細砂・粗砂/良好/ 橙	内面はナデ。頸部外面はヨコナデ。体部外面はナデ。ヨコナデを水平にすると内相する。		
2号竪穴建物									
第10区	1	土師器 甕	甕上 2/3	口 16.2 底 3.6	高 28.4	細砂・粗砂/良好/ にぶい黄	体部内外面整形の後、口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ目状の縦位ヘラナデ。内面はナデ。体部中央以下の器表は黒味を帯び、下位の器面は黒れる。		
3号竪穴建物									
第10区	1	土師器 杯	甕上 口縁部～体部中 位1/6	口 14.3		細砂・粗砂/良好/ にぶい黄	口縁部はヨコナデで外反。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。		
第10区	2	土師器 杯	甕上 口縁部～底部片	口 10.9 高 3.5		細砂/良好/にぶい 黄	底部は平底気味で口縁部はやや高い。底部内面周縁から口縁部はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。		
第10区	3	土師器 杯	甕上 3/4	12.1 高 4.4		細砂・粗砂少量/ 良好/にぶい黄	口縁部の立ち上がりは長めで、底部は浅く平底気味。口縁部外面中央は肥し。内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面は平底。		
第10区	4	土師器 杯	甕上 口縁部1/2、底 部3/4	口 13.1 高 4.2		細砂・粗砂/良好/ 黒	器表は黒褐色であるが、内面はにぶい黄褐色。口縁部はヨコナデ。底部内面は面放射状のヘラミガキ。底部外面はヘラケズリ。		
第10区	5	土師器 杯	甕上 2/3	口 13.0 高 5.0		粗砂/良好/黒	口縁部は長く、ヨコナデより外面の縦い線を伴う。底部外面のヘラケズリは幅広く回数が少ない。ヘラケズリは外面の縦線下にまで達しておらず、明確な線をなさない。		
第10区	6	土師器 鉢か 甕か	甕上 口縁部1/12	口 16.7		粗砂、礫微量/良 好/黒	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズリ。		
第10区	7	土師器 か 甕か	甕上 口縁部片			粗砂・細砂/良好/ 灰黄	口縁部外面はヘラミガキ。口縁部内面はナデか、内面下部はヘラミガキ。		
4号竪穴建物									
第12区	1	土師器 杯	甕上 口縁部、底 部1/4	口 12.0		細砂/良好/にぶい 赤	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。底部内面に不明黒書。		不明黒書。
第12区	2	須恵器 杯	甕上 完形	口 12.8 底 7.1	高 3.7	粗砂多、礫少量/ 還元成/灰	口縁部上位と体部外面下位。底部外面周縁の器表厚減。底部左回転糸切り後周縁を左回転器より、内外面に紫い火焼。底部外面焼成前の「十」へら記号。		
第12区	3	土師器 小型甕	甕上 口縁部～体部上 位1/3	口 12.1		細砂/良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部外面はヘラケズリ。小型「コ」の字状口縁部であろう。胎台が付くと考えられる。		
第12区	4	土師器 甕	甕上 口縁部～体部上 位1/2	口 20.3		細砂・粗砂/良好/ 赤	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズリ。口縁部外面に整形時の窪み残る。		
第12区	5	土師器 か 甕か	甕上 底部1/5	底 15.8		細砂少量/良好/黒	平底。内面は縦位ヘラケズリの後に縦位ヘラミガキ。外面はヘラケズリの後に縦位ヘラナデと横位のヘラケズリ。		仕切の時期とは異なるか。
第12区	6	土師器 甕	甕上 1/2	口 19.7 底 5.0	高 28.3	細砂・粗砂/良好/ 赤	口縁部はヨコナデ。口縁部外面に整形時の窪み残る。体部内面はナデ。体部から底部外面はヘラケズリ。		
第12区	7	石製品 うす玉	甕上 完形	長 1.1 幅 1.2	厚 0.3 重 0.58	珪質粘板岩	表面面は平坦で滑らかである。縦かへ線条痕がわずかに認められる。側面には縦方向の擦痕が認められる。		
5号竪穴建物									
第15区	1	土師器 杯	甕上 3/4	口 13.1 高 3.8		細砂/良好/黒	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面は丁寧なナデ。底部外面はナデに近いヘラケズリで1部欠片を有する。		
第15区	2	土師器 杯	甕上 1/2	口 14.8 高 4.6		細砂少量/良好/橙	底部内面周縁から口縁部外面は強いヨコナデ。口縁部は幅広く中央を沈線上に隆ませる。底部外面はヘラケズリ。		
第15区	3	土師器 杯	甕上 1/2	口 13.5 高 3.3		細砂・粗砂少量/ 良好/赤	底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面はナデ。底部外面はヘラケズリ。		
第15区	4	土師器 杯	甕上 1/2	口 13.5 高 3.7		細砂/良好/明 黒	断面中央から外面器表は明黒色。内面側の器表付近はにぶい黄褐色。底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部内面は放射状のヘラミガキ。底部外面はヘラケズリの後ナデで、器表にやや光沢を有する。		
第15区	5	土師器 杯	甕上 1/2	口 12.0		細砂・粗砂/良好/ オリーブ黒	断面はにぶい黄褐色。底部内面周縁から口縁部外面はヨコナデ。底部外面はヘラケズリ。		
第15区	6	土師器 鉢	甕上 口縁部1/2、底 部3/4	口 15.0 高 10.7		細砂・粗砂少量/ 良好/橙	口縁部はヨコナデ。体部から底部内面はナデ。体部外面は縦位ヘラケズリで下位の器表は厚減。		
第15区	7	土師器 小型甕	甕上 口縁部1/2欠	口 12.9 底 6.0	高 11.6	細砂、礫微量/良 好/橙・オリーブ 黒	口縁部はヨコナデで、内外面のナデと上打面は一致する。体部内面は幅広く上打によるナデ。体部外面は横位のナデに近いヘラケズリ。体部外面下位はナデ。底部外面は並面態。		
第15区	8	土師器 甕	甕上 底部一部欠	口 23.1		粗砂、礫微量/良 好/にぶい黄・黒	口縁部ヨコナデ後、体部内面はヘラミガキ。体部外面は縦位ヘラケズリ。体部下位外面は縦位ヘラケズリ。底部下部の器面は紫れ。器面の残存が不明瞭。		
第15区	9	土師器 甕か	甕上 口縁部1/6	口 19.8		細砂・粗砂/良好/ にぶい黄	口縁部は縦くなくが歪みがあり向き不明瞭。口縁部はヨコナデ。外面口縁部下位はヘラケズリか。		
第15区	10	土師器 甕	甕上 底部	底 7.8		細砂/良好/橙	内面はナデ。体部外面から底部外面ヘラケズリ。		

採 取 凡 号、No.	種 類 類 種	出土位置 埋 存 率	計 測 値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第158図	11 土師器 甕	甕上 口縁部～体部中 位1/3	口	17.0		細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。体部内面は幅広い工具によるナデ。体部 外面はヘラケズリ。	
第168図	12 土師器 壺	甕上 体部上位1/5				細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙	内面は幅広いの工具によるナデ。外面はヘラケズリ。最大径 下部に接合部の凸口縁が認められる。	
第168図 Pl.23	13 土師器 甕	甕上 口縁部～体部下 位1/3	口	18.9		細砂・粗砂/良好/ 明赤褐色・黒褐	口縁部はヨコナデでナデ仕上げの内外面で一致。ヨコナデ 後に体部内面は横位ナデ。外面は斜位ヘラケズリ。外面は 紐作り時の凹凸、内面は紐作り痕多く残る。	
第168図 Pl.23	14 土師器 甕	甕上 底部	底	5.2		細砂・粗砂/良好/ 黒褐色・橙	内面はナデ。外面は縦位ヘラケズリ。底部の器壁は厚い。 底部外面に葉脈状。	
第168図	15 土師器 甕	甕上 体部中位～底部 1/4	底	6.8		細砂・粗砂/良好/ 明赤褐色	内面はナデの後、部分的にヘラミガキ。外面はヘラケズリ の後にヘラミガキで下位ほど密なミガキを施し。単位不明 整。	16と同一個体 の可能性高 い。
第168図 Pl.24	16 土師器 甕	甕上 口縁部外、体部 上半1/3	口	15.7		細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。口縁部以下の内面はナデ。体部外面は ヘラケズリの後に幅広いヘラミガキ。	15と同一個体 の可能性高 い。
第178図 Pl.24	17 土師器 長頸甕	甕上 ほぼ完形	口	17.1 底 6.3	高 34.8	細砂・粗砂、礫微 量/良好/橙	口縁部歪む。口縁部はヨコナデ。体部内面は横位ナデ。体 部外面は縦位ヘラケズリで、下位のみ斜位ヘラケズリ。底 部外面はヘラケズリ。	
第178図 Pl.24	18 土師器 甕	甕上 3/4	口	18.5 底 7.2	高 34.2	粗砂・礫/良好/ にぶい黄橙	器面の荒れにより整形痕不明瞭。口縁部はヨコナデ。内面 は下位のヘラナデのみ見える。体部外面は縦位ヘラケズリ で下縁は横位ナデか。	
6号壜穴建物								
第188図 Pl.25	1 土師器 鉢	貯蔵穴 ほぼ完形	口	9.0 底 4.5	高 8.6	細砂・粗砂/良好/ 明赤褐色	口縁部はヨコナデ。体部内面はナデ。体部外面はヘラケズリ 。口縁部外面に整形時の窪み残る。縦位幅広い工具 によるナデ。体部外面下縁から底部ヘラケズリ。	
第188図 Pl.25	2 土師器 小型甕	甕上 2/3	口	8.3 底 4.7	高 10.3	細砂・粗砂/良好/ 明褐色	口縁部はヨコナデ。口縁部外面と肩部外面に紐作り痕残る。 体部内面はナデ。体部外面はハキ状工具によるナデ。体部 外面下縁から底部ヘラケズリ。	
第188図 Pl.25	3 土師器 小型甕	貯蔵穴 1/4	口	10.5 底 5.5	高 8.9 9.7	細砂・粗砂少量/ 良好/明赤褐色	口縁部歪む。口縁部はヨコナデ。体部から底部内面はナデ。 体部外面から底部外面はヘラケズリ。	
第188図 Pl.25	4 土師器 甕	貯蔵穴 口縁部1/2欠	口	25.3 底 8.2	高 26.9	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部はヨコナデ。体部内面は横位ナデの後に縦位ヘラケ ズリ。体部外面上半はナデで紐作り痕残る。体部外面下半 はヘラケズリ。	
第188図	5 土師器 台付甕	甕上 器台部1/6	台	8.8		細砂/良好/にぶい 黄橙	器台器内面に折り返す。内外面はナデで、外面は後にハ ケ目。	
第188図 Pl.25	6 土師器 甕	甕上 口縁部～体部上 位1/2	口	9.3		細砂、礫微量/良 好/にぶい黄橙	口縁部はヨコナデで、外面に紐作り痕とコピナデ状の窪み 残る。体部内面はナデ。体部外面は横位ヘラケズリ。	
第188図	7 土師器 甕	貯蔵穴 口縁部～体部上 位1/2	口	14.8		細砂・粗砂・赤色 粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は歪む。口縁部ヨコナデの後に頸部以下の内面は削 りに近いヘラナデ。外面は縦位ヘラナデ。	
10号壜穴建物								
第198図 Pl.25	1 灰輪陶器 耳皿	甕上 口縁部1部、底 部完		3.8	高 台径	細砂微量/良好/ 黄灰	口縁部を内側に曲げる。内面と口縁部外面の曲げた部分に 灰輪。底部は右回転糸切り無調整。	
第198図	2 土師器 椀	甕上 底部1/4		5.6	高 台径	細砂/酸化灰/橙	器付高台。高台内の糸切り痕ナデ消す。	
第198図	3 須恵器 壺	甕上 頸部1/4				細砂少量/還元灰 /黄灰	肩部内面に指押さえ痕。	
第198図	4 土師器 甕	甕上 体部下位～底部 1/5	底	4.2		細砂、粗砂少量 赤色粒/良好/にぶい 黄橙	内面はハケ目。体部外面と底部外面はヘラケズリ。	
第198図 Pl.25	5 土師器 甕	甕上 口縁部～体部上 位1/3	口	15.7		細砂・粗砂/良好/ 浅黄褐色	口縁部はヨコナデ。体部内面はハケ目。体部外面はヘラケ ズリ。	
第198図	6 土師器 甕	甕上 口縁部1/8	口	16.2		細砂・粗砂少量/ 良好/にぶい黄橙	口縁部はヨコナデ。	
第198図 Pl.25	7 石製品 砥石	甕上 不明	長	(30.8)	厚 (7.5)	粗粒輝石安山岩	表面裏面及び左右両側面に砥面が認められる。右側面には断 面V字状の溝状筋跡が認められる。	
11号壜穴建物								
第228図 Pl.26	1 土師器 杯	甕上 3/4	口	11.9	高 3.9	細砂・粗砂/良好/ 橙	器壁が薄減し整形痕不明。全体に器壁は厚い。	
第228図	2 土師器 壺か	甕上 底部1/3	底	6.0		粗砂多/良好/にぶ い黄	内面はナデ。外面の器面は荒れる。	
第228図 Pl.26	3 土師器 甕	甕上 1/2	口	23.8 底 9.2	高 29.8	粗砂、礫少量/ 良好/明赤褐色・黒 褐色	口縁部はヨコナデ。内面口縁部以下は単位不明のナデの後、 不規則なヘラミガキ。外面口縁部以下は単位不明のナデで、 部分的単位が分かるナデ。	

遺物観察表

12号竪穴建物

挿入 Pl. No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底			
第25図 Pl. 26	1	土師器 片口壺	覆土 完形	口 9.0~ 10.4 5.9	高 14.7	細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙・赤褐	口縁部は外方に折り返すが、雑なナデで成形時の押搾さえ 痕が残る。口縁部の1カ所を内面側から押さえつけて口を作出。 体部上半にハケ目。下半はナデで底部付近に1部ヘラケズリ。 内面下半は幅の狭いヘラケズリ。上半はナデ。口縁部 歪む。底部外面はヘラケズリ。	片口。
第25図 Pl. 26	2	土師器 壺	覆土 口縁部片			細砂少量/良好/オ リーブ黒	内面の器表はにぶい黄橙色。口縁部は外側に折り返し、折 り返し範囲の内面をヨコナデ。外面の折り返し下部は縦 位ヘラナデ。	
第25図 Pl. 26	3	土師器 壺	覆土 4/5	口 16.5~ 17.8		細砂/良好/黒褐	口縁部歪む。口縁端部付近は外方に折り返す。内面は本口 状工具によるナデ。折り返し部外面は指頭形痕を残す。外面 の折り返し直下以下は幅の狭い工具によるナデ。	雑な整形。
第25図 Pl. 26	4	土師器 壺	覆土 2/3	口 12.2 底 6.7	高 21.6	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部ハケ目の後に端部付近外面のみヨコナデ。体部から 底部内面はナデ。体部外面中位はハケ目の後にヘラケズリ。 体部外面下位はナデ。底部外面は全面ヘラケズリ。	
第25図 Pl. 26	5	土師器 壺	覆土 一部欠	口 13.8 底 6.3	高 18.8	細砂・粗砂/良好/ 暗赤褐・赤褐	口縁部内面はハケ目の後ヨコナデで、頸部付近はヨコナデ 後のヘラケズリ。体部内面は密な横位ヘラナデで単位不明。 口縁部外面はヨコナデ後の斜位ハケ目。体部外面はハケ目 で最大径部分は横位ヘラケズリ。体部下位は横位ヘラケズ リで底部外面もヘラケズリ。	
第25図 Pl. 27	6	土師器 壺	覆土 1/2	口 14.0 底 5.1	高 19.6	細砂・粗砂/良好/ にぶい橙	口縁部はハケ目の後に口縁端部付近ヨコナデ。ヨコナデ後 に外面は縦位ヘラナデ。内面はナデと不規則なヘラミガキ で共にハケ目が部分的に見える。内面はヘラナデで、底部内 面は底部中央を中心としたヘラナデ。外面はナデに近いよ うなヘラケズリで部分的に平滑となる。底部外面は周縁の みヘラケズリ。	
第25図 Pl. 27	7	土師器 壺	覆土 1/4欠	口 15.0 底 7.2	高 26.4	細砂少量/良好/明 黄褐	口縁部はハケ目の後にヨコナデ。体部内外面はハケ目以下 外面は縦位ヘラナデを密に施す。体部内上位は指作り痕を 残す。	
第26図 Pl. 27	8	土師器 壺	覆土 上部上位~底部 3/4	底 9.3		細砂・粗砂/良好/ 明赤褐	内面ナデで、体部下位の接合部は横位の削り状ナデ。外面 はハケ目の後密なヘラミガキで原因不明。底部外面は周 縁のみヘラケズリ。	
第25図 Pl. 27	9	土師器 壺	覆土 体部下位~底部	底 6.0		細砂・粗砂/良好/ にぶい黄橙	内面削いハケ目。外面は幅の狭い工具による縦位ナデ。底部 は整形後、最前部に外方から穿孔。	
第26図 Pl. 27	10	土師器 小型壺	覆土 1/2	口 13.4 底 6.2	高 15.7	細砂・粗砂/良好/ 橙	口縁部内面から体部外面はハケ目から穿孔。口縁部上半にヨコ ナデ。体部内面以下はヘラケズリ。体部外面中位以下、底 部外面までヘラケズリ。	
第26図 Pl. 27	11	土師器 壺	覆土 口縁部欠	底 10.1		粗砂・微微量/良 好/橙	口縁部内面はヘラナデ。体部から底部内面はナデ。体部外 面は縦位と斜位ヘラケズリで下位は横位ヘラケズリ。底部 外面は全面ヘラケズリ。	
第26図 Pl. 28	12	土師器 台付壺	覆土 体部一部欠	口 21.3 底 10.1	高 36.7- 38.0	粗砂少量/良好/橙	口縁部ハケ目の後にヨコナデ。体部内面上位は縦位ヘラナ デ。体部中位の接合部分は横位条線。外面体部外面は下位 までハケ目で、下位はハケ目の後にナデ。舞台内外面はハ ケ目の後ヨコナデ。	
第26図 Pl. 28	13	土師器 台付壺	覆土 体部一部欠	口 15.5 底 8.9	高 27.6	細砂・粗砂/良好/ 明黄褐	頸部内面はヘラナデ。体部内面はナデ。腰部内面はナデ。 肩部外面から台部外面にハケ目。外面最大径部分は単位不 明瞭なヘラケズリ痕を残す。舞台天井と底部内面に砂を 多く含む粘土塗掛け。	S字架口縁台 付壺。
1号溝								
第34図 Pl. 28	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	覆土 口縁部1/6欠	口 10.9 底 6.8	高 2.8	褐灰	高台は断面逆三角形。外面中位以下回転彫り。外面の掘 削り開始部分は稜をなす。内外面に灰地。底部内面と高台 端部に重ね焼き痕が残る。内面器表に彫りみが認められる。	
第34図 Pl. 28	2	在地系土器 皿	覆土 1/4	口 (9.8) 底 (6.3)	高 2.4	にぶい橙	口縁部から体部内湾。底部回転糸切り無調整。	江戸時代。
第34図 Pl. 28	3	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	覆土 口縁部から体部 1/3	口 (11.2) 底 -	高 -	灰黄	口縁部は屈曲して長く立ち上がる。口縁端部は小さく外反。 内面から体部外面下位に鉄地。	17中頃か。
第34図 Pl. 28	4	在地系土器 皿	覆土 口縁部片	口 底 -	高 -	灰白	器表焼し焼成。口縁部内面に小さく退化した内耳貼り付け。	江戸時代。
第34図 Pl. 28	5	在地系土器 内耳貼	覆土 口縁部片	口 底 -	高 -	にぶい黄橙	器表焼し焼成で黒色。口縁部内面下端に段差。口縁端部上 面は平坦で内縁、内面に粘土細貼り付けの内耳1カ所残る。 外面器表に煤付着。	16世紀。
第35図 Pl. 28	6	在地系土器 内耳貼	覆土 2/3	口 径 35.2 底 30.0 径	高 6.2	浅黄	断面中央黒色。器表付近浅黄色。器表黒色のサンドイッチ 状。底部内面器表は浅黄色。底部外面中央付近器表は浅黄 褐色。内面中位付近に段差。残存部に内耳残らないが、欠 損部1カ所に内耳部分の窪みあり。体部外面中位以下の器 表は皺状痕を残す。	17世紀。10片 接合。

種 類 Pl.No.	No.	種類 器 種	出土位置 残存率	計 測 値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第338号 Pl.28	7	在地系土器 内耳罎	覆土 体部片	口 径	—	高 —	—	にぶい黄橙	器表焼し焼成。外面に保付着。	中世。
第341号 Pl.28	8	別口	先端部～体部	長 径	96 8.6	重 量	900.7	—	内径2.5cm。メタル痕なし。履着は非常に微細。胎土の締まりは良く、やや白色粒が混じる。表面は指痕とナデが見られる。	
第351号 Pl.28	9	石製品 板碑	覆土 1/6	長 幅	22.3 (15.5)	厚 重	2.3 1289.1	緑色片岩	表面に梵字(キリク)が雕刻される。表裏面には平ノミ状の工具痕が明瞭に認められる。	
1号丹戸										
第371号 Pl.29	1	肥前磁器 染付碗	覆土 口縁部1/3、底 部1/2	口 径	(9.6) (3.8)	高 —	5.3	灰白	外面に青輪梅樹文。高台内に不明跡。高台端部は細かく打ち欠く。口縁部内面は外方からの叩打による打ち欠き3カ所。外面高台脇に叩打痕あり。	
第374号 Pl.29	2	肥前磁器 染付碗	覆土 口縁部一部、底 部2/3	口 径	(9.9) 4.8	高 —	5.4	灰白	外面に青輪梅樹文。高台内に不明跡。	
第378号	3	瀬戸・美濃 陶器 鉢	覆土 口縁部片	口 径	—	高 —	—	浅黄	口縁部は屈曲して外反。内面懸状工具による波状文。内外面に灰焼。歪み著しい。	2片接合。
第378号 Pl.29	4	明・明石陶 器 すり鉢	覆土 口縁部から体部 片	口 径	—	高 —	—	明赤褐	内面にすり目を備した後、口縁部回転横溝で、口縁部内面に明瞭な段差。口縁部を内面から押しで片口部作出。体部外面は回転溝附り。	
2号丹戸										
第391号 Pl.29	1	石製品 石鉢	覆土 不明	長 幅	(9.0) (7.1)	厚 重	(3.8) 794.9	粗粒輝石安山岩	全体的に丁寧に整形される。口唇部と内面は特に滑らかである。	
第391号 Pl.29	2	石製品 石製品	覆土 1/3	長 幅	19.2 (21.2)	厚 重	(10.0) 421.5	粗粒輝石安山岩	全体的に丁寧に整形されており側面には棒状の工具痕がわずかに認められる。上面には漏斗状の孔が認められ口唇部から孔の内面にかけて黒色物質が厚く付着する。	
第391号 Pl.29	3	石製品 石(上)	覆土 1/2	長 幅	(36.0) (38.2)	厚 重	(20.1) 1770	粗粒輝石安山岩	底面のすり合わせ面には挽き目の痕跡が認められない。底面には供給孔から続く溝状痕跡がわずかに認められる。側面は挽き手跡が一面所認められるが上面からの孔と連結する。供給孔は中央が狭くなり段差が認められ両面穿孔と考えられる。	
75号ピット										
第451号	1	土師器 碗	覆土 体部下位～高台 部1/2	高 台 径	7.8	—	—	細砂/酸化灰/に ぶい黄橙	高台は高く「ハ」の字状に開く。胎付高台。口クロ整形。	
89号ピット										
第47号 Pl.30	1	石英の結晶	覆土	長 幅	—	厚 重	— 5.2	石英	石英の結晶。縁辺部に微細な剝離痕がわずかに認められる。人為的に遊動層に搬入されたものと考えられる。	
遺構外出土遺物 古墳時代以降										
第521号 Pl.30	1	土師器 鉢	1区西 口縁部～体部 1/6	口 径	17.3	—	—	粗砂・礫/良好/橙	口縁部はヨコナデ。内面は横位ヘラナデ。口縁部以下の外面は縦位ヘラケズリ。	
第521号 Pl.30	2	土師器 器台	3区覆土 杯部中位～脚部 中位	—	—	—	—	細砂少量/良好/浅 黄橙	脚部内面はハケ目。他はハケ目の後にヘラミガキ。脚部と杯部に三角形状透かしが入るが、大きさと個数は不明。脚部外面と杯部外面に赤色塗彩。	赤色塗彩。
第521号 Pl.30	3	土師器 台付甕	3区覆土 台部片	—	—	—	—	粗砂少量/良好/に ぶい黄橙	器壁は薄い。台部内面はハケ目。外面はハケ目後ナデ。底部内面はナデ。	
第521号 Pl.30	4	瓦 瓦塔か	3区北 小片	厚 さ	1.5	—	—	細砂少量/酸化灰/	土師質。上面に工具による押し引きで瓦尻を表す。瓦の継ぎ目や平瓦の表現はない。瓦の下部はシャープに切られている。裏面は器表に剥がれがあるか？	
第521号	5	瓦 平瓦	3区覆土 破片	—	—	—	—	細砂/還元灰/黄灰	上面に布目圧痕。下面は格子目状タタキ。	
第521号	6	埴輪 円筒か	6トレンチ 破片	—	—	—	—	細砂・粗砂/良好/橙	内面は縦位ナデ。外面は縦位ハケ目の後突部貼付。内面側上部に透かしの1部が残る。	
第521号 Pl.30	7	肥前磁器か 染付碗	覆土 2/3	口 径	7.8 3.0	高 —	4.2	灰白	体部外面の3方にコンニャク印判による菊花文。体部外面下位から高台外面に5条の襷縁。高台端部を除き透明釉。軸は白濁し、文様不鮮明。	
第521号 Pl.30	8	瀬戸・美濃 陶器 輪光皿	覆土 口縁部一部、底 部1/2	口 径	(12.6) (6.7)	高 —	3.2	浅黄	内面から外面中位に長石焼。底部内面輪状に輪刺ぎ。	2片接合。
第521号 Pl.30	9	益子・笠岡 陶器か 灯火受台	覆土 口縁部1/2欠	口 径	8.0 5.6	高 —	5.0	灰白	受け部1カ所にU字状切り込み。内外面に灰焼。受け部端部と脚端面取り部以下は無釉。脚部外面は右回転糸切り無調整。	

遺物観察表

採 取 No.	種 類 No.	類 種 No.	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第528Ⅷ	10	瀬戸・美濃 陶器 輪光皿	覆土 底部1/3	口一 底(6.9)	高一	黄灰	高台内の削り出しは浅い。内面に反軸輪痕後、リング状の高まり部を中心に輪割ぎ。外面は無軸。	
第528Ⅷ	11	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口一 底一	高一	橙	酸化炎焼成。口縁端部丸みを持つ。内耳欠損。内面口縁部下位は丸みを持って外反。口縁部はやや内凹。	中世。
第528Ⅷ	12	在地系土器 鍋	覆土 口縁部片	口一 底一	高一	灰白	胎土中央が黒色。器表付近が灰白色。器表が黒灰色のサンドイッチ状。口縁部短く内湾。口縁部内面側が円縁状に窪む。	江戸時代。
第528Ⅷ	13	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口一 底一	高一	にぶい濁	断面中央黒色。器表付近にぶい濁色。器表黒色のサンドイッチ状。口縁部は短く内湾。口縁部は丸み、外面は外傾。	中世。
第528Ⅷ	14	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口一 底一	高一	にぶい黄褐色。	口縁部は外反し、端部はやや窪み内傾。外面の器表保残付着。	15と同一個体の可能性高い。中世。
第528Ⅷ	15	在地系土器 内耳鍋	覆土 口縁部片	口一 底一	高一	にぶい黄橙	口縁部は外反し、端部はやや窪み内傾。外面の器表保残付着。屈面部内面に段差はない。	14と同一個体の可能性高い。中世。
第528Ⅷ	16	在地系土器 内耳鍋	覆土 体部片	口一 底一	高一	灰	還元炎焼成。	中世。
第528Ⅷ	17	在地系土器 内耳鍋	北2面 口縁部片	口一 底一	高一	灰	還元炎焼成。内面にやや太い耳を貼付。口縁部はやや短い。	中世。

7号竪穴建物

第538Ⅷ Pl.30	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A1	丸縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横・斜位磨き。	有尾式
第538Ⅷ Pl.30	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A5	半截竹管状具の連続爪形文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第538Ⅷ Pl.30	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E4	半截竹管状具の平行波状文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	講義b式
第538Ⅷ Pl.30	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D27	丸縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	講義b式
第538Ⅷ Pl.30	5	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				B9	丸縄文を横位・多段に施文。内面斜位磨き。外面保残炭化物付着。	講義b式
第538Ⅷ Pl.30	6	割片石器 打製石斧	覆土 完形	長 8.0 幅 6.3	厚 1.7 重 77.7	黒色頁岩		側面全体に両面加工が認められる。裏面に自然面が認められ内縁を利用する。	
第538Ⅷ Pl.30	7	割片石器 打製石斧	覆土 1/2	長 (8.3) 幅 (4.6)	厚 1.9 重 68.3	黒色頁岩		左右両側面には両面加工が認められる。裏面に広く自然面を残し内縁を利用する。	
第548Ⅷ Pl.30	8	割片石器 スクレイパー	覆土 完形	長 10.1 幅 6.6	厚 1.5 重 132.5	ホルンフェルス		右側辺から上側辺にかけては両面加工が認められる。左側辺は表面への片面加工である。表面の中央には素材割片の主要側面を大きく残し大形割片を素材とする。裏面には自然面を大きく残し裏面右側辺近くに摩滅痕が認められる。内縁を利用する。	
第548Ⅷ Pl.30	9	礫石器 磨石	覆土 完形	長 12.9 幅 9.7	厚 4.3 重 773.9	粗粒輝石安山岩		表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
第548Ⅷ Pl.30	10	礫石器 磨石	一括 完形	長 5.9 幅 5.0	厚 14.4 重 182.5	粗粒輝石安山岩		表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
第548Ⅷ Pl.30	11	礫石器 磨石	覆土 完形	長 6.5 幅 4.3	厚 4.3 重 144.1	粗粒輝石安山岩		全面的に滑らかである。全体的に赤褐色部分と黒褐色部分が認められ受熱の可能性がある。	

8号竪穴建物

第558Ⅷ Pl.30	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				A2	0段多須の丸・丸縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内面横位磨き。	有尾式
第558Ⅷ Pl.30	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				E3	半截竹管状具の爪形文を横・斜位に施し、間隔に棒状具の細目状の斜位短短線文を横位に連続施文。内外面共にやや熱風風化。	講義b式 加賀利E1式
第558Ⅷ Pl.30	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片				D14	細い半截竹管状具の平行短線文を横位に帯状施文。内面横位磨き。	講義b式

9号竪穴建物

第588Ⅷ Pl.31	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片				E37	無文の口縁部が大きく外反する。内面横位磨き。内外面共にやや熱風風化・曇れ。	加賀利E1式
第588Ⅷ Pl.31	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部下位1/2	(29)			B5	双頭状の波状1線。口縁部に推定4単位の沈沈曲線文や横位の連続刺突文を施し、その間隔に縦位の短沈線文を密集施文。頸部～胴部には1帯糸文を縦位に密集施文し、懸垂状の沈線文や括れ部に3条の横線文を施す。内面横位磨き。内外面共に一部に炭状炭化物付着。	加賀利E1式

種 別 No.	類 型	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第588回 Pl.31	3 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		F5	口縁部が短く外向し、口縁部の筋行は2条の横位沈線文内に棒状具の縦面状交互斜突により波状文を施す。内外面共に丁寧な磨き磨き。	加曾利E 1式 併行	
第588回 Pl.31	4 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E27	R 帯糸文を縦位に密接施文し、平截竹管状具の重むき集合沈線文でクランク文や渦巻文を施す。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	5 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E28	口縁部はL 帯糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆線文をクランク状や横位に施文。内外面共にやや被熱風化・磨れ。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	6 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		E28	R 縄文を口縁部は横位に、頸部～胴部は縦位に施文。口縁部には窓枠状の隆線区画文を、括れ部には3条の縦線文を施す。内外面共にやや被熱風化・磨れ。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	7 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		E28	口縁部にR 縄文を横位施文し、横位隆線文の区画内に波状隆線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・磨れ。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	8 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D2	R 縄文を斜位に密接施文し、括れ部に背側斜位の横位隆線文を施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	9 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		F5	R 縄文を縦位施文し、2本単位の隆線懸垂文や平截竹管状具の重むき横位集合沈線文を多向に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式	
第588回 Pl.31	10 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部～胴部上 半1/6	口 (53)	D3	強く括れる豊的な深鉢土器。尖頭状の管または棒状具により、括れ部に斜位の切目・横線文や扇状の交互斜突による横位波状文を施す。胴部は縦線状や懸垂状の基礎帯文に沿って、切目目や弧線・渦巻状の沈線文を施し、区画内にも同文様を施文。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	加曾利E 1式 併行	
第598回 Pl.31	11 割片石器 石鏃	腹土 完形	長 2.0 幅 1.7	厚 0.3 重 0.5	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。先端部を尖頭状に作出する。	実無基基
第598回 Pl.31	12 割片石器 石鏃	腹土 完形	長 5.1 幅 4.2	厚 0.7 重 7.0	チャート	側辺部全体に内面加工が認められる。割片素材と予想されるが素材割片段階の磨面は認められない。	
第598回 Pl.31	13 割片石器 スクレイパー	腹土 完形	長 6.9 幅 4.6	厚 0.7 重 25.7	細粒輝石安山岩	R 側辺部全体に内面加工が認められ機能部と想定される。表面には素材割片の主磨面が認められ横長割片を利用する。裏面には自然面が広く残り凹隙を利用する。	
第598回 Pl.31	14 割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 9.6 幅 5.7	厚 1.6 重 82.9	黒色頁岩	先端刃部は内面加工が主體的であるが左右両側部は内面加工である。表裏面の先端刃部付近には厚膜層が広く認められる。表面の中央付近にも厚膜層が認められる。表面の中央に広く認められる磨面は素材割片の主要磨面であると考えられる。	
第598回 Pl.31	15 割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 10.0 幅 4.6	厚 1.3 重 81.9	黒色頁岩	側辺部には全体的に内面加工が認められる。表裏面の先端刃部付近には厚膜層が認められる。	
第598回 Pl.31	16 割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 11.2 幅 3.8	厚 1.1 重 42.0	黒色頁岩	左右両側部には二次加工が認められるが一部と想定される先端部には二次加工が認められない。右側部には自然面が認められ凹隙を利用する。	
第598回 Pl.31	17 割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 9.3 幅 5.1	厚 1.6 重 88.7	ホルンフェルス	側辺部には全体的に内面加工が認められる。表面の一部に自然面が認められ凹隙を利用する。	
第598回 Pl.31	18 礫石器 凹石	腹土 1/2	長 (0.1) 幅 (7.4)	重 4.5 重 369.2	粗粒輝石安山岩	表裏面に浅線状の凹みがそれぞれ2か所認められる。全体的に磨打感が散在する。	
第598回 Pl.31	19 石製品 砥石	一括 不明	長 (5.2) 幅 (5.5)	厚 1.3 重 28.9	牛状砂岩	粗粒の石質であり全体的に比較的滑らかな面。特に表面に滑らかな部分が多量に認められ磨面を判断した。	
1号遺物集中							
第608回 Pl.32	1 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D28	R 帯糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆線帯により5字状文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式	
第608回 Pl.32	2 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D23	口縁部に平截竹管状具の重むき平行沈線文を横位施文し、棒状具の縦面状交互斜突により波状文を施す。屈折部には棒状具の切目目を施す。内面横位磨き、一部被熱風化・脱落、外面一部に煤状炭化物付着。	加曾利E 1式 併行	
第608回 Pl.32	3 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D28	R 帯糸文を縦位に密接施文し、2本単位の隆線帯により渦巻文を施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式	
第608回 Pl.32	4 縄文土器 深鉢	腹土 胴部上位～中位 1/3		E37	L 帯糸文を縦位に密接施文し、渦巻状の突起と切目目を加えた隆線帯文を横位や弧状・Y字状に施す。内外面共に被熱風化・磨れ、外面胴部上位煤状炭化物付着、一部脱落。	加曾利E 1式 併行	
第608回 Pl.32	5 縄文土器 浅鉢	腹土 口縁部破片		E5	口縁部は長方形状の突起を付し、中央の穿孔孔を中心に平截竹管状具による同心円状の沈線文を施す。内外面共にやや風化。	加曾利E 1式 併行	
第608回 Pl.32	6 縄文土器 深鉢	腹土 口縁部～胴部中 位破片		E6	口縁部内面に段を構成。胴部は基礎帯に沿って棒状具による渦巻・重弧状の沈線文を施す。外面口縁部砂粒の移動痕を残す獲で状の粗い横位磨き、一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き。	加曾利E 1式 併行	
第608回 Pl.32	7 縄文土器 深鉢	腹土 括れ部～胴部中 位1/3		E5	L 帯糸文を縦位に密接施文し、括れ部に平截竹管状具の横位平行沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化、一部に煤状炭化物付着。	加曾利E 1式	
第608回 Pl.32	8 縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D7	割付状の縦位細沈線文を施し、細い平截竹管状具の平行沈線文を矢羽状に交差施文し、同部位に円形竹管文を縦列施文。内面横・斜位磨き。	諸磯 a 式	

遺物観察表

13号竪穴建物

採 集 順 号	種 類	出土位置	計 測 値	胎土/焼成/色調	成形・整形の特徴	備 考	
第62図 Pl.32	1 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			F2	く字状に内折する口縁部に紅縄文を横位に施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第62図 Pl.32	2 縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			C11	半載竹管状具の横位連続彫文を多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面煤状炭化物付着。	諸磯B式
第62図 Pl.32	3 縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D21	紅縄文を横位に施文し、浮線文を斜位に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	諸磯B式
第62図 Pl.32	4 縄文土器 深鉢	甕土 底部1/5	底 (11.5)		D1	浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。	諸磯B式

14号竪穴建物

第65図 Pl.32	1 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			G3	甕状具の刺突文や変形爪形文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	浮島式	
第65図 Pl.32	2 縄文土器 浅鉢	甕土 体部下位～底部 底	11.2		B2	複数段に屈曲する無文浅鉢。外面体部下～底部に赤色塗彩。内外面共に横位磨削り後、やや粗い横位磨き。	諸磯B式	
第65図 Pl.32	3 縄文土器 深鉢	甕土 胴部下位～底部上 位1/4	口 (14.5)		D2	4単位の双頭波状口縁。浮線文を口縁部は渦巻状や波状に、胴部には横位・多段に施す。内面横位磨き・一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式	
第65図 Pl.32	4 縄文土器 浅鉢	甕土 口縁部破片			D23	口唇端部を内側に折り返す内折系浅鉢。体部に紅縄文を横位に施文。内外面共に横位磨き。内面煤状炭化物付着。	中期中葉	
第65図 Pl.32	5 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			D1	口唇部に棒状具の斜目状の斜位沈線文を施す。下位に紅縄文や開端自轉自縛のL結節縄文を横位に施文。内面横位磨き。	諸磯B式併行	
第65図 Pl.32	6 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			G3	波状口縁。甕状具の刺突文や変形爪形文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島式	
第65図 Pl.33	7 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			C11	4単位の波状口縁。口唇部にイノシシ頭部を簡略化した小突起を付す。口縁部～胴部に紅縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の集合沈線文を縦手状や横位磨き。内面口縁部磨削・胴部縦位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ、胴部一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式	
第65図 Pl.32	8 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			E2	紅縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の集合沈線文を横位や渦巻状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯B式	
第65図 Pl.32	9 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			E5	半載竹管状具の横位連続彫文や細い半載竹管状具の集合沈線文を波状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯B式	
第65図 Pl.32	10 縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D2	紅縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の連続爪形文を米字状に施す。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式	
第65図 Pl.33	11 縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D2	半載竹管状具の平行沈線文を斜手状に施し、交点に同具先端部を回転刺突して円形管文を施文。外面横位磨削後、内面丁寧な横位磨き。	諸磯B式	
第65図 Pl.33	12 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位迄存	口 36.5		E24	4単位の三頭波状口縁。紅縄文を横位・多段に施文し、口唇部に半載竹管状具の横線文・弧線文・縦手状文を施す。胴部下位の接合部で欠損。内外面共にやや被熱風化・荒れ、胴部一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式	
第66図 Pl.33	13 割片石器 打製石斧	一括 完形	長 9.8 幅 5.0	厚 1.7 重 76.1		黒色頁岩	先端部は表面への片面加工が主体的であるが左右両側面は両面加工である。表面の先端部付近から上方にかけて摩滅痕が認められる。裏面には広く自然面が認められ円礫を利用する。	
第66図 Pl.33	14 割片石器 打製石斧	ベルト内 完形	長 10.1 幅 4.9	厚 2.0 重 85.6		黒色頁岩	側面には全体的に両面加工が認められる。表面の先端部付近には摩滅痕が認められる。表面の中央及び上方にも摩滅痕が認められる。	
第66図 Pl.33	15 礫石器 凹石	P 2一括 完形	長 10.5 幅 7.3	厚 4.9 重 410.6		粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に凹み集中する。表面の右上方から側面を経て裏面にかけて滑らかな面が認められる。	

15号竪穴建物

第68図 Pl.33	1 割片石器 石匙	P 10一括 完形	長 9.6 幅 4.3	厚 0.9 重 32.65		黒色頁岩	側面には散発的な二次加工が認められる。裏面には素材割片の主要剥離面が大きく認められ縦長割片を利用する。	
第68図 Pl.33	2 石製品 砥石	P一括 不明	長 (4.4) 幅 (4.9)	厚 0.9 重 22.2		牛状砂岩	表面でもともに滑らかな面がある。表面の側面は鋭角であり表面でもともに滑らかな面がある。表面には断面V字状の比較的幅広い縦線がわずかに認められる。	

2号竪穴遺構

第69図 Pl.33	1 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位迄存	口 33.7			B13	口縁部～胴部下位にアナタラ風の波状貝目紋を横位・多段に施文。口縁部に甕状具の斜位斜目目や半載竹管状具の横位変形爪形文を施し、胴部に向半載竹管状具の平行沈線文を5条集束し、内面縦・斜位の磨き。内外面共にやや被熱風化・外面一部に煤状炭化物付着。	浮島B式
---------------	--------------	----------------------	--------	--	--	-----	--	------

4号竪穴遺構

第70図 Pl.34	1 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			E3	紅縄文を横位に施文し、逆U字状の沈線垂文を施す。内面横位磨き。	加曾利E 3式
第70図 Pl.34	2 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			E25	棒状具のやや深い波状でJ字文を施し、裏側の紅縄文を称増施文・内面横位磨き。	称名寺I式
第70図 Pl.34	3 縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			C17	口唇部の内側に凹ませる波状口縁。縦位の磨削り整形痕を残した部分に斜線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと横へ磨きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式

採 取 Fl.No.	No.	種類 器 種	出土位置 残存率	計 測 値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第708 Pl.34	4	縄文土器 鉢	腹上 口縁部破片				C2	内削ぎ状の口縁部、口縁部に横線文を施し、今や細密なL状縄文を斜めに施文、内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第708 Pl.34	5	縄文土器 深鉢	腹上 頸部~胴部破片				C1	括れ部に2条の横線文を、胴部には沈線文を斜格子状に施す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第708 Pl.34	6	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片1/4			口 径24.5	B17	内削ぎ状の口縁部上面に斜め目を、口縁部内面に凹線状の幅広沈線文を施す。口縁部の横位磨り整形を致した部位に斜線文を施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	加曾利B 2式	
第708 Pl.34	7	縄文土器 深鉢	腹上 頸部破片				B17	横位の磨り整形を致した部位に斜線文や横線文を施す。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第708 Pl.34	8	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				C7	内削ぎ状の口縁部内面に凹線状の横線文を施す。口縁部は無文、内外面共に横位磨き。	加曾利B 2式?	
第708 Pl.34	9	縄文土器 浅鉢	腹上 口辺部片				D7	く字状に内折す口縁部に横・斜位の沈線文や円形貼付文を施す。内面やや粗い横位磨き。	加曾利B 3式	
第708 Pl.34	10	縄文土器 鉢	腹上 体部破片				C7	沈線の縦位区画文や円形貼付文を付した横位隆線文の両側に沈線文を施し、各隆線文が全体下半にL状縄文を充填的に施文。内面やや粗い横位磨き。	加曾利B 3式	
第708 Pl.34	11	縄文土器 鉢	腹上 体部破片				C1	横・斜位の沈線文やその交差点部に円形貼付文を施し、区画内に細密なL状縄文を充填施文。内面横位磨き。	加曾利B 3式	
第708 Pl.34	12	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				F8	内削ぎ状の口縁部、口縁部は無文。内外面共に横位磨き。外面燻べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 3式?	
第708 Pl.34	13	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部~胴部破片				C2	小形整的な土器。外面横・斜位、内面やや粗い横位磨き。	後期中葉	
第708 Pl.34	14	縄文土器 鉢	腹上 口縁部破片				B7	口縁部に不連続な横線文を施し、以下にL状縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ、煤状炭化物付着。	後期中葉	
第718 Pl.34	15	判片石器 石鏝	腹上 完形	長 2.8 幅 1.6	厚 0.5 重 1.0			黒色頁岩	表面面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有基鏝
第718 Pl.34	16	判片石器 石鏝	腹上 完形	長 2.8 幅 1.4	厚 0.4 重 1.1			チャート	表面面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有基鏝
第718 Pl.34	17	判片石器 石鏝	腹上 ほぼ完形	長 (3.7) 幅 2.2	厚 0.5 重 2.6			黒色安山岩	表面面の全体に面的な二次加工が認められる。	凸基有基鏝
6号竪穴状遺構										
第738 Pl.34	1	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				E5	半截竹管状具の連続爪形文を横位や縦手状に施文し、間隙に篋状具の斜位斜め目や円形竹管文を施す。内面炭灰状化物付着。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式	
第738 Pl.34	2	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				C20	半截竹管状具の連続爪形文を横位に施文し、間隙に篋状具の斜位斜め目を施す。内面横位磨き。	諸磯b式	
第738 Pl.34	3	縄文土器 深鉢	腹上 胴部破片				E13	L状縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に、円形竹管文を縦列に施文。内面横位磨き。	諸磯b式	
第738 Pl.34	4	縄文土器 深鉢	腹上 胴部破片				D5	RL・L状縄文を横位・交互に多段施文して変形意匠を構成。一部にL状縄文の開始自縄自縛によるL結節縄文を施す。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	諸磯b式	
第738 Pl.34	5	縄文土器 深鉢	腹上 胴部破片				E27	0段多条のL状縄文を横位・多段に施文し、浮線文を斜位に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式	
第738 Pl.34	6	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				E13	L状縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横位や木葉状に施す。内面丁寧な横位磨き、外面やや被熱風化。	諸磯b式	
第738 Pl.34	7	縄文土器 鉢	腹上 胴部破片				D5	沈線の横帯文を施し、区画内にL状縄文を充填施文して沈線文をナゾリ返す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式	
第738 Pl.34	8	縄文土器 そのほか玉 形土器	腹上 頸部~胴部上位 1/5				E5	無文で体部上位がく字状に黒く内折す。内外面共に丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面の一部が円形状に剥落。	加曾利B 3式	
第738 Pl.34	9	礫石器 凹石	腹上 完形	長 9.5 幅 6.8	厚 重 4.0 327.7			粗粒輝石安山岩	表面面のほぼ全面に滑らかな面が認められる。表面の中央に浅鉢状の凹みが見られる。表面の下方には線索痕が認められる。	
第738 Pl.34	10	礫石器 凹石	腹上 完形	長 27.8 幅 17.8	厚 重 5.5 360.9			ホルンフェルス	表面面の中央付近に滑らかな面が認められる。全体的に自然面と判断され円礫を利用す。	
10号土坑										
第748 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	腹上 胴部破片				E12	L状縄文を横位・多段に施文。内面被熱風化・荒れ、煤状炭化物付着。	諸磯b式	
第748 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	腹上 胴部破片				E38	L状縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合沈線文を縦・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯c式	
14号土坑										
第748 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				B15	波状口縁で、波頂下が鋭尖状に突出する。細い半截竹管状具により平行沈線文や縦手状の溝巻文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ、縄文施文の有無不明。	諸磯b式	
第748 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	腹上 口縁部破片				D5	口縁が短く内折。口縁部に細い半截竹管状具の横位平行沈線文を施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯b式	

遺物観察表

種 別 Pl.No.	No.	類 型 形態	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第748回 Pl.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部1/4		F2	瓠縄文を縦位に密接施し、細い半載竹管状具の平行沈線により羽状・菱形状・懸垂状の集合沈線文を施す。内面胴部上位横・斜位、同下位縦位の粗い磨き。内外面共にやや被熱風化、外面復状炭化物付着。	諸磯 c 式
第749回 Pl.35	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部1/5		F4	瓠縄文を縦位に密接施し、細い半載竹管状具の平行沈線により矢羽根状・懸垂状の集合沈線文を施す。内面横・縦位磨き。内外面共にやや被熱風化、内面一部割傷。	諸磯 c 式
18号土坑							
第750回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		C9	瓠縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 b 式
19号土坑							
第750回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		E36	浮線文の形骸化した半載竹管状具の連点状斜突文を横・斜位に施す。内外面共に被熱風化・荒れのため、縄文施文の有無不明。	諸磯 b 式
21号土坑							
第750回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		D9	低平な浮線文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯 b 式
第750回 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		C14	L 縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の平行沈線文を多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第750回 Pl.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		E13	瓠縄文を横位施文し、半載竹管状具の連続爪形文を横位に施す。内面やや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
22号土坑							
第750回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		E13	沈線懸垂文を施文後に柳面状具の条線文を縦位に施す。内面横位磨き。	加賀利 E 3 式
第750回 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		E15	R 帯系文を縦位に密接施し、半載竹管状具の垂引き平行沈線文を横位に施す。内面横位磨き。	加賀利 E 1 式
第750回 Pl.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		C14	瓠縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き・荒れ。	諸磯 b 式
12号土坑							
第760回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		D1	小突起を付した波状口縁。瓠縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面横位磨き。	諸磯 b 式
13号土坑							
第760回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		D1	瓠縄文を斜位に施す。内外面共にやや被熱風化、外面復状炭化物付着。	諸磯 b 式
第760回 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		E13	口縁部に階帯文を横位に施す。内面横位磨き。	加賀利 E 1 式
15号土坑							
第760回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		A2	瓠縄文を横位施文。内面横位磨き。	黒浜式
第760回 Pl.35	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		D29	瓠縄文を横位施文し、やや低平な浮線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯 b 式
第760回 Pl.35	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		F4	波状口縁で、波頂下が隆起状に突出する。瓠縄文を横位・多段に施文し、細い半載竹管状具の平行沈線文や載手状の渦巻文を施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化。	諸磯 b 式
第760回 Pl.35	4	割片石器 打製石斧	一括 1/2	長 幅 (9.8) (6.4)	厚 重 2.7 211.4	ホルンフェルス	側辺部には全体的に内面加工が認められる。左右側辺の中央付近にはつづれ痕が認められる。下側面は折断面であるが表面の下端部には下方の折断面を打面とする割離痕が多数認められる。また表面の下端部と折断面との境界の稜上にはつづれ痕が認められ、下方折断面は縁打面として利用されたと考えられる。
16号土坑							
第770回 Pl.35	1	礫石器 石皿	覆土 1/2	長 幅 (20.1) (15.2)	厚 重 (6.7) 1488.6	粗粒輝石安山岩	表面の磨り面には中央付近に小さな漏斗状の孔が多数認められ右面から転用された可能性がある。下方には掘出し部が形成される。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。縁から側面及び裏面にかけては面磨で磨きだされた形跡であることから全体的に整形されていると考えられる。
17号土坑							
第770回 Pl.35	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		E41	L 縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
28号土坑							
第780回 Pl.36	1	縄文土器 鉢	覆土 口縁部破片		D7	細密なL 縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	加賀利 B 2 式
第780回 Pl.36	2	縄文土器 鉢	覆土 胴部破片		D7	沈線の横帯文を施し、区画内に瓠縄文を充填施文して沈線文をナフリ返す。内外面共に丁寧な横位磨き。	加賀利 B 2 式
第780回 Pl.36	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		D7	沈線の横帯文を施し、区画内にやや細密なL 縄文の充填や羽状の縦区切り文を施文して沈線文をナフリ返す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に磨へ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利 B 2 式
第780回 Pl.36	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片		C1	口縁部の横位附削り整形痕を残した部位に細い浮線文を施し、内面口縁下に横位施文。内面横位磨き。	加賀利 B 2 式
第780回 Pl.36	5	縄文土器 鉢	覆土 胴部破片		D17	沈線の横帯文を施し、内面貼付文を付す。内外面共に丁寧な横位磨きと磨へ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利 B 3 式

採 取 Pt.No.	No.	種類 器 種	出土位置 残存率	計 測 値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第788回 Pt.36	6	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			D7	波状口縁。く字状に緩く内折する口縁部に3条の縦線文と瘤状の小突起を付し、下部に細く斜線文を施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	高井式
第788回 Pt.35	7	縄文土器 土器片加工 円板	腹土 胴部破片	長径 4.0	厚 18.2	E45	深鉢土器破片を円形に打割整形し、周縁部に磨耗痕を持たない。	中期後半
第788回 Pt.38	8	石製品 砥石	1/2	長 幅 (11.6) (8.5)	厚 18.2 320.0		表面にはほぼ平坦で非常に滑らかな面が認められ砥面と判断した。表面の上方には砥粒痕が集中する。	
33号土坑								
第788回 Pt.36	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			C1	筒状具の沈線文を斜位に施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	加賀利B 2式
30号土坑								
第798回 Pt.36	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			E21	口縁部に縦線文を施し、列点状刺突文を施文。内外面共に横位磨き。	堀之内1式
第798回 Pt.36	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			F8	無文の粗製深鉢土器。外面砂粒の移動痕を残す斜位磨きで、内面やや粗い・斜・縦位磨きで、内外面共にやや被熱風化。	堀之内1式
第798回 Pt.36	3	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			B3	棒状具のやや鋭い沈線J字文を施す。内面やや粗い・縦位磨き。	堀之内1式
第798回 Pt.36	4	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E40	棒状具のやや鋭い縦位沈線文区内に列点状の刺突文を施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	堀之内1式
第798回 Pt.36	5	礫石器 磨石	腹土 完形	長 幅 10.7 9.5	厚 4.6 696.7		表面面のほぼ全面に非常に滑らかな面が認められる。左右両側面には砥粒痕が集中する。左側面側からの磨面が表面面に認められるが砥粒が砥粒により生じたと考えられる。	
35号土坑								
第798回 Pt.36	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			B15	1. 縦線文を横位施し、2. 本単位の隆帯文をクランク状に施す。内面縦位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	加賀利E 1式
第798回 Pt.36	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			D19	1. 器糸文を縦位に密接施し、横線文を施す。内面縦位磨き、外面煤状炭化物付着。	加賀利E 1式
38号土坑								
第808回 Pt.36	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			D17	1. 縦線文を縦位に施し、断面三角形状隆帯の蛇行懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加賀利E 3式
第808回 Pt.36	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			D2	平截竹管状具の平行沈線文をやや凸縁した格子状に施し、交点に刺突文を施文。内面J字単を横位磨き。	諸磯b式
47号土坑								
第808回 Pt.36	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E13	細い平截竹管状具の集合沈線文を縦位や変形状に施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯c式
第808回 Pt.36	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			C2	波状口縁。平截竹管状具の連続爪形文を横位や縦位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、内面煤状炭化物付着。	諸磯b式
39号土坑								
第818回 Pt.37	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			E12	波状口縁外、外側に折り返し状に肥厚する口唇部。波節部に平截竹管状具の4条の平行沈線文を垂文的に縦位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面に煤状炭化物付着。	堀之内1式
第818回 Pt.37	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E13	縦線文を横位・多段に施文。内面縦位磨き、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯a式
42号土坑								
第818回 Pt.37	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E4	いわゆる連雲文土器で、帯筒状具の条線文を縦位に密接施し、3条単位の連雲文を施す。	加賀利E 2式
第818回 Pt.37	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			D5	1. 縦線文を横位施文。内面縦位磨き。	諸磯b式
44号土坑								
第818回 Pt.37	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			E3	縦線文を横位施文し、浮線文を口唇部上面には密着状に、口縁部には横位や斜手状に施す。内面横位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第818回 Pt.37	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E5	縦線文を縦位施し、平截竹管状具の2単位の平行沈線文を懸垂的に施す。内面横・縦位磨き。	加賀利E 2式
41号土坑								
第818回 Pt.37	1	割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 幅 14.0 8.0	厚 2.2 296.1		変質安山岩	側辺部はほぼ全体に両面加工が認められる。表面の中央には自然面が広く認められ内縁を利用する。
第818回 Pt.37	2	礫石器 磨石	腹土 完形	長 幅 10.0 6.8	厚 6.1 562.5		粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に非常に滑らかな面が認められる。
第828回 Pt.37	3	礫石器 石皿	腹土 1/4	長 幅 (22.6) (16.1)	厚 9.9 398.0		粗粒輝石安山岩	表面にすり面のみとめられ中央付近が非常に滑らかである。表面下方側に挿出口が形成される。裏面も全体的に滑らかでありすり面として機能したと考えられる。表面と裏面を中心に漏斗状の孔が多数認められる。裏面は全体的に面中で構成されるが自然面であるか判断できない。
第828回 Pt.37	4	礫石器 石皿	腹土 1/4	長 幅 (36.0) (30.5)	厚 7.9 230.9		粗粒輝石安山岩	表面のすり面には非常に滑らかな部分が認められる。縁と裏面には漏斗状の孔が散在する。縁から裏面にかけては面中で構成されるが自然面であるか判断できない。
第828回 Pt.37	5	石製品 砥石	一括 完形	長 幅 11.3 5.0	厚 1.3 77.3		凝灰質砂岩	表面は全体的に非常に滑らかな面が認められ、縦線文が多数認められる。左右両側面に斜向に作り出されている。表面面の左右両側付近は特に滑らかであり両側面に平行な縁がされている。
第828回 Pt.37	6	礫石器 多孔石	腹土 不明	長 幅 (14.0) (12.4)	厚 6.2 986.5		粗粒輝石安山岩	表面に漏斗状の孔が複数認められる。赤褐色部分が認められ受熱の可能性がある。

遺物観察表

種別 No.	種類 No.	出土位置 現存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第838 Pl.37	7	燧石 多孔石	覆土 完形	長 29.3 幅 25.8	厚 16.3 D25.0	粗粒輝石安山岩	表面面に漏斗状の孔が多数認められる。表面の上方に非常に滑らかな部分が見られる。全体的に自然面であるか判断できない。
46号土坑							
第838 Pl.37	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中心位1/5	口 (32)		B8	2条単位の楕円変形爪形文を上下2段に施し、その間に半截竹管状員の平行沈線文を羽状に施文。内面斜位磨き。一部に煤状炭化物付着。
第838 Pl.37	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部上位1/2	口 (25.5)		E24	口縁部～胴部に0段多糸L8の結束第1種縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。
第838 Pl.37	3	縄文土器 上題片加工 凹板	覆土 完形	直径 2.9	厚 0.6 7.1	D5	深鉢土器破片を凹形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を付す。
第838 Pl.37	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			E15	L縄文を横位施文し、やや粗大な浮線文を横位・多段に施す。内面丁寧な横位磨き。
第838 Pl.37	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部1/5	口 (21)		B2	口唇部上面に棒状員による八字状の刻み目を施し、以下にL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。
第848 Pl.37	6	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			D5	口唇部上面に刺突文を施す。口縁部に半截竹管状員の波状文や、連続爪形文と刻み目状の斜位短沈線文を付加した横位陰帯文を施文。内面丁寧な横位磨き。外面やや風化・一部に煤状炭化物付着。
第848 Pl.38	7	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			B2	L縄文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化・荒れ。
第848 Pl.38	8	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			E27	細い半截竹管状員の平行沈線でやや泡足した米字文を施文。内面やや粗い横・縦位磨き。外面被熱風化・荒れ・煤状炭化物付着。
第848 Pl.38	9	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			B5	半截竹管状員の粗狭な平行沈線で小波状文を横位・多段に施す。内面被熱風化・荒れ。
第848 Pl.38	10	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			E33	アナタラ風の太柄な波状員散文を横位・多段に施文。内面やや粗い縦位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
第848 Pl.38	11	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			G3	口唇部に棒状員の刻み目状の斜位短沈線文を施し、下位に半截竹管状員の2条単位の変形爪形文と棒状員の変形文を施文。内面丁寧な横位磨き。外面煤状炭化物付着。
51・52号土坑							
第848 Pl.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			B5	L縄文を横位施文。内外面共に被熱風化・荒れ。
第848 Pl.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			D15	L縄文を縦位・密接施文し、棒状員の沈線文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。
52号土坑							
第848 Pl.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			E12	口縁部に凹形刺突文を施し、以下に棒状員の横・縦位の沈線文を施文。内面やや粗い横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。
50号土坑							
第848 Pl.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D9	L縄文を横位・多段に施文し、浮線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面煤状炭化物付着。
第848 Pl.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			E29	細い沈線のV字状区画文を施し、L縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。
53号土坑							
第858 Pl.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D13	棒状員の沈線区画文を施す。外面口縁部横位・胴部縦位磨き。内面横位磨き。
第858 Pl.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D2	やや肥厚・内折する口縁部に凹線状の横線文を、胴部に棒状員の沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。一部割落・煤状炭化物付着。
第858 Pl.38	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			D16	L縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。
第858 Pl.38	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片			C8	L縄文を縦位施文し、凹線状の幅広沈線文を横位に施す。内面横位磨き。
54号土坑							
第858 Pl.38	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部中心位1/6	口 (25.5)		E35	短く外反する口唇部上面に斜位の刻み目を施す。口縁部に陰線文を横位や弧状・渦巻状に施し、その上面および口唇部下にL縄文を施文。胴部にはL縄文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化。外面煤状炭化物付着。内面荒れ・割落。
第858 Pl.38	2	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D1	L縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状員の平行沈線文を横・縦位に施す。内面横位磨き。
第858 Pl.38	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D11	L縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状員の平行沈線文内に矢羽条刻み目を付加した短形浮線文や横線文を施す。内面縦位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。
第858 Pl.38	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D5	口唇部上面に斜位の刻み目を施し、以下にL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。外面やや被熱風化。
第858 Pl.38	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部破片			D5	半截竹管状員の連続爪形文を横位や木葉状に施し、部分的にL縄文を充填施文。内面丁寧な横位磨き。外面煤状炭化物付着。

採 取 No.	種 類 No.	類 種 No.	出土位置 現 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 素材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第85回 Pl. 38	6	縄文土器 浅鉢	甕土 口縁部~胴部中央 1/5	口 (7)	D17	ミニチュア的な有孔浅鉢。括れ部に直径3mmの焼成前穿孔を12mm間隔で施す。内外共に横位磨き。	諸磯b式
第85回 Pl. 38	7	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部~胴部下 半2/3	口 14.5	E2	口縁部~胴部下位にL縄文と同縄文の間端首締による結縷文を横位・多段に施文。内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。	諸磯b式
第85回 Pl. 38	8	縄文土器 深鉢	甕土 胴部下位~底部 2/3	口 16.0	D8	L縄文を横位・多段に施文し、横位の低下や浮線文を多段に施す。内面横位磨き・外面煤状炭化物付着。内面横位磨き・内外共に一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第86回 Pl. 38	9	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部~胴部上 半1/2	口 40.5	G2	口唇部に棒状具の斜位刻み目を、口縁部と括れ部に平截竹管状具の横位変形爪形文を施し、その間隙に同具の変形文を施文。胴部はアナタラ属の波状貝殻文を多段に施すが、放射筋を引きずる施文で柔綿化。内面横・縦位の磨き。内外共にやや煤熱風化・胴部下半に煤状炭化物付着。	浮島Ⅲ式
第86回 Pl. 38	10	割片石器 打製石斧	甕土 1/2	長 (6.1) 厚 (2.1) 幅 (4.6)	重 67.4	細輪輝石安山岩	左右両側辺には両面加工が認められる。表面の中央付近には摩滅痕が認められる。

55号土坑

第86回 Pl. 39	1	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			E21	口唇部が内側に鉤手状に突出。棒状具の深い沈線でJ字状の区画文を施し、L縄文を充填施文。内面横位磨き・外面やや煤熱風化・荒れ。	称名寺1式
第86回 Pl. 39	2	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			F12	棒状具の深い沈線でJ字状の区画文を施し、L縄文を充填施文。内面横位磨き・内外共にやや煤熱風化・荒れ。外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺1式
第86回 Pl. 39	3	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			C21	口端部が複合J字状に肥厚し、扁平・楕円形状の指頭圧痕を連続状に横位施文。内面横位磨き。	堀之内1式
第86回 Pl. 39	4	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			D19	口端部に横線文や円形刺突文を施し、以下に2条の沈線文を施文。内面横位磨き。	堀之内1式
第86回 Pl. 39	5	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			F5	2条の縦位沈線文を施す。外面斜位造痕で粗を喫み粗い斜位磨き・内面横位磨き。内外共にやや煤熱風化。	堀之内1式
第86回 Pl. 39	6	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			D2	口唇部内側に鉤手状に小さく突出。棒状具の深い沈線区画文を施し、L縄文を充填施文後に一部の沈線をナゾり返す。内面横位磨き・外面やや煤熱風化。	堀之内1式
第86回 Pl. 39	7	縄文土器 鉢	甕土 口縁部破片			C7	口縁部にL縄文を充填施文した横帯文や斜帯縦線文を施し、以下に単沈線文を施文。内外共に丁寧な横位磨き。	加賀利B 3式
第86回 Pl. 39	8	縄文土器 鉢	甕土 口縁部破片			C7	口縁部にL縄文を充填施文した横帯文や縦位の帯付文を施す。内面横位磨き・外面一部に煤状炭化物付着。	加賀利B 3式
第86回 Pl. 39	9	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			B1	口縁部に斜線文をやや疎らに施す。内面横位磨き・外面煤状炭化物付着。	加賀利B 3式
第86回 Pl. 39	10	縄文土器 土器片加工 円板	甕土 胴部破片	長径 3.3	重 12.2	B2	深鉢土器の破片を円形状に打削整形し、周縁部の一部に磨耗痕を持つ。	中期後半
第86回 Pl. 39	11	縄文土器 土器片加工 円板	甕土 胴部破片	長径 3.3	重 13.3	F5	深鉢土器の破片を円形状に打削整形し、周縁部に磨耗痕を持たない。	後期前半
第86回 Pl. 39	12	割片石器 石錐(ドリル)	一括 完形	長 3.7 幅 0.7	厚 0.4 重 0.9		黒色頁岩	表裏面のほぼ全面に両面加工が認められ尖頭部を作出する。裏面の上部付近に素材割片の主要剥離面がわずかに認められる。
第86回 Pl. 39	13	割片石器 打製石斧	甕土 完形	長 11.5 幅 4.9	厚 1.8 重 118.3		ホルンフェルス	先端部から左側辺にかけては両面加工が認められる。右側辺は片面加工である。表裏面の先端部付近には摩滅痕が認められる。右側面には自然面が広くあり部分的な剥離痕が認められ縁行により生じた可能性がある。

56号土坑

第87回 Pl. 39	1	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D9	赤色塗彩した横位の隆線文に沿って角押文を施し、間隙部にL縄文を充格的に施文。内面横位磨き。	新巻類型
第87回 Pl. 39	2	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			D12	波状口縁の波直下に瘤状の小突起を付し、L縄文を横位施文。内面横位磨き・外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第87回 Pl. 39	3	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			B1	背割り状の曲線縦文に沿って半肉彫的な縦線文を渦巻状に施す。内面横位磨き・外面煤状炭化物付着。	加賀利E 1式併行

57号土坑

第87回 Pl. 39	1	縄文土器 深鉢	甕土 胴部~胴部下位 1/5			E2	L帯文を斜位に密接施文し、平截竹管状具の平行沈線文を横位に施す。内面横位磨き・外面やや煤熱風化・煤状炭化物付着。	加賀利E 1式併行
第87回 Pl. 39	2	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			E13	アナタラ属の波状貝殻文を横位に施し、下位に同じによる横線状の連続した刺突文を施文。内面横位磨き・外面やや煤熱風化・煤状炭化物付着。	浮島式
第87回 Pl. 39	3	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			B1	L縄文を横位施文し、浮線文を横位やX字状に施す。内面丁寧な横位磨き・外面やや煤熱風化・荒れ。	諸磯b式

90号土坑

第87回 Pl. 39	1	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部~胴部上 位1/4	口 (30)		D25	眼鏡状把手を付した波状口縁。R帯文を縦位に密接施文。口縁部は眼鏡状把手に接続する横位の隆線文や沈線文・渦巻文を施す。内面横位磨き。内外共にやや煤熱風化・一部剥落。外面煤状炭化物付着。2と同一個体。	加賀利E 1式
第87回 Pl. 39	2	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片			D25	1と同一個体。	加賀利E 1式

遺物観察表

種 別 Pl.No.	No.	類 型 形態	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考			
第87図 Pl. 39	3	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片			R20	内面側に口唇部が突出。R部赤文を縦文・密接施文し、口縁部に棒状具の彫歯状文を交互に並べた文を3条施す。内面丁寧な横位磨き。外面煤状炭化物付着。	三原田式		
第88図 Pl. 39	4	縄文土器 深鉢	腹土 胴部1/5			E15	R1縄文を縦文に密接施文。内面横位磨き。外面煤状炭化物付着。	加曾利E 1式		
第88図 Pl. 39	5	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			E27	手箆竹管状具の集合沈線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・彫れ。	諸磯b式		
第88図 Pl. 39	6	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片			D2	R1とR2縄文を横位・交互に施文して、羽状または菱形意匠を構成。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式?		
第88図 Pl. 39	7	割片石器 打製石斧	腹土 完形	長 幅	12.0 6.0	厚 重	2.3 15.5	黒色頁岩	左右両側辺には両面加工が認められる。先端辺には微細な割痕がわずかに認められるが二次加工痕は集中していない。表面には素材割片の主要割離面が大きく認められ大形の横長割片を利用する。裏面には自然面を大きく残し刃磨きを利用する。	
59号土坑										
第88図 Pl. 40	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片				B1	口縁部にR縄文を横位施文し、口唇下を10mm幅で横位に磨り滑す。下位に横線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 3式	
第88図 Pl. 40	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片				D3	内面口唇部下に横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き。外面煤状炭化物付着。	堀之内2式	
第88図 Pl. 40	3	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片				D2	いわゆる魚尾状の大形突起を付す波状口縁。瘤状の貼付文を施す。	高井東式	
62号土坑										
第88図 Pl. 40	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片				E42	口縁部に横線文を施すが、他の文様は不明。内外面共にやや被熱風化。外面一部彫割。	堀之内1式	
第88図 Pl. 40	2	縄文土器 鉢	腹土 口縁部破片				C7	口縁部にR縄文を充填施文した横帯文や斜み降線文を施し、以下に斜文を施文。内外面共に丁寧な横位磨き。	加曾利B 3式	
第88図 Pl. 40	3	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片				E42	短沈線状に間延びした縦位の列点文や沈線文を施す。内面横・縦位磨き。外面煤状炭化物付着。	堀之内1式	
第88図 Pl. 40	4	縄文土器 注口土器?	腹土 体部破片				D1	破片右上に注口部と想定される割離痕あり。2条の縦位沈線文間に棒状具の刻突文を充填し、外縁にR縄文を充填的に施文。内面やや粗い横位磨き。	堀之内1式	
63号土坑										
第89図 Pl. 40	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部～胴部中心位2/3	口	25.4			D20	口端部の対向する2箇所に8字状の小突起を付す。胴部に単沈線によるJ字状の区画文を施し、R縄文を充填施文。内面口縁部に四角状の短直沈線文を施す。内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。外面胴部の一部に煤状炭化物付着。	堀之内1式
第89図 Pl. 40	2	縄文土器 鉢	腹土 口縁部破片					C18	内面口唇部の内面口唇部下に横線文を施す。外面は無文。内外面共に横位磨き。外面は焼く焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第89図 Pl. 40	3	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部～胴部中心位1/6	口	(41)			C11	外面に折り返す複合口縁部に指頭による瘤状押圧文を施す。胴部には棒状具の沈線文を等間隔に施文。外面斜位の窪削り。内面口縁部横位・胴部縦位の磨き。	加曾利B 2式
第89図 Pl. 40	4	縄文土器 深鉢	腹土 底部1/4	口	(9.5)			E42	底外面に大柄な網代文。内外面共に丁寧な横位磨き。内面焼く焼きで黒色の光沢を帯びる。	後期中葉
第89図 Pl. 40	5	縄文土器 鉢	腹土 口縁部1/6	口	(16.5)			C1	口縁部はやや密な1帯の横位R縄文や、その下位にやや乱雑な2条の沈線文と刻突文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと焼く焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 3式
第90図 Pl. 40	6	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片					C1	口縁部は砂粒の移動痕を残す斜位窪削り後に、口唇下を10～15mm幅で横位磨き。内面口唇部下に2条の横線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第90図 Pl. 40	7	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片					D1	口縁部は砂粒の移動痕を残す斜位窪削り後に、横位磨き。内面口唇部下に6条の縦・横位施文。内面丁寧な横位磨きを施す。外面煤状炭化物付着。	加曾利B 2式
第90図 Pl. 40	8	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片					C1	波状口縁。やや内側が状の口唇部。粗い羽状文を施す。内面丁寧な横位磨きと焼く焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 3式
第90図 Pl. 40	9	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片					D7	R1縄文を横位施文し、横線文を施す。内面口縁部にも横線文を施す。内面丁寧な横位磨きと焼く焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第90図 Pl. 40	10	割片石器 石鏃	一括 完形	長 幅	1.6 1.2	厚 重	0.3 0.2	黒曜石	表面面の全体に面的な二次加工が認められる。左右両側辺は彫歯状を呈する。	
67号土坑										
第90図 Pl. 40	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片					E5	尖頭状の浅い沈線区画文を施し、斜位下方からの同具の刻突列点文を充填施文。内面横位磨き。	堀之内1式
第90図 Pl. 40	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片					D2	手箆竹管状具の平行沈線文を対弧状に縦位施文。外面砂粒の移動痕を残すやや粗い斜位磨き。内面縦位磨き。一部に煤状炭化物付着。	加曾利B 2式
64号土坑										
第90図 Pl. 41	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片					A2	R1縄文を横位・多段に施文。内面縦位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	黒沢式
第90図 Pl. 41	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片					A6	R1縄文を横位施文。内面横位磨き。	黒沢式

種 別 Pl.No.	No.	類 型 種 別	出土位置 現 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第90号 Pl.41	3	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		A2	皿・I縄文を横位・交互に施し、半截竹管状具の連続爪形文を横・斜位に施す。内面丁寧な縦位磨き。	黒式
65号土坑							
第90号 Pl.41	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部上 平1/3	口 (33)	D19	皿縄文を横位・多段に施し、半截竹管状具の連続爪形文を口縁部には横位、胴部には縦位に施す。内面横位磨き、外面炭灰化物付着。	諸磯 b 式
66号土坑							
第91号 Pl.41	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		E5	短く内折する口唇部内面に横線文を施す。口縁部は刻み縦線文を施す。内面横位磨き。	堀之内 2 式
第91号 Pl.41	2	縄文土器 鉢	腹土 口縁部破片		C1	口縁部に横線文を施し、I縄文を充填的に施す。内外共に丁寧な横位磨きと焼へ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利 B 2 式
第91号 Pl.41	3	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		F5	口唇部に粒状の小突起を付す波状口縁。口縁部に斜線文を施す。内面縦位磨き。	加賀利 B 2 式
第91号 Pl.41	4	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E5	細い棒状具の縦位沈線文を弧状に施す。内面丁寧な横位磨きと焼へ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面砂粒の移動痕を幾す縦位で、縦位磨き。	加賀利 B 2 式
68号土坑							
第91号 Pl.41	1	縄文土器 注口器	腹土 胴部破片		D2	細い半截竹管状具の入組棒 S 字文や横位複合沈線文と斜位刻み目文等を重畳施す。内面指頭状の押圧痕を残す横位磨きで、外面やや風化・荒れ。	加賀利 B 1 式
第91号 Pl.41	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D2	I縄文を横位・多段に施す。内面口唇部下に横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加賀利 B 2 式
第91号 Pl.41	3	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		F11	I縄文を横位・多段に施す。内面口唇部下に横線文を施す。内外共に被熱風化・荒れ。	加賀利 B 2 式
第92号 Pl.41	4	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		C21	口唇部外端に円形陥付状の小突起を付す。口縁の内外面に横線文を施す。内面横位磨き。	加賀利 B 2 式
第92号 Pl.41	5	縄文土器 浅鉢	腹土 胴部中心部破片		E15	篋状具の細い縦線文で上下に区画した中に、羽状縦線文を施す。内外面に焼へ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利 B 2 式
第92号 Pl.41	6	縄文土器 深鉢	腹土 胴部中心部破片		E15	胴部中心部に凹線状の横線文を施し、口縁部から篋状具の細い沈線文を縦位・散漫に施す。外面口縁部・胴部中心部砂粒の移動痕を残す波状斜位磨き、胴部下位横位磨き。内面丁寧な横位磨き。	加賀利 B 2 式
第92号 Pl.41	7	縄文土器 鉢	口縁部中心部破片	口 (14) 高 7.3	D12	口縁部に対角文や磨消渦線文を施し、外縁に細密なI縄文を充填的に施す。体部の加飾部には刻み縦線文を、下位には縦位対角文・多帯の磨消渦線文を施し、外縁に磨消状の整形痕を残す。内外共に丁寧な磨きと焼へ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利 B 2 式
第92号 Pl.41	8	縄文土器 深鉢	腹土 底部1/5	底 (11)	D12	外底面にやや大柄な副代紋。内面横位磨き、内外面にやや被熱風化。一部剥落。	後期中葉
第92号 Pl.41	9	縄文土器 深鉢	腹土 底部1/5	底 (9)	D5	外底面に副代紋。内面横位磨き、内外面にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉
第92号 Pl.41	10	礫石器 石皿	腹土 不明	長 (14.1) 幅 (13.7) 厚 5.3 重 803.2		表面の磨り面は中央付近が特に滑らかである。裏面には漏斗状の孔が多数認められる。縁から側面及び裏面にかけては曲面で構成された整った形態であることから全体的に整形されていると考えられる。	粗粒輝石安山岩
69号土坑							
第93号 Pl.42	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D10	波状口縁の波頂部に剣突を施す。スパー状の沈線区画文を施し、I縄文を充填施す。内外共にやや被熱風化・荒れ、内面炭灰化物付着。	称名寺 1 式
第93号 Pl.42	2	縄文土器 台付異形注口土器	腹土 拵部～台部ほぼ 完全	底 9.4	E42	口頸部を欠損。斜向きに1対の注口と3条の沈線文を施す。小把手を持つ。拵れ部～台部にかけて約10mm前後の距離で帯状の横線文を16～18段に施し、区切り文的にX字状異形文を縦位で並べて相対称の意匠を構成。内面やや粗い横位磨き、外面著しい風化・荒れ。	後期後葉
第93号 Pl.42	3	礫石器 石皿	腹土 壳形	長 22.1 幅 14.3 厚 6.9 重 282.9		表面の中央付近に滑らかな面が認められる。円磨を利用する。	
72号土坑							
第94号 Pl.42	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E18	隆帯区画文に沿って2列の角理文を施す。内面曲で状のやや粗い横位磨き、外面やや被熱風化・炭灰化物付着。	阿玉台 II 式
第94号 Pl.42	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D5	I縄文を横位施し、半截竹管状具の平行沈線文を横位に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 b 式
73号土坑							
第94号 Pl.42	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D11	I垂線文を縦位に密接施す。半截竹管状具の平行沈線文を横位・帯状に施す。内面横位磨き、内外共にやや被熱風化・荒れ。	加賀利 E 1 式 併行
第94号 Pl.42	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E44	半截竹管状具に集合沈線文を横・斜位に施す。内面丁寧な横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
74号土坑							
第95号 Pl.42	1	縄文土器 浅鉢	腹土 体部破片		B22	施数段に留留する無文浅鉢。内面やや粗い横位磨き、内外共に風化・荒れ。	諸磯 b 式
第95号 Pl.42	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D6	波状口縁の波頂下に瘤状の小突起を付す。I縄文を横位施し、半截竹管状具の平行沈線文を横位・両巻状に施す。内面やや粗い横位磨き。	諸磯 b 式

遺物観察表

種別 Pl.No.	No.	種類 形態	出土位置 保存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第958号 Pl.42	3	縄文土器 甕	甕土 胴部破片				E13	粗縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	協議B式	
第959号 Pl.42	4	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片				E18	く字状に内折する口縁部に半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施文。内面やや粗・横位磨き。	協議B式	
第959号 Pl.42	5	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片				D18	粗縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	協議B式	
第958号 Pl.42	6	礫石器 磨石	土坑 完形	長 幅	厚 重	5.7 5.1	4.0 153.2	粗粒輝石安山岩	ほぼ全面が滑らかである。下端部付近に最打痕がわずかに認められる。	
第958号 Pl.42	7	礫石器 凹石	土坑 1/2	長 幅	厚 重	5.8 9.4	2.6 158.4	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央に漏斗状の凹みが認められる。表裏面のほぼ全面が滑らかである。上端部に最打痕が集中する。表面に最打痕が散在する。	
75号土坑										
第958号 Pl.43	1	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位2/3	口		49.5		F12	断面三角形の微隆起線により懸垂文を施し、LR縄文を充填的に施文。内面胴部上半横位・回下半横位磨き。内外面共にやや被熱風化・胴部上半一部に煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第968号 Pl.43	2	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位2/3	口		21.2		F12	口縁部に1個の楕円状取手を付す。口頸部にV字状の、胴部に逆V字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。区画文はナゾリ返す。内面口頸部横位・胴部縦位磨き。外面煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第968号 Pl.43	3	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位1/2	口	(25)			F12	口頸部にV字状の、胴部に逆V字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。区画文は一部を除きナゾリ返す。内面横位磨き。内外面共に被熱風化・煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第968号 Pl.43	4	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部中 位1/4	口	(30)			F12	断面三角形の微隆起線により懸垂文を施し、LR縄文を充填的に施文。内面胴部上半横位・回下半横位磨き。内外面共にやや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第968号 Pl.43	5	縄文土器 注口土器	甕土 口頸部1/2	口	(7.5)			E2	筒形の注口土器。口縁部に1対の楕円状取手を付す。断面三角形の微隆起線により渦巻文を4単位に施す。内・外面赤色塗彩。内外面共にやや風化・一部剥落。	加曽利E 4式
第978号 Pl.43	6	縄文土器 土器片加工 凹板	甕土 完形	直径	厚 重	3.7	0.7 15.2	B22	深鉢土器破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	協議B式
第978号 Pl.43	7	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					C2	口縁部の微隆起文上面やその区画内に、幅広い連続円形文・三角押文などを施す。内面横位磨き、内外面共に一部に煤状炭化物付着。	膠版2式
第978号 Pl.43	8	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					D5	粗縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	協議B式
第978号 Pl.43	9	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片					E5	粗縄文を横位施文し、浮線文を縦手状に施す。内面横位磨き。	協議B式
第978号 Pl.43	10	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					E19	波状口縁、円形竹管状具の横線文や刺突文と連弧文を施し、部分的に粗縄文を充填施文。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曽利E 3式
第978号 Pl.43	11	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					E3	口縁部に扁平・幅広い隆帯や凹線状の沈線で楕円区画文を施し、粗縄文を充填施文後に沈線文のみを返す。内面横位磨き。	加曽利E 3式
第978号 Pl.43	12	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片					E3	頸部に無文帯を構成、胴部に粗縄文を横・斜位に施文し、棒状具の横線文や渦巻文・懸垂文等を施す。内面横・斜位磨き、外面やや被熱風化・荒れ。	加曽利E 2式
第978号 Pl.43	13	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					G4	外側が波状の口頸部に切込み状の縦位短沈線文を施し、下にに変形円形文を複数段に横位施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島B式
第978号 Pl.43	14	縄文土器 深鉢	甕土 胴部下位～底部 完形	底		5.3		E14	底径の小さい深鉢土器。内面横位磨き、外面被熱風化・荒れ。	中期末葉
第978号 Pl.43	15	縄文土器 深鉢	甕土 胴部下位～底部 1/2	底	(6)			E43	底径の小さい深鉢土器。内外面共に縦位磨き、外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	中期末葉
第978号 Pl.43	16	割片石器 石鏃	甕土 完形	長 幅	厚 重	2.4 1.8	0.4 1.3	チャート	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	円基無茎鏃
第978号 Pl.43	17	割片石器 スクレイパー	甕土 完形	長 幅	厚 重	6.5 5.4	1.2 29.1	黒色頁岩	側辺部のほぼ全体に二次加工が認められる。右側辺には両面加工が集中し機能部と想定される。裏面には素材割片の主要剥離面が広く認められ横長割片を素材とする。表面には自然面が広く残り凹線を利用する。	
第978号 Pl.43	18	礫石器 凹石	甕土 完形	長 幅	厚 重	11.5 7.3	4.4 377.2	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央ややや下に浅鉢状の凹みが認められる。	
第978号 Pl.43	19	礫石器 磨石	甕土 完形	長 幅	厚 重	5.4 4.3	3.8 109.3	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
77号土坑										
第988号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部～胴部下 位2/3	口		21.2		E40	不規則4単位の波状口縁、L懸垂文を縦位密集施文し、口縁部に隆帯のS字状渦巻文を6単位に施す。内面横位磨き、内外面共にやや被熱風化。	加曽利E 1式
第988号 Pl.44	2	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片					E5	粗縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文内に矢羽各刻み目を付加した類似的な浮線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	協議B式
第988号 Pl.44	3	縄文土器 深鉢	甕土 口縁部破片					E3	口縁部に粗縄文を横位施文し、隆帯区画文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面煤状炭化物付着。	加曽利E 1式

87号土坑

探 洞 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第98号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		D2	く字状に内折する波状口縁の波道下に内凹形付文を施し、やや粗い粗縄文を散漫に施文。頸部は無文で、粗い横線で調整。内面やや粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式

86号土坑

第99号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D2	浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	諸磯B式
第99号 Pl.44	2	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		G4	外折状の口縁部に斜目状の斜位短沈線文を施し、下位に菱形形文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。外面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	浮島II式

89号土坑

第99号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D12	粗縄文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化・荒れ。	諸磯B式
---------------	---	------------	------------	--	-----	---------------------------	------

95号土坑

第99号 Pl.45	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E3	粗縄文を横位施文し、半蔵竹管状具の連続爪形文を横位に施す。内面丁寧な横位磨き。外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第99号 Pl.45	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E2	粗縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯B式

91号土坑

第100号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		E17	波状口縁。粗縄文を横位施文し、内凹や楕円形の沈線区画文を施す。内面横位磨で、内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加賀利E3式
----------------	---	------------	-------------	--	-----	---	--------

98号土坑

第100号 Pl.45	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		B8	ハマグリ等の貝殻波状文を横位・多段に施文。内面横位磨き。外面やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。	浮島式
第100号 Pl.45	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D2	粗縄文を横位施文し、横・縦位の低平な浮線文と連点状の刺突文を施す。内面横位磨き。外面煤状炭化物付着。	諸磯B式

92号土坑

第101号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E5	粗縄文を横位・多段に施文し、浮線文を横位や菱形状に施す。内面横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第101号 Pl.44	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E18	半蔵竹管状具の平行沈線文や押引状の刺突文を施し、下位にハマグリ等の貝殻波状文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	浮島式
第101号 Pl.44	3	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E18	半蔵竹管状具の連続爪形文や円形竹管文施。胴部に篋状具の斜目状の斜位短沈線文を充実に施文。内面斜位磨き。	諸磯B式
第101号 Pl.44	4	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E18	粗縄文を横位・多段に施文し、低平な浮線文を横位・多段や渦巻状に施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯B式
第101号 Pl.44	5	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E9	粗縄文を横位・多段に施文し、低平な浮線文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第101号 Pl.44	6	割片石器 打製石斧	一括 1/2	長 7.3 幅 4.6 厚 重 1.4	黒色頁岩	表面と左右両側面には自然面が広く認められ棒状の内縁を利用する。右側面にはつぶれ痕がわずかに認められる。	

97号土坑

第101号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		D2	粗縄文を横位施文し、浮線文や半蔵竹管状具の連続爪形文を施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯B式
----------------	---	------------	------------	--	----	---	------

96号土坑

第102号 Pl.44	1	縄文土器 深鉢	腹土 口縁部破片		E17	波状口縁。浮線文を横位・多段に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯B式
第102号 Pl.44	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		F40	低平な浮線文を横位・多段に施す。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ。一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式

100号土坑

第102号 Pl.45	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E2	粗・細の結束第一種縄文を横位・多段施文して、羽状の意匠を構成。内面丁寧な横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯B式併行
----------------	---	------------	------------	--	----	---	--------

101号土坑

第102号 Pl.45	1	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E13	口唇部上面に斜目目を施し、浮線文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯B式
第102号 Pl.45	2	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		E4	1器糸文を縦位施文し、棒状具の線線文や縦垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面煤状炭化物付着。	加賀利E2式
第102号 Pl.45	3	縄文土器 深鉢	腹土 胴部破片		C2	く字状に内折する口縁部に粗縄文を横位施文。内外面共に丁寧な横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第102号 Pl.45	4	割片石器 打製石斧	一括 1/2	長 9.7 幅 5.7 厚 重 1.2	細粒輝石安山岩	先端部は片面加工が主体的であるが左右両側面は両面加工である。表面には広く自然面が認められ内縁を利用する。	

102号土坑

第102号 Pl.45	1	縄文土器 浅鉢	腹土 口縁部~体部 1/5	口 (24)	C2	無文の浅鉢。外面口縁部横位・体部縦位磨き。内面横位磨き。内外面共に一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式
第102号 Pl.45	2	縄文土器 浅鉢	腹土 口縁部~体部上 口 2/3	口 21.4	E20	有孔浅鉢。口縁部に長径さ～10mmの楕円形の楕成前穿孔を2箇所前後に施す。体部には浮線文や連点状刺突文と半蔵竹管状具の連続爪形文を付加した平行沈線文で、縦手状や三角形の文様を施文。内面横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯B式

遺物観察表

発掘 No.	種別 No.	種類 種別	出土位置 現存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第10238 Pl.45	3	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			F6	1.縄文土器やや不明形に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を波状に施す。内面横位磨き。 2.縄文土器を横位・多段に施文し、口頸部に3条単位の横位沈線文を多段に施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・保状炭化物付着。	諸磯b式
第10338 Pl.45	4	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			E16	縄文土器を横位・多段に施文し、口頸部に3条単位の横位沈線文を多段に施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・保状炭化物付着。	諸磯b式
第10338 Pl.45	5	縄文土器 浅鉢	甕土 胴部～体部上位 1/5			F6	複数段の屈曲部を持つ浅鉢。内外面共にやや粗い横位磨き。外面は赤色塗彩。	諸磯b式
第10338 Pl.45	6	縄文土器 深鉢	甕土 底面1/2	底 (10)		D5	縄文土器を横位施文。内面丁寧な横位磨き。 側面には全体的に内面加工が認められる。表面の先端刃部付近には厚膜鍍金が認められる。上側は折断面であるが表面の上端部には折断面を打面とする割縁が認められる。	諸磯b式
第10338 Pl.45	7	割片石斧 打製石斧	甕土	長 5.6 幅 (4.0)	厚 1.5 重 42.5	頁岩		
第10338 Pl.45	8	礫石器 磨石	一括 完形	長 8.3 幅 4.2	厚 3.5 重 183.2	かこう岩	表面の中央付近、裏面全体から右側面にかけて滑らかな面が認められる。	
103号土坑								
第10338 Pl.45	1	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			G4	有部沈線文やアナタラ属の貝殻紋線文と細い半截竹管状具の平行沈線文などを施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・外面炭化物付着。	浮島式
第10338 Pl.45	2	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部破片			C4	縄文土器を横位施文し、く字状に内折する口頸部に浮線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。 0段多条の乳・1段結束第一種縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第10338 Pl.45	3	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			B6	0段多条の乳・1段結束第一種縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式併行
第10338 Pl.45	4	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部破片			E26	半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第10338 Pl.45	5	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部破片			D2	外削ぎ状の口頸部に切目状の斜位単沈線文を施し、口頸部に半截竹管状具の横位の連続爪形文や波状文を施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
104号土坑								
第10438 Pl.46	1	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部破片			E13	口頸部～胴部に縄文土器を横位・多段に施し、口頸部上面にも施文。内面横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
第10438 Pl.46	2	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D17	縄文土器やL結節縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第10538 Pl.46	3	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部破片			E28	半截竹管状具の集合沈線文を横位や変形状に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯b式
105号土坑								
第10538 Pl.46	1	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			D4	波状口縁。口頸部上面に刺突状の切目を施す。口頸部に横位の変形爪形文や刺突文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。内面一部・外面炭化物付着。	浮島式
第10538 Pl.46	2	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			B4	ハマグリ等の貝殻波状文を横位・多段に施文。内面斜位磨き。	浮島式
第10538 Pl.46	3	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部1/5	口 (48)		E22	波状口縁。口頸部～胴部に縄文土器を横位・多段に施文。口頸部と強く内湾する口頸部に浮線文を棒子状や渦巻状に施す。内面撫で状のやや粗い横位磨き。	諸磯b式
1号屋外								
第10638 Pl.46	1	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			C11	縄文土器を横位施文し、半截竹管状具の集合沈線文を施す。内面横位磨き。外面炭化物付着。	諸磯b式
第10638 Pl.46	2	縄文土器 深鉢	甕土 胴部破片			E38	縄文土器を横位・密接施文し、蛇行状や平行状の階級懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加曾利E 2式
第10638 Pl.46	3	縄文土器 浅鉢	甕土 口頸部破片			C12	口頸部が内側に角状に突出する無文浅鉢。内面丁寧な横位磨きと燻べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。外面やや被熱風化・荒れ。一部剥落。	加曾利E 2式
第10638 Pl.46	4	縄文土器 深鉢	甕土 口頸部～胴上部 中心2/3	口 (30)		E17	口頸部にやや低平な隆帯の渦巻文や楕円区間文を施し、縄文土器を充填的に施文。胴部は縄文土器を横位に密接施文し、2本単位の沈線懸垂文や蛇行懸垂文を5単位に交互施文。内面滑しい被熱風化・荒れ。	加曾利E 3式
1区遺構外(縄文)								
第10738 Pl.46	1	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部破片			A4	波状口縁。やや粗大な連続爪形文を横位や変形状に施す。内面横位磨き。	有尾式
第10738 Pl.46	2	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部破片			A7	縄文土器を横位・交互に多段施文して変形意匠を構成。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ。	有尾式
第10738 Pl.46	3	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部破片			A3	櫛歯状具の集合沈線で横線文や波状文を交互施文。内面丁寧な横位磨き。	黒沢式
第10738 Pl.46	4	縄文土器 深鉢	1区西甕土 底面1/3	底 (11)		A3	縄文土器を横位施文。底部はやや上り底状。内外面共にやや被熱風化。内面炭化物付着。	有尾～黒沢式
第10738 Pl.46	5	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部破片			C20	縄文土器を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を斜位施文。内面横位磨き。	諸磯a式
第10738 Pl.46	6	縄文土器 深鉢	1区甕土 口頸部破片			G3	外削ぎ状の口頸部に切目を施し、以下に連続した三角文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	浮島III式
第10738 Pl.46	7	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部1/4			C13	半截竹管状具によるD字状の爪形文を縦列を基本に密接施文。内面横位磨き。	浮島式
第10738 Pl.46	8	縄文土器 深鉢	1区甕土 胴部破片			G1	アナタラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。	浮島式

採 回 PL.No.	No.	種類 器 種	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第10778 PL.46	9	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E33	アナタラ属の波状目段文を横位・多段に施文後、半載竹管状具の平行短線文を縦位集積する。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面上位に煤状炭化物付着。	浮島式
第10778 PL.46	10	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E10	アナタラ属の波状目段文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。外面煤状炭化物付着。	浮島式
第10778 PL.46	11	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		G3	アナタラ属の波状目段文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。	浮島式
第10778 PL.46	12	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		E15	波状口縁の波頭部に口部表現のみのインクシラ面突起を付す。口縁部上面に胎付文や刻み目を施す。口縁部に浮線文を弧状に施す。内面横位磨き。	協議 b 式
第10778 PL.46	13	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		E29	三頭状の小突起を付す波状口縁。粗縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の集合短線文を横位に弧状に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ、外面一部に煤状炭化物付着。	協議 b 式
第10778 PL.46	14	縄文土器 深鉢	1区西表 口縁部破片		F7	半載竹管状具の連続爪形文を横位に施文し、その間隙に刻み状の斜位短線文を施す。内面横位磨き。	協議 b 式
第10778 PL.46	15	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		C5	口縁部が広く字状に内折する波状口縁。細い半載竹管状具の集合短線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化。	協議 b 式
第10778 PL.47	16	縄文土器 深鉢	1区グリッド 口縁部破片		E2	口縁部が広く字状に内折する波状口縁。粗縄文を斜位施文し、低平な浮線文を横位に施す。内面横位磨き。	協議 b 式
第10778 PL.47	17	縄文土器 深鉢	1区西表 口縁部破片		B21	斜位の細い目を施した幅広・低平な浮線文の隆帯文を縦・横位に施文し、間隙に半載竹管状具の連続爪形文を施す。内面横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	18	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		E42	波状口縁。浮線文の遊離化した連点状判文を横・縦位に施文。内面横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	19	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		D2	粗縄文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	20	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		E2	粗縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。外面煤状炭化物付着。	協議 b 式
第10878 PL.47	21	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部1/4		B2	粗縄文を横位・多段に施文し、半載竹管状具の平行短線文を多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・一部剥落。外面煤状炭化物付着。	協議 b 式
第10878 PL.47	22	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		E32	棒状具の横線文や斜位短線文と棒状具の有節平行線文を施す。内面横位磨き。外面煤状炭化物付着。	網津式
第10878 PL.47	23	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		C15	低平な2条帯形の浮線文を横・斜位施し、同文の条間に連点状判文を施文。内面横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	協議 b 式
第10878 PL.47	24	縄文土器 深鉢	1区グリッド 胴部破片		C11	粗縄文を横位・多段に施文し、浮線文を渦巻状や横帯状に施す。内面撫で状の横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	25	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E2	浮線文を横・斜位に施文。内面横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	26	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		C2	1.粗縄文を横位・多段に施文。浮線状の横位隆線文を施文後、その上面に同縄文を横位施文する。内面撫で状の粗い横位磨き。外面一部に煤状炭化物付着。	協議 b 式併行
第10878 PL.47	27	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E3	粗縄文を横位施文し、半載竹管状具の連続爪形文を横・斜位に、その間隙に刻み状の斜位短線文を施す。内面横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	28	縄文土器 浅鉢	1区覆土 口縁部～底部1/4		B14	3段の屈曲面を持つ無文浅鉢。外面赤色塗彩。内外面共に丁寧な横位磨き。	協議 b 式
第10878 PL.47	29	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		D9	手捏ね状のミニチュア土器で、口縁部は未整形の凹凸を残す。口縁部は細い半載竹管状具の縦位集合短線文を施す。内面粗い横位撫で。内外面共にやや風化。	協議 c 式
第10878 PL.47	30	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		D9	口縁部に小耳状胎付文を、以下に細い半載竹管状具の集合短線文を横・縦位に施す。内面横位磨き。	協議 c 式
第10878 PL.47	31	縄文土器 鉢	1区グリッド 口縁部破片		D2	粗縄文を横位・多段に施文し、円形胎付文や細い半載竹管状具の集合短線文を横・縦位に施す。内面丁寧な横位磨き。	協議 c 式
第10878 PL.47	32	縄文土器 深鉢	1区覆土 頸部～胴部中位1/3		D2	細い半載竹管状具の集合短線文を弧状・対弧状に施す。上位の破断面は輪組み部分で欠損後に研磨されて平滑面を形成。内面横位磨き。外面胴部下に煤状炭化物付着。	協議 c 式
第10878 PL.47	33	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部上位～下位2/3		E31	1.粗縄文を横・斜位に施文し、半載竹管状具による対弧状の集合短線文を施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	協議 c 式
第10878 PL.47	34	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		B22	断面三角形の隆線文を縦位に施し、棒状具の爪形文を横・縦位に施文。内外面共にやや被熱風化。外面一部に煤状炭化物付着。	阿玉台1 b 式
第10878 PL.47	35	縄文土器 深鉢	覆土 胴部破片		B22	断面三角形の隆線文を逆U字状に施す。内外面共にやや被熱風化。	阿玉台1 b 式
第10878 PL.47	36	縄文土器 深鉢	1区覆土 底部1/4	底 (12)	D21	細い半載竹管状具の集合短線文を横位施文。内面横位磨き。	協議 c 式
第10978 PL.47	37	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		B16	波状口縁。口縁部に隆帯の渦巻文や楕円区画文を施し、縦位の短線文を充満的に施文。頸部は無文。内面横位磨き。やや被熱風化・荒れ。	加賀利 E 1 式
第10978 PL.47	38	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部1/4	口 (22)	E45	口縁部にL型赤文を縦位に密接施文し、2本隆帯のS字状渦巻文を施す。内外面共にやや被熱風化。外面煤状炭化物付着。	加賀利 E 1 式

遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	類 型 形態	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第10998 PL.47	39	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		E45	口縁部に棒状の横線文や鋸歯状交互刺突による波状文と降帯線文を施す。胴部・胴部にR線文を縦位施し、胴部に半截竹管状具の弧線文を、括弧部に棒状具の横線文を帯状に施文。内面縦位磨き。	加曾利E 1式 併行
第10998 PL.47	40	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部1/4	口 (21)	D2	やや余間隙の開いたL線文を縦位施文し、口唇下に棒状具の横線文や波状文を施す。内面丁寧に横位磨き。	加曾利E 1式 併行
第10998 PL.47	41	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		B19	R線文を縦位に密接施文し、括弧部に棒状具の横線文や同具の鋸歯状の交互刺突による波状文を施す。内面横位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	加曾利E 1式 併行
第10998 PL.47	42	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		C14	括弧部に2本の降帯文を横位施文し、腕状具の刻み目を施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式 併行
第10998 PL.47	43	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		D26	やや余間隙の開いたO段R線文を縦位施文し、降帯文を横位に施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式
第10998 PL.47	44	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		F9	R線文を縦位施文し、蛇行状の降帯懸垂文を施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式
第10998 PL.47	45	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		D27	L線文を縦位に密接施文し、棒状具により半円形的な沈線渦巻文を施す。内面横位磨き。	加曾利E 1式
第10998 PL.47	46	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		E5	L線文を縦位に密接施文。内面縦位磨き。	加曾利E 1式
第10998 PL.47	47	縄文土器 深鉢	1区覆土 底部1/4	底 (6.5)	B18	R線文を縦位に密接施文。内面横・縦位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	加曾利E 1式 併行
第10998 PL.48	48	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		E21	胴部に棒状具の横位線文を渦巻き・重弧状に密接施文。内面横位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	加曾利E 1式 併行
第11098 PL.48	49	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		F2	口唇部上面がやや突出気味に肥厚。口縁部に棒状具の斜線文を帯状に施文。内面横位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	曾利B3式
第11098 PL.48	50	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		D1	口縁部に降帯の渦巻文や楕円区画文を施し、区内内に棒状具の短沈線文を縦位に充填施文。胴部は棒状具の縦位条線文を施す。内面横位磨き、内外面に共にやや煤炭灰化。	加曾利E 2式
第11098 PL.48	51	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		B3	棒状具の条線文を縦位施文し、3本単位の沈線懸垂文を施す。内面横位磨き、外面煤炭灰化物付着。	加曾利E 2式
第11098 PL.48	52	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部1/4	口 (15.5)	E45	小突起を付した波状口縁で、波面上面と口縁部から延びる円筒状の幅広沈線でS字文を構成。口縁部から胴部に帯状具の縦位条線文を施す。内面横位磨き、外面煤炭灰化・一部割落。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	53	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		F10	波状口縁。R線文を横位施文し、幅広な沈線区画文を施す。内面縦位磨き。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	54	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		E16	R線文を口唇下に横位、以下に縦位施文。内面横位磨き、外面煤炭灰化・割れ。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	55	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		E16	降帯文に沿って幅広の沈線渦巻文を施し、間隙部にR線文を充填施文。内面横位磨き。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	56	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部・胴部 中間部1位		E39	口縁部に低平な幅広の降帯文を施し、胴部には沈線懸垂文の外縁にR線文を散放的に充填施文。内外面に共にやや煤炭灰化・割れ。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	57	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		D16	L線文を縦位施文し、沈線のU字状区画文や懸垂文を施す。内面丁寧に横位磨き。外面煤炭灰化物付着。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	58	縄文土器 深鉢	1区西覆土 胴部破片		E40	L線文を縦位施文し、沈線懸垂文を施す。内外面に共にやや煤炭灰化。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	59	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E13	帯状具の縦位条線文を施す。内面縦・横位磨き。	加曾利E 3式
第11098 PL.48	60	縄文土器 深鉢	1区西覆土 口縁部破片		D2	口縁部に横位の降帯文や半截竹管状具の縦位平行沈線文を施す。内面横位磨き、外面煤炭灰化物付着。	中期中葉
第11098 PL.48	61	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		E5	棒状具による沈線文を横・縦位に施文。外面横・縦位、内面横位の磨き。	称名寺B2式
第11098 PL.48	62	縄文土器 深鉢	1区覆土 胴部破片		E38	棒状具の深い沈線文を縦位に施し、手截竹管状具の先端部を上位斜位方向から刺突施文す。内面横位磨き、外面やや煤炭灰化・割れ。	称名寺B2式
第11098 PL.48	63	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		D1	口縁部に指頭状の押圧による刺突文を、下面に棒状具の沈線文を施す。内面やや粗い横位磨き。一部に煤炭灰化物付着。	堀之内I 1式
第11098 PL.48	64	縄文土器 浅鉢	1区覆土 口縁部破片		B15	く字状に内折する口縁部に棒状具の横位沈線文を2条施す。内外面に共に横位磨き。	堀之内I 1式
第11098 PL.48	65	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		F3	指頭状の砂粒移動痕を残す粗い横・斜位磨き後に、沈線文を羽状に施文。内面口縁部に凹線状の幅広沈線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B 3式
第11098 PL.48	66	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		D2	いわゆる3単位突起深鉢で、突起頂部に8字状の刺突文や下に置いた沈線沈線文と横位の列点状刺突文を施す。内面丁寧に横位磨き。	加曾利B 2式
第11098 PL.48	67	縄文土器 鉢	1区覆土 口縁部破片		C7	口縁部に2条の横線文を施し、口唇部下と皿面部にL線文を充填施文後に、沈線文をナゾリ返す。内面丁寧に横位磨き。	加曾利B 3式
第11098 PL.48	68	縄文土器 深鉢	1区覆土 口縁部破片		D2	大波状口縁。く字状に縦く内折する口縁部に棒状具の沈線文を3条施し、皿面部に同具の刻み目を施文。内面横位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	高井東式
第11198 PL.48	69	礫石器 完形	1区覆土	長 8.6 幅 6.6 厚 392.2	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ全面から側面にかけて滑らかな面が認められる。	

採 回 凡 例	No.	種類 形態	出土位置 現存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第11386 Pl. 48	70	磨石 円形	1区覆土 完形	長 14.6 幅 12.1 厚 7.0 重 148.1	粗粒輝石安山岩	表面の中央に漏斗状の凹みがありその周囲に磨痕が集中する。表面の中央付近に滑らかな面が認められる。	
第11386 Pl. 48	71	磨石 台石	1区覆土 ほぼ完形	長 25.0 幅 18.0 厚 10.0 重 1000.0	溶結凝灰岩	表面のほぼ全体に滑らかな部分が認められ中央左側に非常に滑らかな部分がある。表面の中央に磨痕による砥跡が集中する。全体的に自然面であり円礫を利用する。赤色箇所が認められ受熱の可能性がある。	
第11386 Pl. 48	72	磨石 多孔石	1区覆土 完形	長 17.9 幅 13.0 厚 9.5 重 273.6	粗粒輝石安山岩	表面面の中央部を中心に漏斗状の孔が多数認められる。全体的に自然面と判断され円礫を利用すると思われる。	
2区遺構外(縄文)							
第11298 Pl. 49	1	縄文土器 深鉢	2区一括 底部1/4	底 (5)	A5	紅縄文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	黒沢式
第11298 Pl. 49	2	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		E13	紅縄文を横位施し、半截竹管状具の連続弧形式や内形竹管文を施す。内面丁寧な磨位磨き。	諸磯 a 式
第11298 Pl. 49	3	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		D5	紅縄文を横位施し、浮線文を横位・多段に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	4	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片		D5	紅縄文を横位・多段に施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	5	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片		D9	波状口縁。紅縄文を横位施し、半截竹管状具の集合沈線文を横・斜位に施す。内面横位磨き。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	6	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片		D28	波状口縁部にイノシシの顔面を貼付し、下位に浮線文を施す。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	7	縄文土器 深鉢	2区覆土 胴部破片		B1	紅縄文を横位施す。内面丁寧な磨位磨き。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	8	縄文土器 土器片加工 円板	2区覆土 上部片加工 1/2	直径 4.0 厚 0.7 重 (8.9)	E13	低平な浮線文を施す深鉢土器破片を円形状に打割整形し、周縁部に磨痕痕を持つ。1/2が欠損。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	9	縄文土器 深鉢	2区覆土 底部1/4	底 (13)	B1	紅縄文を横位施し、浮線文を横位に施す。内面被熱風化・荒れ。	諸磯 b 式
第11298 Pl. 49	10	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		G3	仰突文や変形弧形式と半截竹管状具の平行沈線の顕面状文を横位に施す。内外面共に被熱風化・煤状炭化物付着。	浮島式
第11298 Pl. 49	11	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		E3	半截竹管状具の連続弧形式を施した隆帯文の区画内外に、半截竹管状具の平行沈線文や連環文を施す。内外面共に被熱風化・荒れ。	勝飯 2 式
第11298 Pl. 49	12	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部一胴部中 位1/6	口 (22)	B10	波状口縁の波頂下に鼻突状の隆帯文を施す。外面口縁部磨位・胴部磨位の磨き。内面横位磨き。	阿玉台 1 b 式
第11298 Pl. 49	13	縄文土器 深鉢	2区覆土 口縁部破片		E38	口縁部に棒状具の顕面状交互刻突による波状文や、半截竹管状具の集合的平行沈線文を交互施す。胴部は紅縄文を横位・密接に施す。内面やや被熱風化・荒れ。一部に煤状炭化物付着。	三原田式
第11298 Pl. 49	14	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		B1	口縁部に棒状具の顕面状交互刻突による波状文を施す。内面丁寧な磨位磨き。	三原田式
第11298 Pl. 49	15	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		C3	口縁部に紅縄文を横位施す。隆帯の渦巻文が口唇部に迫り上がり口縁波頂部を形成。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・外面煤状炭化物付着。	加賀利 E 1 式
第11298 Pl. 49	16	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		E7	紅縄文を横位・密接施し、沈線垂文を施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化。	加賀利 E 2 式
第11298 Pl. 49	17	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		E8	紅縄文を横位施し、2本単位の幅広な隆帯区画に沿って沈線文を施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	加賀利 E 3 式
第11298 Pl. 49	18	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		E39	幅広な沈線垂文を施し、外縁部に紅縄文を充填的に施す。内面横位磨き。やや被熱風化・荒れ。	加賀利 E 3 式
第11298 Pl. 49	19	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		D1	紅縄文を横位に施し、断面三角形の隆帯沈線文を横位施す。内面横位磨き。一部に煤状炭化物付着。	加賀利 E 4 式
第11298 Pl. 49	20	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		E5	断面三角形の隆帯沈線文を横位施す。内面横位磨き。煤状炭化物付着。	加賀利 E 4 式
第11386 Pl. 49	21	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部下位一底部 2/3	底 7.9	D17	内外面共に横・磨位磨き。	中期後半
第11386 Pl. 49	22	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部下位一底部 1/2	底 7.0	D3	内外面共にやや粗い磨位磨き。一部に煤状炭化物付着。	中期後半
第11386 Pl. 49	23	縄文土器 深鉢	2区一括 口縁部破片		D1	く字状に内折する口端部に横線文を施す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	魁之内 1 式
第11386 Pl. 49	24	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		E1	横帯状の沈線区画内に紅縄文を充填的に施し、内形竹管文を加えた 8 字状貼付文を施す。内面丁寧な磨位磨き。外面やや被熱風化・荒れ。	魁之内 2 式
第11386 Pl. 49	25	縄文土器 深鉢	2区一括 胴部破片		C18	隆帯具の細沈線文を斜位に施す。内面横位磨き。	加賀利 B 2 式
第11386 Pl. 49	26	縄文土器 土器片加工 円板	2区一括 完形	直径 2.2 厚 0.8 重 4.4	D5	紅縄文や半截竹管状具の連続弧形式を施す深鉢土器破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨痕痕を持つ。	諸磯 b 式
3区遺構外(縄文)							
第11390 Pl. 49	1	縄文土器 深鉢	3区南側瓦 胴部破片		A2	2種類の附加条第一種R+LとR+R縄文を横位・交互に施文して菱形区画を構成し、括弧部に半截竹管状具の連続弧形式を横位施す。内面横位磨き。	黒沢式

遺物観察表

種 別 No.	類 種 No.	出土位置 現 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第11398 Pl.49	2	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		D2	細い半截竹管状貝の斜位集合沈線文や縦位の刺突文を施す。内面斜位磨き。	諸議 a 式
第11398 Pl.49	3	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		E2	1区横文を横位・斜位に施し、半截竹管状貝の連続円形文を横・斜位に施す。内面丁寧な横位磨き、外面一部に煤炭灰化物付着。	諸議 a 式
第11398 Pl.49	4	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	縦状貝の集合沈線や波状文を施し、円形竹管文を縦位に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化。	諸議 a 式
第11398 Pl.49	5	甕文土器 深鉢	3区覆木直 口縁部破片		E2	波状口縁、やや粗大な1区横文を横位施文し、半截竹管状貝の平行沈線文を横・斜位に施す。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤炭灰化物付着。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	6	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	縦状貝の横線文や波状文を施す。内面丁寧な横位磨き。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	7	甕文土器 深鉢	3区北 口縁部破片		E27	縦状貝の集合沈線文を横・斜位に施す。内外面共に被熱風化・荒れ。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	8	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D19	浮線文の退色化した半截竹管状貝の連点状沈線文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	9	甕文土器 深鉢	3区南覆瓦 口縁部破片		E5	小波状口縁の波頂下に斜位刻み降帯文を施す。以下に半截竹管状貝の連続円形文を横位や弧状に施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	10	甕文土器 深鉢	3区南覆瓦 割部破片		D1	浮線文を横位や縦手状に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸議 b 式
第11398 Pl.49	11	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 割部破片		C1	細い半截竹管状貝の集合沈線文を縦位斜位に施文し、小柄円形刻み付文を施す。内面横位磨き。	諸議 c 式
第11398 Pl.50	12	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		E23	やや粗大な半截竹管状貝をロッキング状に支点移動して類似的な波状文を重畳施文。内外面共にやや被熱風化。	複 式
第11398 Pl.50	13	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		B8	内湾する口縁部に刻み降帯の波状文を施し、その間隙を三角割刺状に括る。内面横位磨き。	三 角 割 刺 状
第11398 Pl.50	14	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C1	1区横文を横位に施し、S字状降帯文を施文か、内外面共にやや被熱風化、外面煤炭灰化物付着。	加 判 利 E 1 式
第11398 Pl.50	15	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		E5	降帯滑帯文の細線を指頭状貝でなぞる。内面横位磨き。	加 判 利 E 2 式
第11398 Pl.50	16	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		E13	1区横文を縦位施文し、クランク状に沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。	加 判 利 E 2 式
第11398 Pl.50	17	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 割部破片		E13	R 帯横文を斜位施文し、2本単位の降帯重畳文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加 判 利 E 2 式
第11398 Pl.50	18	甕文土器 深鉢	3区上 口縁部破片		E15	口縁部一部に1区横文を縦位施文。口縁部は降帯区画文や類似的な沈線文を、割部は2条単位の懸垂文を施して縄文を磨り消す。内面横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	19	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D1	1区横文を横位施文し、降帯の滑帯文・楕円区画文や類似的な幅広沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	20	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		E4	波状口縁、1区横文を横位施文し、降帯の滑帯文や類似的な凹線状の幅広沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	21	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 割部破片		B5	1区横文を縦位施文し、2条単位の沈線文部の縄文を磨り消す。内面横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	22	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		E5	逆U字状の沈線区画内に1区横文を充填施文。内面横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	23	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		D2	沈線懸垂文を施し、区画内に1区横文を充填的に施文。内面横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	24	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	交互刺突文や滑帯状あるいは逆U字状の沈線区画文を施し、外縁に1区横文を充填的に施文。内面横位磨き。	加 判 利 E 3 式
第11498 Pl.50	25	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		E5	断面三角形状の微線起線文を縦位施文し、以下に1区横文を縦位に施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	加 判 利 E 4 式
第11498 Pl.50	26	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	口縁部一帯に1区横文にかけで控刺した8字状の突起を付す。以下に断面三角形状の微線起線区画文を施し、1区横文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ。	加 判 利 E 4 式
第11498 Pl.50	27	甕文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	断面三角形状の微線起線文を横位施文し、以下に1区横文を縦位に施す。内面横位磨き、煤炭灰化物付着。	加 判 利 E 4 式
第11498 Pl.50	28	甕文土器 深鉢	3区覆木直 割部破片		D2	U字状の沈線区画文を施し、1区横文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ、一部に煤炭灰化物付着。	加 判 利 E 4 式
第11498 Pl.50	29	甕文土器 深鉢	3区上 割部破片		D2	沈線区画文を施し、1区横文を充填施文。内外面共に被熱風化・荒れ、外面煤炭灰化物付着。	加 判 利 E 4 式
第11498 Pl.50	30	甕文土器 深鉢	3区覆木直 口縁部破片		E5	断面三角形状の微線起線文を横位施文し、懸状の小突起を付す。以下に1区横文を縦位に施文。内面横位磨き、外面やや被熱風化・煤炭灰化物付着。	称 名 寺 1 式 掛 行
第11498 Pl.50	31	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		D2	沈線区画文を施し、1区横文を充填施文。内面丁寧な横位磨き。	称 名 寺 1 式
第11498 Pl.50	32	甕文土器 深鉢	3区南覆瓦 割部破片		E30	スベード状の沈線区画文を施し、短沈線状の列点文を充填施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	称 名 寺 2 式
第11498 Pl.50	33	甕文土器 深鉢	3区覆土 割部破片		E12	沈線区画文を施し、列点状の刺突文を充填施文。内面横・斜位磨き、外面やや被熱風化。	称 名 寺 2 式
第11498 Pl.50	34	甕文土器 深鉢	3区南覆瓦 口縁部破片		E5	口縁部に8字状附付文や横線文を施し、下に沈線文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	堀 之内 1 式
第11498 Pl.50	35	甕文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部～割部上 1/5	口 (27)	E5	口縁部がやや内湾状に肥厚、割部に横位や斜位の沈線文を施文し、括弧部に8字状附付文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	堀 之内 1 式

採 取 No., No.	種 類 種 別	出土位置 現 存 率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第11498 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	沈線区画文を施し、縦位の細沈線文を充填的に施文。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ。	縦之内1式
第11499 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		E11	波状口縁。沈線区画文を施す。内面横位磨き。	縦之内1式
第11498 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		E30	く字状に内折する口縁部に楕円形状の沈線区画文を施す。内外面共にやや被熱風化・荒れ。外面煤状炭化物付着。	縦之内1式
第11498 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		F2	楕円状の沈線区画文内にL縄文や刺突文を充填施文し、縦位の斜み帯磨きを施す。内面横位磨き。	縦之内1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D1	口頸部は無文で、胴部に沈線区画文を施す。内面横位磨き。外面煤状炭化物付着。	縦之内1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D20	口縁部に2本の横位斜み帯磨きや8字状附付文を施し、下位の沈線区画文内にL縄文を充填施文。内面口頸部下に2条の横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	縦之内2式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	口縁部に1本の横位斜み帯磨きを施し、下位の平截竹管状具の細沈線区画文内にL縄文を充填施文。内面口頸部下に1条の横線文を施す。内面丁寧な横位磨き。	縦之内2式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 胴部破片		D2	胴部上半に集合沈線的な渦巻文や細密なL縄文を充填施文した沈線区画文を施す。内面横位磨き。外面煤状炭化物付着。	縦之内2式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片		D2	波状口縁。く字状に短く内折する口唇部上端に斜み目を施す。口縁に沈線区画文を施し、L縄文を充填施文。内面は横位の微隆起線文や4条の横線文を施す。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	波状口縁。く字状に短く内折する口唇部上端に斜み目を施す。口縁に沈線区画文やクランク状の区切り縦線文を施文し、区画内の斜位磨地で整形痕を磨き残す。内面は横位の微隆起線文や刺突文・横線文等を施す。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	斜み帯磨きを横位施文し、その上下に細沈線文を斜格子状に施す。内面口頸部下に横線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B 1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	く字状に短く内折する口唇部、口縁に6状の横線文を施し、細密なL縄文を充填的に施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 1式
第11500 Pl.50	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部～胴部上 位1/4	口 (11.5)	D2	口唇部上面と内面に横線文を施す。口縁に3条の横線文を施し、上位にL縄文を横位・充填的に施文。内外面共に磨地で丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D21	横位の沈線区画文内にL縄文を充填施文し、区画内外に「の字文」を施す。内面丁寧な磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区上 口縁部破片		D2	磨消孤線文や縦線文を施し、L縄文を充填的に横位に施文。内面丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 胴部破片		D2	4条の横線文を施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 浅鉢?	3区ビッド 口縁部破片		C1	く字状に短く内折する部位に横線文や斜み目を施す。以下は無文で斜位の磨削移動痕を残すやや粗い縦位磨き。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		C7	口縁部に瘤状の小突起や斜み帯磨きを施し、以下に沈線区画文や斜弧状の区切り縦線文を施文。内面は2条の横線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 胴部破片		D2	4条の横線文を施し、充填的な横位L縄文やお玉子状の縦区切り文を施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 注口土器	3区覆瓦 胴部破片		D2	3条単位の横線文を複数段に施し、L縄文を横位・充填的に施文。外面丁寧な横位磨き。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区ビッド 胴部破片		D2	磨消孤線文や縦線文を施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		D2	瓢形状の深鉢か、口縁部に沈線区画文を施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 胴部破片		B1	磨消孤線文や縦線文を施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 胴部破片		D2	瓢形状の深鉢か、胴部に横線文や刺突文を施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		C1	口縁部に磨消孤線文や縦位の刺突文とL縄文を充填的に施文し、下位に横線文・斜み目・孤線などを施す。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第11500 Pl.51	縄文土器 深鉢	3区覆瓦 口縁部破片		B1	波状口縁。沈線区画文を複数段に施し、L縄文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨き。内面に赤色塗彩。	加曾利B 2式
第11600 Pl.52	縄文土器 鉢	3区覆瓦 口縁部～胴部中 位1/5	口 (28)	D7	ソロソロ玉状の器形。口縁部に横線文や孤線文を施し、屈折部に棒状具の斜み目を施文。外面胴部や口縁に縦位磨き。一部に煤状炭化物付着。内面口縁部斜位の指押さ丸磨を残すや粗い横位磨き・胴部縦・横位磨き。	加曾利B 2式

遺物観察表

種 別 Pl.No.	No.	類 型 器 種	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第11608 Pl.51	63	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	楕円状の円形切取文や磨消泓線文を施し、1区腹文を横位・充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	64	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	横線文や区切り縦線文を施文後に、1区腹文を横位・多段に施す。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	65	縄文土器 鉢	3区覆土 胴部破片		D12	腰部中に2条の横線文を施し、2種類の1区腹文を横位・多段に施文。内面磨で状のやや粗い横位磨き。内外面共にやや粗化。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	66	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		F8	口縁波頂部に扁平円形状の小突起を付し、その上に8字状貼付文を施す。突起部内面には3条の縦線文を、口唇部下には横線文を施文。内外面共に丁寧な磨きと焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	67	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		D22	いむゆる3単位突起深鉢。突起頂部や内面に刺突文を、その下位と胴部に短横線を施す。内外面共に丁寧な磨きと焼べ焼きで黒色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	68	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		E15	波頂部に十字状の小突起を付す波状口縁。内外面に凹み穴状の凹孔を施す。内外面共に丁寧な磨きと焼べ焼きにより黒灰色を呈する。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	69	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		C7	3単位突起深鉢。突起に連続する横線文と縦位割目と、区画内の砂粒移動の彫形磨を磨き残す縦線文や対称状の区切り縦線文を施文。内面は縦位の単行縦文や横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	70	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C19	手精製的な深鉢。口縁部に指頭状押圧による連続隆帯文を施し、胴部に棒状具の対弧文を縦位施文。外面砂粒移動痕を残す斜位磨り。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	71	縄文土器 深鉢	3区覆土 頂部破片		C1	頂部と胴部に斜線文を施し、括れ部に棒状具の縦位連続刺突文を施文。内面横位磨き。外面被熱風化・荒れ。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	72	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		E37	手精製的な深鉢。胴部棒状具の6本単位の条線的な沈線文を縦位施文。外面斜位の磨で、内面やや粗い横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	73	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C11	手精製的な深鉢。口縁部に幅広器具で上下2段に押圧した連続隆帯文を施す。外面は砂粒移動痕を残す斜位磨り。内面横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	74	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		D2	手精製的な深鉢。口縁部に指頭状押圧による2本の連続隆帯文を施し、下位に2条の縦線文を施文。内面横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	75	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片		C11	手精製的な深鉢。口縁部に指頭状押圧による連続隆帯文を施し、下位に縦位沈線文を施文。外面砂粒移動痕を残す横・斜位磨り。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	76	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	手精製的な深鉢。口縁部に指頭状押圧による連続隆帯文を施し、下位に斜線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	77	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		B1	手精製的な深鉢。1区腹文を横位・多段に施文し、胴状隆帯文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	78	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C1	胴部に沈線文を斜格子状に施す。外面胴部縦位磨り。外面頂部・内面は丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	79	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		E21	縦位対弧文や磨消泓線文を施文し、区画内縁の斜位磨り痕を磨き残す。内面横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利B 2式
第11608 Pl.51	80	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		D2	手精製的な深鉢。胴部棒状具の条線的な泓線文を縦位施文。外面砂粒移動痕を残す斜位の磨り。内面やや粗い斜位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利B 2式
第11708 Pl.51	81	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		B3	胴部に羽状沈線文を多段に施す。内面横位磨き。	加賀利B 2式
第11708 Pl.51	82	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		B3	手精製的な深鉢。胴部棒状具の条線的な斜格子状沈線文を施文。内面丁寧な横位磨き。外面被熱風化付着。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	83	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		D2	胴部に羽状沈線文を多段に施す。内面丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	84	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		C11	縦線文の楕円状区画文を重層的に施文。内面横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利B 2式?
第11708 Pl.52	85	縄文土器 深鉢	3区覆土 胴部破片		D2	手精製的な深鉢。胴部棒状具の条線的な縦位対弧文を施文。内面横位磨き。外面磨・縦位の荒磨で。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	86	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		C16	折返し状の口唇部に端正な朝加しを施し、下位に斜線文を施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面→内面側へ直径3mmの難状凸状難條付。内面丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	87	縄文土器 深鉢	3区覆土 頂部破片		E3	横線文や磨消泓線文・区切り縦線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	88	縄文土器 深鉢	3区南 口縁部破片		C21	手精製的な深鉢。胴縁状の短い沈線文を横位に施文。折返し状の内面口唇部下に横線文を施す。外面縦位磨り。内面丁寧な横位磨き。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	89	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		D1	括れ部に横線文を施文後、口唇部に斜格子状の沈線文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加賀利B 2式
第11708 Pl.52	90	縄文土器 深鉢	3区倒木直 口縁部破片		F3	手精製的な深鉢。口縁部→胴部に棒状具の沈線文を斜格子状に施す。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位磨り。内面横位磨き。	加賀利B 2式

種 別 Pl. No.	No.	類 型 種 類	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第11798 Pl. 52	91	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		D5	頸部に縄文線文を斜格子状に施す。内面口唇部下に横線文を施す。外面口縁部と内面は極めて丁寧な横線文。外面頸部横位撫で、内外面共に口縁部の一部に炭灰化物質付着。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	92	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		C19	平筒製の深鉢。縄文線文を散漫に縦位施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位笠削り後・粗い横位磨き。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	93	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		C21	内閉ぎ坑口唇部上面に削みを施す。口唇部下位に横線文を施し、上位に斜線文を施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面やや粗い横位磨き。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	94	縄文土器 深鉢	3区南東 口縁部破片		C17	波状口縁。口唇部に斜線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。外面横・斜位の笠削り。内面横位磨き。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	95	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C21	罐南状具の柔綿的な弧線文を縦位に施文。内面口唇部下に横線文を施す。外面斜位笠削り。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	96	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		C21	口唇部に羽状沈線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。内面丁寧な横位磨き。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	97	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D1	口縁部に羽状沈線文を、下位に横線文を施す。内面口唇部下に横線文を施文。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	98	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	く字状に広く内折する口縁部にL線文を横位施文し、下位に凹線状の斜線文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 2式
第11798 Pl. 52	99	縄文土器 深鉢	3区南 口縁部破片		D9	口縁部に横位のL線文や凹線状の横線文・斜み降帯文を施し、下位に羽状沈線文を施文。内面横位磨き。	加曾利B 3式
第11798 Pl. 52	100	縄文土器 鉢	3区上坑 口縁部/4	口 (15.5)	C6	口唇部に小突起を付すが、単位数は不明。列点状の刺突文を充填した2条単位の沈線文を口縁部は縦位に、体部はV字状に施文し、同沈線文内に赤色塗彩を施す。内外縁にL線文を充填的に施文。口唇部上面と口縁部内面に約10mm幅で赤色塗彩を施す。内面丁寧な横位磨きと焼べ焼きにより黒灰色を呈する。	後期後葉
第11808 Pl. 52	101	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		C7	波状口縁の内面波頂部に短沈線状の刺突を施す。口唇部外縁にL線文を横位施文し、下位に凹線状の横線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	後期後葉
第11808 Pl. 52	102	縄文土器 貝形台付土器	3区覆土 台部完存	台 径 7.0	E18	貝形上部の台部で、下盤は大小4単位の波状を呈する。陶製技法部に斜み降帯文と横線文を施文。施文した体部は、細密なL・粗縄文を横位・交互に充填施して断面状または羽状の意匠を構成。外面横位磨き。内面縦位磨き。内外面共に丁寧な磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	後期後葉
第11808 Pl. 52	103	縄文土器 鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	横位の斜み降帯文や斜線文を施す。内外面共に丁寧な磨きと焼べ焼きで黒灰色の光沢を帯びる。	加曾利B 3式
第11808 Pl. 52	104	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	波状口縁。2本の横位斜み降帯文やL・L線文を横位・交互に充填施文したタスキ状入組文を施す。内面横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	後期後葉
第11808 Pl. 52	105	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		D19	反頭状の波状口縁で、口唇部外縁に斜み目を施す。環状貼付文を付した斜み降帯文を縦・横位に施文し、区内面に内折し状の刺突文を施す。内面やや粗い縦撫で・斜位磨き。	後期後葉
第11808 Pl. 52	106	縄文土器 浅鉢	3区覆土 口縁部破片		E34	口縁部にL線文を充填した横線文や斜み降帯文を施す。内外面共に横位磨き・やや横撫で、焼べ焼きで黒灰色を呈する。	加曾利B 3式
第11808 Pl. 52	107	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	大波状口縁で内面に折返し状の口唇部。口唇部下に降帯文を施す。外面笠撫で状のやや粗い縦位磨き。内面粗い横・斜位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第11808 Pl. 52	108	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		D9	魚尾状の突起を付す大波状口縁で口唇部上面に斜み目を、内面に弧線文を施す。内外面共に縦・斜位磨き。	高井東式
第11808 Pl. 52	109	縄文土器 深鉢	3区側木根 口縁部破片		D9	波状口縁。波頂下に楕円形状の貼付文を施し、下位に凹線状の幅広沈線状弧文を施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	高井東式
第11808 Pl. 52	110	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		E5	く字状に広く内折する口縁部に凹線状の幅広横線文を2条施す。外面斜位・内面横位の磨き。	高井東式
第11808 Pl. 52	111	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		F2	大波状口縁。口縁部に横位降帯文や縦位の貼付文を施す。内面笠削り状の粗い横位磨き。外面一部に炭灰化物質付着。	高井東式
第11808 Pl. 52	112	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		B1	く字状に内折する口縁部に2条の横線文や降帯文を施し、波頂下に折巻状横沈線文を施文。内面横・斜位磨き。	高井東式
第11808 Pl. 52	113	縄文土器 浅鉢	3区覆土 口縁部破片		E21	く字状に内折する口縁部に2条の凹線状横線文を施し、L線文を充填的に施文。内面丁寧な横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第11808 Pl. 52	114	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		B1	波底部に小突起を付す波状口縁。く字状に広く内折する口縁部に3条の横線文や斜み降帯文を施す。内面丁寧な横位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第11808 Pl. 52	115	縄文土器 深鉢	3区覆土 口縁部破片		D2	魚尾状突起を付す大波状口縁。波頂下に瘤状突起を、複合状口縁部に3条の横線文を施す。内面丁寧な横・斜位磨き。内外面共に焼べ焼きで黒灰色を呈する。	高井東式
第11808 Pl. 53	116	縄文土器 深鉢	3区上坑 口縁部破片		F2	口縁部に2条の横線文や2個の内形貼付文を施す。内面横位磨き。外面やや被熱風化・荒れ、炭灰化物質付着。	高井東式

遺物観察表

種 別 Pl. No.	No.	類 型 形態	出土位置 残存率	計 測 値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第11808 Pl. 53	117	縄文土器 深鉢	3区履り方 口縁部破片		F2	コップ状の小突起を付す大流注口縁。波面下に鉢巻状の隆帯や歯状の貼付文を施し、口縁部に2条の縦線文を施文。内面に円形貼付文を付す。内外面共に被熱風化・荒れ。	高井東式	
第11808 Pl. 53	118	縄文土器 深鉢	3区履見 口縁部破片		C1	横線文や刻み線帯文を施す。内面丁寧な横位磨き。	高井東式	
第11808 Pl. 53	119	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		E43	口縁部に1組縄文を横位・充墳的施文した突起帯横文を施し、胴部に縦位の細い横線文を施文。外面横位磨り・内面横位磨き。	安行1式	
第11808 Pl. 53	120	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		D24	手精製的な無文土器。外面砂粒の移動帯を残すやや粗い横・斜位磨き、内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉	
第11808 Pl. 53	121	縄文土器 深鉢	3区例木取 口縁部破片		F1	1組縄文を横位・多段に施文。内面撫で状のやや粗い横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉	
第11808 Pl. 53	122	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		D8	口縁部に1組縄文を充墳的に横位施文。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	123	縄文土器 深鉢	3区ビット 口縁部破片		D2	口縁部に1組縄文を充墳的に施文し、以下は横位磨きで磨り消す。内面やや粗い横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	124	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		D3	外附ぎ状の口唇部。1組縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内面口縁部丁寧な横位磨き。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	125	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		D19	1組縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。内面横位磨き、外面煤状炭化物付着。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	126	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		D30	外附ぎ状の口唇部。1組縄文を横位・多段に施文。内面口唇部丁寧な横位磨き・胴部斜位磨り面を残すやや粗い横位磨き。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	127	縄文土器 深鉢	3区例木直 口縁部破片		D2	1組縄文を横位・多段に施文。内面口唇部下に横線文を施す。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	128	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		B12	粗製の無文深鉢。外面磨いた凹凸を残す粗い横・斜位磨り。内面横位磨で。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	129	縄文土器 深鉢	3区履上 口縁部破片		D20	粗製の無文深鉢。外面凹凸を残す横・斜位磨り。内面横位磨で。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	130	縄文土器 鉢	3区履見 胴部～底部 1/4	口 (6)	D9	無文の鉢で、口唇部が外面にやや肥厚。外面丁寧な縦位磨き。内面丁寧な横位磨きと赤色塗彩。	後期中葉?	
第11908 Pl. 53	131	縄文土器 深鉢	3区土坑 胴部下位～底部 完存	底 8.0	C11	底外面に網代文。外面縦位・内面横位の磨き。内外面共にやや被熱風化。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	132	縄文土器 深鉢	3区例木取 胴部下位～底部 完存	底 7.4	C2	底外面に網代文。外面縦位・内面横位の磨き。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	133	縄文土器 深鉢	3区土坑 胴部下位～底部 1/4	底 (8)	C7	底外面に網代文。外面丁寧な縦位磨き。内面横位磨き・やや被熱風化・一部に煤状炭化物付着。内外面共に燻べ焼きで黒灰色を呈する。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	134	縄文土器 深鉢	3区履上 底部1/4	底 (8)	E45	粗製深鉢土器。外面横位磨で。内面横位磨き。内外面共に被熱風化・荒れ。一部に煤状炭化物付着。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	135	縄文土器 小形土器	3区履上 口縁部～胴部 中位1/4	口 (7)	D2	手捏ね状の小形土器。内外面共に指頭丘痕状の整形痕を残す。外面やや粗い横位磨き、内面やや粗い横位磨で。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	136	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部破片		E42	粗製深鉢土器。内外面共に横・斜位の磨り。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	137	縄文土器 小形土器	3区履上 口縁部～胴部 下位1/3	口 (6.5)	D20	手捏ね状の小形土器。内外面共に指頭丘痕状の整形痕を残す粗い横位磨で。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	138	縄文土器 注口土器	3区履上 体部破片		E5	横位の細い縦線文を施し、欠損する注口部下に2個の円形貼付文を施文。外面砂粒の移動帯を残す粗い横・縦位磨き。内面やや粗い横位磨で。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	139	縄文土器 注口土器	3区履上 注口部完存		C7	体部との接合部で破損。粘土板を直径12mmの円形棒状具に巻き付け、貫通整形。外面は縦位磨き。	後期中葉	
第11908 Pl. 53	140	縄文土器 注口土器	3区履上 注口部完存		C17	体部との接合部で破損。先端部の最大孔径18mm、基部は直径25mmで、板状粘土を円筒状に整形。外面縦位磨き、燻べ焼きにより黒灰色を呈する。	後期中葉	
第12008 Pl. 53	141	縄文土器 注口土器	3区履上 注口部完存		C18	接合基部に接する体部部で破損。基部背面に円形貼付文を施し、それと並行する体部部に凹線状の幅広横線文を施文。上下2箇所に通孔を付すが、直径9mmの上位孔が下位を切る状態で貫通する。外面やや粗化。	後期中葉	
第12008 Pl. 53	142	縄文土器 注口土器	3区履上 注口部完存		B1	体部との接合部で破損。粘土板を直径10mmの円形棒状具に巻き付け、貫通整形。基部背面に幅広の円形貼付文を施す。外面丁寧な縦位磨き。先端部粗化・荒れ。	後期中葉	
第12008 Pl. 53	143	縄文土器 深鉢	3区土坑 口縁部～括れ部 1/3	口 (27.5)	D1	4単位を反逆流注口縁で、底底部にも反逆流の突起を付す。口頸部には流線の横帯文や縦位連携の粗組文を施し、区胴内に流状具の刻目状網突文を充墳施文。括れ部に背向した三日月状の小突起を付す。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化・荒れ。	後期後葉	
第12008 Pl. 53	144	縄文土器 スタンプ 土製品	3区履上 1/5	直径 (3)	厚 2.9 重 13	D5	ガジリ痕により体部と底面の一部が欠損。体部中央に直径3mmの焼成前穿孔。底面に同心円状の凹文を施す。体部縦位磨き、底面粗化・荒れ。	後期中葉

採 取 No.	種 類 種 別	出土位置 残存率	計 測 値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第1208回 PL.000	縄文土器 土鍋	3区割本痕 脚部1/2	底	5.7		F5	ハート形土鍋の左脚部。外側面に前縁部を弧線で閉じた3葉の平行沈線文を施し、底面には刷代面を残す。内外側面に横位磨き。	後期前半	
第1208回 PL.54	縄文土器 土鍋	3区覆土 脚部破片	直 径	5.3	厚 重	E5	右側の肩部～脚部と推定され、先端部に浅い凹みで掌を作出。外面は撫で状のやや粗い磨き。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区土坑 完形	直 径	5.3	厚 重	E30	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、上端部を除く周縁部に磨耗痕を持つ。	中期後半	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区ビット 完形	直 径	3.5	厚 重	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	4.6	厚 重	F5	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	3.4	厚 重	D2	深鉢土器の胴部破片を楕円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持つ。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	4.2	厚 重	F5	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区南 完形	直 径	3.7	厚 重	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	2.7	厚 重	C10	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持たない。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	2.1	厚 重	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	後期中葉	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区土坑 完形	直 径	3.2	厚 重	D2	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、周縁部には磨耗痕を持つ。	後期前半	
第1208回 PL.54	縄文土器 土器片加工 円板	3区覆土 完形	直 径	2.8	厚 重	E26	深鉢土器の胴部破片を円形状に打割整形し、全周縁部に磨耗痕を持つ。	中期後半	
第1218回 PL.54	剥片石器 石鏝	一括 完形	長 幅	1.2 1.0	厚 重	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。右側面に先端方向からの種状割痕が認められ対象物に接触した際の衝撃耐衝撃の可能性がある。	四基無基墓	
第1218回 PL.54	剥片石器 石鏝	覆土 4/5	長 幅	(2.5) 1.3	厚 重	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。下側面には舌部の折断面が認められるが表面の下端には折断面を打面とする割痕が認められる。	平基有基墓	
第1218回 PL.54	剥片石器 石鏝	一括 4/5	長 幅	(2.2) (1.4)	厚 重	黒曜石	表裏面の全体に面的な二次加工が認められる。	四基無基墓	
第1218回 PL.54	剥片石器 打製石斧	一括 完形	長 幅	11.5 7.3	厚 重	3.0 317.4	黒色頁岩	側面には全面的に内面加工が認められる。表面には素材剥片段階の主要割痕が大きく認められ大形円礫を素材とする。裏面には広く自然面が認められ円礫を利用する。	
第1218回 PL.54	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	12.8 4.2	厚 重	2.0 105.6	黒色頁岩	側面全体に内面加工が認められる。表面の一部に自然面が認められる。	
第1218回 PL.54	剥片石器 打製石斧	覆土 完形	長 幅	11.2 4.7	厚 重	1.6 90.3	黒色頁岩	側面全体に内面加工が認められる。表面の中央付近に摩滅痕が散在する。	
第1218回 PL.54	剥片石器 打製石斧	覆土 1/2	長 幅	(5.8) (3.7)	厚 重	1.9 55.8	黒色頁岩	内側面には内面加工が認められる。上下内側面は折断面であるが下側面は左右両側面に打点があり両極加撃により形成された折断面と考えられる。	
第1218回 PL.54	石製品 威石	覆土 1/2	長 幅	(4.6) (2.9)	厚 重	(0.9) 12.7	凝灰質砂岩	表裏面ともに全体的に滑らかである。左右両側面は鋭角であり表裏面ともに滑らかである。裏面の上方にはごく浅い鋭角の広い溝状凹みが認められる。	
第1218回 PL.54	礫 ビット 完形	ビット 完形	長 幅	6.8 5.1	厚 重	1.9 192.1	珪質変質岩	極円礫。全体の鮮やかな橙色であり人為的に造粒内に填入されたと考えられる。	
第1218回 PL.54	礫石 石皿	覆土 完形	長 幅	26.2 22.0	厚 重	8.1 6490.0	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな面が認められ中心部付近が特に出る。表面の上方に表層的な割痕が認められ敲打による可能性がある。裏面はほぼ全面に滑らかな面が認められる。全体的に自然面と考えられ大形円礫を利用する。	
第1218回 PL.54	礫石 石皿	覆土 完形	長 幅	39.6 29.7	厚 重	13.5 6960.0	粗粒輝石安山岩	表面の中央付近に滑らかな部分が認められる。側面は全体的に打割面で構成される。裏面は全体的に風化が認められ自然面と考えられ大形円礫を利用する。	
第1218回 PL.54	礫石 石皿	覆土 完形	長 幅	41.9 32.5	厚 重	13.8 6380.0	角閃石安山岩	表面はほぼ平坦で全体的に滑らかであり中央付近が特に滑らかである。表面には敲打痕が散在する。側面は全体的に打割面で構成される。裏面は全体的に風化が認められ自然面の可能性が高い。	

写真図版



1 1号竪穴建物



2 2号竪穴建物



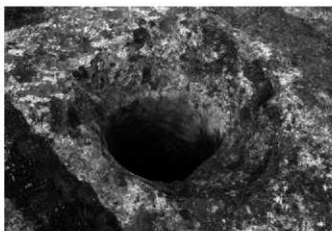
3 2号竪穴建物



4 2号竪穴建物出土遺物



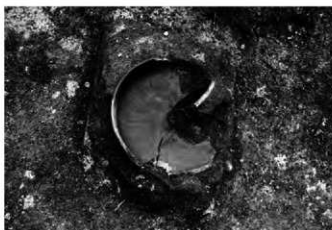
5 2号竪穴建物出土遺物



6 2号竪穴建物内ビット



7 3号竪穴建物



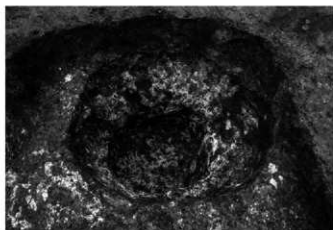
8 3号竪穴建物出土遺物



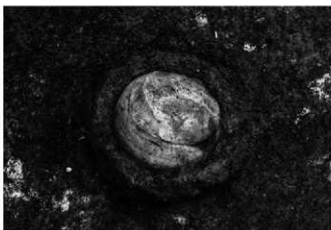
1 3号竖穴建物竈



2 3号竖穴建物竈



3 3号竖穴建物貯蔵穴



4 3号竖穴建物出土遺物



5 3号竖穴建物出土遺物



6 4号竖穴建物



7 4号竖穴建物竈



8 4号竖穴建物竈



1 4号竖穴建物出土遺物



2 5号竖穴建物



3 5号竖穴建物



4 5号竖穴建物



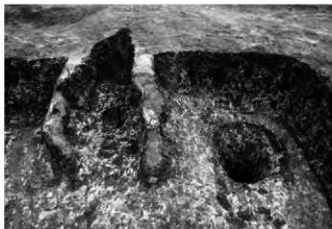
5 5号竖穴建物出土遺物



6 5号竖穴建物出土遺物



7 5号竖穴建物出土遺物



8 5号竖穴建物竈・貯蔵穴



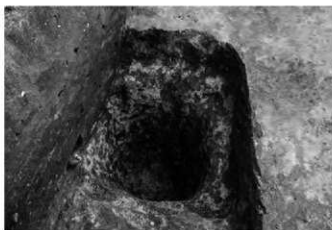
1 5号竖穴建物出土遺物



2 6号竖穴建物



3 6号竖穴建物出土遺物



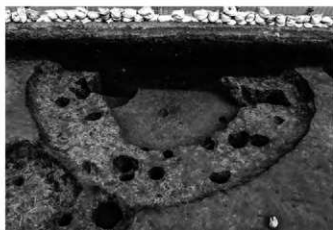
4 6号竖穴建物貯蔵穴



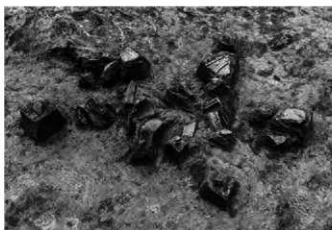
5 7号竖穴建物



6 8号竖穴建物



7 9号竖穴建物



8 9号竖穴建物出土遺物



1 10号竖穴建物



2 11号竖穴建物



3 12号竖穴建物



4 12号竖穴建物



5 12号竖穴建物出土遺物



6 12号竖穴建物出土遺物



7 12号竖穴建物出土遺物



8 12号竖穴建物出土遺物



1 13号竖穴建物



2 14号竖穴建物



3 15号竖穴建物



4 15号竖穴建物内



5 1号竖穴状遺構



6 2号竖穴状遺構



7 2号竖穴状遺構出土遺物



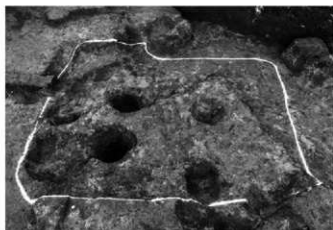
8 2号竖穴状遺構出土遺物



1 3号竖穴状遺構出土遺物



2 4号竖穴状遺構



3 5号竖穴状遺構



4 6号竖穴状遺構



5 6号竖穴状遺構



6 6号竖穴状遺構



7 6号竖穴状遺構



1 1号井戸



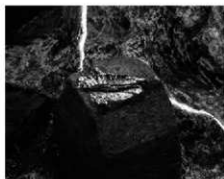
2 2号井戸



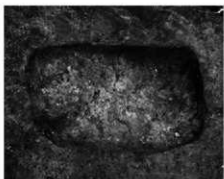
3 1号土坑



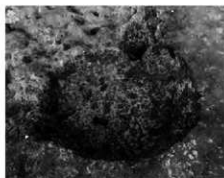
4 2・3号土坑



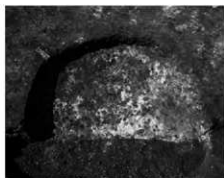
5 3号土坑・馬備



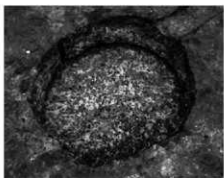
6 5号土坑



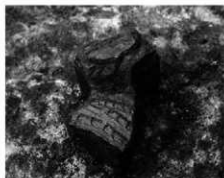
7 6号土坑



8 8号土坑



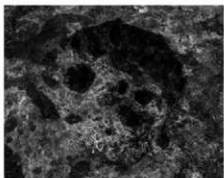
9 9号土坑



10 9号土坑出土遺物



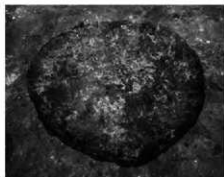
11 10号土坑



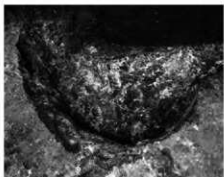
12 11号土坑



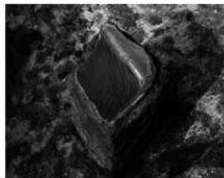
13 12号土坑



14 13号土坑



15 15号土坑



1 15号土坑出土遗物



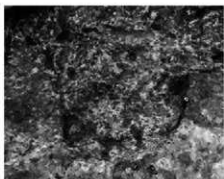
2 16号土坑



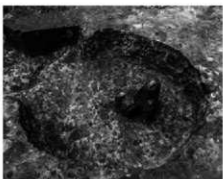
3 17号土坑



4 18号土坑



5 20号土坑



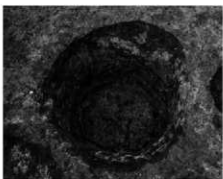
6 21号土坑



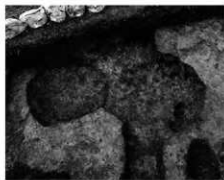
7 22号土坑



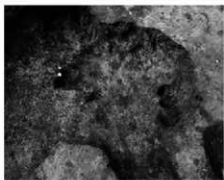
8 24号土坑



9 25号土坑



10 28号土坑



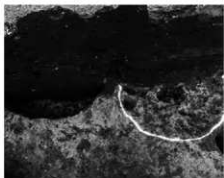
11 29号土坑



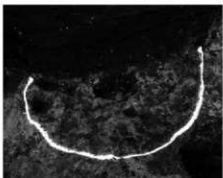
12 30号土坑



13 30号土坑出土遗物

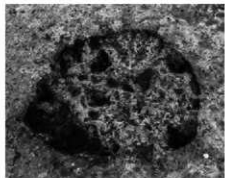


14 31·32号土坑

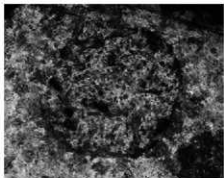


15 32号土坑

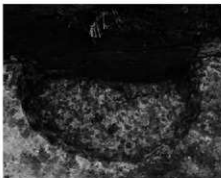
PL.10



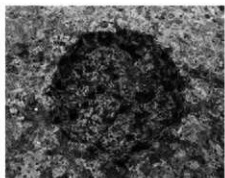
1 33号土坑



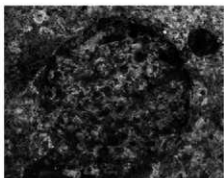
2 34号土坑



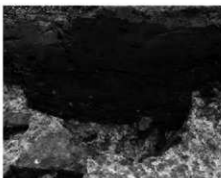
3 35号土坑



4 36号土坑



5 37号土坑



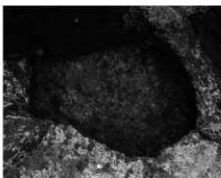
6 39号土坑



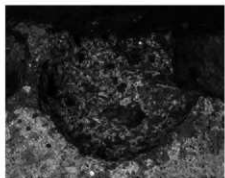
7 40号土坑



8 41号土坑



9 42号土坑



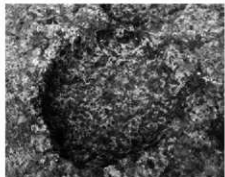
10 43号土坑



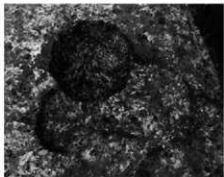
11 45号土坑



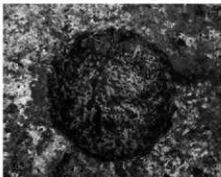
12 46号土坑



13 48号土坑



14 48~50号土坑



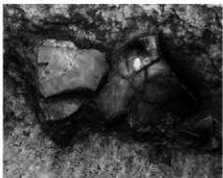
15 50号土坑



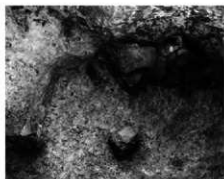
1 51·52号土坑



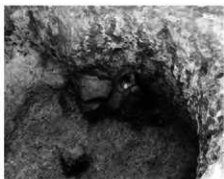
2 53·54号土坑



3 53号土坑出土遗物



4 53号土坑



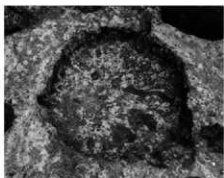
5 53号土坑出土遗物



6 55号土坑



7 57号土坑



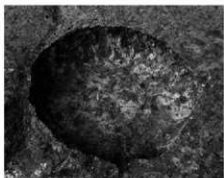
8 58号土坑



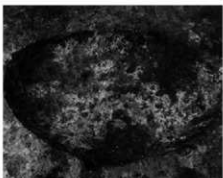
9 56号土坑



10 59号土坑



11 60号土坑



12 61号土坑



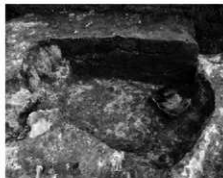
13 62号土坑



14 63号土坑



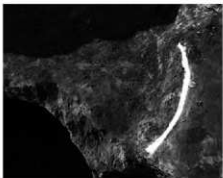
15 64号土坑



1 65号土坑



2 65号土坑出土遗物



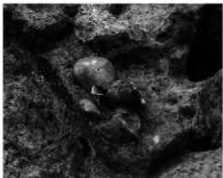
3 67号土坑



4 66号土坑



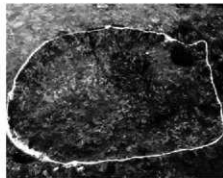
5 68号土坑



6 69号土坑



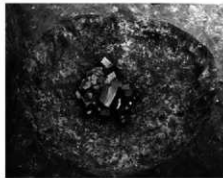
7 72号土坑



8 73号土坑



9 74号土坑



10 75号土坑



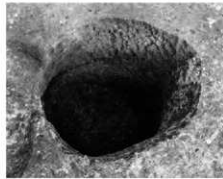
11 75号土坑出土遗物



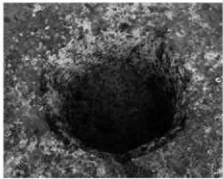
12 77号土坑



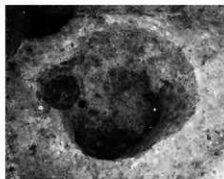
13 77号土坑



14 80号土坑



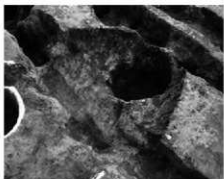
15 81号土坑



1 82号土坑



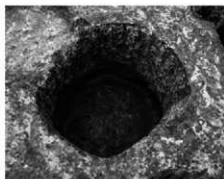
2 84号土坑



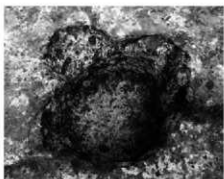
3 85号土坑



4 86号土坑



5 87号土坑



6 89号土坑



7 90号土坑



8 90号土坑出土遺物



9 103号土坑出土遺物



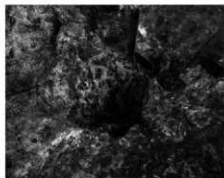
10 103号土坑



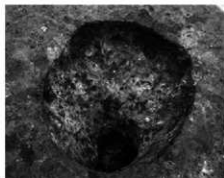
11 104号土坑



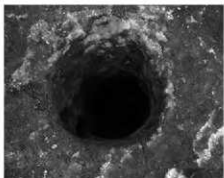
12 105号土坑



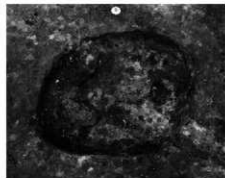
13 ビット9



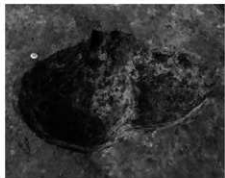
14 ビット11



15 ビット12



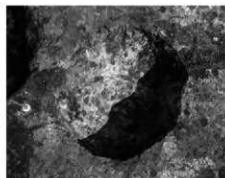
1 ビット13



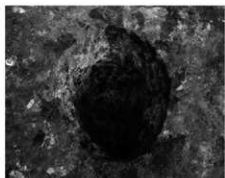
2 ビット14



3 ビット17



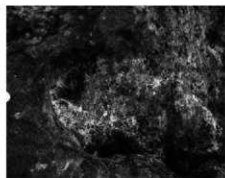
4 ビット19



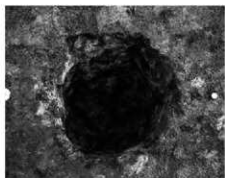
5 ビット20



6 ビット21



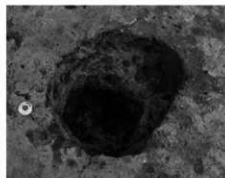
7 ビット24



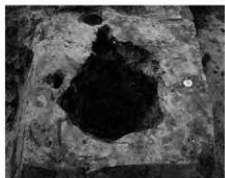
8 ビット25



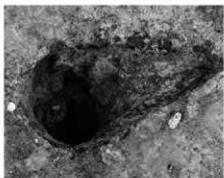
9 ビット26



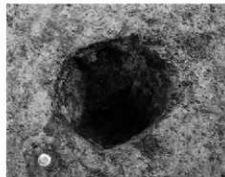
10 ビット42



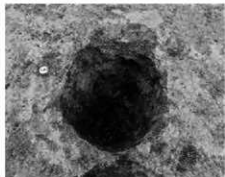
11 ビット43



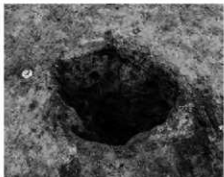
12 ビット47



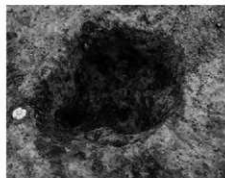
13 ビット48



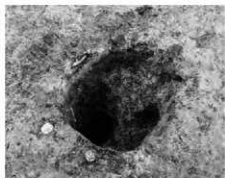
14 ビット49



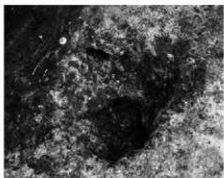
15 ビット50



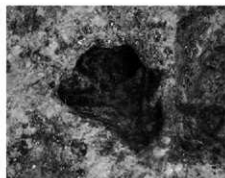
1 ビット51



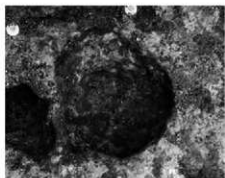
2 ビット52



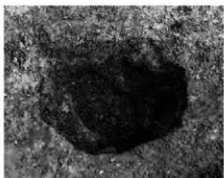
3 ビット53



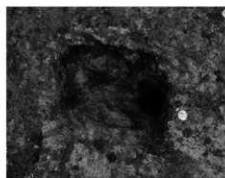
4 ビット54



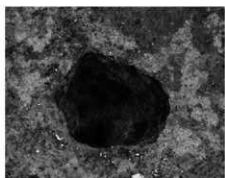
5 ビット55



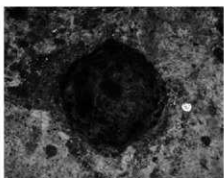
6 ビット56



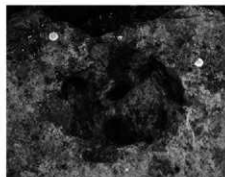
7 ビット57



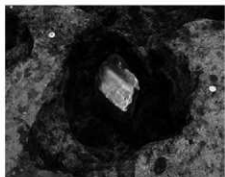
8 ビット58



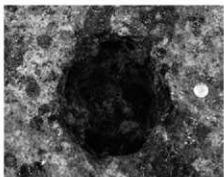
9 ビット59



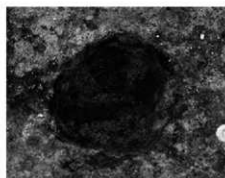
10 ビット60



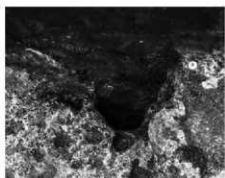
11 ビット61



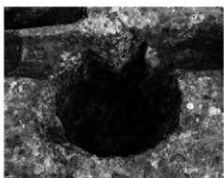
12 ビット62



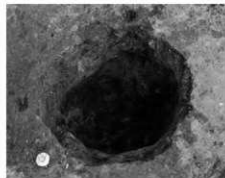
13 ビット63



14 ビット66



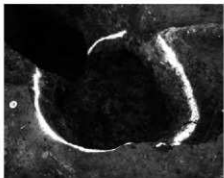
15 15号整穴建物P 9



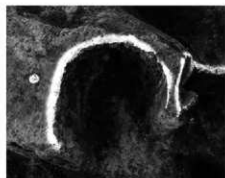
1 ビット68



2 ビット69



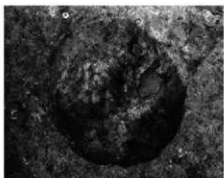
3 ビット70



4 ビット72



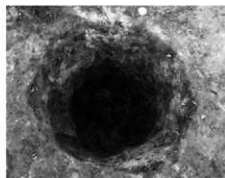
5 ビット74



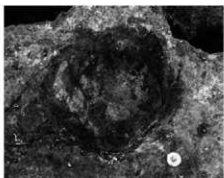
6 ビット75



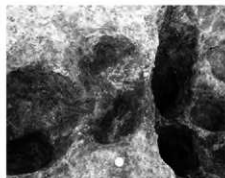
7 ビット76



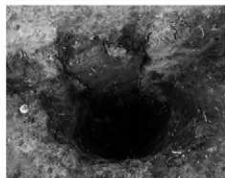
8 ビット77



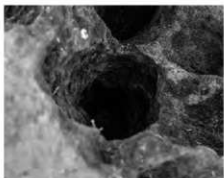
9 ビット78



10 ビット80



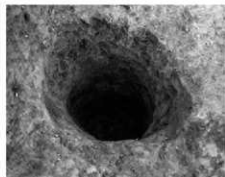
11 ビット81



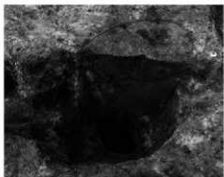
12 ビット82



13 ビット83



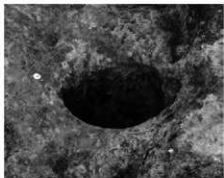
14 ビット85



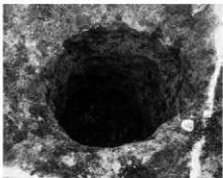
15 ビット86



1 ピット87



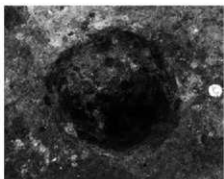
2 ピット88



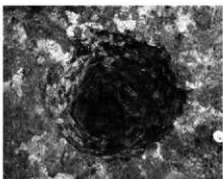
3 ピット89



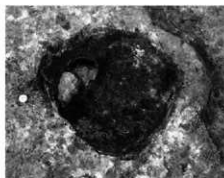
4 ピット90



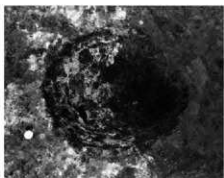
5 ピット91



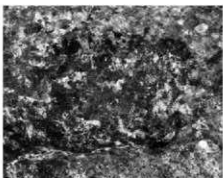
6 ピット92



7 ピット93



8 ピット94



9 ピット95



10 15号整穴建物P 3



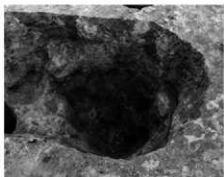
11 ピット99



12 ピット100



13 15号整穴建物P 6



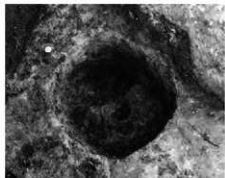
14 ピット102



15 ピット103



1 ピット104



2 ピット106



3 ピット107



4 ピット108



5 ピット109



6 ピット110



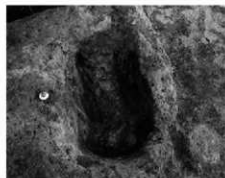
7 ピット111



8 ピット113



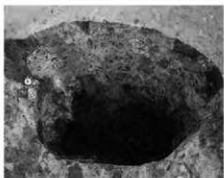
9 ピット115



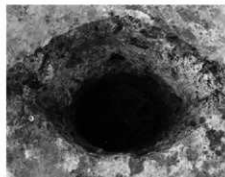
10 ピット116



11 15号壁穴建物P 1



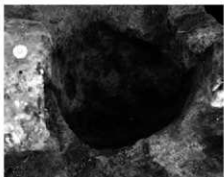
12 ピット118



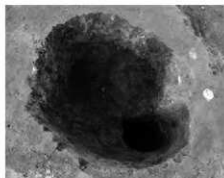
13 ピット119



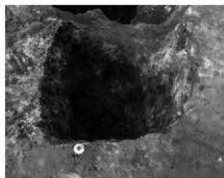
14 ピット120



15 ピット121



1 ビット122



2 ビット123



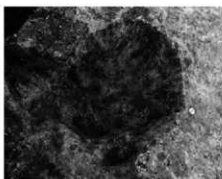
3 ビット124



4 ビット125



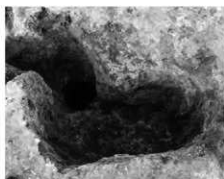
5 ビット126



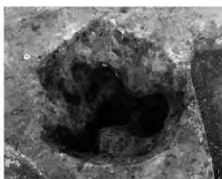
6 ビット127



7 ビット128



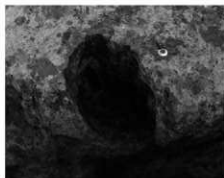
8 ビット129



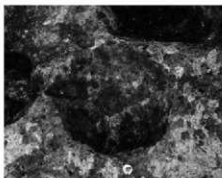
9 ビット130



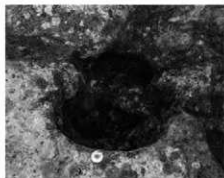
10 ビット131



11 ビット132



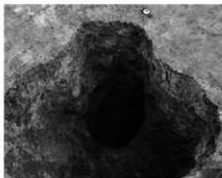
12 ビット133



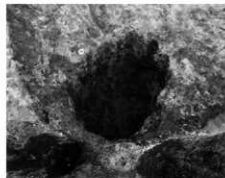
13 ビット134



14 ビット136



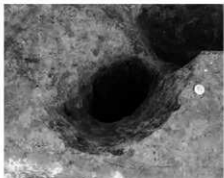
15 ビット139



1 ビット137



2 ビット138



3 ビット140



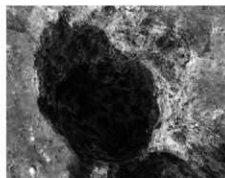
4 ビット141



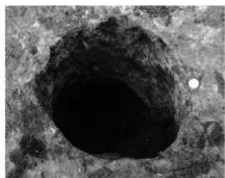
5 ビット142



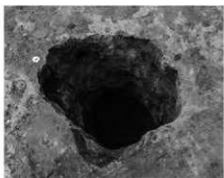
6 15号竪穴建物P10



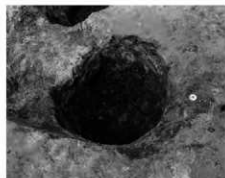
7 ビット145(15号竪穴建物柱穴)



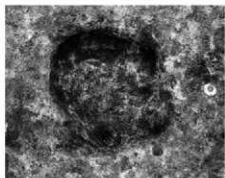
8 15号竪穴建物P 2



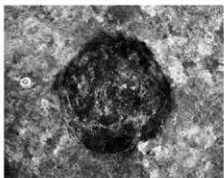
9 15号竪穴建物P 4



10 ビット148



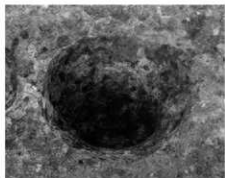
11 ビット149



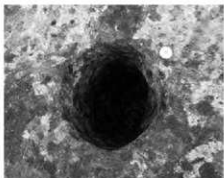
12 ビット150



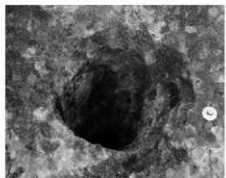
13 15号竪穴建物P 5



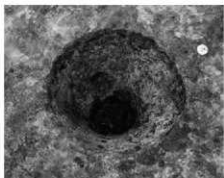
14 ビット152



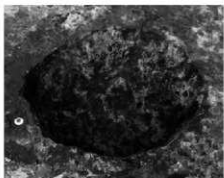
15 ビット153



1 ビット154



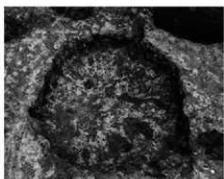
2 ビット155



3 ビット156



4 1号屋外堀・下面が58号土坑



5 58号土坑



6 1号屋外堀



7 1号屋外埋め糞



8 1号屋外埋め糞

PL.22

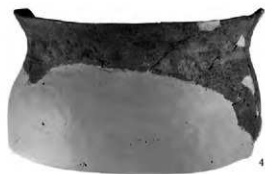
2号竪穴建物出土遺物



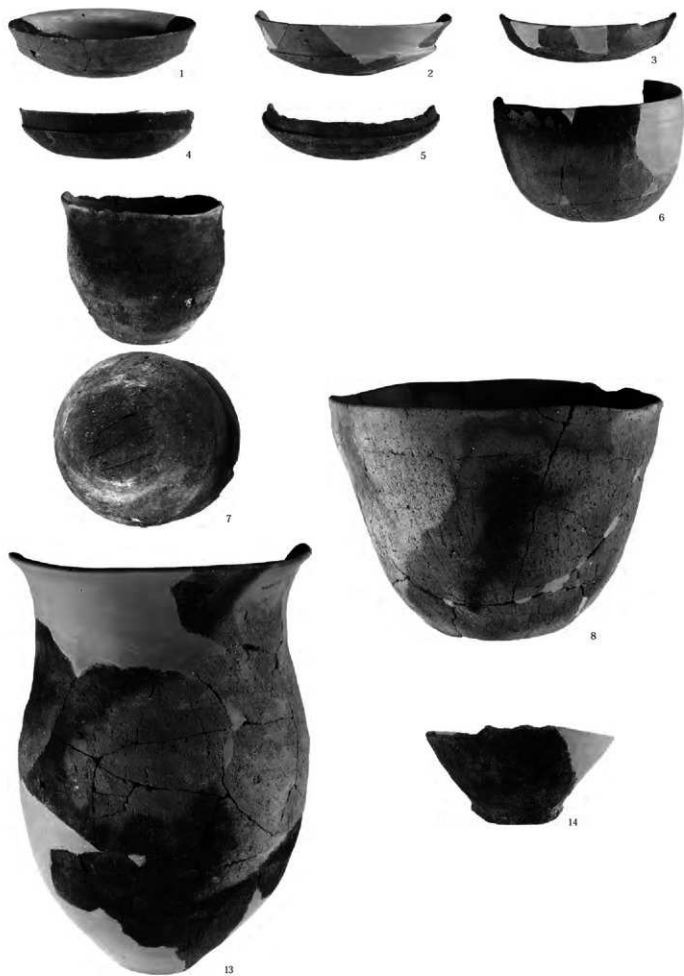
3号竪穴建物出土遺物



4号竪穴建物出土遺物



5号竈穴建物出土遺物





16



17



18

6号竖穴建物出土遺物



1



2



3



6



4

10号竖穴建物出土遺物



1



5



7

PL.26

11号竖穴建物出土遺物



12号竖穴建物出土遺物







12



13

1号溝出土遺物



1



3



4



5



9

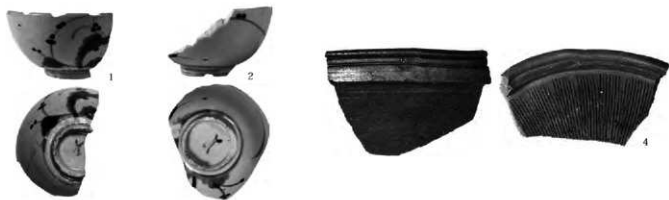


6

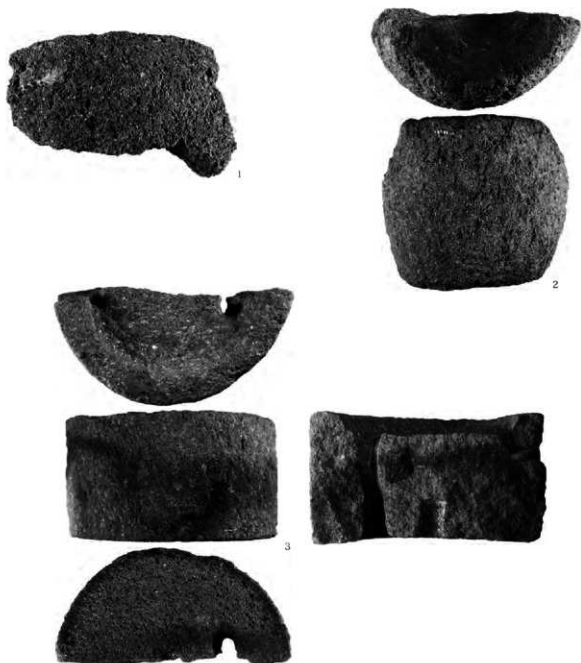


8

1号井戸出土遺物



2号井戸出土遺物



PL.30

89号ピット出土遺物

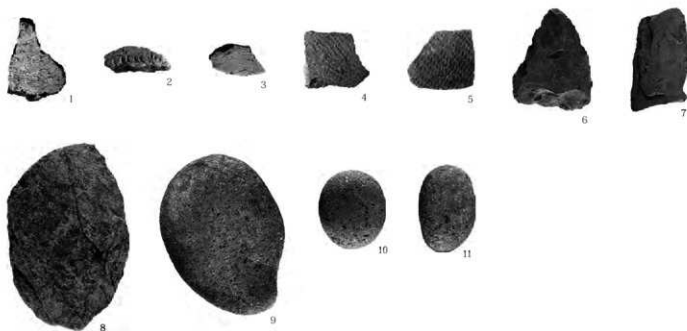


遺構外出土遺物



縄文時代

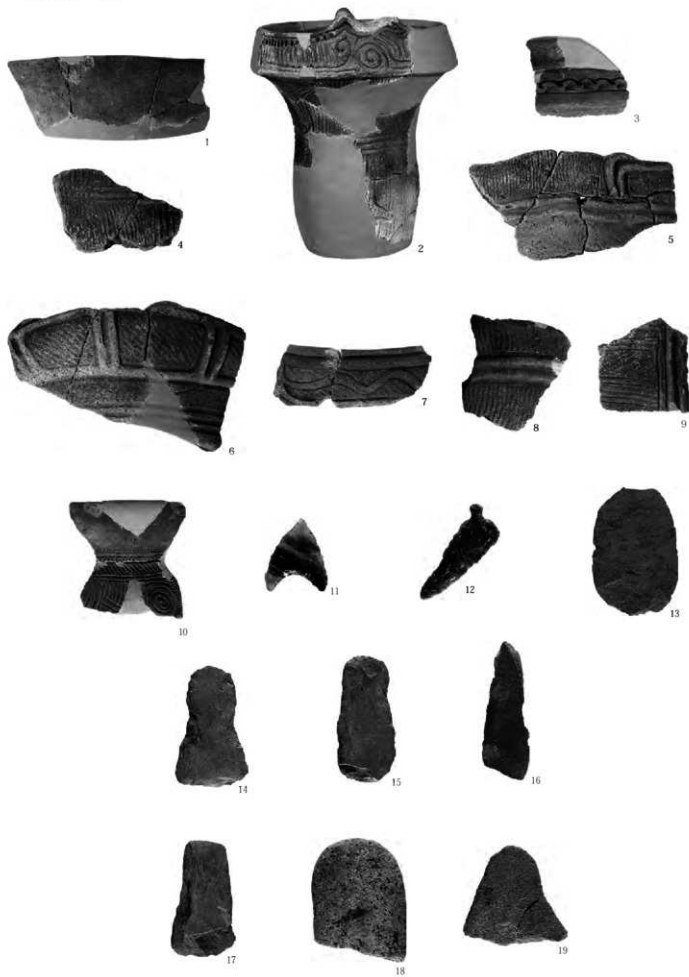
7号竪穴建物居出土遺物



8号竪穴建物出土遺物

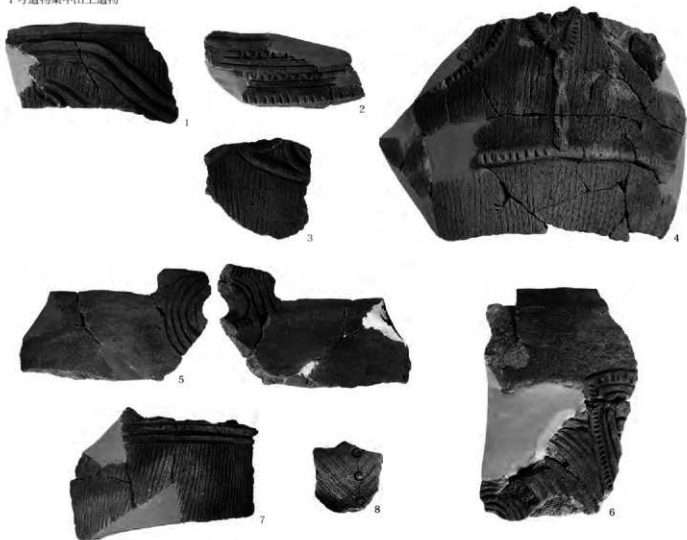


9号竖穴建物出土遺物



PL.32

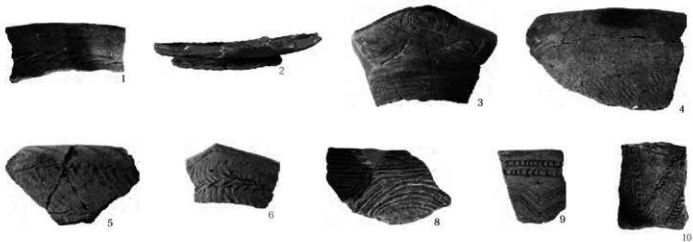
1号遗址集中出土遗物



13号竖穴建物出土遗物



14号竖穴建物出土遗物





15号竪穴建物出土遺物



2号竪穴状遺構出土遺物



PL.34

4号竖穴式土坑出土物



6号竖穴式土坑出土物



10・14号土坑出土遺物



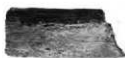
10上1



10上2



14上1



14上2



14上4



14上3

18・19・21・22号土坑出土遺物



18上1



19上1



21上1



21上2



21上3



22上1



22上2



22上3

12号土坑出土遺物



1

13号土坑出土遺物



1



2

15号土坑出土遺物



1



2



3



4

16号土坑出土遺物



1

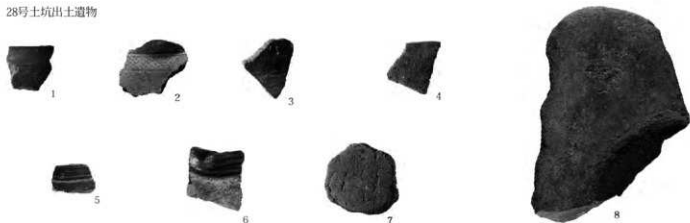
17号土坑出土遺物



1

PL.36

28号土坑出土遺物



30号土坑出土遺物



33号土坑出土遺物



35号土坑出土遺物



38号土坑出土遺物



47号土坑出土遺物



39・42・44号土坑出土遺物



39上1



39上2



42上1



42上2



44上1



44上2

41号土坑出土遺物



1



2



3



5



4



6

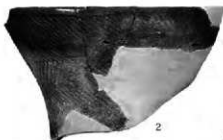


7

46号土坑出土遺物



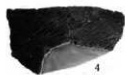
1



2



3



4



5



6



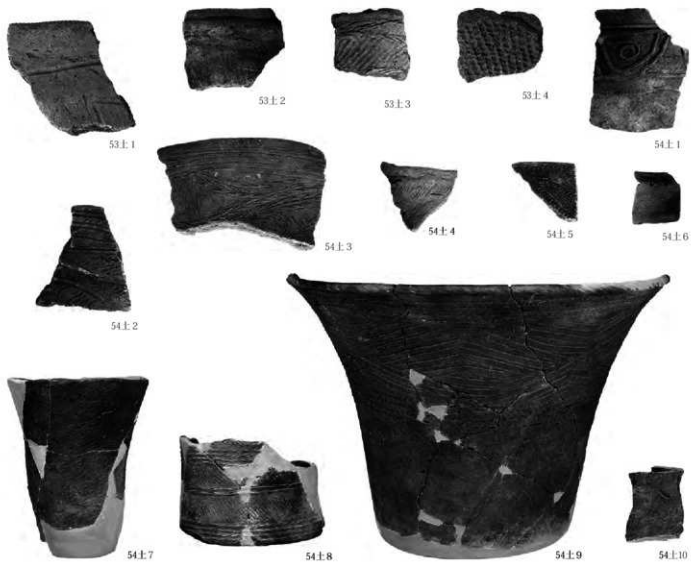
50号土坑出土遺物



51・52号土坑出土遺物



53・54号土坑出土遺物



55号土坑出土遗物



56·57号土坑出土遗物



90号土坑出土遗物



PL.40

59号土坑出土遗物



59上 1

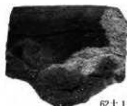


59上 2



59上 3

62号土坑出土遗物



62上 1



62上 2



62上 3



62上 4

63・67号土坑出土遗物



63上 1



63上 2



63上 5



63上 6



63上 7



63上 8



63上 9



63上 10



67上 1



67上 2



63上 3

64号土坑出土遗物



64上1



64上2



64上3

65号土坑出土遗物



65上1

66号土坑出土遗物



66上1



66上2



66上3



66上4

68号土坑出土遗物



68上1



68上2



68上3



68上4



68上5



68上6



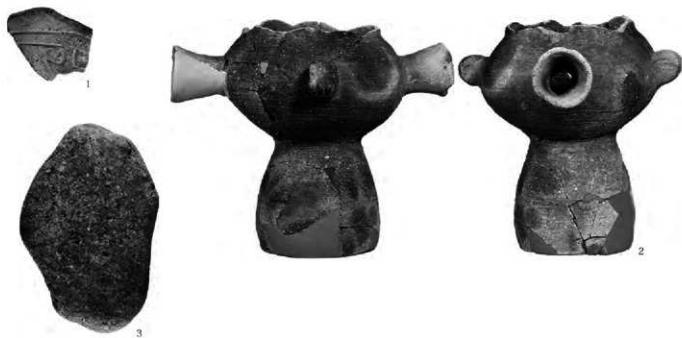
68上7



68上10

PL.42

69号土坑出土遺物



72号土坑出土遺物



73号土坑出土遺物



74号土坑出土遺物



75号土坑出土遺物



1



2



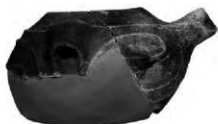
3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19

PL.44

77号土坑出土遺物



2



3

86号土坑出土遺物



1



2

87号土坑出土遺物



87上1

89号土坑出土遺物



1

91・92・96・97号土坑出土遺物



91上1



92上1



92上2



92上3



92上4



92上5



92上6



96上1



96上2

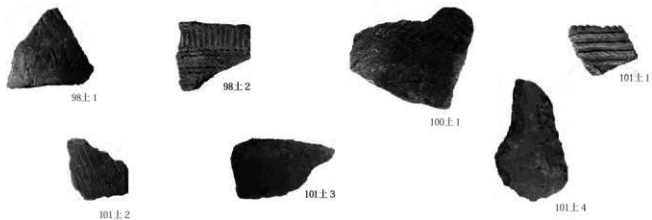


97上1

95号土坑出土遺物



98・100・101号土坑出土遺物



102号土坑出土遺物



103号土坑出土遺物



PL.46

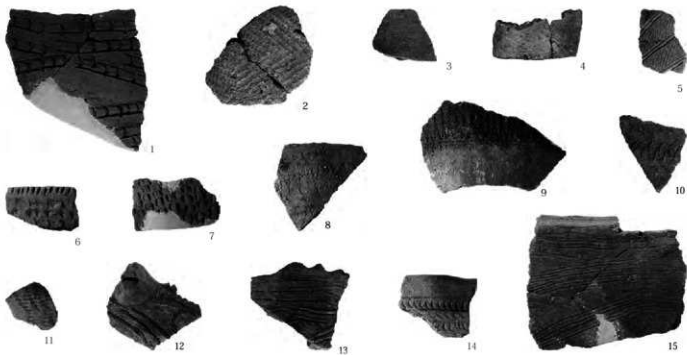
104・105号土坑出土遺物



1号屋外坑出土遺物



1区道橋外出土遺物







48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72

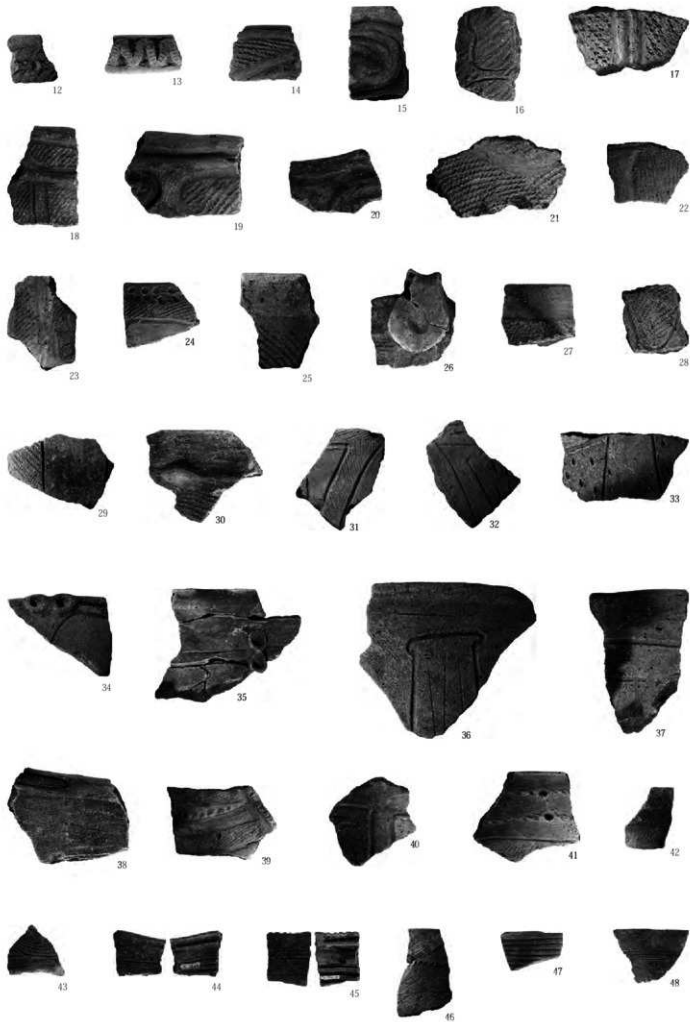
2区道構外出土遺物

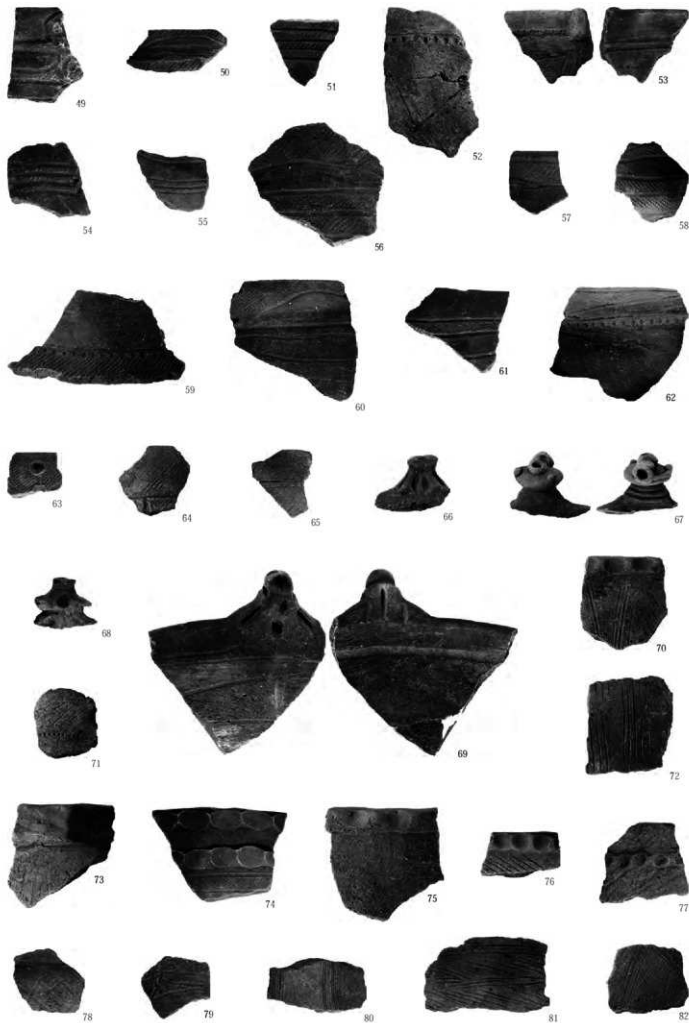


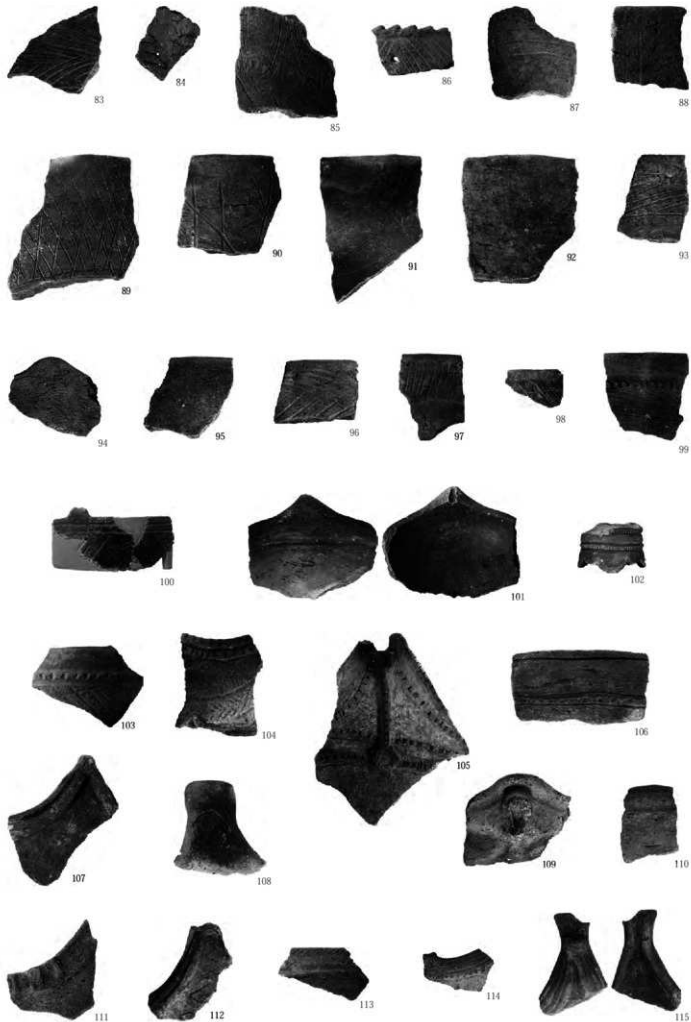
3区道構外出土遺物



PL.50









116



117



118



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



135



136



137



138



139



140



141



143



144



142





146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168

報告書抄録

書名ふりがな	まえはたじえいいせき
書名	前畑J遺跡
副書名	一般県道笠懸赤堀今井線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	656
編著者名	友廣哲也
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20190320
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	まえはたじえいいせき
遺跡名	前畑J遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきりゅうしにいざとまちの
遺跡所在地	群馬県桐生市新里町野
市町村コード	203
遺跡番号	B0183
北緯（世界測地系）	
東経（世界測地系）	
調査期間	20170901-20171130
調査面積	2,482㎡
調査原因	道路改良工事
種別	包蔵地／集落
主な時代	縄文／古墳／中近世
遺跡概要	包蔵地－縄文時代＋土器＋石器／集落－縄文竪穴建物・古墳－竪穴建物15＋縄文竪穴状遺構5＋土坑105＋近世－溝1陶磁器＋ピット150
特記事項	古墳時代前期竪穴建物1棟
要約	前畑J遺跡は大間々扇状地の西端に位置し、縄文時代から中近世までの遺物が出土する遺跡である。竪穴建物は縄文時代・古墳時代・平安時代が確認されている。縄文時代は未掲載の土器を含めると前期から後期まで継続して確認されている。古墳時代前期の竪穴建物は太田市石田川遺跡出土遺物より古い段階にあり、弥生時代末から古墳時代にかけて戦乱の時代にS字状口縁台付甕や在地の土師器と樽式土器が共伴し、入植説を否定している。周辺には古墳群が多く分布し、平安時代まで集落が分布している。前畑J遺跡は縄文時代から多くの集落が大間々扇状地内の穀倉地帯に広く分布していたことを示している。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第656集

前畑J遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成31(2019)年3月20日 印刷

平成31(2019)年3月20日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

3区1・2面

付図 前畑J遺跡 全体図 (1:400)

